安全にご使用いただくために

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。また、ご使用の前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してから、ご使用下さい。当製品をご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。

危　険！

感電、火災の恐れがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1. プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないで下さい。

2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。

警　告！

感電、火災、けがの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. おもちゃとして絶対にご使用にならないで下さい。また、小さなお子様の近くでのご使用時は、特別の注意をお願い致します。

2. この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする付属品のみをご使用下さい。

3. 次のような場合には、当製品の使用を一旦中止して下さい。
   - ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
   - ミシンが正常に作動しないとき。
   - 落としたり、損傷したとき。
   - 水の中に落としたとき。

   このような場合には、お近くのお買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。

4. ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使用しないで下さい。モーターの過熱の原因となります。

5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。

6. 常に当製品専用の針板をご使用下さい。まちがった針板をご使用されますと、針折れを起こします。

7. 曲がった針は使用しないで下さい。

8. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。

9. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。

10. ミシンカバーを外したり、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。

11. ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。

12. 戸外では使用しないで下さい。

13. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では、使わないで下さい。

14. プラグをコンセントから抜く前に、必ずミシン本体の電源を切ってください。

15. プラグをコンセントから抜く場合には、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。

16. 以上の使用方法を順守しないために生じた損害に対しては、いかなる場合も当社は責任を負いかねますのでのご了承下さい。

17. ミシンの修理には、必ず専用の部品を使って下さい。

18. 刺しゅう機の使用中は、そばを離れないようにご注意下さい。

この製品は家庭でのご使用を対象として製造されております。

この説明書は必ず大切に保存して下さい。

アーティスタご愛用の皆様へ

ベルニナを代表するアーティスタファミリーに、新しくアーティスタ630と640が仲間入りしました。

「アーティスタ」という名称には、アーティスティックな創造力を刺激するものという意味が込められています。

新しいアーティスタシリーズのソーイングおよび刺しゅうシステムで、皆様の創造力を刺激し、クリエイティブで個性的なアートを作り出していただけるよう願っております。

アーティスタ630および640はモダンなデザインと高度な機能を備えており、ストレスを感じることのない、楽しいソーイングをお約束します。必ずや皆様にご満足いただけることと存じます。

アーティスタ630は、世界でもトップクラスの、最高品質のステッチが可能なミシンであり、またオプションとして刺しゅう機能を使うこともできます。アーティスタ640は、ベルニナの回転釜システムを採用しており、素晴らしいミシン刺しゅうをお楽しみいただけることでしょう。他に類の無いベルニナの刺しゅうサイズ変換機能をお使いになれば、どんなデザインも思いのままです。

アーティスタ630、640のいずれも、人間工学に基づいた正面の最も見やすい位置に、美しいカラースクリーンが装備されております。全て日本語表示で、操作もシンプル、大変使いやすいミシンです。

アーティスタご愛用のお客さまには、別売りオプションのベルニナ刺しゅうソフトをお勧め致します。ベルニナステッチレギュレーター（BSR）をはじめ、その他多くの便利なアクセサリー類については、お買い求めのベルニナ正規販売代理店にお問い合わせ下さい。

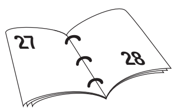
皆様に新しいベルニナミシンでソーイングと刺繍をお楽しみいただけるよう、心から願っております。

ハンスペーター・ウルチ
代表取締役社長
フリッツ・ゲガウフ株式会社、ベルニナミシン製作所
CH-8266 Steckborn, Switzerland
www.bernina.com

BERNINA®

安全にご使用いただくために	1
ミシンの説明	4 - 20
スクリーン/機能ボタン	21 - 33
実用縫いおよび飾り縫い機能の説明	34 - 58
文字機能の説明	59 - 61
ボタンホール機能の説明	62 - 76
パッチワーク・キルティング機能の説明	77 - 83
パーソナルプログラム機能の説明	84 - 85
ステッチおよび組合わせたステッチのメモリー機能の説明	86 - 91
セットアッププログラム機能の説明	92 - 102
ミシンの保守と点検	103 - 108
刺しゅうの準備/重要事項	109 - 119
デザインを刺しゅうする	120 - 147
刺しゅうデザイン·メモリーの操作説明	148 - 153
周辺機器およびアクセサリーについて	154 - 156
用語集	157 - 158
ステッチと刺しゅうデザイン·ライブラリー	159 - 175
索引	176 - 178

各種記号について



各項目に関する追加情報は、それぞれのページに記載されています。

注意!
重要事項!
危害の恐れあり!「安全にご使用いただくために」をご覧下さい。

「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

補足情報

ヒント

032338.50.10_0602_a630_a640_JA

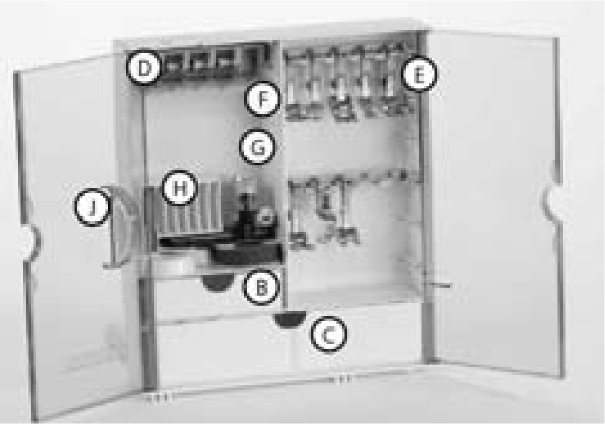
ポケット付きソフトカバー
・ほこりや汚れからミシンを守ります。
・ミシンを使わないときには、カバーをかぶせておきます。

アクセサリー

製品には以下の付属品が入っています。

付属品
・フットコントローラー
・電源コード
・膝押え上げレバー
・ソーイングテーブル
・ソーイングテーブル用縫い目ガイド
・保証書
・使用説明書
・インストラクションおよびプレゼンテーション用CDロム
・キャリングバッグ
・タッチスクリーン・スタイラス

アクセサリーボックス



スタンド式アクセサリーボックス
・ボックスの底についている二本の折りたたみ式脚を、かちんと音がするまで左右に開くと、アクセサリーボックスを立てて置くことができます。

標準アクセサリーの収納
標準アクセサリーは、ビニール袋に入った状態でお届けします。アクセサリーボックスには、大小一つずつの引き出し（BとC）、ボビン収納用ホルダー（D）および押え用ハンガー（E）が装備されています。ボビン収納用ホルダーと押え用ハンガー等は、オプションで別売りされていますので、必要に応じて追加して下さい。
・ボビンをホルダーに収納します。
・ボビンを取り出すには、ホルダーのFの部分を軽く下に押します。
・押え金は、ハンガーに吊します。
縦型収納スロットHには、針ケースを収納できます。

アクセサリーボックスをミシンに取りつけるには
・ボックスのふたを閉じ、サポートレッグを収納します。
・押え上げレバーを下げて、ロック部分Aがきちんとはまるようにして、ミシンに取りつけます。
・押え上げレバーはHのくぼみに合うようにセットします。

アクセサリーボックスを取り外すには
・ボックスの上にあるロックAを押します。
・ボックスを後ろ側に引いて、取り外します。

> **ご注意**
> 収納時は押え上げレバーは、最初に下げておくようにして下さい。

押え金について

1（630型のみ・レンズ無し）
1C（640型のみ）
標準押え

実用縫い、飾りステッチ

2（630型のみ）
2A（640型のみ）
オーバーロック押え

オーバロック縫い、ヘム縫い、布端かがり、幅狭のサテンステッチ

3（630型のみ・レンズ無し）
3C（640型のみ）
ボタンホール押え

マニュアルボタンホール縫い

3A
布ガイド付き自動ボタンホール押え

フラットな部分でのボタンホール縫い
自動繕い縫い

4
ファスナー押え

ファスナーの縫い付け

5
まつり縫い押え

まつり縫い、エッジ縫い

9
繕い縫い押え

送り歯を下げた状態で、繕い縫い、モノグラミング、フリーハンド刺しゅう等に

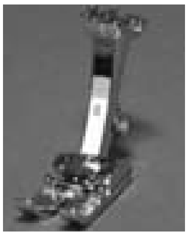
20（630型のみ・レンズ無し）
20C※（640型のみ）
オープン刺しゅう押え

刺しゅう、アップリケ、サテンステッチ、モノグラミング

※国により仕様が異なる場合があり、含まれていない製品もあります。お買い上げの代理店にお問い合わせ下さい。

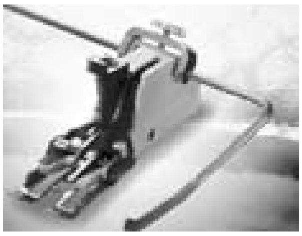
ベルニナ特殊押え（オプション）

ほとんどのソーイングは標準押え金で可能ですが、キルティングや、伝統的な手法を使ったソーイング、クラフト、ホームデコレーション、洋服の仕立てなどの特殊な作業にはベルニナ仕様の特殊な押え金のご使用をお薦めします。
最寄のベルニナ正規販売店でお買い求めいただけます。



8
ジーンズ押え

厚地かかたい生地での直線縫いに最適



50
ウォーキング押え

厚い生地や滑りやすい生地を縫うとき、およびキルティングに最適

標準付属品*（国よっては異なる場合があります）
・ボビン4個（別に1個はミシンに装着されています）
・針（H）1セット
・シームリッパー
・小型スクリュードライバー
・特殊ドライバー
・ブラシ
・布ガイド
・フォームパッド
・高さ調節板
・糸こまカバー3種類
・油さし

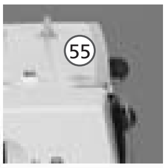
640型	630型	押　え
#1C	#1	スーパー模様押え
#2A	#2	オーバーロック押え
#3C	#3	ボタンホール押え
#20C	#20	オープン刺しゅう押え
#3A		布ガイド付自動ボタンホール押え
#4		ファスナー押え
#5		まつり縫い押え
#9		つくろい縫い押え

アーティスタ630型／640型各部名称

前面

背面

630型のみ



左側面

1. 釜開閉ふた
2. 針板
3. オプションアクセサリー取付けネジ穴
4. 繕い縫い刺しゅう枠（オプション）取付け穴
5. 押え金
6. 針止めネジ
7. 針元糸案内
8. 上糸糸通し機
9. 天秤カバー
10. 上糸掛け糸道
11. 天秤
12. 返し縫いボタン
13. 自動糸切り

14. スタートストップボタン
15. スライド・スピード・コントロール・レバー
16. 針上下操作および停止位置選択ボタン
17. 模様縫いボタン
18. 針基線選択ボタン
19. ディスプレイ
20. 下糸巻取装置（ボビン・ワインダー）
21. 実用縫いメニューボタン
22. 飾り縫いメニューボタン
23. 文字メニューボタン
24. ボタンホールメニューボタン
25. キルトステッチメニューボタン
26. 刺しゅう／ソーイングモード切替ボタン
27. パーソナルプログラムボタン

28. チュートリアルボタン（刺しゅうモードのみ）
29. セットアップ機能ボタン
30. 《clr》クリヤーボタン
31. 模様頭出しボタン
32. 振り幅調節ダイヤル
33. 送り長さ調節ダイヤル
34. 膝押え上げレバー差込口
35. 糸巻き用糸案内
36. 水平糸こまホルダー
37. キャリングハンドル
38. 上糸糸案内
39. インバーター蛍光灯ソーイングライト
40. ソーイングテーブル止め
41. 下糸巻取り用糸通しガイド

42. 押え圧調節ダイヤル
43. 押え上げレバー
44. 糸切り
45. ソーイングレンズ取付け用金具
46. はずみ車
47. 折りたたみ式垂直糸こまホルダー
48. 電源スイッチ
49. 電源コードソケット
50. USBソケット
51. パソコン接続用USBソケット
52. 刺しゅう機（別売りオプション）コード差込口
53. フットコントローラーソケット
54. 送り歯ドロッププッシュボタン
55. 上糸ダイヤルテンション

右側面

電源コード

電源コード
・プラグAをミシンに接続します。
・プラグBを電源コンセントに差し込みます。

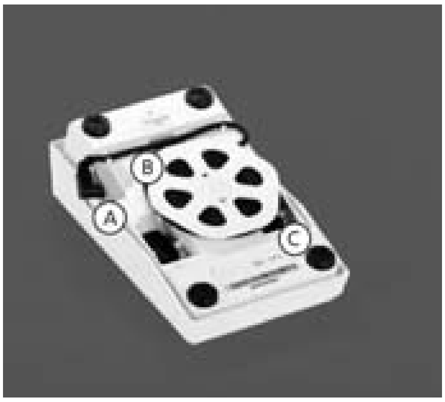
フットコントローラー用コード
・プラグCをミシンに接続します。

フットコントローラー

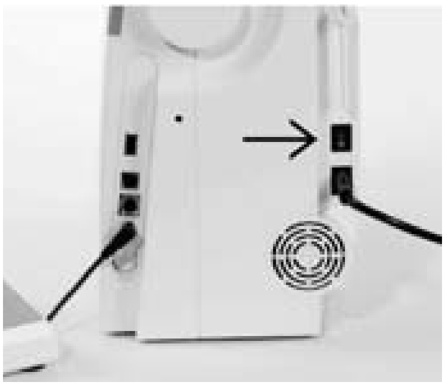
ソーイングスピード
・ペダルの踏み加減でスピードを調整します。
・ペダルのかかと部分（矢印）を踏んで針の上げ下げが出来ます。

コードの収納方法
・裏側で時計方向に巻き取ります。
・プラグはAの差込穴に差し込みます。

コードの長さの調整方法
・コードを必要な長さだけ出して、B又はCのコードホルダーに止めます。



電源スイッチ



電源スイッチ
電源スイッチは、ミシンの右側下（矢印）にあります。
1：スイッチはオン
0：スイッチはオフ

ミシンをオンにすると照明ランプが点灯、オフで消灯します。

> **!** 「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

スライドオンテーブル

広い作業スペース
・作業スペースを広げます。
・テーブルがフリーアームになっているのでズボンの脚部やウエストバンドなどの大きな筒縫いが可能です。

取り付け方
・針と押え金を上げます。
・フリーアーム部に差し込み、強く止まるまで押し込みます。

取り外し方
・ 左方向に引いて、取り外します。

布ガイド
・テーブルの手前下の溝に沿って、右方向からスライドさせながら差し込みます。
・テーブル上で安定した布ガイドが可能になります。

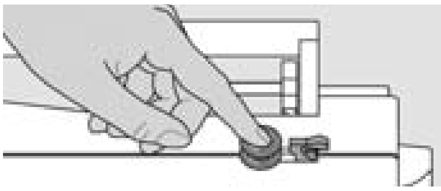
定規
・補助テーブルの定規の《0》は、針基線の中央を基準としています。

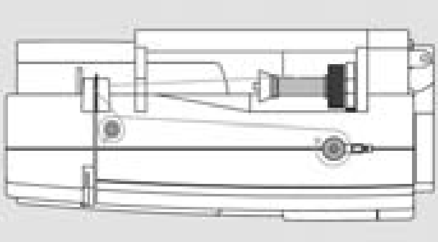
膝押え上げレバー

膝押え上げレバー
・膝押え上げレバーで、押え金を上下できます。
・膝で右側に押します。
・押え金が上がります。
・同時に送り歯が下がります。
・再び縫い始めると同時に、送り歯は上がります。

膝押え上げレバーの取付け方
・レバーを差込口に差し込みます。
・腰掛けた状態で、自然にレバーを膝で操作できることをご確認ください。

下糸の巻き方

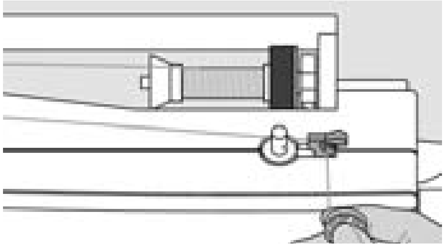


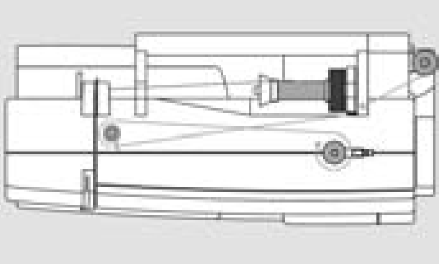


下糸を巻く
- 電源スイッチをオンにします。
- 空のボビンを糸巻き軸にセットします。

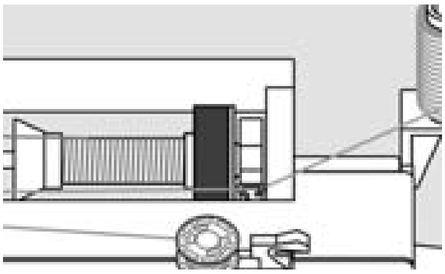
糸の通し方
- 糸こまを、糸立て棒にセットします。
- 糸こまのサイズに合った糸こま押えを取り付けて下さい。サイズは、糸こまの直径に合わせます。
- 糸を図中の矢印に従い、後部糸ガイドを通して、下糸巻取装置用ガイドに巻き付けます。
- 糸を空のボビンに2、3回巻き付け、余分は糸切りで切ります。
- ボビン押えをボビン側に倒します
- 上記のインストラクションにしたがって、ボビンを巻きます。
- 巻取りのスピードは、スクリーン上の《+》、《−》、または振り幅調整ダイヤルで調整できます。
- ボビンが一杯になれば、モーターは自動的に停止します。
- ボビンを外します。

糸切り
- 糸切りで、糸を切ります。

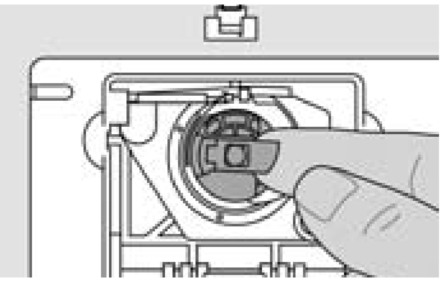


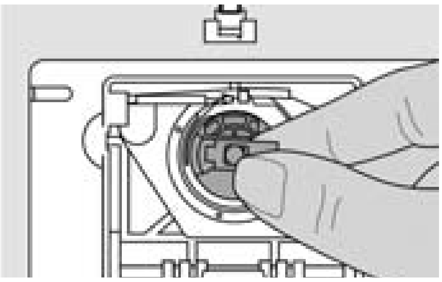


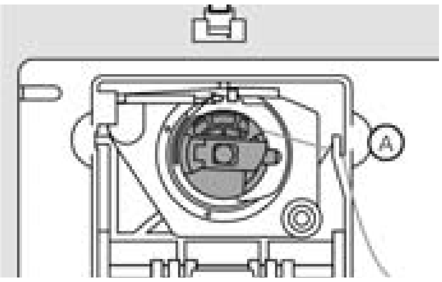
ソーイング中または刺しゅう途中に下糸を巻くには
- 糸こまを垂直式の糸立て棒に立て、矢印の方向に従って、糸を糸ガイドに通し、下糸巻取装置用ガイドに巻き付けます。
- 糸を空のボビンに2、3回巻き付け、余分は糸切りで切ります。
- ボビン押えをボビン側に倒します。
- 下糸の巻取りが、自動的に開始されます。
- ボビンが一杯になれば、モーターは自動的に停止します。
- ボビンを外します。



ボビンケース（640型）





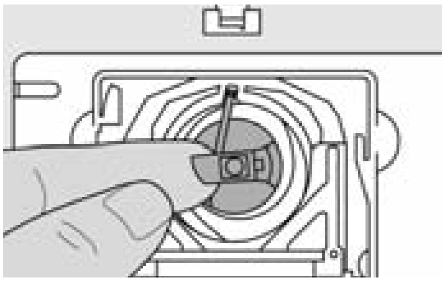


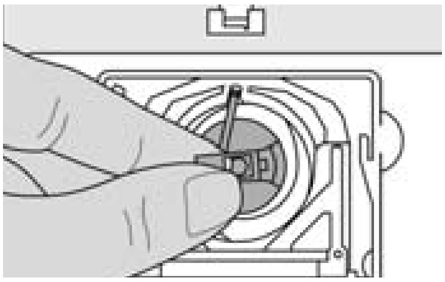
取り出し方
- 針を上に上げ、
- 電源をオフ《O》、
- 釜開閉カバーを開け、
- ボビンケースの爪の部分をつまんで、取り出します。

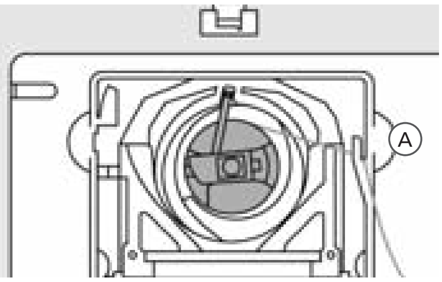
装着方法
- 爪の部分をつまみ、
- ボビンケースの開口部を上にして、
- 釜に装着します。
- 開閉カバーを閉めます。

下糸切り
- ボビンケースを差し込み、
- Aのカッターで余分の糸を切ります。

ボビンケース（630型）



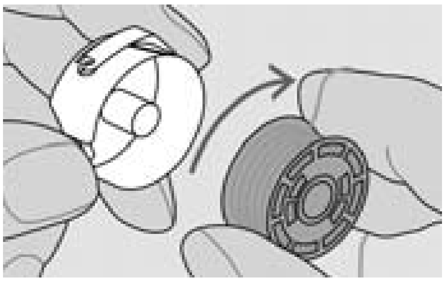


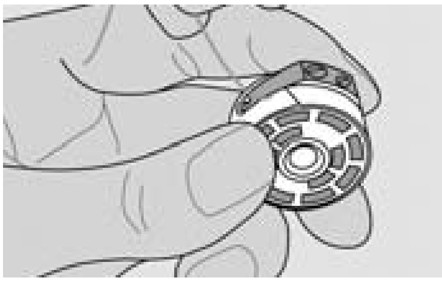


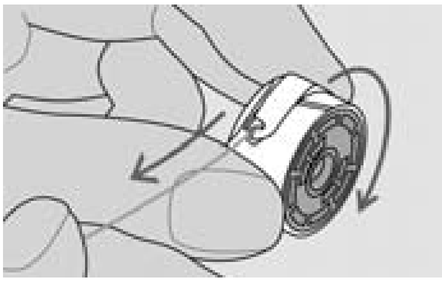
! 「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

メモ
通常は、下糸を持ち上げる必要はなく、最適な下糸の長さで縫い始められます。

ボビンをセットします（640型）





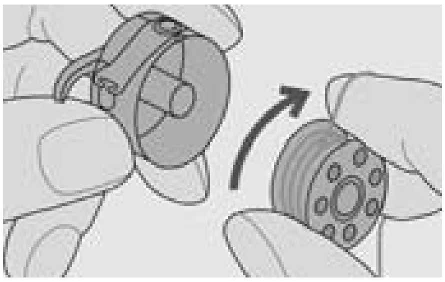


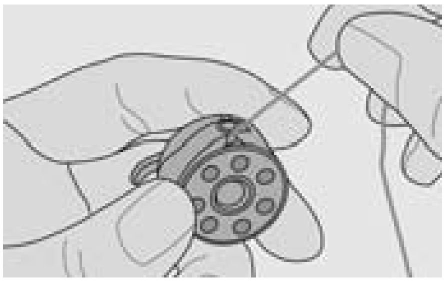
ボビンをセットします
糸の巻き方向が時計回りになるように、注意してボビンをボビンケースにセットします。

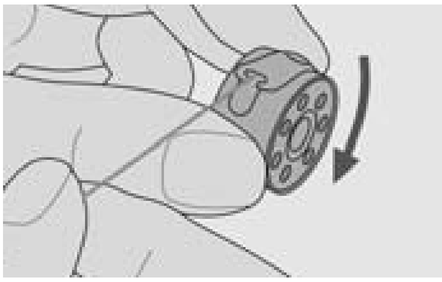
バネの下から糸を引っ張る
バネの下を通して糸がバネの端のT字型溝を通って、だ円形の窓から出るまで引っ張ります。

ボビンが時計回りに回ることを確かめる
糸の端を引っ張ると、ボビンが図のように時計回りに回ることを確かめて下さい。

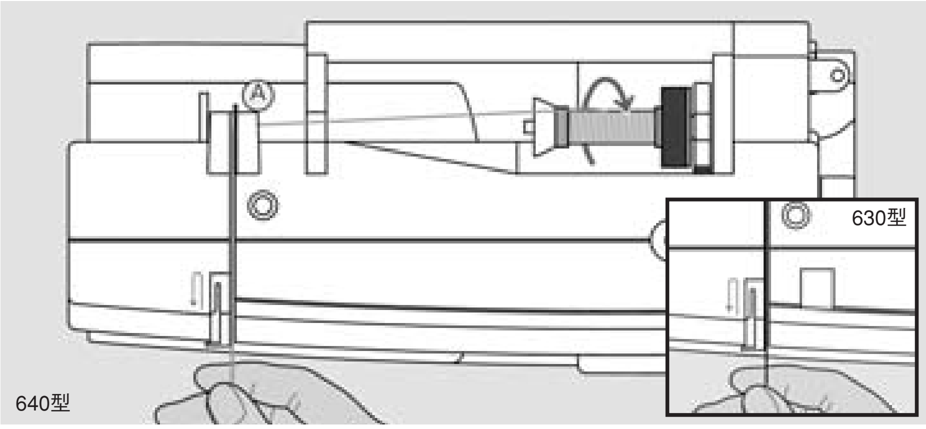
ボビンをセットします（630型）

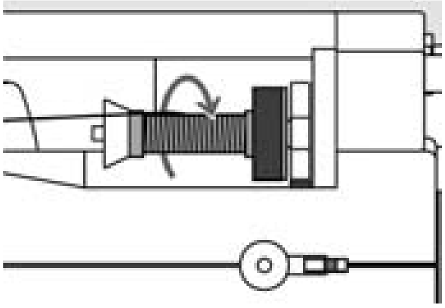


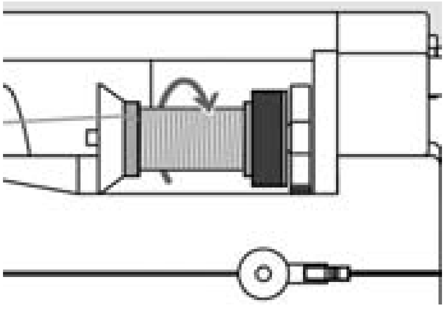




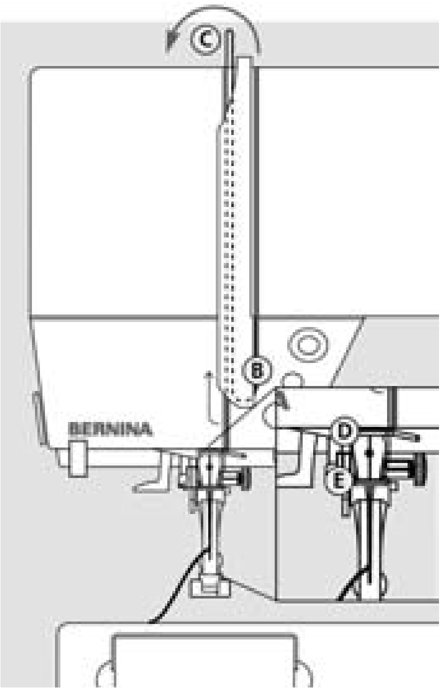
上糸のかけ方







糸こまのセット
- 針と押えを上げて、
- 電源をオフ《O》にし、
- フォーム付スプール台を取り付け、
- 矢印の方向に糸立て棒に糸こまをセットし、
- 糸こまの直径に合った糸こま押えで固定します。
- Aの糸案内に糸を通し、
- 次に、糸道に通します。



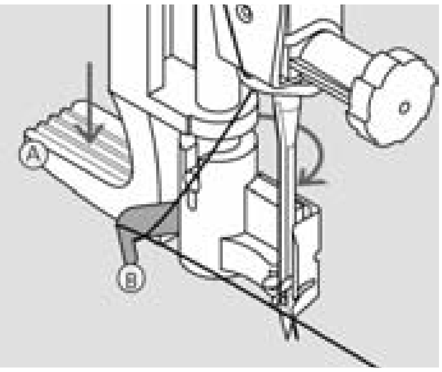
下へ
- 天秤カバーの右側に沿ってBへ、

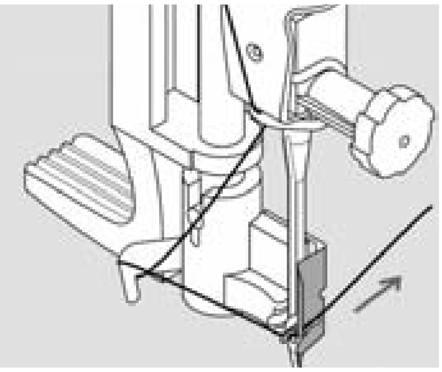
上へ
- 天秤カバーの左側に沿ってCまで通し、天秤に糸を掛け、

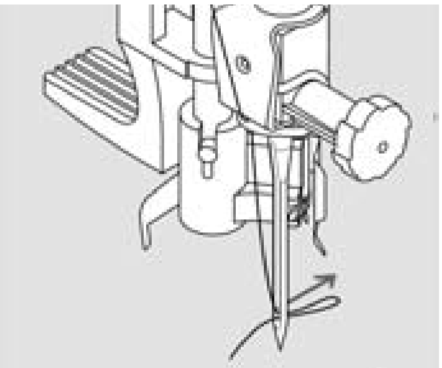
下へ
- 最後にD、Eそれぞれの糸掛けに通します。

! 「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

上糸糸通し機







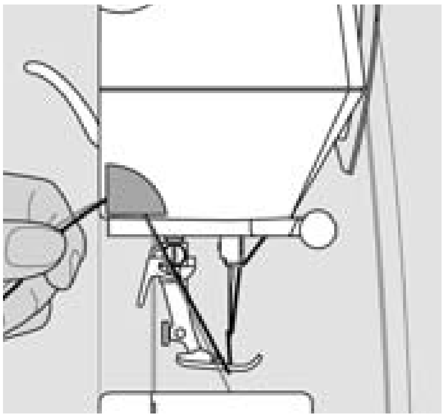
レバーを下げて糸をフックに引っかける
- 針を上げて、
- 押え金を下げ、
- レバーAを下に押し下げ、同時に糸がBのフックを廻って針の右に来るようにする。

糸を針の前へ
- 糸を正面からガイドの溝に沿って、フックに引っかかるまで押し込みます。

レバーと糸を解放する
- Aのレバーと糸を放せば、完了です。
- 輪になっている糸を後ろに引くと、糸が針穴に通ります。

> ご注意
> 二本針、または三本針等の特殊針の糸通しは、手で行うようにして下さい。

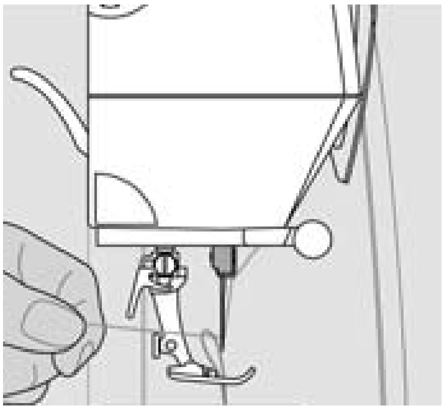
下糸の引き上げ方



糸こまのセット
- 下糸を下糸切りでカットしたときは、下糸を引き上げる必要はありません。
- 上糸を手で持ったままで、
- 一針だけ縫います。
- 上糸を引くと、下糸が上がってきます。
- 両方の糸を押え金の溝を通して、横に引き出し、
- 糸切りで切ります。

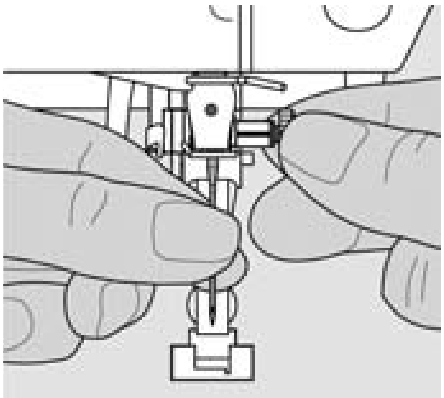
> 通常、下糸切りでボビン糸を切ると、下糸を引き上げずに縫い始められますが、特殊な縫い方をする時、例えばフリーモーション・キルティング等、必ず下糸を引き上げて縫います。

糸切り



ヘッドカバーの糸カッター
- 上糸と下糸の両方を、前から後ろに、糸切りに引っかけるようにします。
- そのままで縫い始めれば、糸は自動的にはずれます。

針の交換



針の取り外し方

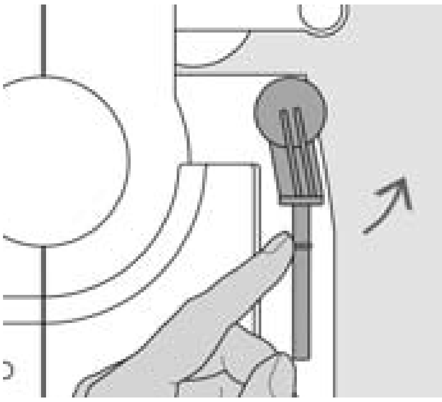
・針を上げ
・電源をオフにしてから
・押え金を下げます。
・針止めネジをゆるめて
・針を下に引いて取り外します。

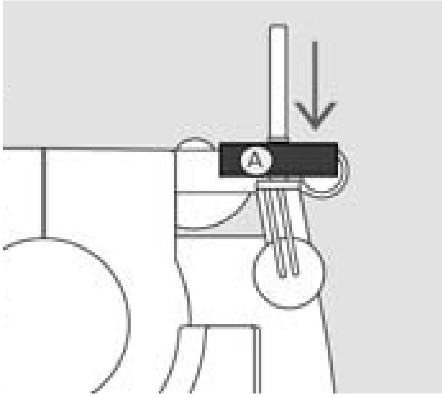
針の取付け方

・針の平らな側が後ろになるように持ち、
・そのまま一杯まで差し込んでから
・ネジを締めます。

! 「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

補助糸立て棒





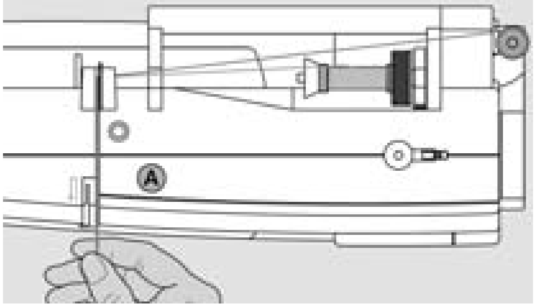
垂直式糸立て棒（折りたたみ式）

・ミシンの背面、はずみ車の後ろにあります。
・2本針等、複数の上糸を使うソーイングに、大変便利です。
・棒を、かちっという音がするまで立てます。
・コーン状に巻かれた太い糸こまを使う場合には、Aのフォーム付スプール台を使って安定させます。フォームパッドを使用すれば、糸が棒に絡まるのを防ぐことができます。

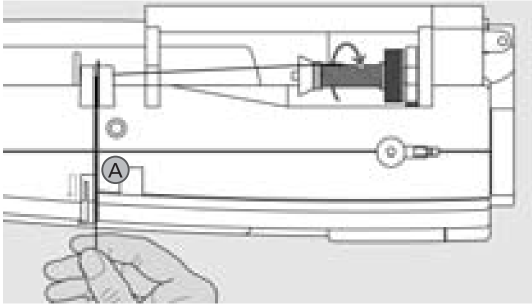
インバーター蛍光灯ソーイングライト

インバーター蛍光灯は、通常の電球に比べて明るく、また寿命が長いのが特徴です。

ご注意
ソーイングライトの交換は、ベルニナの正規販売店にご相談の上、ミシンをお店にお持ち頂いて、交換して下さい。



640型

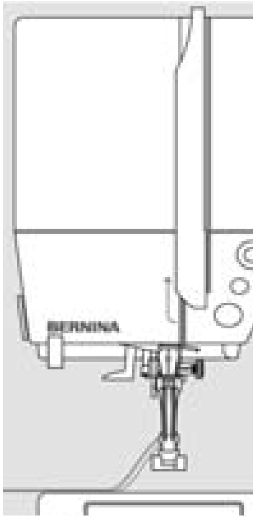


630型

2本糸の糸かけ方

1）1本目の糸を通すには

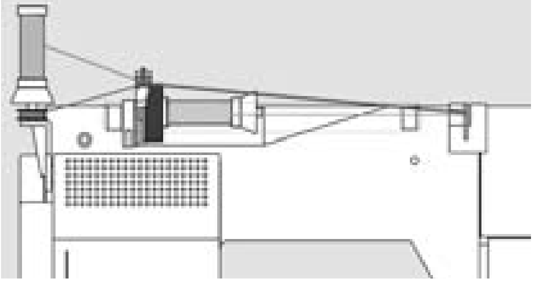
・糸立て棒（水平式）に、糸こまをセットします。
・上糸案内を通って、Aのテンションディスクの右側に糸をかけます。
・ミシンの糸かけは、通常の方法で行いますが、針元の糸ガイドでは、糸を右側に持ってきて、右側の針に通します。



2）2本目の糸を通すには

・補助糸立て棒に、糸こまをセットします。
・上糸案内を通って、Aのテンションディスクの左側に糸をかけます。
・針元の糸ガイドでは、糸を左側に持ってきて、左側の針に通します。
・途中で糸が絡まないように注意しましょう。

ご注意
垂直糸こま立てをお使いになるときは、必ずパッド付糸こま土台をお使い下さい。パッド側を上にして使います。糸が垂れ下がって絡みつくのを防ぎます。



3本針の糸のかけ方

・糸立て棒2本と、糸を一杯に巻いたボビンを一つ、使います。
・糸立て棒（水平式）に糸こまをセットします。
・補助糸立て棒には、2本目の糸こまを立て、糸こまディスクで分けて、上にもう1本の糸こまを立てます（2本の糸こまは、同じ方向に回ることになります）。
・Aのテンションディスクの左側を2本の糸が通るようにして、針元の糸ガイドの左側に2本の糸を通します。残り1本の糸は、ディスクの右側を通し、針元の糸案内の右側に通します。

ノート
補助糸ガイド（オプション）を使えば、糸の送りがよくなって、糸の流れがスムーズです。

針と糸に関する重要事項

針と糸を正しく組み合わせて使用すれば、美しい仕上がりが約束されます。

糸

- 糸は、用途にしたがって高品質のものを選びます。
- 糸は、布の種類に合わせて選ぶことが、きれいに縫いあげる秘訣です。

コットン糸

- コットンは、コットン布を縫うのに使用します。
- シルケット加工されているコットン糸は、光沢があります。

ポリエステル糸

- ポリエステル糸は、ソーイング全般に使えます。
- 非常に丈夫で、色落ちもしません。
- 伸縮性のあるポリエステル糸は、伸び縮みする部分を縫うのに最適です。

針、糸および布

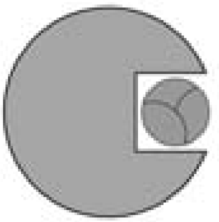
針と糸の組み合わせには、注意が必要です。

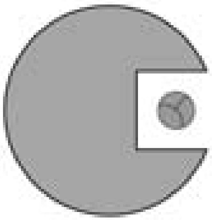
針のサイズは、使用する糸および布の種類によって決まります。布の厚みによって、糸の太さと針のサイズを決めます。

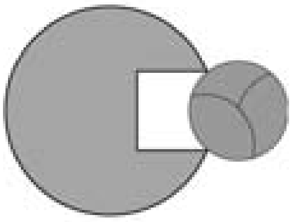
ガイドライン	針番号
薄手の布地には、細い糸（ダーニング用糸、刺しゅう用糸）100番	#70-#75
中くらいの布地には、50/60番の糸	#80-#90
厚手の布地には、30番の糸	#100、#110、#120

針と糸の組合せ

針と糸を正しく組み合わせるには、まず針と糸のサイズを合わせなくてはなりません。







針と糸の組み合わせが正しい場合

ソーイングの際、糸が、針の後ろにある長い溝の中をスムーズに通り、きれいな、糸しまりの良い針目となります。

針に対して糸が細すぎる場合

- 糸が、針の溝の中で不安定な動きをしてスムーズに通りません。
- ステッチの仕上がりに大きく影響して、糸が切れる等の問題も生じます。

針に対して糸が太すぎる場合

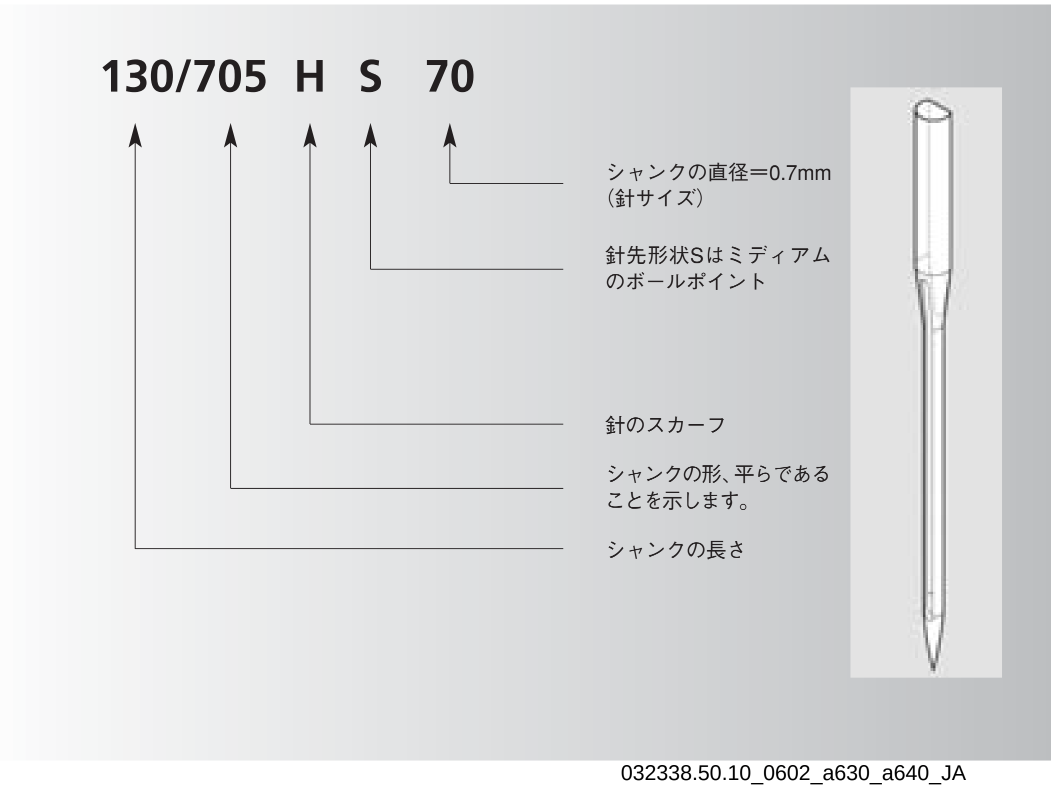
- 糸が針の溝の外側にはみ出て、針溝の角にこすれ、布地との摩擦などで布縮みや縫い目の不揃いの原因になります。
- 糸切れの原因にもなります。

針について

ベルニナでは、130/705Hの針システムを採用しています。この記号は、シャンクの形および針先の長さと形を意味します。

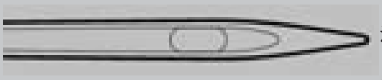
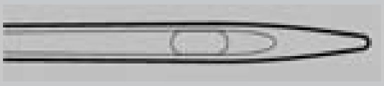
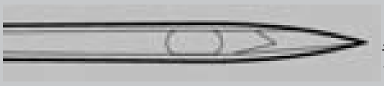
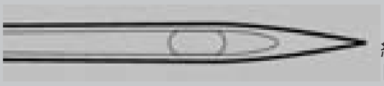
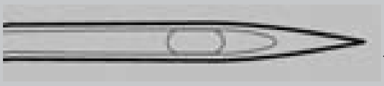
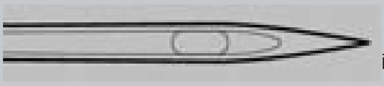
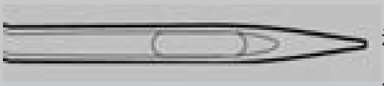
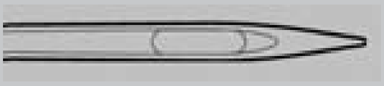
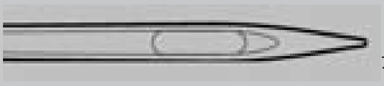
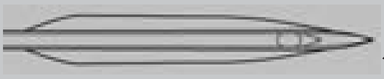
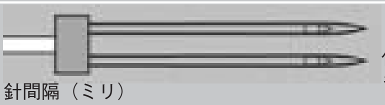
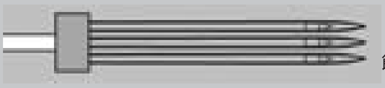
針の状態をチェックするには

- 針の状態は定期的にチェックして、交換しましょう。
- 状態の悪い針を使うと、生地を傷めたり、糸調子が悪くなったり、またミシンの調子そのものにも影響を及ぼします。
- 新しい作品にとりかかるときには、針を新しいものと交換しておきましょう。



針について

特殊な布ほど、布地に適した針を使い分けることにより、大変縫いやすくなります。

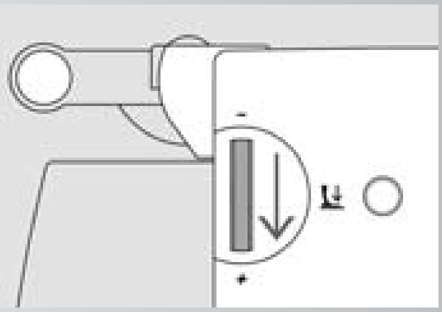
針のタイプ	針先形状	用途	針のサイズ
標準針 130/705F	 通常少し丸みを帯びている	汎用針、化繊や天然繊維の織地、例えば、リネン、シフォン、人絹、オーガンジー、ウール、サテン、ベルベット等、飾り縫い、刺しゅう	**60-100**
ジャージー／ストレッチ針 130/705H-S 130/705H-SES 130/705H-SUK	 ボールポイント	ジャージー地、伸縮性の強い生地	**70-90**
レザー針 130/705-LR 130/705H-LL	 カッティングポイント	各種天然皮革、合成皮革、ビニール、コーティング地、プラスティック	**90-100**
ジーンズ針 130/705H-M	 針先強度大	綾織、作業衣、麻、デニム、キャンバス地、目のつんだ生地	**80-110**
マイクロテックス針 130/705H-M	 極細ポイント	マイクロ繊維生地およびシルク	**60-90**
キルティング針 130/705H-Q	 細ポイント	直線縫いおよびトップステッチ用	**75-90**
刺しゅう針 130/705H-E	 針穴の大きなボールポイント	汎用針、化繊や天然繊維の織地、例えば、リネン、シフォン、人絹、オーガンジー、ウール、サテン、ベルベット等、飾り縫い、刺しゅう	**75-90**
メタフィル針 130/705H-MET	 針穴が大きい	メタリックの糸の刺しゅう用	**75-90**
コードネット針 130/705H-N	 針穴の縦長なボールポイント	太い糸でのトップステッチ用、中・太のメタリック系に	**80-100**
ウイング針 130/705HHO	 ウイング針	ヘムステッチ用	**100-120**
ダブルウイング針 130/705H-ZWI-HO	 ウイング針と標準針の2本針	ヘムステッチで特殊効果を狙う場合に	**100**
二本針 130/705H-ZWI	 針間隔（ミリ） 1.0/1.6/20./2.5/3.0/4.0/6.0/8.0	伸縮性のヘム縫いに、ピンタック、飾り縫い、キルティング	**70-100**
三本針 130/705H-DRI	 巾3.0ミリ	飾り縫い、キルティング	**80**

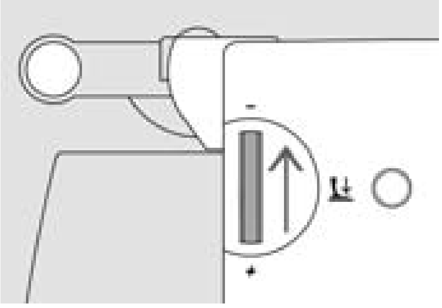
ベルニナ正規販売代理店では、様々な針を用途に合わせて取りそろえております。

押え圧力調節

調節ダイヤル

- ミシンの左側面に調節用つまみがあります。
- 標準設定値は、47です。スクリーン上に、青く表示されます。
- 調整後の押え圧は、点滅する赤い数字と赤いバーで表示されます。
- 標準設定値47は、調整後の設定値と交互に、黒く表示されます。
- 標準設定値は、赤いバーの右側に、黒い点滅するラインで表示されます。





標準押え圧力

- 通常のセッティングです。

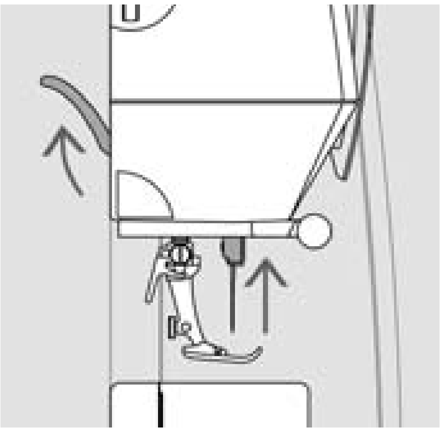
標準押え圧力

- 厚い布地用です。
- 布の送りを良くします。

圧力を下げる

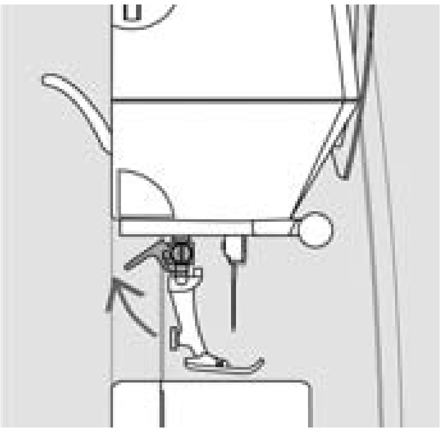
- ジャージーやソフトなニット地に最適です。
- 生地が伸びるのを防ぎます。
- 送りに影響しない程度に調節して下さい。

押えの交換



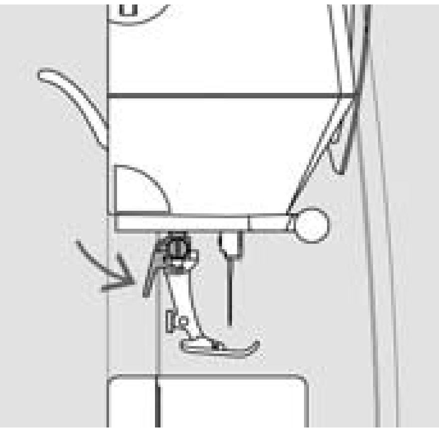
押えの交換方法

- 針と押え金を上げ、
- 電源をオフ《O》にします。



押え金止めレバーを上げる

- 押え金止めレバーを持ち上げ、
- 押え金を取り外します。

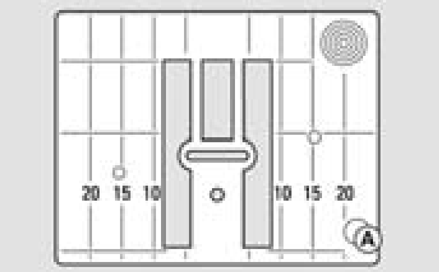


押え金の取り付け方

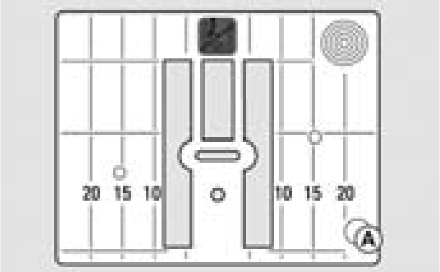
- 押え金を上に一杯まで差し込み、
- 押え金止めレバーを下げます。

! 「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

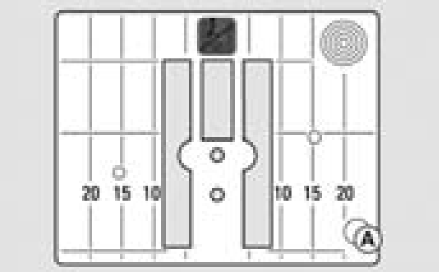
針板（640型）



9mm針板（標準）



5.5mm針板（オプション）



直線用針板（オプション）

針板（mm表示）

針板上のマーキング

・針板にはシームガイドラインがmm（ミリ）で表示されています。
・シームガイドラインは針が針基線センターにある状態で、針とシームガイドラインの距離を示します。
・針が刺さる位置が針のゼロポジションです。
・針の左右にmm（ミリ）で表示されています。
・トップステッチなどを縫うときにこのシームガイドラインに沿って布端をガイドします。
・シームガイドラインに水平に惹かれているガイドラインは、コーナーやボタンホールを縫うときに、布端の位置合わせに便利です。

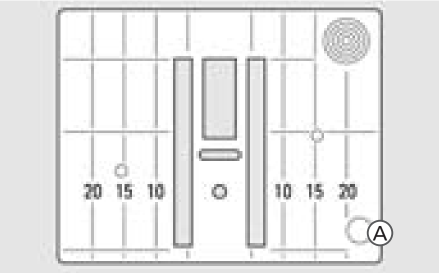
針板のはずし方

・電源スイッチをオフにします。
・押え金と針を上に上げます。
・針板の右後ろコーナーのしるし部分を押して、跳ね上げます。
・針板をはずします。

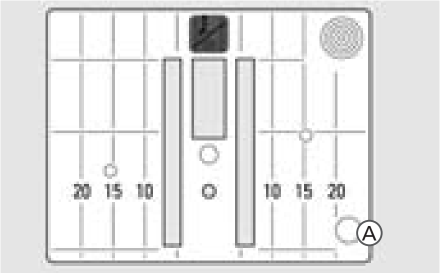
針板の取り付け方

・Aの穴をピンに合わせて、
・針板の右側をまずミシンのベッドに当てながら、針板の左側をかちんと音がしてはまるまで押しつけます。

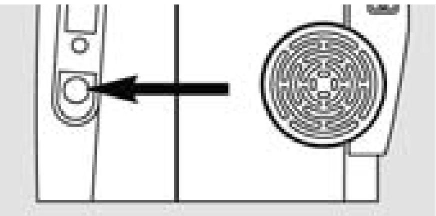
針板（630型）

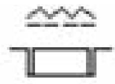


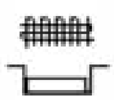
5.5mm針板（標準）



直線用針板（オプション）


ドロップボタンは右側（はずみ車の側）にあります。


ボタンが上がっている状態では、送り歯は上にあり、普通縫い用の設定となっています。

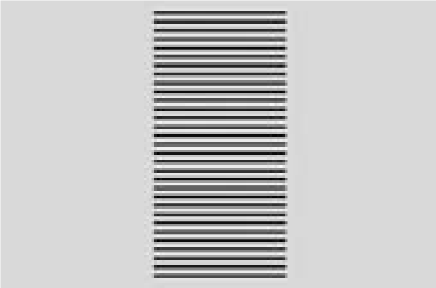

ボタンを押すと、送り歯は下がります（繕い縫い用の設定）。
・繕い縫い、フリーハンド刺しゅう、フリーハンドキルト等の、フリーハンド用、および
・刺しゅう機を使った刺しゅう用です。

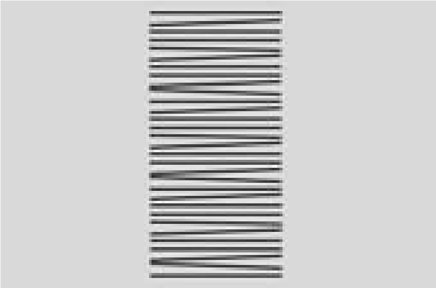
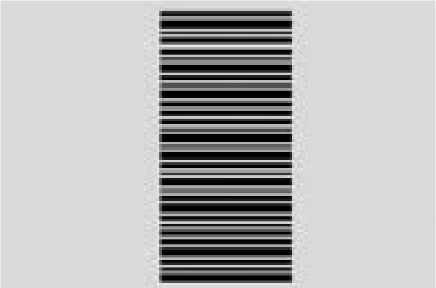
送り歯および布の送り

送り歯とステッチの送り長さ

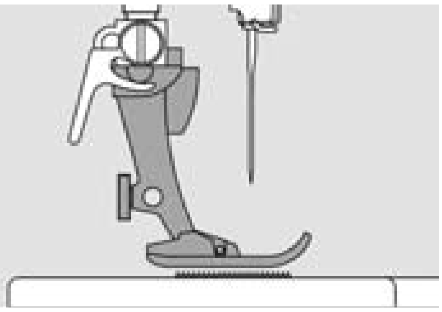
送り歯は、一回のモーションで一針進めます。この1回ずつのモーションの大きさは、送り長さで指定した値です。

送り長さを非常に短く設定すると、送り歯の進みも短くなります。そのため、ボタンホールステッチおよびサテンステッチでは、フルスピードでも布の送りは非常にゆっくりしたものとなります。


布が均等に進むようにしましょう。

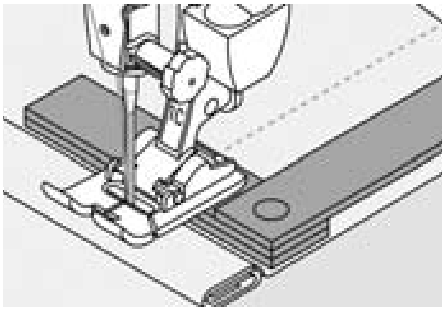


布を押し込んだり、引いたりすると、縫い目が乱れてしまします。

送り歯と高さ調整板

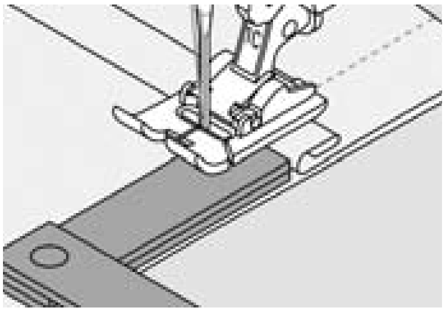


正常な送り歯運動を選るには、押え金全体で布を押さえるようにしてください。

厚手の布地の折り目部分等、押え金と布の間に角度ができてしまうと、送り歯は布をきちんととらえることができず、うまく送れなくなります。

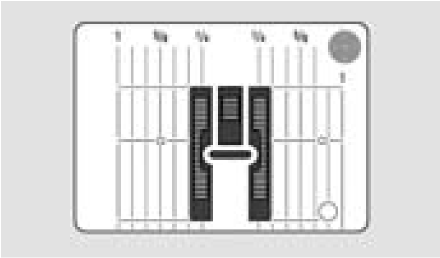


このような場合には、高さ調整用の板を使います。押え金の下、針が落ちる位置の後ろに当てます。必要に応じて、1枚でもそれ以上の枚数使ってもかみません。

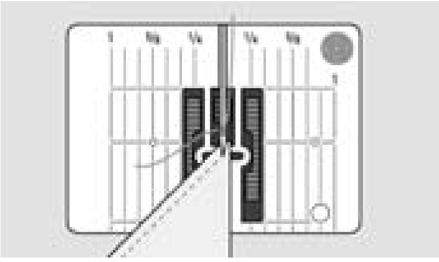


押え金の前方の高さを調整するには、調整板を押え金の右側、針が落ちる位置の横に当てます。押え金が平らになるところまで塗ったら、板をはずします。

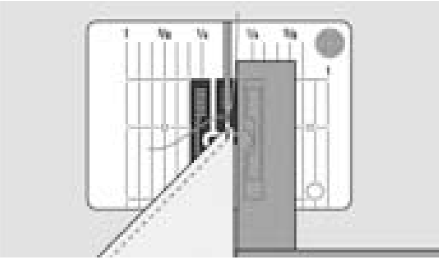
コーナー部分を縫うには（640型）



送り歯の間の溝は、針板の穴に合わせてあるため、大きめになっています。

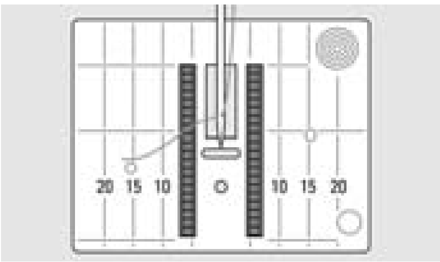


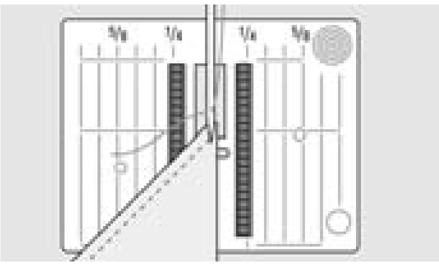
コーナー部分を縫うには、布のほんの少しの部分しか送り歯の上に乗らないので、布をきちんととらえることが難しくなります。

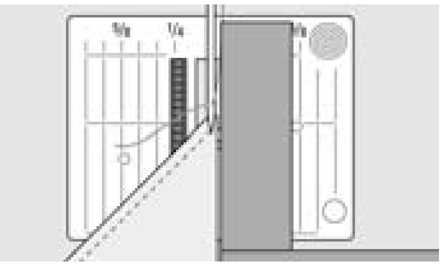


そのような場合には、必要な数の高さ調整板を、布の端にできるだけ近づけて置き、補正します。

コーナー部分を縫うには（630型）







スクリーン操作

アーティスタは外部操作ボタンとつまみ、及びタッチスクリーンの両方で操作します。

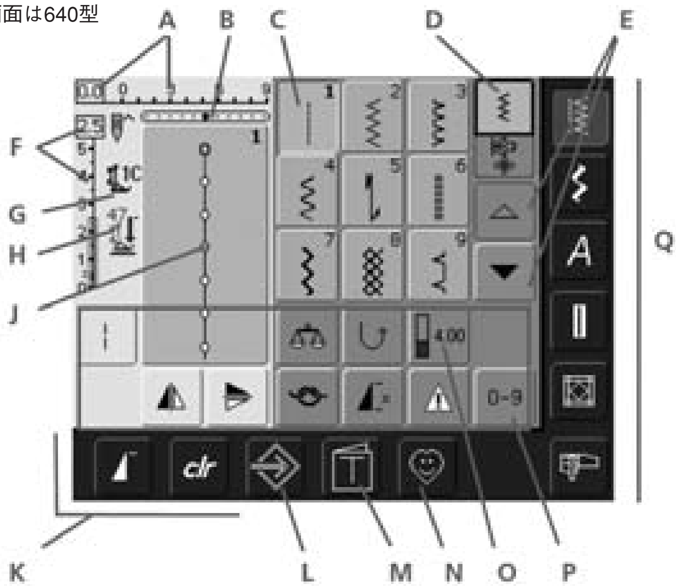
Welcomeスクリーン

・スイッチを入れてオンにします。
・Welcomeメッセージが約3秒間画面に表示されます（セットアップ画面で入力した場合)。
・このスクリーンはセットアップ機能でメッセージを入れたり、消したり出来ます。

実用縫いスクリーン

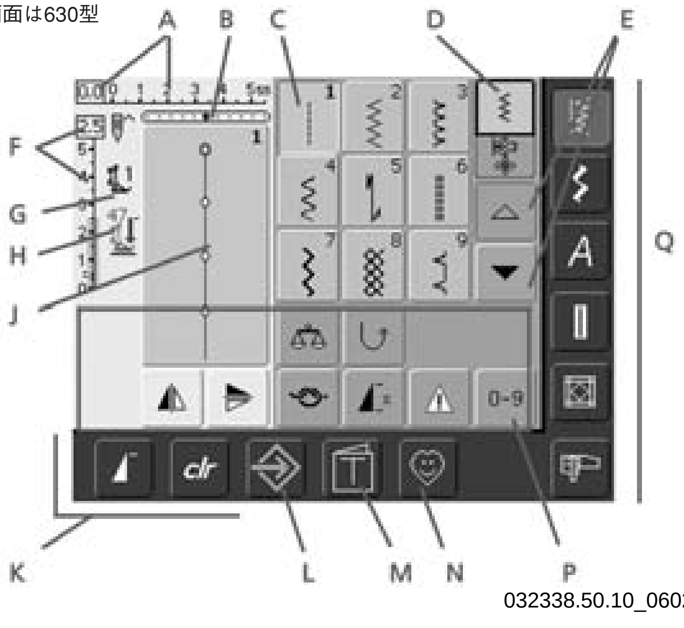
Welcomeメッセージが消えると実用縫いメニューが表示され、次の画面が表示されます。

画面は640型

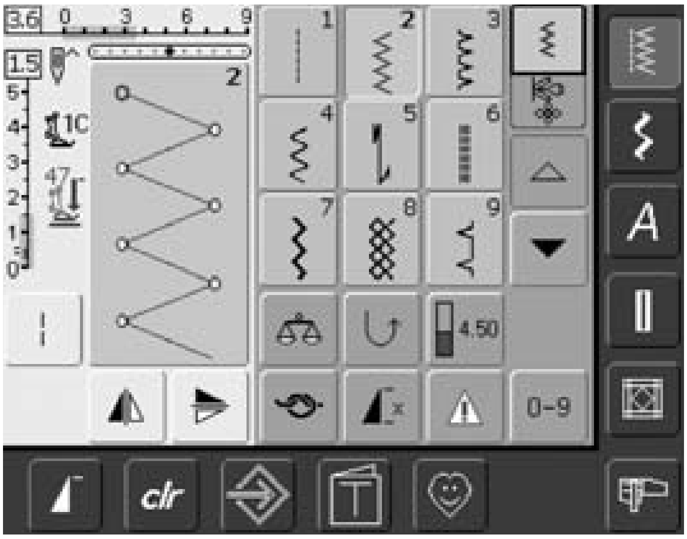


A． 振り幅（基本セッティングが常に表示されます）（640型は最大9mm、630型は最大5.5mm）
B． 針基線（11ポジション）
C． 選んだステッチとその番号
D． シングルモード
E． 画面スクロール上下矢印
F． 送り長さ（基本セッティングが常に表示されます）
G． 押え金の表示
H． 押え圧の表示
J． 選んだステッチのイラストおよび番号（ステッチ変更エリア）
K． 外部操作による機能
L． セットアッププログラム
M． チュートリアル（刺しゅう用のみ）
N． パーソナルプログラム
O． 上糸ダイヤルテンションアイコン（640型のみ）
P． ステッチ番号入力アイコン
Q． メイングループのボタン

画面は630型



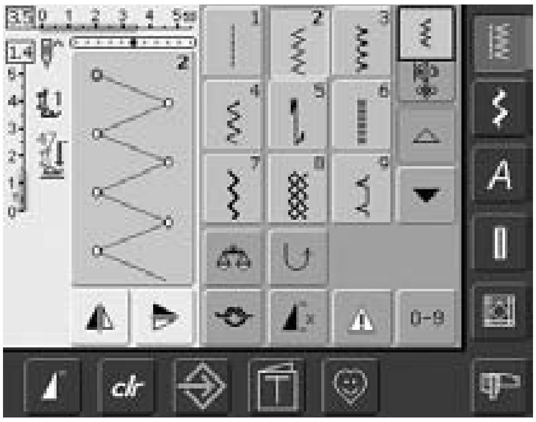
模様の選び方、模様の表示、機能



画面は640型

模様の選択

・縫いたい模様アイコンをタッチして選びます。
・選んだ模様が青く強調されて表示されます。
・ステッチ操作エリアに選んだ模様と模様の番号が表示されます。



画面は630型

選んだ模様の表示

・選んだ模様の図が、画面部分に表示されます。
・選んだ模様が変更されたり振り幅や送り長さと一緒に画面上に表示されます。

振り幅の調節方法

・ミシンパネルの右上の一番上のつまみを回します。

640型のみ

630型のみ

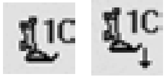
振り幅の調節方法

・振り幅表示は、横方向の黄色ゾーンに表示されます。
・変更した振り幅は、振り幅表示で見られます（ブルーでハイライトされています）。
・基本セッティングは、変更後もいつでも見ることができます（ここでは、4.0mmのダークブルー（濃紺）のバー）。
・変更された模様のセッティングが青い数字で表示されます。
・振り幅は0から9ミリの間で変換できます。（630型は0から5.5mm）
・640型では、センサー付きの押え金を使用すると自動的に振り幅を最大9ミリにセットします。
・センサーのついていない押え金を使うと自動的に最大振り幅が5.5ミリにセットされます。

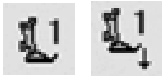
送り長さの調節方法

・ミシンパネル右上の上から2番目のつまみを回します。

・変更した送り長さは、2種類の方法で表示されます。
・送り長さバー0-5は、ブルーで表示されます。
・編超した送り長さは、送り長さバーで見られます（ダークブルーでハイライトされています）。加えて、基本セッティングは、青い数字で示されています。
・基本セッティングは、変更後もいつでも見ることができます（ここでは、1.5mmの黒いバー）。
・送り長さは、特殊な場合を除いて、0mmから5mmの間で調整できます。



640型のみ



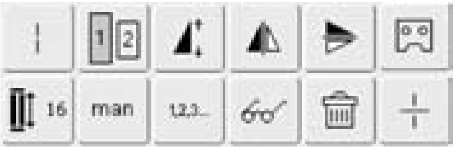
630型のみ

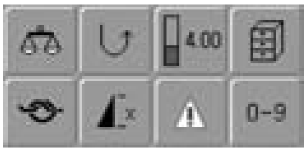
基本押え金表示

・模様に適した基本の押え金が、スクリーンに番号で表示されます。
・押え金が上位置に上がっている場合には、下向きの矢印とともに表示されます。

送りドロップ

・送り歯が下げられている時は、画面上の押えの下に送り歯のイラストが点滅して表示されます。

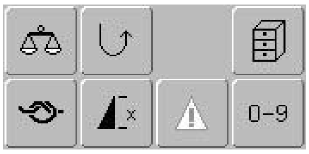




640型

機能の選択方法

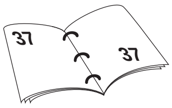
・選びたい機能ボタンをタッチしています。
・機能が軌道してボタンが青くハイライトされて表示されます（同時にいくつかの機能を起動することも出来ます)。



630型

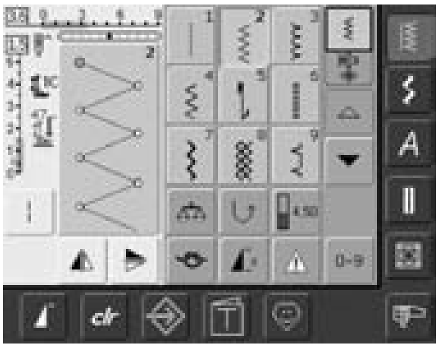
一時的に変更した模様のメモリー

送り長さ、振り幅、針基線等は、自動的に保存されます。ミシンの電源をオフにするか、クリアーボタンを押すと、変更は解除されます。

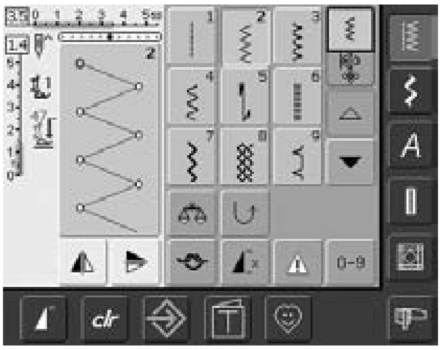


お好みのセッティングに変更してしまうには

ベルニナがプログラムした基本セッティングに変更を加え、セットアップ機能で保存することができます。ミシンの電源を切った後でも、保存されたデータはそのまま残ります。その場合も、基本セッティングはいつでも見ることができます。



画面は640型



画面は630型

基本セッティング（送り長さ、振り幅、針基線、糸調子等）を変更するには

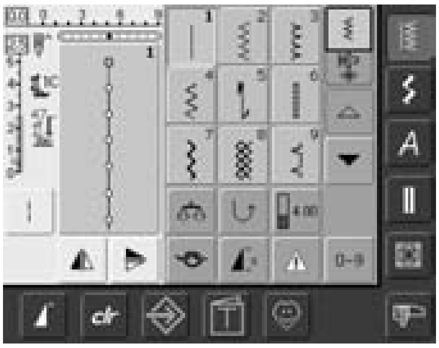
・変更を加えたい模様を選択します。
・振り幅および送り長さを、外部のつまみで変更します。
・針基線を、外部のボタンで変更します。
・ステッチ変更エリア（ブルー）をタッチします。

基本セッティングを変更するには（前ページから続く）

- 特殊スクリーンが開きます。
- 「セッティングを保存する」をタッチすると、すべての変更が保存できます。
- 「セッティングをリセットする」をタッチすると、基本のセッティングに戻ります。
- ESCをタッチすると、スクリーンは、何も保存も変更もしないままの状態で閉じます。

模様の選択方法

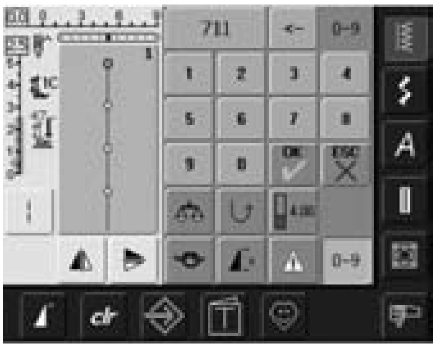
模様は、次に挙げるどちらかの方法で選択できます。



画面は640型

基本セッティングを変更するには

- 画面右のスクロール用矢印▼を一回タッチして下さい。
- 最上段の模様の行が消えて、下から新しい模様の行が現れます。
- 今度のスクロール用矢印▲を一回タッチして下さい。
- 最上段が再び現れて、最下段がスクリーンから消えます。
- 押し続けると画面上の模様が下から上に移動します。
- スクロール機能は、模様を見ながら探すのに便利です。
- ある特殊な模様を探している場合等にご利用下さい。
- 模様が見つかったら、タッチして選択します。



画面は640型

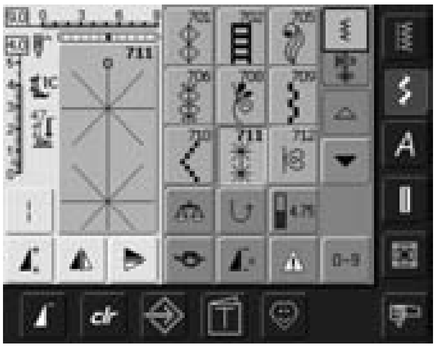
模様をステッチ番号で選ぶ方法

- 画面下の機能ツールバーで模様番号選択アイコン《0-9》をタッチします。
- 画面が模様番号の番号を数字ボタンで入力します。
- 選びたい模様の番号を数字ボタンで入力します。
- 画面上に入力した番号が表示されます。

入力の訂正方法

- 間違った番号を入れたり、番号を変更した時は、右上のスクロール機能 <— アイコンをタッチします。
- 下の桁から一つずつ数字を消します。
- 番号の表示されている部分をタッチすると、全部の番号が一時に消えます。
- ただし番号を入力します。

> **ご注意**
> 存在しない数字が入力されると、数字パッドの上の部分に 3 個のクエスチョンマークが表示されます。



画面は640型

番号を確認して次の画面へ

- 《OK》ボタンをタッチして確認します。
- 選んだ模様がステッチ操作画面に表示されます。
- 番号で選んだ模様が青く表示されます。

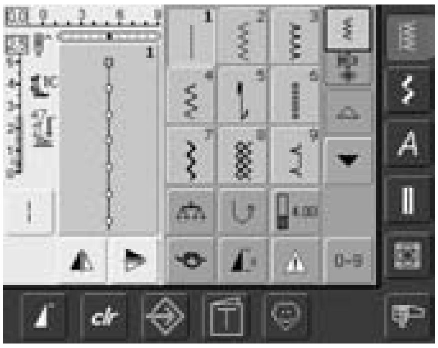
前の画面へ戻る

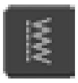
- 入力した番号を《OK》で確認しないで、《ESC》または《0-9》ボタンをタッチします。
- 元の画面が現れます。
- 番号で入力したあと《OK》をタッチして模様を確定します。
- 《ESC》アイコンは模様選択のキャンセルを意味します。

模様を選んでみます

メイングループボタン
・プッシュボタンを押します。
・模様プログラムが選択されました。
・最初の模様画面が現れます。

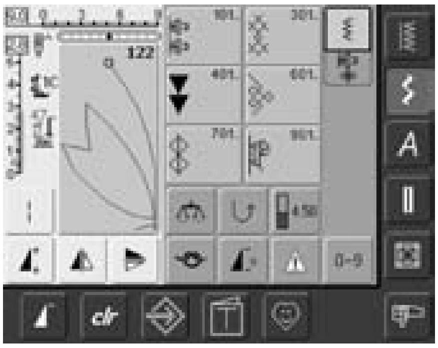
実用縫い

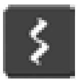

画面は640型



実用縫いメニューボタン
・実用縫い模様画面が現れます。
・画面には9種類の模様が表示されます。
・他の模様を画面に表示するにはスクロール矢印をタッチします。

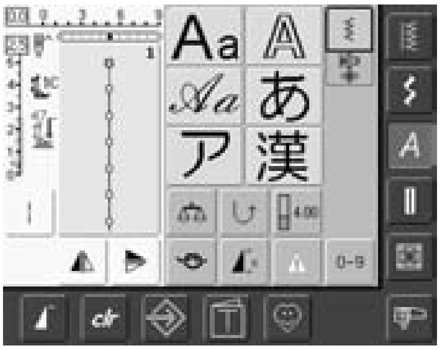
飾り縫い


画面は640型



飾り縫いメニューボタン
・飾り縫い模様メニュー画面が現れます。
・6種類のステッチグループが表示されます。
・他の模様グループを表示するには▲▼アイコンで画面をスクロールさせて下さい。
・模様グループアイコンをタッチして選びます。

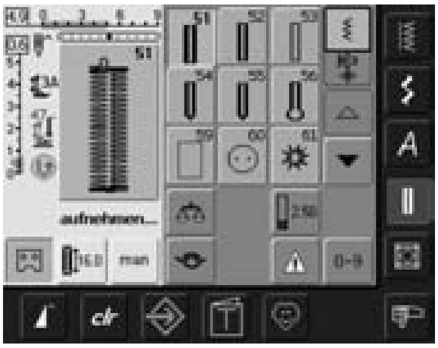
文字


画面は640型

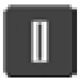
文字メニューボタン
・文字メニューが現れます。
・縫いたい文字ボタンをタッチして選びます。

（630型では漢字機能は含まれません）

ボタンホール



画面は640型

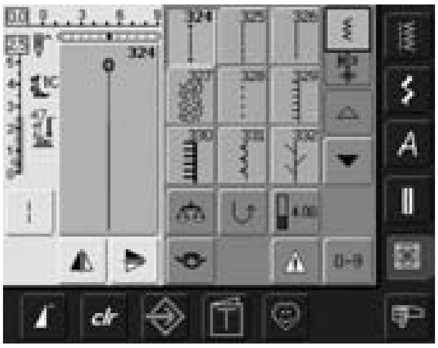


ボタンホールメニューボタン

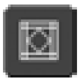
・ボタンホールメニュー画面が現れます。

・アイレットや、ボタン付けプログラムも含まれています。

キルトステッチ



画面は640型



キルトステッチメニューボタン

・キルトステッチメニュー画面が現れます。

・9種類のキルトステッチが表示されます。

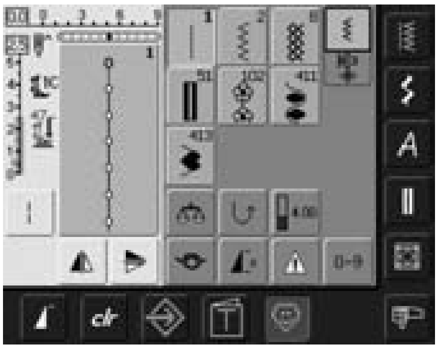
・スクロールして、他のキルトステッチを選べます。

刺しゅうモード／ソーイングモードの切替

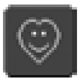
刺しゅうモード／ソーイングモード切替ボタン

・刺しゅうからソーイングに、またはソーイングから刺しゅうにと転換できます。

パーソナルプログラム



画面は640型



パーソナルプログラムボタン

・パーソナル画面が表示されます（左画面ではセッティングがカスタマイズされたものが表示されています）。

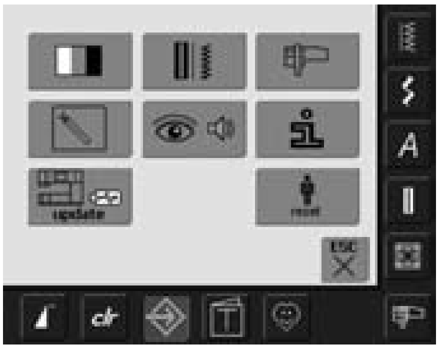
刺しゅう用チュートリアル

チュートリアル（説明書）ボタン

- チュートリアルボタンを押します。
- 操作説明、布、針またはテクニック等に関する9種類のアドバイスが表示されます。

> **ご注意**
> 刺しゅうをする場合のみ、使用可能です。

セットアッププログラム



セットアップボタン

- セットアップボタンを押します。
- セットアップ・メニューが現れます。
- 各機能をご利用し易いようにセットアップ機能を使って設定します。
- パーソナルセッティングを恒久的に保存できます。
- 必要な時にいつでも基本セッティングに戻せます。

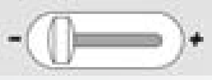
スクリーン外部機能

針基線ボタン

- 左ボタンを押すと、針基線を左側に移動できます。
- 右ボタンを押すと、針基線を右側に移動できます。
- ボタンを押し続けると、スピーディに針基線を移動できます。
- 針基線は、全部で5箇所、右側に5箇所および中央となります。

一模様縫い

- 一模様縫いボタンを押します。
- 機能がオンになると、スクリーン右側に停止のシンボルが表示されます。
- 選んだステッチまたはコンビネーションを一回縫うと、ミシンが自動的に停止します。
- ミシンのスピードは、スライド式スピードコントロールで、自由に調節できます。



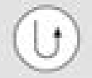
スライド式スピードコントロール

- スライドつまみを動かすことで、ミシンのモータースピードを自由にコントロールできます。
- 下巻きをしているときには、下糸巻取装置のスピードが調整されます。

針上下停止位置

基本セッティングでは、矢印は上向きです。

- ボタンを短く押すと、針が今ある位置に反対に動きます（フットコントローラーのかかとを軽く踏み込んでも、同じ操作ができます）。
- ボタンを長く押すと、
  - 針が下位置に下がります。
  - ディスプレイ画面の矢印は、下を向きます。
  - ミシンは、針を布に刺した状態で停止するようになります。
- ボタンをもう一度、長く押すと、
  - 針が上位置に上がります。
  - ディスプレイ画面の矢印は、上を向きます。
  - ミシンは、針が上に上がった状態で停止するようになります。



手元返し縫いボタン

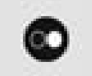
- 返し縫いしたい場所で針元にある「手元返し縫いボタン」を押します。
- 縫い始めや縫い終りに止め縫いをします。
- 押している間返し縫いを続けます。
- ボタンホールのサイズをプログラムしたり、自動つくろい縫いで長さをプログラムするのにも使います。
- 自動直線止め縫い#5のステッチでもスイッチとして使います。
- ステッチ#324のキルト止め縫いでもスイッチとして使います。

ビルトイン自動糸切り（640型のみ）

- 糸切りの外部ボタンを押します。
- 上糸と下糸の両方が、自動的にカットされます。

留め縫い機能（4針の返し縫いを行います。）

- 縫い始める前に、ボタンを押すと、ステッチの縫い始めと縫い終わりを自動的に返し縫いします。
- 縫っている間にボタンを押すと、縫い終わりを返し縫いで留めることができます。
- ステッチのコンビネーションを縫っている間にボタンを押すと、縫い終わりを返し縫いで留めることができます。
- ミシンは、返し縫いで留めた後、そのまま縫い続けます。

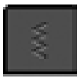


縫い始め／縫い終わりボタン

- フットコントローラーを使わないでミシンを操作する場合には、このボタンでスタートとストップをコントロールできます。
- ソーイングの際のスタートとストップ、刺しゅうのスタートとストップをコントロールできます。
- BSR押え（オプション）が取り付けられ、電源がオンになっている場合は、BSR機能のスタートとストップも、フットコントローラーを使わずにできます。

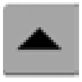
スクリーン操作機能

アーティスタ640では、以下に記述する機能が装備されています。



シングルモード

・ミシンの電源をオンにすると、いつもで自動的にアクティブ（グリーン表示）になります。
・選んだ模様のみを縫う機能です。

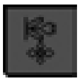


上にスクロールする

・一回タッチするごとに画面が上にスクロールします。
・続けてスクロールさせるにはアイコンをタッチし続けて下さい。

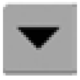
《ESC（戻る）》エスケープ機能

・《ESC（戻る）》アイコンにタッチします。
・機能の完了や画面の終了を指示します。
・以前の画面に戻ります。



コンビモード

・アイコンをタッチします。
・コンビモードがアクティブ（グリーン表示）になり、模様の組合せをプログラムすることができます。

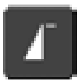


下にスクロールする

・一回タッチするごとに画面が下にスクロールします。
・続けてスクロールさせるにはアイコンをタッチし続けて下さい。

《OK》アイコン

・確認ボタンです。
・いろんな機能や、指示命令を確認できます。



模様頭出し

・機能ボタンにタッチして起動します。
・針目を模様やメモリーの内容の先頭にコンビモードを使ったソーイングに。

適用：

・模様縫い、刺しゅう、ボタンホール縫い、コンビモードを使ったソーイングに。

《clr》クリアボタン

・《clr》ボタンを押します。
・振り幅、送り長さ、針基線が基本セッティングに戻ります。
・ほとんどの機能がリセットされます。
・安全に関する機能（針停止位置、セキュリティプログラムおよびソーイングスピード等）は、例外としてクリアボタンではキャンセルできません。

便利な機能

以下の機能は、アーティスタ640のプログラムの中でよく使われるものです。各プログラムの中で使用できる機能は、スクリーンの黄色い部分、またはグレーの部分の下2列に表示されています。

振り幅または送り長さの表示

・振り幅バー、または送り長さバーをタッチすると、基本セッティングに戻ります。

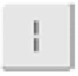
640型のみ

630型のみ

垂直反転

・アイコンにタッチします。
・選んだステッチが上下の反転模様で縫えます。
・コンビモードでプログラムして、ファイル引出しに保存することができます。

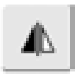
応用：
・装飾縫い
・メモリーを使ったパターンの組合せ



ロングステッチ（640型のみ）

・機能をタッチして起動します。
・ミシンは2針に一回縫います（5ミリの送り長さの縫い目では10ミリで縫えます）。
・いろんなステッチとの組合せが可能です（ボタンホールは除く）。
・コンビモードでプログラムして、ファイル引出しに保存することができます。

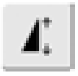
応用：
・直線縫いでしつけ縫いに。
・トリプルステッチ直線と使ってトップステッチに。



左右反転

・アイコンにタッチします。
・選んだステッチが左右の反転模様で縫えます。
・コンビモードでプログラムして、ファイル引出しに保存することができます。

応用：
・まつり縫いのシェルエッジに
・飾縫い
・メモリーを使ったパターンの組合せ



パターンの拡大2〜5倍

・一回、または何度かタッチします。
・選んだステッチによって2〜5回の数字が出ます。
・選んだステッチの長さを2〜5倍に長くすることができます。
・拡大したステッチでメモリーにプログラム、および保存できます。
・アイコンを長押しすると機能をキャンセルできます。機能が停止します（黄色表示）。

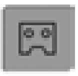
応用：
・模様縫いの密度を変えずに拡大出来ます。
・拡大したステッチを組合せて縫えます。

ダーニングプログラム用ステッチカウンター

・アイコンをタッチします。
・希望の長さに達したら、手元返し縫いボタンを押します。
・表示が「auto」に替わります（ボタンホールの場合は、2列目の長さまで手元返し縫いボタンで確定しなくてはなりません）。
・これで、一時的にプログラムすることができました。

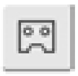
長さを直接入浴する（mm単位）、またはオンスクリーンでのボタンのサイズ計測

- アイコンをタッチします。
- ボタンホールの長さ（mm単位）は、振り幅つまみで直接入力できます。
- ボタンのサイズを計測するには、ボタンをスクリーンの左下コーナーに当てて、ボタンの長さを入力します（表示された縦のカーソルを、振り幅つまみを回して、ボタンのサイズに合わせます）。
- ボタンの厚みとして、2mmが、自動的にプラスされます（ボタンのサイズ測定時のみ）。

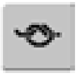


ボタンホールの長さをプログラムする

- ボタンホールを選択すると、アイコンが自動的にアクティブ（ブルー表示）になります。
- 手元返し縫いボタンを使って、ボタンホールのサイズを決めます。
- サイズを決めます。
- 又はボタンをタッチするだけで表示されたサイズを設定して縫うことができます。



- ボタンホールがプログラムされると、アイコンはオフ（黄色表示）になります。
- 新しい長さをプログラムする場合には、アイコンをもう1度選択します。



一点止め縫い（4針）

- アイコンをタッチして起動します。
- ステッチの縫い始めと縫い終わりにタッチすると、4針で一点止め縫い始めと終わりで止め縫いします。
- 組合せと一緒に縫うと、縫い始めと縫い終りで止め縫いします。

応用：

- 模様を1つだけモチーフとして使いたい時
- 文字を縫う時
- 模様の組合せをモチーフにして縫う時。

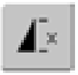
マルチ機能ボタン

（コンビモードのみで使用できます）

- アイコンをタッチします。
- 特殊スクリーンが開きます。
- 組合せの削除
- 組合せの保存
- 組合せの反転
- プレビュー
- 組合せの分割

マニュアルによる4ステップまたは6ステップボタンホール

- アイコンをタッチします。
- 特殊スクリーンが開きます。
- ボタンホールをマニュアルで、4ステップ、または6ステップで縫います（ボタンホールのタイプによって、ステップ数を選択してください）。

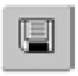


一模様縫い1-9

- 繰返し縫う回数だけアイコンをタッチして、セットします。
- 1＝各ステッチパターン一回、または一組のステッチが終わるたびにミシンが停止します。
- 2～9＝ステッチや一組のステッチが選んだ回数だけ繰り返された後にミシンは停止します。
- アイコンを長押しすると機能をキャンセルできます。機能が停止します（灰色表示）。

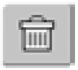
応用：

- 個々のモチーフを縫う。
- 実用縫いと飾り模様を組み合わせる。



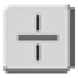
保存（セーブ）

- アイコンをタッチします。
- シングルステッチ、ステッチの組合せあるいは文字や数字を保存します。



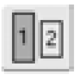
削除

- アイコンをタッチします。
- カーソルの上にあるステッチまたは文字等が削除されます。
- ステッチの組合せを削除することもできます。
- 引出しの内容を削除するのも、ここで行います。



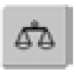
メモリーの分割（640型のみ）

- アイコンをタッチします。
- メモリーを、いくつかのパートに分割することができます。
- 分割されたパートは、それぞれ一つの独立したモチーフとなります。



文字のサイズ

- 文字モードを最初に選ぶと、サイズは9mmに設定されています（アイコンの１のフィールドが青く表示されます）。
- アイコンをタッチします。
- サイズが、6mmに縮小されます（2のフィールドが青く表示されます）。

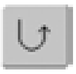


バランス

・アイコンにタッチしてバランス画面を開きます。
・前進と返し縫いのステッチバランスと縫いのステッチバランスを修正します。
・右側の画面に今縫っている状態を送りダイヤルと振り幅ダイヤルを使って再現すると、自動的にバランスを調整します。

応用：

・例えばネットステッチのような実用縫いのステッチを減らしたり増やしたりしてみましょう。
・ちょっと変わった飾り縫いを作ってみましょう。
・生地に合わせてボタンホールのバランスを変える事も出来ます。
・生地に合わせて横送り縫いのステッチを合わせてみましょう。



連続返し縫い

・アイコンにタッチします。
・連続して返し縫いで縫えます。
・もう一度タッチして終了します。

応用：

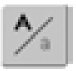
・直線縫いやランニングステッチは繕い縫いに便利です。
・袖やズボンに装飾縫いをしてみましょう。
・キルティングにも使えます。

ステッチ番号入力

・アイコンをタッチすると、特殊スクリーンが表示されます。
・テンキーボードからステッチ番号を入力します。
・「OK」をタッチして、選択を確定し、ステッチをSAAに呼び出します。

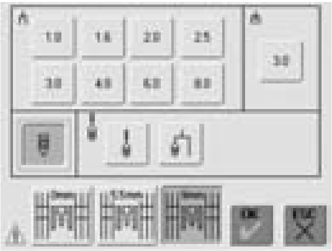
応用：

・各ステッチをすばやく選べます。
・コンビモードでのステッチ組合せもすばやく処理できます。

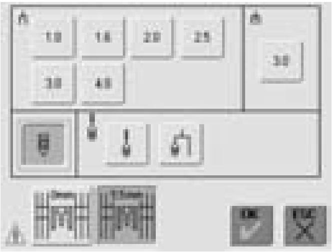


大文字または小文字

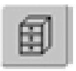
・文字を最初に選択すると、大文字がアクティブになります。
・アイコンをタッチします。
・小文字に移りました。



640型のみ

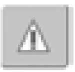


630型のみ



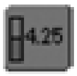
メモリーボックス（メモリーファイル引出し）

・アイコンをタッチします。
・引出しのスクリーンが開きます。



セキュリティ（安全）プログラム

1. アイコンをタッチします。
2. 安全プログラムスクリーンが表示されます。
3. ご使用の針板のアイコンを選ぶと、選んだ針の種類によって、振り幅が自動的に制限されますので、2本針等が押え金や針板に当たって折れてしまう事故を防ぐことができます。
4. 2本または3本針についている番号は、針間の距離（mm単位）を示しています。
5. 機能がオンになると、アイコンはスクリーン上で赤く表示されます。
6. 選んだ機能は、ミシンをオフにするまでアクティブのままです。
7. 選んだ安全プログラムをオンにするには、「OK」アイコンをタッチします。
8. 新しい針や針板を使う場合には、必ず事前のプログラムを選びなおして下さい。
9. グリーンのアイコンをタッチして下さい。制限は解除され、標準針のセッティングに戻ります。



上糸調子（640型のみ）

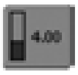
・アイコンをタッチします。
・糸調子のスクリーンが表示されます。
・糸調子は、変更可能です。
・選んだセッティングは、画面上の糸調子アイコンに表示されます。

糸調子（640型のみ）

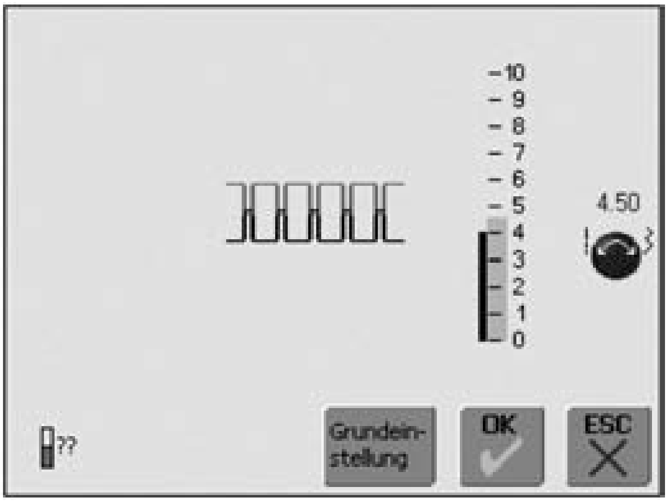
基本的な糸調子のセッティングはステッチやプログラムを選んだ時に、自動的に調節されています。

糸調子は工場でスイス製メトラーポリエステル100/2本の糸差り糸でベストの仕上がりになるようにセットされています。

当然刺しゅう糸のように特殊なタイプの糸を使えば糸調子も変わってきますので、このような場合には布地とステッチの種類に合わせて調整する必要があります。



糸調子
・アイコンをタッチします。



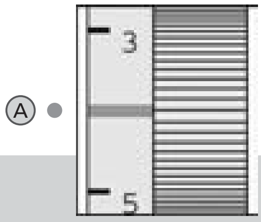
糸調子を変えてみよう
・糸調子の画面が現われる。
・完璧なステッチの形が画面中央に示されます。
・標準セッティングがブルーのバーで示されています。
・振り幅または送り長さつまみを回して、テンションを変えてみます。
・反時計方向＝糸調子を弱くします。
・時計方向＝糸調子を強くします。
・糸調子は、数値で糸調子スケールの左側に表示されます。
・上糸調子を強くすれば、下糸がより強く布の表面に引き出されるように画面に表示されます。
・上糸調子を弱めれば、上糸がより強く布の裏面に引き出されるように画面に表示されます。
・糸調子の調整は、選んだステッチのみに有効で、標準に戻したい場合には、「clr」ボタンを押します。また、ミシンの電源をオフにすれば、標準に戻ります。
・テンション調整がビジュアルに画面上に表示されます。
・標準セッティングは、常に画面上に黒いバーで表示されています。

一時的に保存して閉じるには
・《OK》アイコンにタッチして下さい。
・変更した状態で一時的なメモリーに保存され、画面は閉じます。
・電源を切るか、リセットするまでは変更した状態で縫います。

基本セッティングに戻す
・《リセットReset》アイコンにタッチして下さい。
・「OK」アイコンにタッチして、確定します。
・変更はリセットされ、標準セッティングに戻ります。

調整しない場合
・画面を開いたけれど、何も調整しない時は、「ESC」アイコンをタッチします。
・糸調子は変更されずに、元の画面に戻ります。

糸調子（630型のみ）



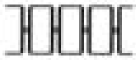
例

	糸調子	針
メタリック糸	3程度	90番
モノフィラメント	2から4程度	80番

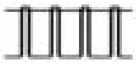
糸調子は、工場出荷時の初期設定で最適の状態に調節されています。上糸および下糸の調子セッティング用に使われた試縫い糸は、メトロシーンの100/2（スイス、アローバメトラー社製）です。
他のソーイング糸または刺しゅう糸を使用する場合には、布および選んだステッチに合わせて、糸調子を調整してください。

基本セッティング
・基本セッティングは、糸調子調整用ダイヤルの赤のライン（A）で示されています。
・通常の縫いには、糸調子の調整は必要ありません。
・必要な場合には、布に合わせて、糸調子を調整します。

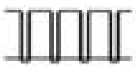
糸調子のセッティング



完璧な状態のステッチ
・上糸と下糸が、布の内部で釣り合っています。

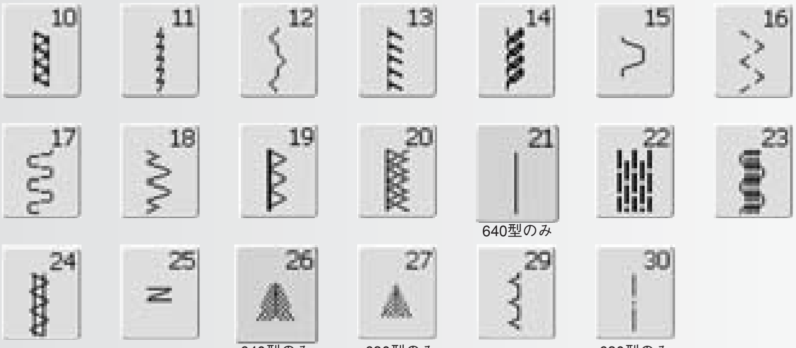


上糸の調子が強過ぎる
・下糸が、布の表面に引き出されてしまっています。
・上糸の調子を弱めるには、糸調子の調整用ダイヤルを3から1まで下げます。

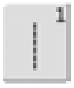


上糸の調子が弱過ぎる
・上糸が、布の裏面に引き込まれてしまっています。
・上糸の調子を強めるには、糸調子の調整用ダイヤルを5から10の間で調節します。

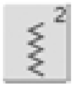
実用縫い　630型／640型



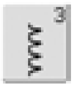
640型のみ　640型のみ　630型のみ　630型のみ



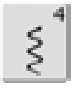
直線縫い
伸縮性のない生地。すべての直線縫い



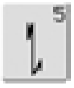
ジグザグ縫い
あらゆる生地。薄地でのジグザグ縫いや、ゴムひもやレースの縫い付けなど



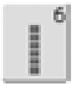
バリオーバーロック
主に薄地のジャージー等、伸縮地の縁かがりやオーバーロック縫い



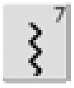
ランニングステッチ
あらゆる生地。つくろい縫い、パッチの縫い付けや補強縫いなど



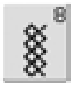
自動止め縫い
あらゆる生地。直線縫いの始めと終わりを自動的に止め縫いする



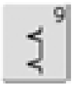
トリプルステッチ
厚くて丈夫な生地。補強縫いに



トリプルジグザグ
厚くて丈夫な生地。補強縫い、トップステッチやヘム縫い、飾りステッチ、カウチングなどに

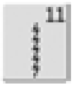


ネットステッチ
インターロック地や滑らかな生地に。トップステッチやヘム縫いに

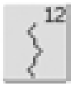


まつり縫い
あらゆる生地。くけ縫いやソフトなジャージー、薄地のシェルタック、飾り縫いなど

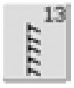
ダブルオーバーロック
あらゆるニット地。縫うと同時に縁の始末ができる



スーパーストレッチ
非常に伸縮性の強いニット地やライクラ地などの縫い合わせ

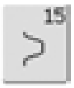


ギャザリングステッチ
あらゆる生地ゴムひもを使ったシャーリング、キルト線等突き合わせ縫い

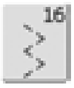


ストレッチオーバーロック
中厚地のニット地、タオル地その他腰のある生地に

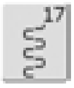
ジャージーステッチ
天然、混紡、あるいは化繊やデリケートなニット地。飾り縫い、縁かがり、繕い等に



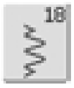
ユニバーサルステッチ
フェルト等厚地の生地またはレーザー等　突き合わせ、飾り縫い等



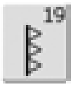
二点ジグザグ
粗い目の生地、布端の補強に、エラスティックや飾り縫いに



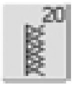
ライクラステッチ
二方向伸縮性のニット地に、フラットな突き合わせ、縁縫い、下着などに



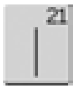
ストレッチステッチ
すべてのストレッチタイプの生地に、スポーツウェアなど



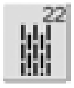
強化オーバーロック
中厚地のニット地、ジャージー、タオル地や、固めの織物に



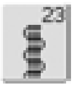
ニットオーバーロック
機械編みや、手編みのあらゆるニット地に縁かがりと縫い合わせを同時に仕上げます



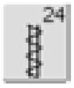
しつけ縫い（640型のみ）
しつけ縫い



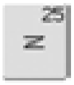
自動つくろい縫い
薄地や中厚地の布の自動つくろい縫い



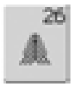
自動強化繕い縫い
厚地の自動繕い縫い



自動かんぬき止め縫い
ポケットの両端やあき止まりなど、ほつれやすい個所やベルトループに

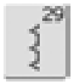


自動かんぬき止め縫い
ポケットの両端やあき止まりなど、ほつれやすい個所やベルトルーフに

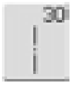


フライステッチ（大）（640型のみ）
ポケットの端、ファスナー部分その他のあき止まりなど。中くらいから厚手の生地に

フライステッチ（小）（630型のみ）
ポケットの端、ファスナー部分その他のあき止まりなど。中くらいから厚手の生地に



ブラインドステッチ（狭幅）
薄手の生地専用のブラインドヘム



しつけ縫い（630型のみ）
しつけ縫い（キルト等）。

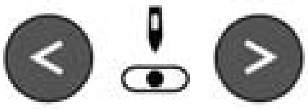
一般的な知識

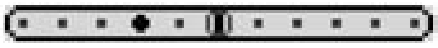
個々の実用縫いステッチを調整する
布および使用目的によって、基本セッティングを調整する場合もあります。

640型のみ

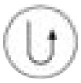
630型のみ

振り幅および送り長さを変えてみる
・布地によっては、振り幅および送り長さを変更する必要があります。
・ソーイングしながら修正していくことも可能です。
・振り幅および送り長さつまみを使います。



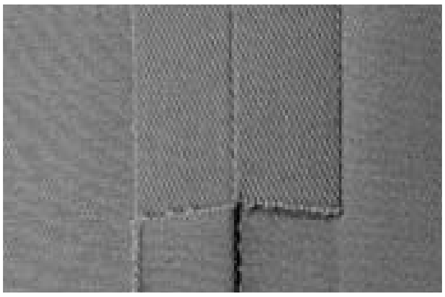


針基線を使う
・外部の針基線ボタンを押して、針基線を変更し、縫うべきところに正確に針が落ちるようにします。
・針基線は、11ヶ所から選択できます。（左側5ヶ所、右側5ヶ所、中心1ヶ所）
・ボタンを押したままにすると、針基線を速く移動できます。



手元返し縫いボタンで止め縫いをする
・縫い始めと縫い終わりを止めます。
・手元返し縫いボタンを押すと、ミシンが返し縫いをします。
・ボタンを離すと、ミシンは前に進みます。

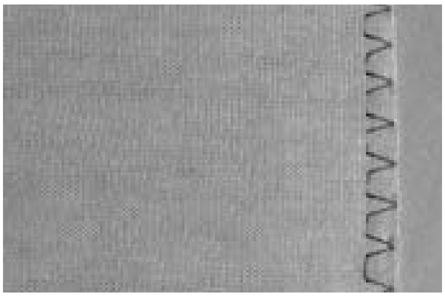
実用縫いの縫い目



オープンシーム
アイロンで縫い代を割る縫い方です。
・縫い代は最大1.5cm。
・縫い目は、平らになります。
・縫い目は、伸縮しません。

適したステッチ
直線縫い
幅の狭いジグザグ
スーパーストレッチ縫い
トリプルジグザグ等

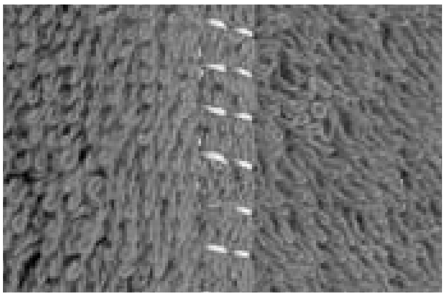
適用
・厚手の織生地に。
・衣服、家庭用品、クラフト等に最適です。



クローズドシーム（オーバーロック）
アイロンで縫い代を割らない縫い方です。
・縫うだけで完成します。
・幅の小さい縫い代。

適したステッチ
バリオーバーロック縫い
ダブルオーバーロック
ジャージーステッチ等

適用
・ニットおよびジャージー地に。
・ニットの服、ランジェリーおよびベッドカバーに最適です。



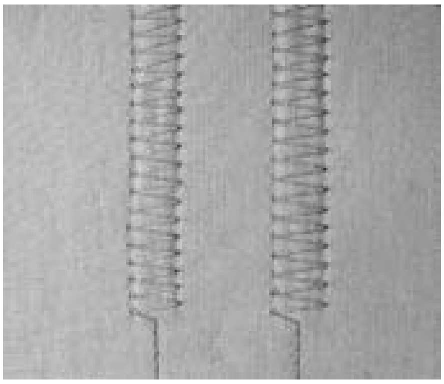
フラットジョイント縫い
布端同士を重ねて、縫い合わせたもの。
・縫い代の上にステッチしていきます。

適したステッチ
ストレッチオーバーロック

適用
・タオルまたはライクラ等の生地に。
・ビーチウェアー、レジャー用服、ランジェリー等に最適です。

ステッチメモリー

ステッチ： **全てのステッチに標準の機能です。**



> メモリーには、機能を必要なだけ、いくつでも保存することができます。例えば、振り幅、送り長さ、針基線、反転、模様の拡大、ロングステッチ機能、糸調子、バランスおよび一模様縫い1ー9X等があります。

一般的にステッチのプロパティーを変えてみる

- ステッチの送り長さ、振り幅、針基線等の機能が、自動的に記録されます。
- 振り幅または送り長さを変更して、ステッチをお使いになる布に合わせます。
- ステッチメモリーは、2つ以上の異なるステッチ、例えば振り幅を変えたオーバーロックステッチと針基線を変えた直線縫いを交互に使うときなどに便利です。
- 必要に応じて、セッティングを自由に変えられます。新しく変えたセッティングがそのステッチに記憶されます。
- 元のステッチに戻るとき、前に加えた変更はそのまま保存されています。

基本セッティングに戻すにはーステッチメモリーの開放

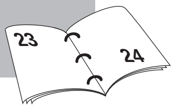
- **方法1：**「clr」ボタンを押します。
  （ステッチは、標準セッティングに戻ります。）
- **方法2：**振り幅および送りの長さバーをタッチするか、または調整つまみを回して、マニュアルで元に戻します。
- **方法3：**ミシンの電源をオフにします。これで、変更は保存されることなく、消去されました。

例

- ジグザグステッチ2番を選択して、振り幅を最大に変更し、布端をオーバーロック縫いします。
- 次に直線縫いを選択して、縫います。再び、ジグザグステッチ2番を選択して、もう一方の布端をオーバーキャストします。
- 振り最大の設定は、そのまま保存されていました。

「パーソナルプログラム」については、このページをご参照ください。

変更した内容で標準セッティングとして保存する方法については、このページをご参照ください。



直線縫い

ステッチ： **直線縫いNo.1**
針： **生地に合わせて選びます**
糸： **コットンまたはポリエステル**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様縫い押え　#1C（640型）、#1（630型）**

直線縫い
・ミシンの電源を入れると、実用縫い画面になり、直線縫いが縫える状態になっています。

適用：
・縫い方に合わせて適当な押え金を選びましょう。
・全ての生地タイプに適しています。

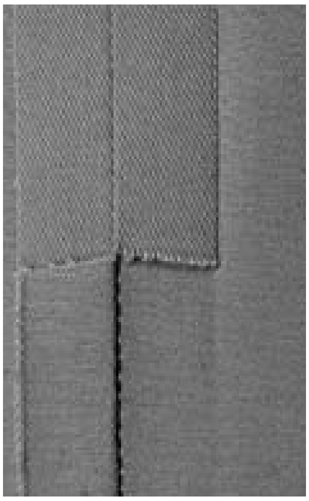
送り長さを変えてみよう
生地のタイプにより、送り長さを変えてください。
例　デニム等は3〜4mmで長めに、薄手のコットン等には、2mm程度で。

送り長さを変えてみよう
糸や布に合わせて、送り長さを変えてください。
例　トップステッチ用の太い糸では、3mmから5mm程度で。

針下停止を使いましょう
縫っている途中でミシンを止めたいときに、布地がずれて縫い目がゆがむのを防ぎます。

トリプル直線ステッチ

ステッチ： **トリプル直線ステッチ No.6**
針： **80番から90番**
糸： **ポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様縫い押え　#1C（640型）、#1（630型）**
または
ジーンズ用押え #8（オプション）



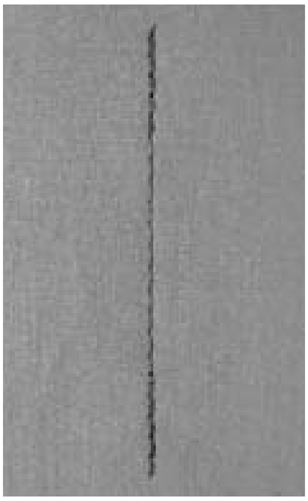
割縫い
・デニム、コーデュロイ等の堅い生地に適した丈夫な縫い目です。
・普段着に最適です。

非常に堅く目の詰まった生地
デニムやキャンバス地には、ジーンズ用針とジーンズ用押え#8をご使用ください。

飾り用トップステッチ
ステッチを長くして、デニムのトップステッチ用にも使えます。

自動返し縫い付き直線縫い

ステッチ： **自動返し縫い付き直線縫い　No.5**
針： **生地に合わせて選びます**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様縫い押え　#1C（640型）、#1（630型）**



返し縫い

・あらゆる生地に使えます。
・縫い始めと縫い終わりを自動で返し縫いします。
・返し縫いは、縫い目の上を正確にたどって縫い、布縮みしません。

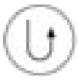
縫い始め

・ミシンが自動的に縫い始めを止め縫いします（5針前進、5針後進）。
・その後、直線縫いを続けます。

縫い終わり

・手元返し縫いボタンを押すと、ミシンが自動的に返し縫いをします（5針後進、5針前進）
・止め縫いが完了すると、ミシンは自動的に停止します。

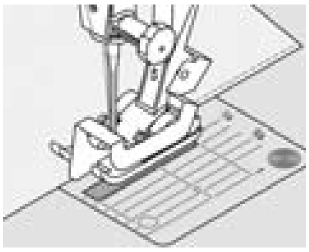
・自動止め縫い機能は、あらゆる縫い合わせに、また長い距離を縫う場合に特に便利です。
・ステッチカウント機能を使うと、均等な留め縫いができます。



縁縫い（コバステッチ）

ステッチ： **直線縫い　No.1**
針： **布にあったもの**
糸： **コットンまたはポリエステル糸、トップステッチ用の太い糸**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**
まつり縫い押え　#5　または
エッジステッチ用　#10（オプション）

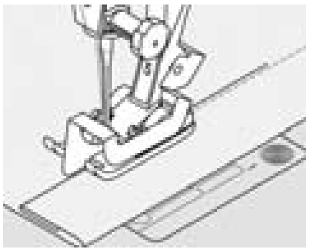
幅の狭いエッジ縫い



布端のエッジ縫い
・折り返した布端を押えの布ガイドの左側に当てて置きます。
・端から縫い目までの距離に合わせて、左基線の針基線を決めます。

針基線
・外側に縫い目が来る場合は、左基線
・内側に縫い目が来る場合は、右基線

押え
・まつり縫い押え　5番

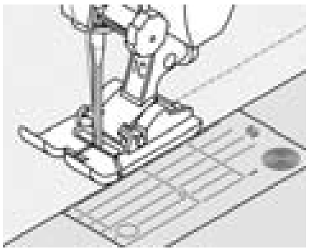


ヘム縫いの場合
・折り返した布端を押えの布ガイドの右側に当てて置きます。
・針基線を、折り返した布端の右寄りに選びます。

5番押えの場合、左側ではどの針基線でもOK、右側では布ガイド板が右側に膨れている箇所があるので、針基線を右端にして縫うことが出来ます。

10番押えの場合、左右どの針基線でも使えます。

幅の広いエッジ縫い

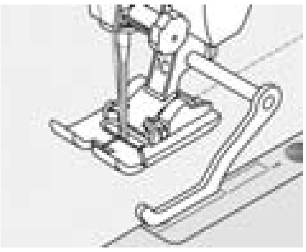


布のガイド方法
押え金をガイドとして使う
・押えの幅をガイドとして、布端に押えの左右いずれかの端を合わせます。

針板シームガイドラインを使う
・布端を針板のシームガイドラインに沿わせて縫います。

針基線
・すべての位置で可能。

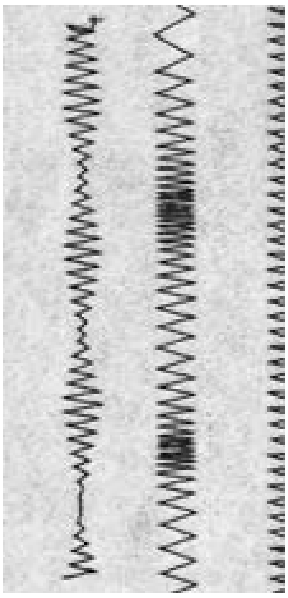
押え金
・スーパー模様縫い押え
No.1C（640型）、No.1（630型）



キルターガイドをガイドとして使う
・定規棒（シームガイド）を図の押えホルダーの穴に差し込み、
・好みの幅にして、ネジを締めます。
・定規棒に沿って、布の折り山をガイドしながら縫います。
・先に縫った線と平行にもう1本縫う場合には、定規棒が前の縫い線をなぞるように縫います。
・針基線を変えることで、布端から距離を自在にとることができます。

ジグザグ縫い

ステッチ： **ジグザグ　No.2**
針： **生地に合わせて選びます。**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**



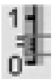
ジグザグ縫い
- あらゆる生地に適用
- 縁かがりの仕上げ
- 伸縮性のある布地に
- 飾り縫い

縁かがり
- どんなタイプの布にも適する縁かがりです。
- 布端を押えの中心に合わせます。
- ジグザグの左側で針は布の上に、右側で布の外側端ぎりぎりに落ちるようにします。
- 縁かがりをきれいに仕上げるには、振り幅や送り長さをあまり大きくしないようにします。
- 薄手の布地には、ダーニング用糸を使いましょう。

ジグザグで縁かがり
- 布端が丸く巻き込んでしまうときには、バリオーバーロックステッチと押え#2A（640型）、押え#2（630型）の押えを使いましょう。

サテンステッチの刺しゅう縫い
- 振り幅を調整して、効果的な刺しゅうをしましょう。

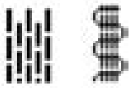
サテンステッチ
- ジグザグを密にしてステッチする方法で、アップリケ、カットワーク、刺しゅう、飾り縫い等に効果的です。



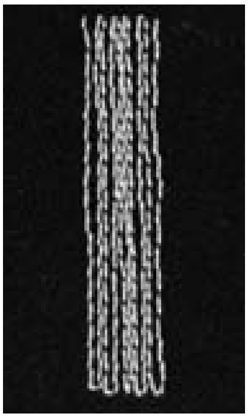
- 送り表示に、バーコードのように表示されているのが、サテンステッチの送り長さです。

ご注意
ミシンにサテンステッチ354番がプログラムされています。

自動繕い縫い



ステッチ： **自動つくろい縫い　No.22 、補強つくろい縫い　No.23**
針： **生地に合わせて選びます。**
糸： **細手のダーニング用糸**
送り歯： **上**
押え金： **自動ボタンホール押え　#3A**
またはスーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）
（No.22の自動繕い縫いのみ）

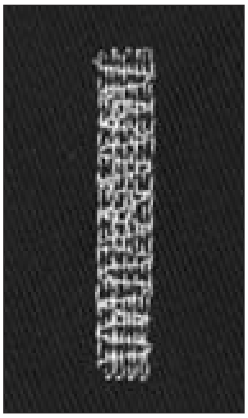


No.22のステッチを使った簡単なつくろい縫い
・縦方向の布目を補強します。

準備
・スーパー模様押え#1C（640型）、又は#1（630型）を使います。
・ステッチカウンターアイコンを、画面下のツールバーで選択します。
・必要ならば、薄手の安定紙を、つくろい縫いしたい部分の下に当てておきます。

縫い方
・最初の列を縫います。
・必要な長さを縫ったら､手元返し縫いボタンを押して、一列目の長さをプログラムします。
・ミシンが自動的に停止するまで、縫います。

ご注意
No.22のステッチは、#3Aの自動ボタンホール押えでも可能です。



No.23のステッチを使って補強つくろい縫い
・生地の縦と横の織り目に添って、傷みの激しい個所のつくろい縫いをします。

準備
・自動ボタンホール押え#3Aを使います。
・必要ならば、薄手の安定紙を、つくろい縫いしたい部分の下に当てておきます。

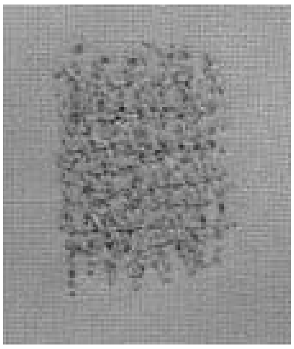
縫い方
・針をつくろう場所の左上に刺します。
・まず縦目を縫います。
・手元返し縫いボタンを押して長さを記憶します。
・縫い続けます。終われば、自動的に停止します。

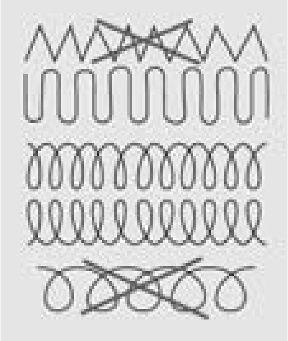
大きなほころび箇所をつくろう場合
押え金の下で生地を移動しながら、プログラムを繰り返します（長さは記憶されています）。

ダーニングがゆがんでしまう場合
102ページのバランス機能についてをご参照ください。

マニュアルで繕うには

ステッチ： **直線縫いNo.1**
針： **布に合ったもの**
糸： **細手かがり糸**
送り歯： **下**
押え金： **ダーニング押え　#9**





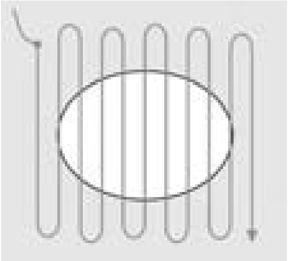
マニュアルでつくろい縫い
縦糸と横糸を足して、布地にできた穴や傷をつくろいます。生地の種類は問いません。

準備
・布縮みを防ぐために、刺しゅう枠に生地をセットします。
・ソーイングテーブルを使うと、作業がしやすくなります。

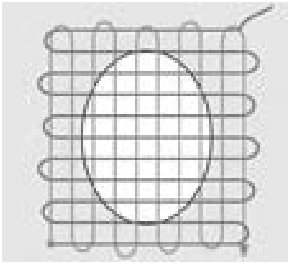
縫い方
・刺しゅう枠を、滑らかに動かします。
・左から右に縫います。その際、押え圧は0にしておきます。
・縫い終わりで方向転換するときは、滑らかなカーブを描くようにして動かします。急な方向転換は、穴が開いたり、針が折れたりする原因になります。
・長さをいろいろ変えてつくろっていくと、糸が布のなかに紛れ込んで、目立たなくなります。

縫い目が乱れる
・上糸が生地の表側でゆるむのは、針のスピードに対して、刺しゅう枠の動かし方が速すぎるからです。
・生地の裏側に糸ループができるのは、刺しゅう枠の動かし方が遅すぎます。

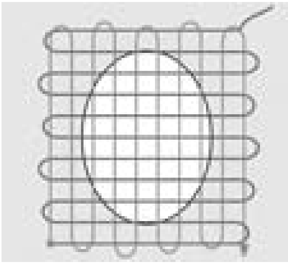
糸が切れる
・刺しゅう枠を滑らかに動かすようにしてください。



1. 穴の上にステッチをかける
・穴を覆うように最初の列を縫います。（間隔が狭すぎないようにご注意ください）
・長さを、わざとまちまちに縫うようにしてみましょう。
・生地を90度回します。



2. 最初の列をカバーする
・次に、最初の列をカバーするようにしながら縫います。あまり間隔を近づけると、仕上がりが堅くなってしますので、ご注意ください。
・生地を180度回します。



3. 仕上げ
・同じ方向にゆるく2列目を縫います。

ニットを上手に縫うための大切なポイント

新しい針
・生地をいためないよう、先のつぶれたものを使わないで、できるだけ新しい針を使いましょう。

ストレッチ針130/705H-S
・針元が繊維を避けてすべるように縫うので、生地を傷めません。

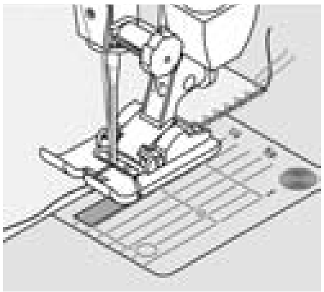
糸は、品質のよいものを使いましょう
・固い糸はニット地をいため、洗濯時の穴あきの原因になります。
・伸縮性の糸は、布をひきつらせますので、使いません。

しつけ用にしつけ糸（ダーニング糸）を使う
縫いこんでも、後で取り除くのが簡単で、便利です。

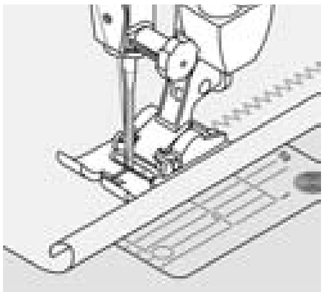
必要に応じて、試し縫いをしましょう。
・最近の生地の伸縮性は様々ですので、生地に合わせて送りと振り幅の標準設定を調節してください。
・縫い目と生地の伸縮度は、同程度のものを選びます。
・伸縮のきつい生地には、送り長さを短く、振り幅を大きくすることで対応できますが、いずれか一つの調整で十分な場合もあります。

押え圧
・柔らかい、目の粗いニット地は、しわになる可能性があります。
・その場合は、しわができない程度まで、押え圧を弱めてください。
・ただし、送り歯がきちんと生地を送らなくなるほど弱くしてはいけません。

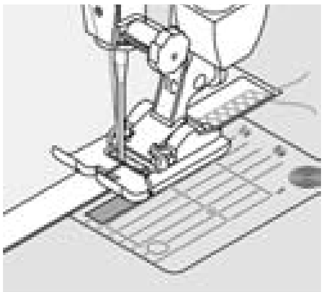
ニット地の縫い方に関する問題点



縫い目が波打ってしまう
・しつけする際、ステッチの中にもう1本、糸を仕込んでおきます。
・縫い終わったら、糸を引いて、元の形状に戻すようにします。縫い目は、アイロンで平らに押さえます。



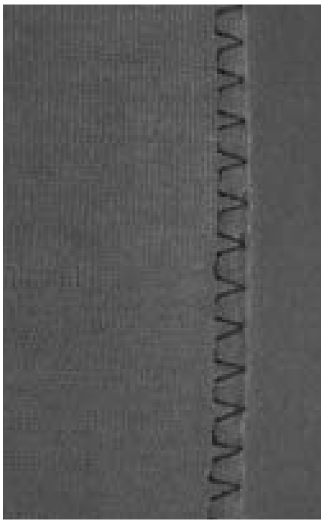
布端が丸まってしまう
・端部分ではなく、5mmほど中に入った部分を縫いましょう。
・ソーイングが完了したら、余った端部分はカットして処理します。



着古して縫い目が伸びたり、縮んだりした時
・縫い目をリボン（ショルダーリボン等）で補強しておきます。
・ある程度伸縮性のあるリボンも売っています。これを使えば、縫い目をもっとしっかりさせることができます。

バリオーバーロック縫い

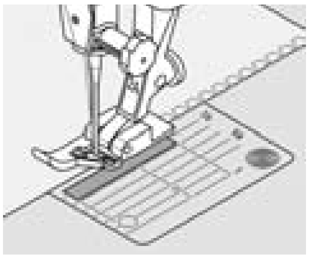
ステッチ： **バリオーバーロック　No.3**
針： **布に合ったもの**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **オーバーロック押え　#2A（640型）、#2（630型）**
または
スーパー模様縫い押え　#1C（640型）、#1（630型）



オーバーロック押えは、オーバーロック用にデザインされた押え金です。押えについたピンがより多くの糸を縫い目に取り込むので、縫い目に伸縮性を持たせることができます。

オーバーロック縫い
シルクニットやインターロック等の薄く柔らかい伸縮地に適しています。

縫い方
・裁ち目を押え下側のピンに沿わせるようにして進めます。
・布端が巻かないように縫うには、ピンを布端の外側に沿わせます。

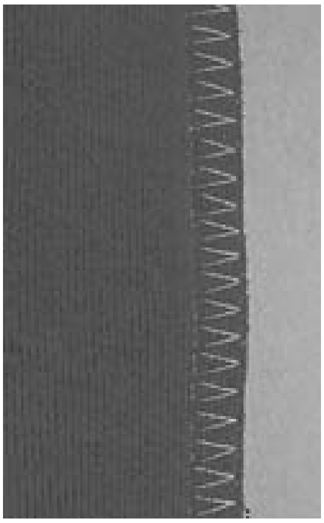


ニットおよびジャージー
・生地を傷つけないように、新しいボールポイント針を使いましょう。

伸縮性のある生地を縫うには
・必要に応じて、ストレッチ針（130/705-S）を使いましょう。針先が、繊維の間に滑り込むデザインになっています。

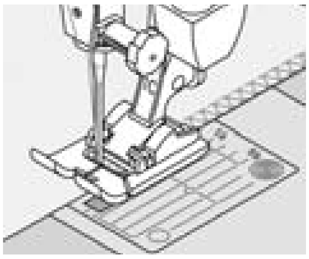
ダブルオーバーロック縫い

ステッチ： **ダブルオーバーロック　No.8**
針： **布に合ったもの**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **オーバーロック押え　#2A（640型）、#2（630型）**
または
スーパー模様縫い押え　#1C（640型）、#1（630型）

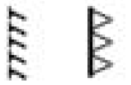


オーバーロック縫い
・目の粗いニット地やジャージーにオーバーロック縫いをします。

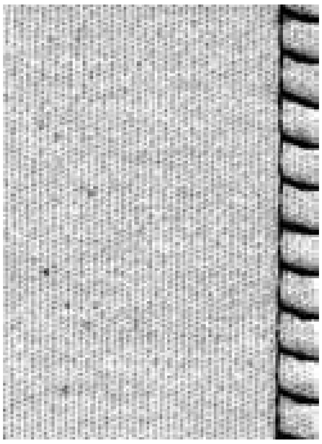
縫い方
・オーバーロック押え下側のピンの部分に裁ち目を合わせるようにして、進めます。
・布端が巻かないように縫うには、オーバーロック押えのピンを布端の外側に沿わせます



伸縮オーバーロック縫い、強化オーバーロック縫い



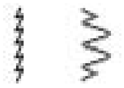
ステッチ： **伸縮オーバーロック縫い　No.13**
または強化オーバーロック縫い　No.19
針： **標準針、ボールポイント針**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**
またはオーバーロック押え　#2A（640型）、#2（630型）



オーバーロック
目の粗いニットやソフトなニット地に最適。

縫い方
・布端にストレッチオーバーロックをかける。
・布端では針が布の外側に落ちるように縫います。

スーパーストレッチ縫い



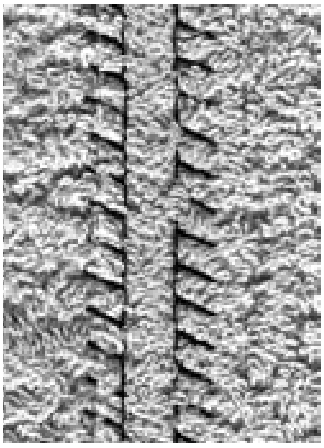
ステッチ： **スーパーストレッチ　No.11**
またはストレッチ　No.18
針： **標準針、ボールポイント針**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**

割縫い
・スポーツウェアやレジャーウェア等の伸縮地に最適な、非常に伸縮性の高い縫い目です。
・縫い代がかさばらず、フラットに仕上がります。

> 分厚い生地を縫う際には、布端から1cmのところを縫い、後から縫い代をカットするようにします。

フラットジョイント縫い

ステッチ： ストレッチオーバーロック　No13
針： 標準針、ボールポイント針、ストレッチ針
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： 上
押え金： スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）



フラットジョイント
・布端を重ねて、縫い代の上を縫います。
・かさのある生地をフラットに、しっかりと縫うことができます。
・タオル地、フェルト、レザーなどの厚地や、フリースのような弾力のあるふわふわの生地等に適しています。

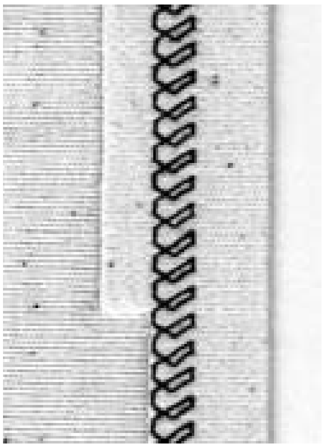
縫い方
・布端を2センチくらいフラットに重ね、互いの布端に沿って、ステッチの直線部分を平行に、ジグザグが布端を押さえるように縫います。

地と糸
ふわふわの生地では、縫い目が目立たないように、共色の糸を使います。

厚手の堅い生地を縫う場合
普通の直線縫いでは縫い目が緩みがちな厚手の生地に、最適です。

実用縫いを使った縁かがり

ステッチ： ジャージーステッチ　No.14
針： 標準針、ボールポイント針、ストレッチ針
糸： コットンまたはポリエステル糸
送り歯： 上
押え金： スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）



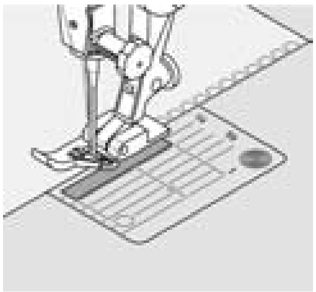
伸縮地のヘム仕上げ
・あらゆる模様のジャージー地（コットン、ウール、化織および合織）の縁織りに適しています。

準備
・縁を折り、アイロンしておきます。必要ならば、しつけピンをうちます。

縫い方
・表から見て、効果的な位置に縫います。
・ 裏に残る余分な縫い代は、後で始末します。

オーバーロックによる襟つけ

ステッチ： **バリオーバーロック　No.3**
針： **生地に合わせて選びます**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **オーバーロック押え　#2A（640型）、#2（630型）**

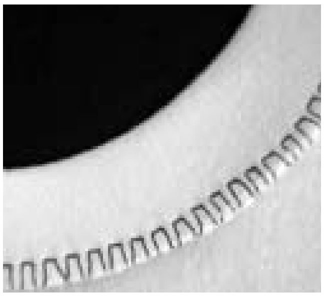


オーバーロック縫いを使った襟つけ
・薄手のジャージー地に適しています。

準備
・襟の大きさは、出来サイズの2倍プラス縫い代2倍で取っておきます。
・襟周り（リブ）を半分に折り、表側に待ち針としつけをします。

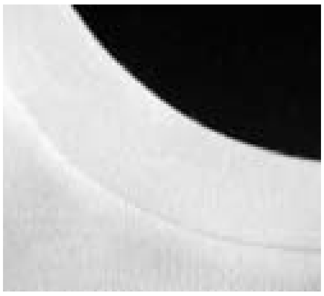
襟が波打ってしまうのを防ぐには、
襟を少し短めにカットしておいて、待ち針を打つ際に、心持ち引っ張るようにするとよいでしょう。

針下停止機能
・針下位置停止機能を使えば、襟周りを揃えたりするのに途中でミシンを止めても、針が生地に刺さったまま残るのでずれが起こらず、便利です。



表側

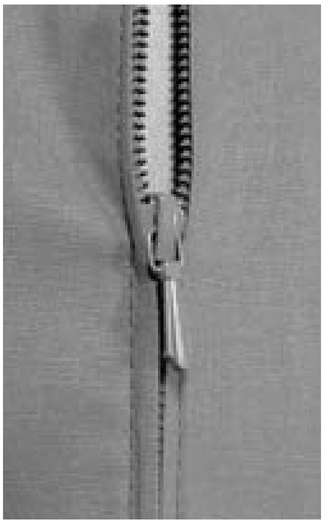
縫い方
・布端にバリオーバーロックをかけます。
・その際､布端を押えのピンに沿うようにガイドします。
・布端をフラットに仕上げるにはピンを、布端の外側に沿わせます。



裏側

ファスナー付け

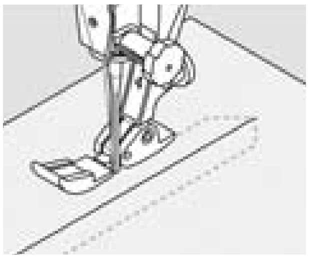
ステッチ： **直線縫い　No.1**
針： **布に合ったもの**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え金： **ファスナー用押え　#4**
または
布ガイド付きファスナー用押え　#14（オプション）
針基線： **左端または右端**



準備
・縫い代部分の布端の処理をきちんとしておきます。
・布端がファスナーの中心の上で合うように、しつけをかけておきます。

縫い方
・ファスナーを少し開いておきます。
・左上部分から縫い始めます。
・針がファスナーの金具部分に沿って落ちるような位置に、押え金を置きます。
・ファスナーのむしの手前で一時停止し（針は下位置で停止）、押え金を上げて、ファスナーを閉じます。
・そのまま一番下まで縫い、針を下位置で停止した状態で、土台布を回転させて、右下に向かって縫います。
・もう一度、土台布を回転させ、今度はファスナーの右側部分を、下から上に向けて縫います。

応用：ファスナーの両側を下から上に向かって縫う方法
・ベルベットのような毛足の長い布地に使います。
・上記の方法でファスナーを用意します。
・まず片側を、下から上に向けて縫います。
・次に、もう片側を、下から上に向けて縫います。



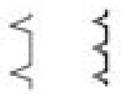
ファスナーを飾りに使う
作品の中に、ファスナーを縫いこんで飾りに使いましょう。

ファスナーのむしの部分の縫い方
・ファスナーを閉じた状態で、むしから5センチくらいのところまで縫います。
・針を下位置停止にしておいて、押え金を上げます。ファスナーを開き、むし部分を針に引っかからない位置まで引きます。押え金を下げ、縫いつづけます。

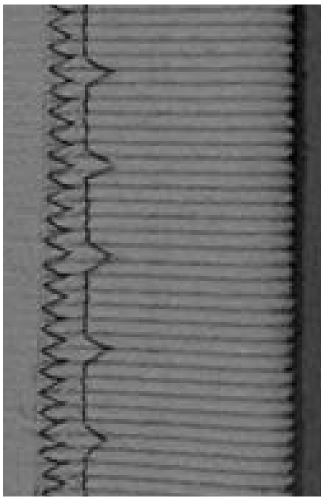
縫い始め
縫い始めは、糸を手でしっかりつかんで数針分のみ、生地をわずかに後ろに引き加減にするとよいでしょう。

針を選びましょう
ファスナーの生地は厚く固いので、均一なステッチのために、90番から100番の針を使用してください。

まつり縫い



ステッチ： **まつり縫い（幅広）No.9**
まつり縫い（幅狭）No.29
針： **生地に合わせて選びます。**
糸： **コットン、ポリエステルまたはシルク、ナイロンモノフィラメント糸**
送り歯： **上**
押え金： **まつり縫い押え　#5**


幅広のまつり縫い

幅狭のまつり縫い

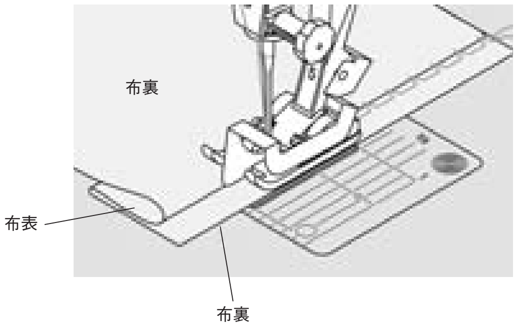
幅広まつり縫いステッチ　No.9
・中厚手の生地に、目立たない縁縫いをするのに使います。

幅狭まつり縫いステッチ　No.29
・薄手の生地に、目立たない縁縫いをするのに最適です。

準備
・布端を切り揃え、オーバーロック縫いします。
・布端の表を外にして折り、しつけ縫い、またはしつけピンを打ちます。
・そのままで、布地を中表に折り、布端を右側に出します。
・その後、図のように押え金に下に折り曲げた部分が押えのガイド板の左側にあたるように、生地を置きます。

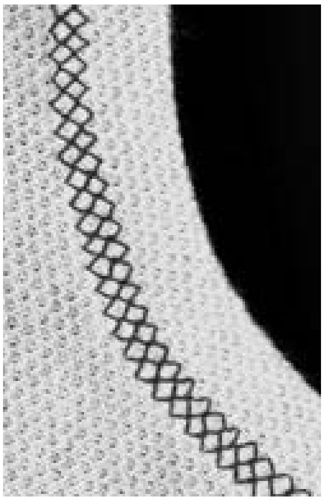
縫い方
・手縫いの場合同様、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意します。
・10cmくらい進んだら、生地の裏表をチェックして、必要であれば振り幅を調整します。

振り幅の調節
・布に試し縫いをしてみます。針が、折り目部分の端ぎりぎりに落ちるように、布に合わせて振り幅を調整します。
・折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります。



ネットステッチで仕上げる布端

ステッチ： **ネットステッチ　No.8**
針： **標準針、ボールポイント針**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り歯： **上**
送り長さ： **3.5mm－5mm**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**



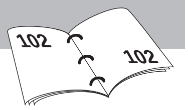
ネットステッチ
あらゆる種類のジャージー地（木綿、ウール、化繊および合織）に適しています。

準備
・布端を1cmほど、内側に折り込みます。
・必要に応じてアイロンをかけ、しつけをかけます。

縫い方
・押えを端から離して、表側から縫います。
・裏側で縫い目からはみ出た縫い代を切り取ります。

バランスで微調整を行う
ネットステッチが広がってしまう場合、送りダイヤルを回しながら、画面上の操作でステッチの形を整えます。

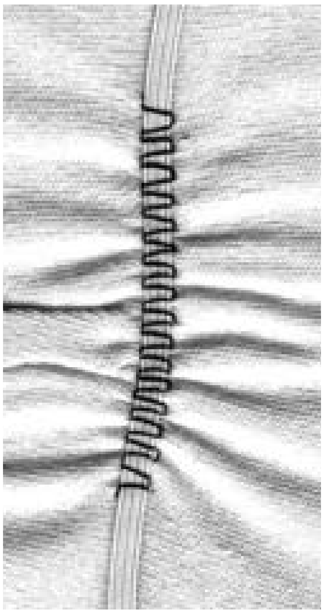
針下停止機能
・襟縫いや袖縫いの途中でミシンを停止しても、針が生地に刺さったままで残るので、ずれがおこらず便利です。



バランス機能についての詳しい説明は、102ページをご参照ください。

エラスティック（ゴムひも）付け、シャーリングおよびギャザリング

ステッチ： **ユニバーサル　No.15**
振り幅： **ゴムの幅に合わせる**
針： **生地に合わせて選びます。**
糸： **コットンまたはポリエステル**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**
または刺しゅう押え　#6（オプション）



ゴム紐の縫い付け
・広い範囲にギャザーを寄せたい場合や、薄手の生地にフリルをつけたい場合に適しています。
・袖や襟部分にギャザーを寄せるのに、最適です。

準備
・ゴム紐を適当な長さにカットしておきます。

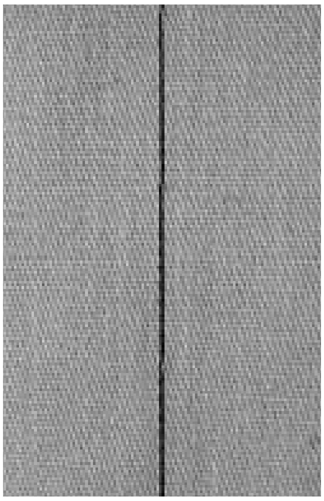
縫い方
・ゴム紐を縫いつける際、針がゴムに刺さらないように注意してください。
・縫い終わったら、ギャザーを手で調整して、均一に寄せ直します。

縫い始めと縫い終わりの始末
・ゴム紐の縫い始めと縫い終わりは、直線縫いで数針ずつ止め縫いをしてください。

ヘム仕上げを簡単にすばやく
・子供服や人形のドレスに。
・脇縫いをする前の縁かがりのときに、ゴムを一緒に縫い付けてしまうという方法があります。

しつけ縫い

ステッチ： **しつけ縫い　No.21**
針： **生地に合わせて選びます**
糸： **コットンまたはポリエステル糸、細手のダーニング糸**
送り長さ： **3.5mm－5mm**
送り歯： **上**
押え金： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**



しつけ縫い
- 直線縫いで、4針に1針を縫います。（ステッチの送り長さを5mmに設定した時、最長20mmです）
- 長いステッチの必要な場所に。
- すばやく、簡単にしつけ縫いできます。
- 取り除きが簡単です。

準備
- 布がずれないよう、しつけをかけたい方向に対して水平になるように待ち針で留めます。

縫い始めと縫い終わりの留め縫い
- しつけの縫い始めと縫い終わりを、数針縫い止めておきましょう。

しつけ糸
- 細いかがり糸を使いましょう。簡単に取り外せます。

ピーシング用ステッチ（直線縫い）

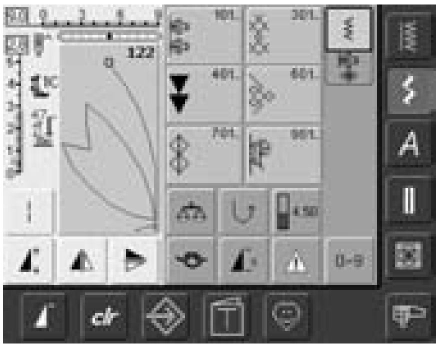
ステッチ： **直線縫い　No.1**
針： **生地に合わせて選びます**
糸： **コットンまたはポリエステル糸**
送り長さ： **1.5mm－最大2mmまで**
送り歯： **上**
押え金： **パッチワーク押え　#37（オプション）**
または、パッチワーク押え　#52（オプション）

パッチワーク押え
パッチワークには、正確さが要求されます。パッチワーク押えの足の幅は、針の刺す箇所から測って正確に6mmになるように設計されています。また、両側の足の中央にあるくぼみは、針が指す箇所を、他に2つあるくぼみはそれぞれ針の前後6mmの位置を示しています。押えの幅に合わせて縫えば、いつでも正確に同じ縫い代を取ることができ、また布の方向転換するのも簡単です。

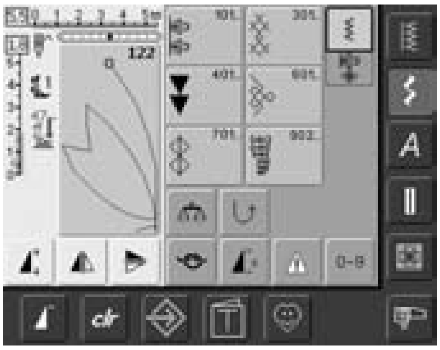
ピーシングには直線縫いを使って1.5ー2.0mmの送り長さで縫うのが理想的です。
縫い目の小さいピーシングでは返し縫いをする必要はありません。必ずソーイングテーブルを使って、広いスペースで作業しましょう。

飾りステッチ

飾りステッチ
・飾り縫いステッチグループボタンを押してください。



画面は640型

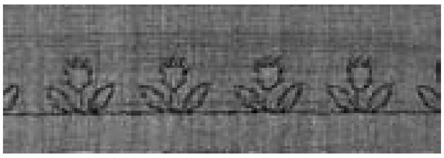


画面は630型

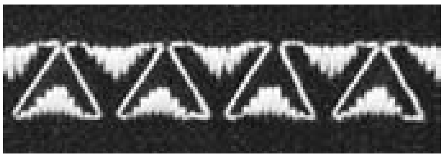
飾り縫いを選びます。
・飾り縫いグループボタンをタッチします。
・グループメニュー、101、301、401，601，701，901といったグループが表示されます。
・縫いたいグループボタンをタッチします。
・模様縫いを選びます。

飾りステッチの用途
布の種類により、シンプルな柄にするか、凝ったものにするか決めて、布に縫ってみましょう。

・薄手の布地には、シンプルなデザインのステッチを使います（飾りステッチ101番等）



・中くらいの厚さの布地には、シンプルかつ薄手のものよりは少し複雑なステッチを使うことができます。トリプルステッチや、一部にサテンステッチの入ったステッチがよいでしょう（飾りステッチ615番等）



・厚手の布地には、サテンステッチで構成されたボリュームのあるデザインも使えます（飾りステッチ401番等）

ステッチをきれに縫い上げるには
・上糸と下糸は、同色にしましょう。
・布の裏側には、安定紙をあてましょう。
・タオル、ウール、ベルベット等の毛足の長い布地を使う場合には、布表面に、水溶性安定紙をおいてからステッチしてください。

アプリケーション

ステッチ： **9mm幅飾りステッチ**
針： **生地に合った刺しゅう針**
糸： **コットンまたはポリエステル、レーヨン等の刺しゅう糸**
送り歯： **上**
押え： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**
オープン刺しゅう押え　#20C（640型）、#20（630型）
刺しゅう押え　#6（オプション）、透明ZZ押え#34C（オプション）

640型のみ

630型のみ

振り幅を変えてみる（1）

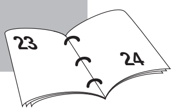
・飾り目的以外にも、例えば土台布の分厚い個所で、ステッチを調整することができます。
・幅を広くするには、外部の振り幅つまみを時計回りに回します。
・狭くするには、時計と反対回りに回します。
・基本のセッティングおよび変更後の状態は、画面に表示されます。
・元に戻すには、振り幅または送り長さバーをタッチするか、外部のつまみを回します。

送り長さを変えてみる（2）

・飾り目的以外にも、例えば土台布の分厚い個所で、ステッチを調整することができます。
・長くするには、送り長さつまみを時計回りに回します。
・短くするには、時計と反対回りに回します。
・基本のセッティングおよび変更後の状態は、画面に表示されます。
・元に戻すには、振り幅または送り長さバーをタッチするか、外部のつまみを回します。

パーソナルプログラムについては、このページをご覧ください

基本のセッティング自体の変更については、このページをご覧ください。



飾りステッチと各種機能の組み合わせ

ステッチ： **9mm飾りステッチ**
針： **布に合わせて選びます**
糸： **コットン、デコラティブ**
送り歯： **上**
押え： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**
オープン刺しゅう押え　#20C（640型）、#20（630型）
刺しゅう用押え　6番（オプション）、クリアー押え34C番（オプション）

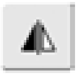
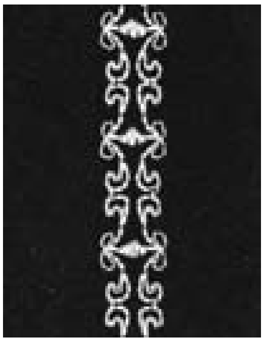
基本設定と様々な機能を組み合わせて、クリエイティブなステッチをお楽しみください。

方法

・ステッチを選びます。
・機能を選びます。
・変更後のステッチが、画面に表示されます。
・シングルステッチと、いくつかの機能を組み合わせることができます。

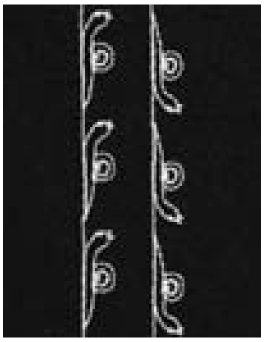
機能を削除するには

・外部のクリアーボタンを押すか、画面で各機能にタッチします。

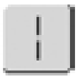
飾りステッチを反転させる

・左右の反転機能をタッチすると、ステッチは左右反転した形に変更されます。

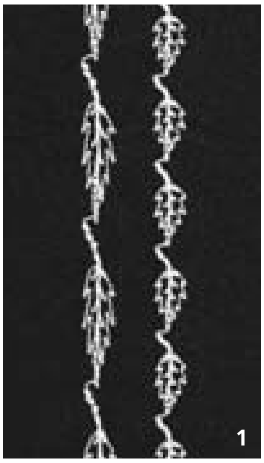


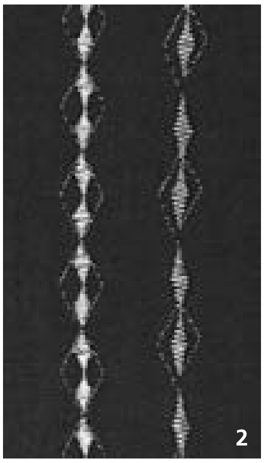
・上下の反転機能をタッチすると、ステッチは、上下に反転した形に変更されます。
・上下、左右両方の機能に同時にタッチすると、ステッチは、上下左右に反転された形に変更されます。

飾りステッチとロングステッチ機能を組み合わせる（1）

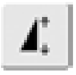


- ロングステッチ機能を押します。
- 2ステッチごとに1ステッチを縫うようになります。変更後のステッチが、画面に表示されます。



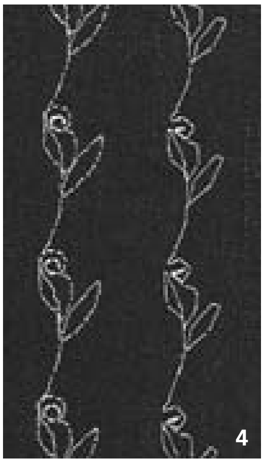


パターンの拡大機能で、飾りステッチを拡大する（2）

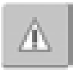


- パターンの拡大機能を一回またはそれ以上タッチします。
- 選択したステッチが、2倍から5倍の間で拡大されます。

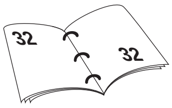
ステッチのデザインによっては、3倍以上にはできないものもありますので、ご注意ください。



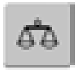
2本針、3本針、またはウィング針で縫ってみる（3）



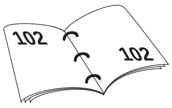
- 特殊針を使う場合には、必ずセキュリティプログラムをオンにしてください。
- セキュリティプログラムをオンにしていれば、ステッチを選択したとき、針のタイプによって、振り幅が自動的に制限されます。
- 特殊針を使う場合は、シンプルなパターンが効果的です。



バランス（4）

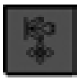


- バランス機能をうまく使えば、いろいろなバリエーションを加えることができます。

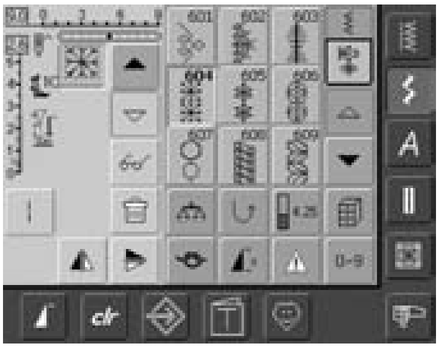


「一模様縫い」機能を加えてみましょう
- 「一模様縫い」外部ボタンを押すと、今縫っているステッチを縫い終わると、または組み合わせ模様を一回縫い終わると、ミシンが自動的に停止します。
- 一方、画面上の「一模様1ー9X」アイコンをタッチすると、模様を指定した数（1から9まで）だけを縫うと、ミシンは自動的に停止します。

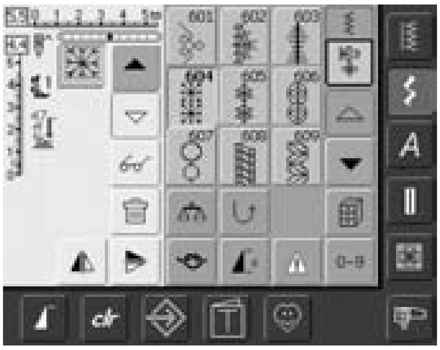
組み合わせモードを使った実用縫いと飾りステッチ



「組み合わせモード」アイコンをタッチします。
・組み合わせモードが開き、ステッチの組み合わせを作成できます。



画面は640型



画面は630型

実用縫いと飾りステッチを組み合わせる

・ステッチを選びます。
・選択したステッチは、画面に表示されます。
・もう一つのステッチを選びます。
・組み合わせが完成するまで、この作業を繰り返します。

・コンビネーションの修正方法は、90ページ、91ページをご覧下さい。
・コンビネーションの保存については、87ページ、88ページをご覧下さい。

ご注意
実用縫いおよび飾りステッチの内、ほとんどのステッチは組み合わせることで可能ですが、例外もあります。
一点止め縫いプログラムNo.324
ステッチの返し縫いNo.5
しつけ縫いNo.21
ダーニングNo.22およびNo.23
バータックNo.24およびNo.25
フライステッチNo.26
アイコンホール用ステッチ各種No.51からNo.63まで
以上のステッチは、組み合わせに使用することができません。

組合せ全体を左右に反転するには

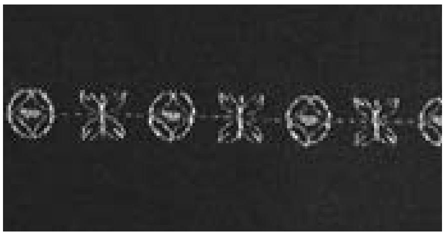
・マルチ機能アイコンをタッチします。
・左右模様反転アイコンをタッチします。
・これで組合せ全体を左右に反転することができました。

留め縫い機能を追加するには（4針留め縫いします）

自動的に返し縫いする方法が、いくつかあります。
1. 「返し縫い」をタッチしてから、縫い始めます。組合せの最初に、返し縫いが入ります。
2. ステッチの最後に「返し縫い」をタッチします。組合せの最後に、返し縫いが入ります。
ステッチ組合せのプログラムに、返し縫い機能も組み込んでしまいます。そうすれば、指定したステッチを返し縫いするようにできます。

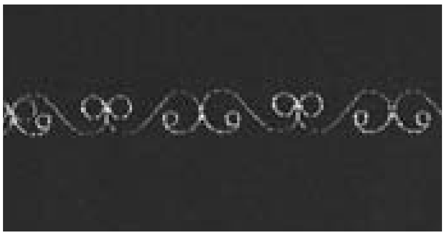
ステッチ組合せの例

・ミシン飾りステッチNo.655を一回タッチします。
・実用縫いのウィンドウを開き、直線縫いNo.1を一回、タッチします。
・飾りステッチのウィンドウを開き、ミシン飾りステッチNo.606を一回タッチします。
・実用縫いのウィンドウを開き、直線縫いNo.1を一回、タッチします。
・このパターンが、繰り返し縫えるようになります。



ステッチと各種機能の組合せの例

・No.656のステッチを一回、タッチします。
・No.656のステッチをもう一回タッチしてから、上下方向への反転のアイコンをタッチして、二番目に選んだステッチを反転させます。
・これで組合せが出来上がりました。
・標準のステッチと反転されたステッチが繰り返し縫えます。



レタリングを上手に縫うポイント

レタリング—文字、数字、特殊文字

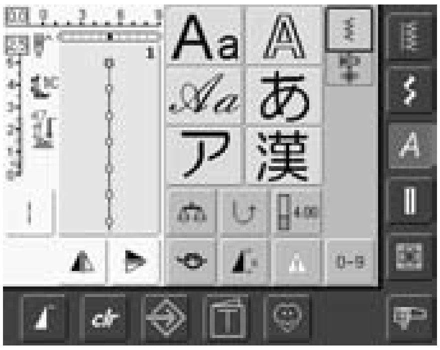
・3種類の字体があります。
・2種類のサイズで縫うことが可能です。
・ブロック体とイタリック体は小文字でも縫えます。

使い方

・名前、モノグラム、住所の刺しゅう用に
・単語または文章の刺しゅう用に
・キルト作品などのラベル作りに

文字

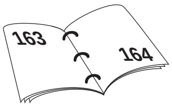
・レタリング選択ボタンを押します。

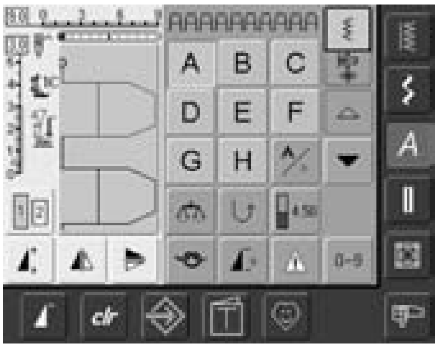


画面は640型

文字の選択

・文字ボタンを押します。
・文字メニューが画面に表示されます。
・ブロック体
・ダブルブロック体（中抜き文字）
・イタリック体
・ひらがな
・カタカナ
・漢字（640型のみ）
・各文字をタッチすると、選んだ文字が左画面に表示されます。





画面は640型

スクリーン上での文字の選び方

・大文字、数字、句読点および特殊文字は、画面をスクロールすれば見られます。
・画面上で、「A/a」アイコンをタッチすれば、サイズを縮小して縫えます。

ステッチを完璧に仕上げるには

・上糸、下糸を同色にします。
・作品の裏側に安定紙を置いて補強します。
・タオル地や毛足の長い布（ウール、ベルベット等）の場合は、刺しゅうするサイズに合わせた水溶性安定紙を上下にあてて布をはさみこみます。
・薄手の布地には、単純な形の文字（ダブルブロック体等）を、直線縫いでプログラムし、厚手の布地には、モノグラム等のサテンステッチを使ったレタリングを適用すると、効果的です。

レタリング（文字）の組合せ

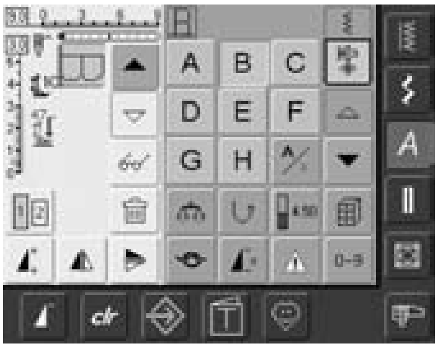
ステッチ： **レタリング（文字）**
針： **布に合ったもの**
糸： **コットン、刺しゅう糸**
送り歯： **上**
押え： **スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）**

レタリング

・一つ一つの文字、および同じ字体の同じ文字を連続する場合には、シングルモード、
・名前、住所、言葉等を刺しゅうするには、組合せモードを使います。

返し縫い機能（小さく4ステッチ）をプラスするには

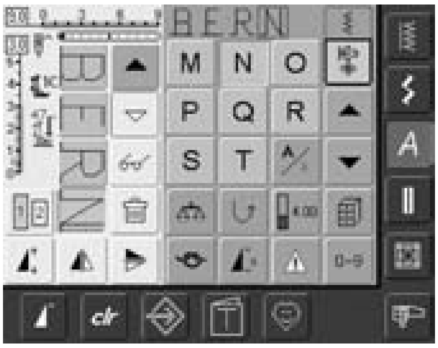
自動返し縫いには、いくつか方法があります。
1. 縫い始めに返し縫いをするには、先に機能ボタンをタッチしておきます。
2. 終わりに返し縫いをするには、ステッチを終わってから、機能ボタンをタッチします。
3. 縫い始め、縫い終わりのそれぞれに返し縫いをするには、組合せの中に機能をプログラムしておきます。



画面は640型

文字を組み合わせるには

・組合せモードを開き、必要な文字を選びます。
・文字は、ステッチ操作エリアの、文字メニュー上のバー部分に表示されます。
・カーソルは、文字の下に表示されます。



画面は640型

続けて、

・次の文字を選んで、ボタンをタッチします。
・2番目の文字が、ステッチ操作エリアに表示されます。

組合せを訂正するには

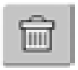
画面は640型

文字を挿入する

・カーソルで指定した個所に、文字を追加できます。
・レタリングの始めに文字を追加するには、カーソルを上にスクロールします。
・ステッチ操作エリアの文字を選んで、必要な個所を指定するか、そこまでスクロールしていきます。
・新しい文字を選びます。
・これで、新しい文字がカーソルの上に挿入されました。

文字を削除する

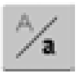
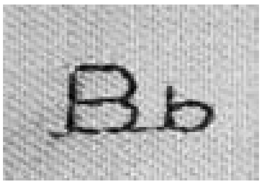
・カーソルで指定している文字を削除できます。
・ステッチ操作エリアの文字を選んで、必要な個所を指定するか、そこまでスクロールしていきます。
・「ごみ箱」アイコンをタッチします。
・これで文字を削除できました。



・コンビネーションの保存および削除については、87ページから91ページをご覧下さい。

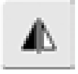
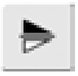
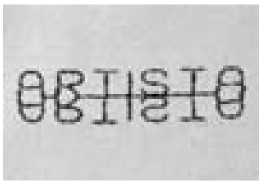
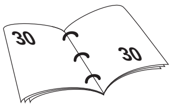
レタリング（文字）の組合せと機能

小文字を選択する

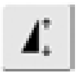
・レタリングのプログラムをする前に、機能を選んでおきます。
・大文字小文字ボタンをタッチします。
・小文字が黒く表示され、選択されたことを示します。
・もう一度、大文字小文字ボタンをタッチすると、大文字が黒く表示されます。
・大文字モードに戻りました。

レタリングを反転する

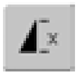
・「左右の反転」をタッチすると、ステッチは左右に反転されます。
・特殊効果を狙う場合には、「上下の反転」を選んでもよいでしょう。

拡大機能を使って、レタリングを引き伸ばす



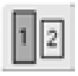
・模様拡大機能アイコンを一回タッチします。
・選んだ模様や文字などが2倍に拡大されます。

繰り返しによるパターン組合せ



・パターンの組合せを作成します。
・「一模様縫い」ボタンを、一回から9回までの間でタッチします（1から9までの数字が表示されます）。
・ミシンは、指定の回数だけパターンを縫って、自動的に停止します。

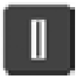
サイズ変更



・レタリングのプログラムをする前に、機能を選んでおきます。
・文字のサイズボタンをタッチすると、2番のフィールドが青く表示されます。
・文字サイズは、約6mmに縮小されました。
・文字サイズをもう一度タッチすると、大きなサイズに戻り、1番のフィールドが青く表示されます。

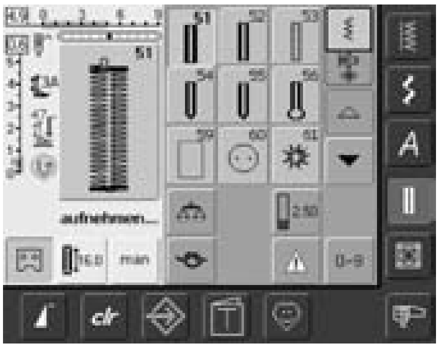
ボタンホールについて

ボタンホールは装飾的な効果にも使うことができる実用的なステッチです。アーティスタ640では、
幅広い選択肢をご用意いたしました。
すべてのボタンホールは、さまざまな方法でプログラムして縫うことも可能です。

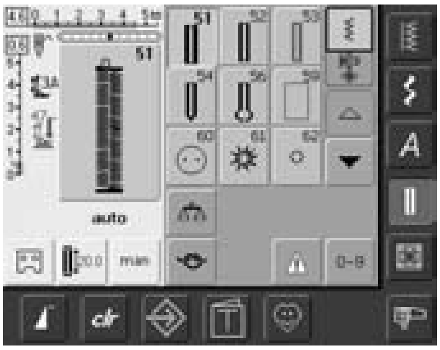


ボタンホール／ボタン付けプログラム／アイレット

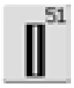
・ボタンホール用の外部ボタンを押します。
・画面にはボタンホールとアイレットの全種類の概観が表示されます。
・縫いたいボタンホールをタッチします。
・選んだボタンホール、アイレットまたはボタン付けプログラムが起動します。



画面は640型

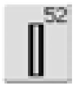


画面は630型



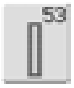
標準ボタンホール

薄手から厚手の生地。ブラウス、シャツ、ズボン、ドレス、寝具等に。



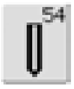
標準ボタンホール（幅小）

薄手から中くらいの厚さの生地。ブラウス、シャツ、幼児服等に。



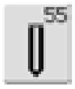
ストレッチボタンホール

木綿、化繊、シルクウールのあらゆる伸縮性ある生地。



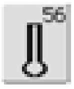
ラウンドエンドボタンホール（標準バータック）

中、厚地に最適、洋服、ジャケット、コート、レインコート等に。



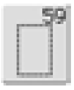
ラウンドエンドボタンホール（水平バータック）（640型のみ）

中、厚地に最適、洋服、ジャケット、コート、レインコート等に。



標準鳩目ボタンホール

厚地、伸縮性のない生地。
ジャケット、コート、ズボン、レジャーウェア等に。

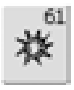


直線縫いボタンホール

ボタンホールの準備縫いに、ポケットの開口部に、レザーやウルトラスエード等に。

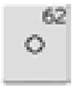
ボタン付け

二つ穴、または四つ穴のボタン付けに。



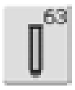
ジグザグ・アイレット

紐穴や、リボンやバンド穴、飾り縫いに。



直線縫いアイレット（640型のみ）

鳩目穴、細ひもやリボンの挿入口に。



ハンドルックボタンホール

薄地から中厚地の生地に。ブラウス、ドレス、レジャー用服、ベッドサプライに。

ボタンホール機能

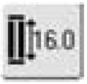
いづれのボタンホール（No.51ー56、59、63）を選んでも次に説明しますボタンホール機能が、画面下に表示されます。

手動でボタンホールを縫う

・シンボルをタッチすると、特殊画面が開きます。
・手動ボタンホールを4ステップ、または6ステップで縫います（どちらにするかは、ボタンホールのタイプによってちがいます)。

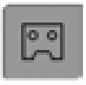
使い方

・手動で一つ一つボタンホールを縫う場合
・ボタンホールの修理をした場合



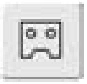
ボタンホール（BH）・サイズ入力ボタン

・ボタンホールを選択している場合、シンボルは自動的に青くハイライトされています。
・手元返し縫いボタンで、ボタンホールの長さを直接決定します。
・プログラムが完了すると、ハイライトは消えて、シンボルの表示は黄色くなります。
・新しい長さをプログラムする場合には、シンボルをもう一度選択してください。



ボタンホールの長さをプログラムする

・ボタンホールを選択している場合、シンボルは自動的に青くハイライトされています。
・手元返し縫いボタンで、ボタンホールの長さを直接決定します。又は表示されているサイズでよければ、このボタンをタッチするだけでサイズが決まります。



・プログラムが完了すると、ハイライトは消えて、シンボルの表示は黄色くなります。
・新しい長さをプログラムする場合には、シンボルをもう1度選択してください。

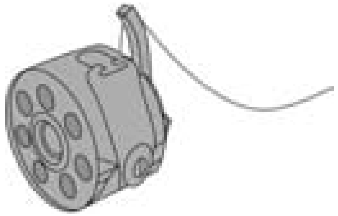
ボタンホールに関する重要事項

640型の糸調子について

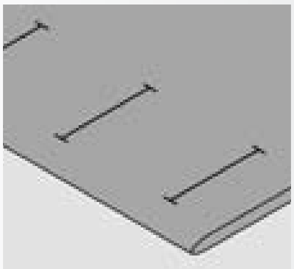
・ボタンホールを選択すると、糸調子は自動的に最適の状態にセットされます。
・上糸は、少しゆるく自動調節されます。
・この糸調子で縫うと、表側で丸みを帯びた形に縫いあがり、非常にきれいに仕上がります。
・ボタンホールの両側を、均等なスピードで縫うようにします。

630型の糸調子について

・下糸は、ボビンケースの角に通しておきます。

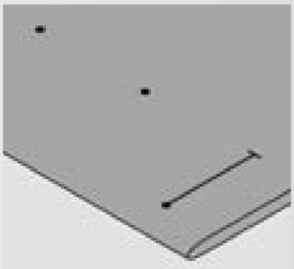


ボタンホールの印をつける



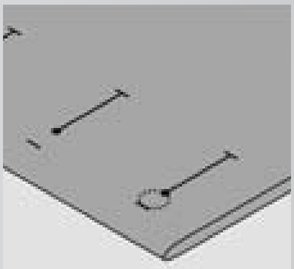
マニュアル（手動）で縫う場合

・必要な場所に、ボタンホールの長さ分の印をつけます。
・ボタンホール押え3番（オプション）を使います。



自動ボタンホールの場合

・ボタンホールの長さ分の印を、1ヶ所だけつけます。
・最初のボタンホールを縫えば、そのデータがプログラムされ、残りは自動的に同じように縫うことができます。
・残りは、ボタンホールの縫い始めの1点のみ印付けして下さい。
・自動ボタンホール押え3A番を使います。



鳩目ボタンホールの場合

・鳩目部分以外のボタンホールの長さのみを印付けします。
・ミシンが、自動的に最適サイズの鳩目を加えて縫います。

試し縫い

・必ず、使おうとするのと同じ布、同じ安定紙を使って縫って下さい。
・実際に縫いたいのと同じボタンホールを縫うようにして下さい。
・ボタンホールを縫う方向も、同じにして下さい。（布の織り目に対して、順目か逆目かを確認しましょう。）
・ボタンホールを開きます。
・ボタンを通してみます。
・必要な場合には、長さを調節します。

640型のみ

630型のみ

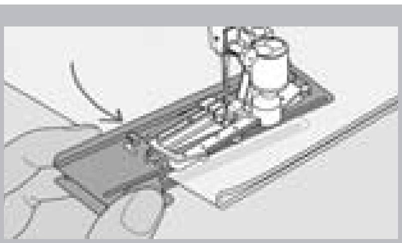
調節

ピッチ幅を調節したい場合

・振り幅で行います。

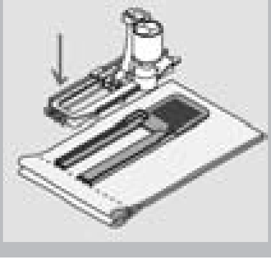
送り長さを調節したい場合

・送り長さの調節を行うと、左右両方に適用されます。（縫い目を密に、または粗くします。）
・送り長さの調節をした後は、必ずボタンホールをプログラムし直すようにして下さい。



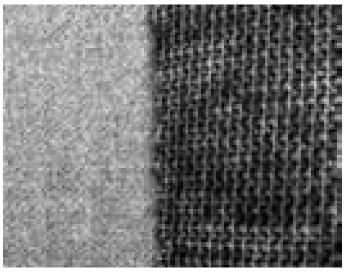
扱いの難しいボタンホールを縫う場合にも、高さ調整板がお勧めです。

高さ調整板を使うことのできる押えは、自動ボタンホール押え3A番のみです。

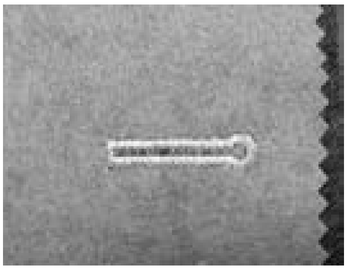


ボタンホールを縫い目に対して直角に縫う場合には、高さ調整板（オプション）のご使用をお勧めします。
調整板は、布と布ガイド付き押えの間に後ろ側から差し込んで、布の厚みのある部分に達するまで押し込むようにします

ボタンホール用の安定紙について

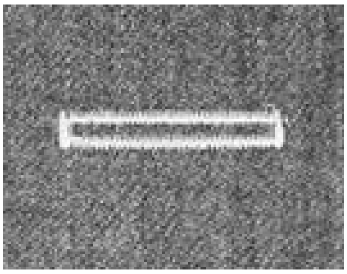

1

・必ず芯地を使いましょう。(1) 仕上がりがきれいになります。
・芯地は、布のタイプに合ったものを選びます。

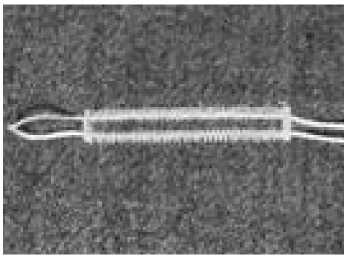

2

・分厚く、毛羽立ったタイプの布には、布の下側に刺しゅう用の安定紙を使い、表側にハイセロンなどの水溶性安定紙を使います。(2) 布の送りが、スムーズになり、美しく仕上がります。

芯入りのボタンホール

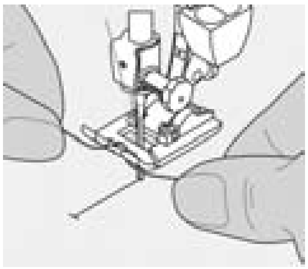


芯糸
・芯糸はボタンホールを補強し、きれいに仕上げます。
・芯糸の輪の部分が、もっとも力のかかるボタンホールの端に来るように考えて、押えの位置を決めます。
・芯糸は、標準ボタンホールおよび伸縮ボタンホールおよび伸縮ボタンホールに使うと、非常に効果的です。



芯糸用には
・パールヤーンの8番
・太く丈夫な手縫い糸
・細いかぎ針編みの毛糸

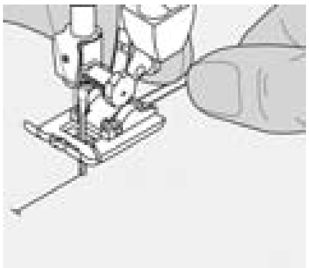
ボタンホール押え#3C（640型）、
#3（630型）の突起部分に芯糸をかける



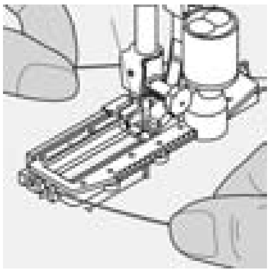
・ボタンホールの縫い始めに針を刺します。
・押えを上げます。
・押えの前方中心にある突起に芯糸をひっかけます。

・芯糸の端は2本そろえて、押えの下の2本の溝を通して後方に引きます。
・押え金を下げます。

縫い方

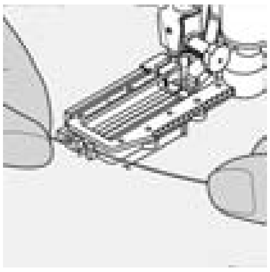


・ボタンホールを縫い始めます。芯糸は、強く引っ張らないようにご注意ください。
・芯糸を包むようにボタンホールが縫われ、芯糸は見えなくなります。

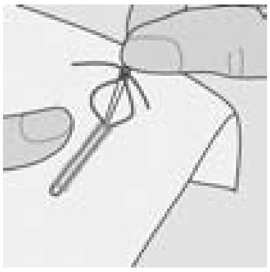


布ガイド付き自動ボタンホール押え
#3Aを使った芯糸のかけ方

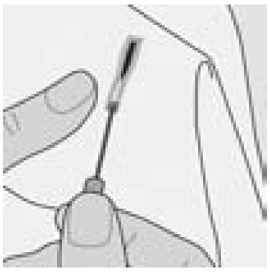
・ボタンホールの縫い始めに針を刺します。
・押え金を上げます。
・芯糸を両手に持って、押えの後ろにある突起に上からかぶせるように、芯糸を引っ掛けます。
・両方の芯糸を押えの下を通して、手前に持ってきます。



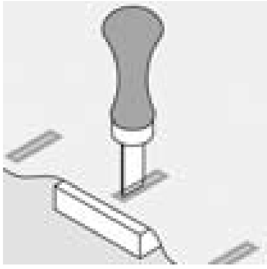
・芯糸の両端を両手で持って、押えの前に持ってきます。
・両方の芯糸を、左右の芯糸止めに、それぞれ引き込みます。



縫い方
・ボタンホールを縫い始めます。
・ソーイング中は、芯糸を持たないようにご注意ください。
・芯糸を包み込むようにボタンホールが縫われます。

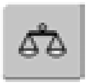


芯糸の始末
・芯糸のループが隠れるまで、両方の芯糸の端をボタンホールに沿って引きます。
・手縫いの針を使って、芯糸を布地の裏側へ通し、結びます。



ボタンホールを開ける
・リッパー、またはボタンホールカッターを使って、両端から中心に向って切りこみます。
・短いボタンホールの場合、端部分を誤ってカットしてしまわないように、待ち針を打っておきましょう。

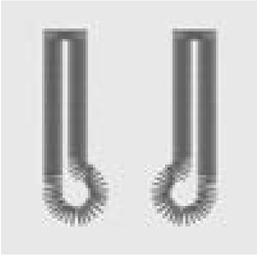
ボタンホールのバランスについて



標準ボタンホールの長さを
直接入力する場合のバランス

・バランスの調整をすると、左右両方の縫い目に影響します。

ご注意
長さを直接入力して、マニュアルでボタンホールを縫う場合には、ボタンホール一つ一つにバランス調整をすることが可能です。

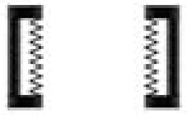


A　　B

長さを直接入力した丸型とキーホール（鳩目）ボタンホールのバランス

・バランスの調整をすると、左右両方の縫い目に影響します。
・丸型およびキーホールのバランスは、以下のような手順で調整します。
（1）キーホールまたは丸型部分に来るまで、直線縫いをし、ミシンを止めます。
（2）「バランスアイコン」をタッチして、バランス画面の右側に表示された図を、送り長さの調節つまみを回して、好きなように調整します。

・キーホールが右に向かってゆがんでしまった場合（A）には、送り長さ調節つまみを反時計回りに回します。
・左に向かってゆがんだ場合（B）には、送り長さ調節つまみを時計回りに回します。
（3）「ＯＫ」をタッチして、ボタンホールを完成させます。



A　　B

ステッチカウント方式ボタンホールのバランス

・バランスの調整は、左右の縫い目それぞれに、違うように作用します。左側の穴かがりが密すぎる場合（写真A）：送り調節つまみを反時計方向に回します。左側が長く、右側が短くなってバランスします。
・左釜の穴かがりが粗すぎる場合（写真B）：送り調節つまみを時計方向に回します。左側が短く、右側が長くなってバランスします。

・バランスの調整後は、ボタンホールのプログラムをやり直してください。

マニュアルのキーホールまたは
丸型ボタンホールのバランス

・バランスの調整は、左右の縫い目にそれぞれに、違うように作用します。
・キーホールまたは丸型部分は、以下のように調整します。

・キーホールが左側にゆがんでしまった場合には（B)、送り長さ調節つまみを時計と反対回りに回します。
・キーホールが右側にゆがんでしまった場合には（A)、送り長さ調節つまみを時計回りに回します。

マニュアル（手動）の
標準ボタンホールのバランス

・バランスの調整をすると、左右両方の縫い目に影響します。

お勧め

・実際の布地に試し縫いをしてみましょう。

バランスをクリアーするには

・バランスの特殊画面で《リセット》をタッチするか、外部の《clr》ボタンを押します。ただし、《clr》は、プログラムしたボタンホール自体を消去してしまうので、ご注意下さい。

自動ボタンホール

長さをダイレクトに入力、又はボタンサイズを計って入力する

ステッチの送り長さ、または振り幅の調節つまみを使って、ボタンホールの長さ（ホールの開き・単位mm）を直接入力します。
4mmから最大値までのサイズのボタンホールすべてに適しています。

ボタンホールの長さまたはボタンのサイズを入力します。
- ボタンホールは、自動ボタンホール用押え金#3Aで、一定の長さに縫うことができます。
- ボタンホールのタイプを選択します。
- ダイレクトエントリー機能アイコンをタッチします。

ボタンホールの長さを決める
- 特殊画面が表示されます。
- ボタンホールの長さを振り幅または送り長さの調節つまみで入力します。
- プログラムされた長さは、2本の矢印の間に表示されます。
- ボタンホールの長さは、2本の矢印に挟まれて、ボタンの下に表示されます。
- ボタンの上にある数字は、ボタンホールの長さに適したボタンのサイズです。
- 希望の長さを「OK」で確認すると、画面は自動的に転換します。
- 「auto」の文字と、プログラムされた長さがmm単位で表示されます。
- ボタンホールの長さとは、ボタンホールの穴の長さをいいます（mm単位）。

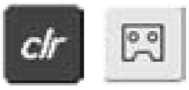
ボタンホールサイズの決め方
- 特殊スクリーンが表示されます。
- ボタンホールをスクリーンの左側に合わせて持ちます。
- 送り長さまたは振り幅の外部操作ダイヤルを使って、黒い縦線を、正確にボタンの右側に当てます。
- ボタンのサイズは、2本の矢印に挟まれて、ボタンの上にmm単位で表示されます。（14mm等）
- ボタンをスクリーンから離します。
- 計測したサイズを《OK》で確定すると、スクリーンは自動的に変わります。

ボタンホールサイズ
- ミシンはボタンの直径を計測してサイズを決定します。
- ボタンホールサイズはボタンの厚みを含めて直径に2mmを足したサイズになります。

特に厚みのあるボタンを使う場合
- 厚みや高さのあるボタン（球形ボタン等）を使う場合には、そのサイズに合わせて、ボタンホールの長さを1mmから4mm長めに設定しておきます。

訂正
- 上記の方法で、新しい値を入力します。

ボタンホールメニューに戻る
- ESCをタッチすると、ボタンホール画面に戻ります。



保存してあるボタンホールを削除するには
- 外にあるclrボタンを押すか、recording記録をタッチします。
- autoが消えて、recording記録が表示されます。
- 新しいボタンホールの長さがプログラムできます。

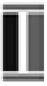
自動ボタンホールー手元返し縫いボタンを使った縫い方

自動ボタンホール

・ボタンホール押え#3Aについたセンサーで、ボタンホールの長さを自動的に読み取ります。
・4mmから最長の長さまで、振り幅または送り長さの調節つまみを使ってセットできます。

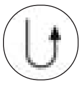
ご注意
左右両方の穴かがりを、同じ方向に縫います。ボタンホールの長さとは、カットした穴の長さを指します。

標準とストレッチボタンホールNo.51，52，53



最初の穴かがりを縫う

・縫う順番がステッチ変更エリアに表示されます。
・最初の穴かがりを前進で縫い、止めます。



ボタンホールをプログラムする

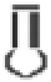
・手元返し縫いボタンを押して続けて縫います。
・「auto」と長さ（mm単位）が表示され、ボタンホールの長さがプログラムされました。

自動ボタンホール

ミシンは次のステップで自動縫いします。
・直線縫いを返し縫いで
・最初の環止め部分
・2つ目の穴かがり
・2番目の環止め部分
・留め縫いが終わると、ミシンは自動的に停止し、次のボタンホールを縫い始められる状態になります。

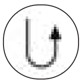
それ以降に縫うボタンホールは、自動的に同じ長さに縫われます（手元返し縫いボタンを押す必要はありません）。

丸型、キーホール型自動ボタンホール　No.54，55（640型のみ），56

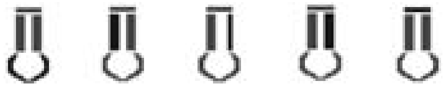


直線縫い
・縫う順番がステッチ変更エリアに表示されます。
・直線縫いで前進し､必要な長さで停止します。

キーホール型ボタンホールの2度縫い
・厚地などにしっかりしたキーホール・ボタンホールを縫うには2度縫いをします。
・1回目が終わっても、そのままでフットコントローラーを踏み込んで、2回目を縫います。



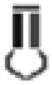
ボタンホールをプログラムする
・手元返し縫いボタンを押し､続けて縫います。
・「auto」と長さ（mm単位）が表示され、ボタンホールの長さがプログラムされました。



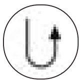
自動ボタンホール
ミシンで自動的に縫うことのできるものは、以下のとおりです。
・ボタンホールの丸、あるいは鳩目部分
・最初の環止め部分を返し縫いで
・直線縫いを前進で
・2つ目の穴かがりを返し縫いで
・2番目の環止め部分
・返し縫いが終わると、ミシンは自動的に停止し、次のボタンホールを縫い始められる状態になります。
それ以降に縫うボタンホールは、自動的に同じ長さに縫われます（手元返し縫いボタンを押す必要はありません）。

重要：途中で失敗したときには
・模様頭出し機能アイコンをタッチします。
・ボタンホールの最初から縫いだします。

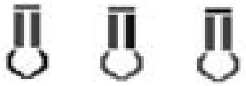
手縫い風ボタンホール　No.63



最初の穴かがりの長さ
・必要な長さまで縫ったら、
・ミシンを止めます。

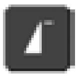


ボタンホールをプログラムする
・手元返し縫いボタンを押し､続けて縫います。
・「auto」と長さ（mm単位）が表示され、ボタンホールの長さがプログラムされました。

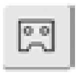


自動ボタンホール
ミシンは次のステップを続けて縫っていきます。
・丸型または鳩目の部分
・2つ目の穴かがりを返し縫いで
・上の環止め部分およびその止め縫い。終了すると、自動的に停止します。
・返し縫いが終わると、ミシンは自動的に停止し、次のボタンホールを縫い始められる状態になります。

それ以降に縫うボタンホールは、自動的に同じ長さに縫われます（手元返し縫いボタンを押す必要はありません）。



重要・やり直したい場合
・《模様頭出し》機能をタッチします。
・ミシンは、ボタンホールの縫い始めの状態に戻ります。



保存してあるボタンホール・サイズを削除するには
・外部の《clr》ボタンを押すか、recording記録をタッチします。
・autoが消えて、recordingが表示されます。
・これで、新しいボタンホールの長さをプログラムすることができます。

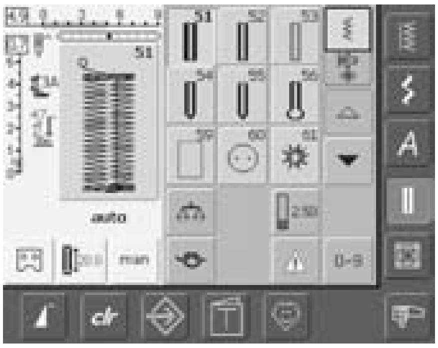
ボタンホールをきれいに縫うには
・常に芯地や安定紙を使いましょう。
・コードを使って縫うと立体的に仕上がり見栄えします。
・常に中速程度の一定のスピードで縫うことで、ステッチの密度をきれいに揃えることができます。

ボタンホール・サイズを長期保存するには

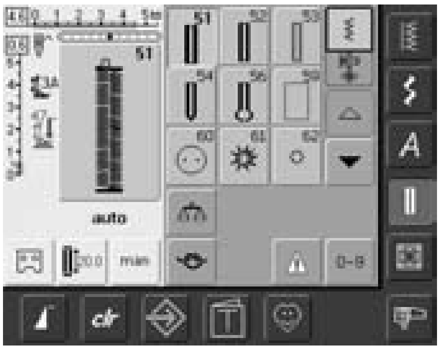
《auto》で縫ったボタンホールに限り、そのサイズを長期間保存することができます。

ボタンホールを保存する

・ステッチ変更エリア（画面左側）に表示されたボタンホールをタッチします。
・追加のメッセージが表示されます。
・《設定を保存する》ボタンにタッチすると、ボタンホール・サイズは長期保存されます。



画面は640型



画面は630型

保存してあるボタンホールを呼び出す

・ボタンホールのタイプを選択します。
・オン画面のBHサイズ入力機能ボタンに、ボタンホールの長さが表示されます。
・BHサイズ入力機能をタッチして、「OK」で画面に表示された保存してある長さを確定します。
・《auto》と、長さがmm単位で画面に表示されます。

保存してあるボタンホールを変更する

・ボタンホールのタイプを選択します。
・BHサイズ入力機能をタッチします。
・画面上で保存されているボタンホールの長さを変更し、OKで確定します。
・上記の方法で、新しいボタンホールを保存します。
・新しいボタンホールをプログラムした場合、前のデータは上書きされて、消失します。

保存してあるボタンホールを削除する

・ボタンホールのタイプを選択します。
・BHサイズ入力機能をタッチして、新しい長さをプログラムするか、ステッチ変更エリアに表示されたボタンホールをタッチします。
・特殊画面が表示されます。
・《Reset》をタッチすると、保存されたボタンホールのデータは削除されます。
・新しいボタンホールの長さをプログラムできます。

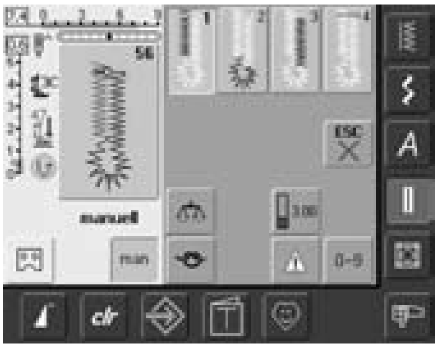
4ステップ、または6ステップ・マニュアル・ボタンホール

ステッチ： **ボタンホールステッチすべて**
針： **布に適したもの**
糸： **コットン、ポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え： **ボタンホール押え　#3C（640型）、#3（630型）**
または自動ボタンホール押え　#3A

ご注意

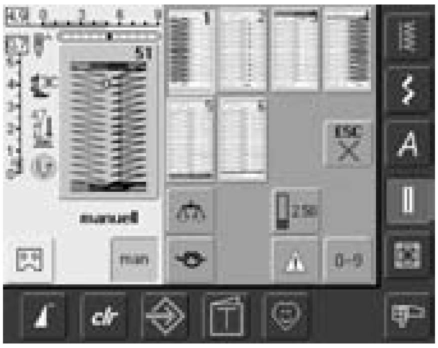
マニュアル・ボタンホールはひとつだけ特殊なサイズを縫ったりする時に便利です。又傷んだボタンホールの補修にも欠かせません。
マニュアル・ボタンホールは1つだけ縫う時やボタンホールの修繕に便利です。
選んだボタンホールのタイプによりステップの数が決まります。
- 標準ボタンホールは、6段階の作業で完成となります。丸型、キーホール型および手縫い風ボタンホールは、4段階で完成です。
- マニュアル・ボタンホールはメモリーに記憶させることは出来ません。

ボタンホールの画面を選びます。
- ボタンホールタイプを選択します。
- 画面下の《man》アイコンをタッチします。



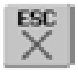
画面は640型

4ステップボタンホールを縫う
《1》にタッチ
- 適当な長さまで左側の穴かがりを縫います。
- ミシンを止めます。
- 《2》にタッチ
- ミシンは円形の環止めあるいは、はと目を縫います。
- 《3》にタッチ
- 後進で右側の穴かがりを縫います。
- 縫い始めの位置で止めます。
- 《4》にタッチ
- 上部の環止めを縫い、自動的に返し縫いします。
- 各ステップの針数はご自分で自在に決められます。
- 環止め、はと目部分および返し縫いは、プログラムされます。
- 手元返し縫いスイッチを押して、各段階を呼び出すことも可能です。



画面は640型

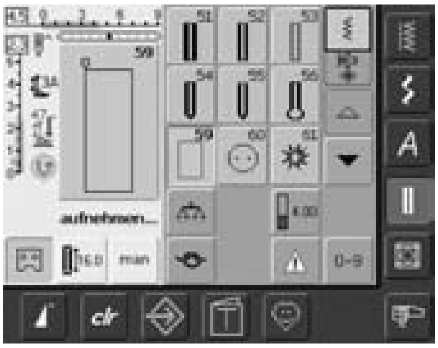
6ステップのボタンホールを縫う
- 画面の《1》にタッチします。
- 最初に左の穴かがりを縫います。
- 適当な長さまで縫ってミシンを止めます。
- 《2》にタッチします。
- ミシンは自動的に直線縫いで後進します。
- 左側の穴かがりのスタート位置でミシンを止める
- 《3》にタッチします
- ミシンは上の環止めを縫い、自動的に停止します。
- 《4》をタッチします。
- 右の穴かがりを前進縫いします。
- ミシンを止めます。
- 《5》にタッチします。
- 下の環止めを縫い、自動的に停止します。
- 《6》にタッチします。
- 止め縫いをして、自動的に停止します。
- 左右の穴かがり、環止めそして止め縫いの針数はご自分で自在に決められます。
- 環止め、丸部分および返し縫いは、プログラムされます。
- 手元返し縫いスイッチを押して、各段階を呼び出すことも可能です。



マニュアル作業を終わるには
- 《ESC》をタッチするか、《man》をタッチします。
- 画面はボタンメニューに戻ります。

直線縫いボタンホール

ステッチ： **直線縫いボタンホールステッチNo.59**
針： **布に適したもの**
糸： **コットン、ポリエステル糸**
送り歯： **上**
押え： **ボタンホール押え　#3C（640型）、#3（630型）**
または自動ボタンホール押え　#3A



画面は640型

直線縫いボタンホール

ステッチ#59を選びます。

・自動ボタンホールプログラムと同様にプログラムされています。（69ページおよび70ページをご覧下さい。）

直線縫いボタンホールはウールなどの柔らかい生地にボタンホールを縫う時に最初に縫っておくと補強できてしっかりしたボタンホールが縫えます。
又は王縁ボタンホールやレザーやビニールなどにも使います。

640型のみ

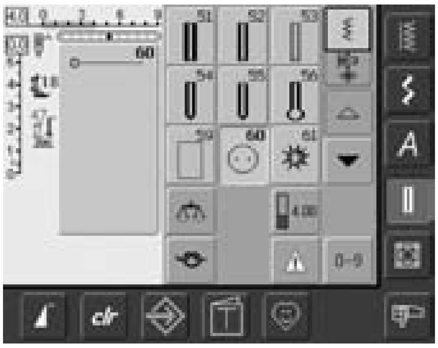
630型のみ

穴かがり幅を変える

・穴かがりの間隔が狭すぎる、又は広すぎる場合には振り幅調節ダイヤルで左右のかがり幅を変え調節できます。

ボタン付けプログラム

ステッチ： **ボタン付けステッチNo.60**
針： **布に適したもの**
糸： **コットン、ポリエステル糸**
送り歯： **下（ダーニング位置）**
押え： **ダーニング押え　#9**
又はボタン付け用押え　#18（オプション）



画面は640型

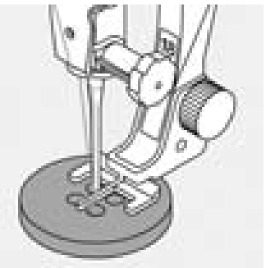
ボタン付けプログラム

・ステッチNo.60を選択します。

二つの穴ボタン

・はずみ車を回して穴の間隔を測り、必要ならば振り幅を調整します。
・縫い始めは、2本の糸を手に持ってください。
・縫い始めます。
・プログラムが終ればミシンは自動的に止まり、すぐに次のボタンを縫いつけることができます。

ボタン付押え#18（オプション）を使うと、ボタンの足の長さを調節することが可能です。



四つ穴のボタン
・最初に手前に二つ穴を縫います
・注意してボタンを手前に引きます。
・次に後ろの二つ穴を縫います。
・プログラムが終わればミシンは自動的に止まります。

糸の始めと終わり
・糸は返し縫いされているので、切り取るだけで始末できます。

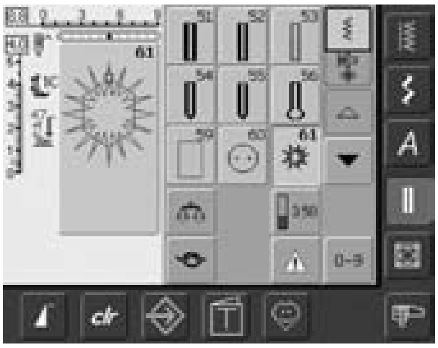
返し縫いの仕上げについて
・下糸を引っ張って、上糸を布裏に引き込みます。
・下糸を切ります（必要に応じて、玉結びをして下さい)。

ミシンでボタンを縫いつける
シャツやブラウスなどのように、同じボタンをいくつも縫うときには、特に時間を節約できます。

洗濯の回数の多い衣服のボタン付けは、プログラムを2回繰り返すようにするとよいでしょう。

ジグザグまたは直線アイレット縫い

ステッチ：幅の狭いジグザグアイレットNo.61 または直線アイレットNo.62
針：布に適したもの
糸：コットン、ポリエステル糸
送り歯：上
押え：スーパー模様押え　#1C（640型)、#1（630型）

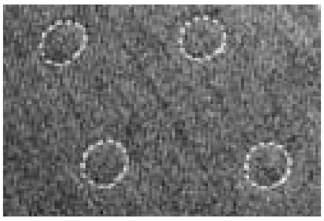


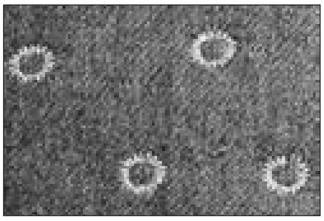
画面は640型

アイレット（鳩目)
・アイレットを選ぶ
・No.61ジグザグアイレット
・No.62直線縫いアイレット

アイレットを縫う
・生地を押えの下に準備して、縫います。
・プログラムが終わればミシンは自動的に止まります。
・サテンステッチをもっと密にしたい場合には、もう1回縫います。

アイレットに穴を開ける
・突ききりを使ってアイレットの穴を開けます。

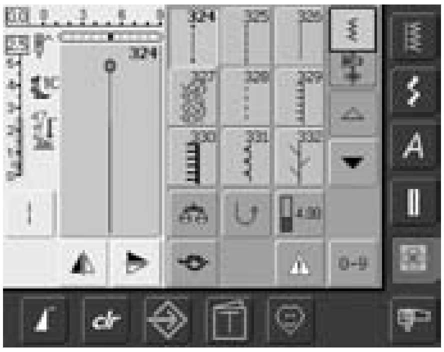


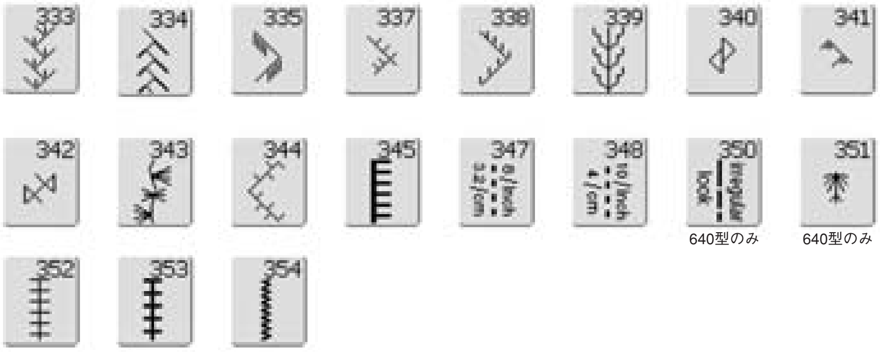


アイレットを飾り付けに使う
ぬいぐるみや人形の目を刺しゅうできます。飾り糸を使って、素敵な模様を作ってもよいでしょう。

アイレットは、ひもや細いリボンを通す穴に最適です。また子供服や手芸品に使う模様としても良いでしょう。ただし、ステッチの組合せには使えません。

パッチワーク・キルティングステッチ


画面は640型



キルティング用、パッチワークまたはアップリケ用に使用できるステッチには、以下のようなものがあります。

No.324	キルト返し縫いプログラム
No.325	ピーシング用直線縫い
No.326	ピーシングステッチ、直線縫い（640型のみ）
No.327	スティップリングステッチ
No.328	手縫い風キルトステッチ
No.329	ブランケットステッチ
No.330	ダブルブランケットステッチ
No.331	アップリケステッチ
No.332	フェザーステッチ
No.333からNo.338	フェザーステッチのバリエーション
No.339からNo.345	キルト用飾りステッチ
No.347、348、350	キルトステッチ・ハンドルック（No.350は640型のみ）
No.352	ブランケットステッチ（二重）
No.353	ダブルブランケットステッチ（二重）
No.354	サテンステッチ

選んだステッチにタッチすると

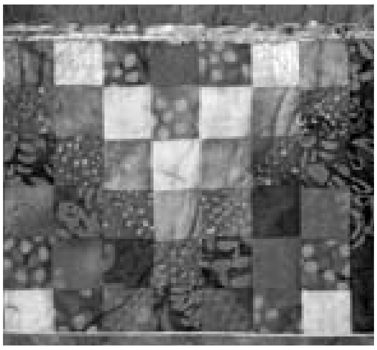
・ステッチが起動します。
・スクリーン上にすべての情報が表示されます。
・振り幅および送り長さを変更、お好みのセッティングを選べます。

いろいろなテクニック

パッチワーク、アップリケおよびキルティング

パッチワーク

- 異なる色、形、模様の布を縫い合わせて、布団、壁掛け、服飾品等を作ることができます。
- パッチワークのデザインには、基本的な定型の組み合わせがもっとも使いやすい形です（正方形、長方形、三角形等）。

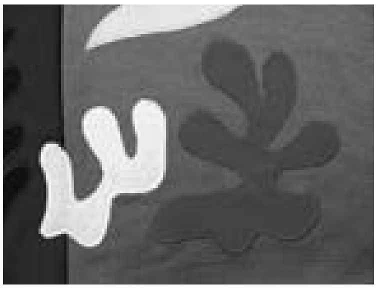


パッチワーク用のステッチ

- #326のピーシング用直線縫い

アップリケ

- 土台布にハギレを縫い付けるか、刺しゅうでハギレの周りを囲むようにして縫い付けるテクニックをいいます。
- 飾り以外にも、破れた個所をカバーするために使える方法です。



アップリケ用のステッチ

- No.354サテンステッチ
- No.329、330、352、353のブランケットステッチ
- No.331ブラインドステッチ

キルティング

キルトは、三つの層で構成されています。

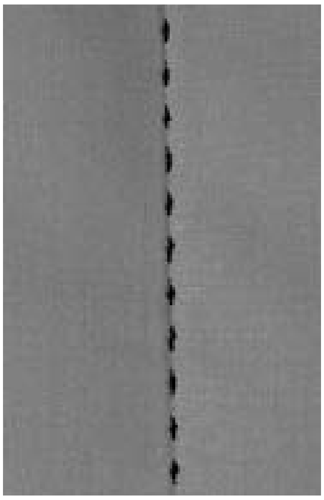
- 装飾的なトップ（通常はパッチワーク）
- 真ん中の層は、キルト芯
- 裏地は、無地の布
- 三枚の布をサンドイッチした後、待ち針を打ち、しつけ縫いしてから、いろいろなステッチで縫います。この作業をキルティングといいます。

以下のステッチは、キルティング用となります。

- No.324キルト用返し縫いプログラム
- No.325ピーシング用直線縫い
- No.328、347、348、350（640型のみ）手縫い風キルトステッチ
- No.327、331から345、351（640型のみ）までは、飾りキルトステッチ
- BSR機能（別売りオプション）を使って、又は使わなくても、フリーハンドのキルティングができます。

手縫い風キルトステッチ

ステッチ：　キルティングステッチNo.328、347、348、350
針：　布に合わせたもの
上糸：　モノフィラメント
下糸：　30番－50番程度のコットン、
又はレーヨン、ポリエステル刺しゅう糸
送り歯：　上
押え：　スーパー模様押え　#1C（640型）、#1（630型）
またはウォーキング押え#　50（別売りオプション）



手縫い風キルトステッチ
・手縫いのような縫い目を可能にしたものです。手縫いに見せたい作品に最適です。

試し縫い
・下糸が表面に交互に出るように縫います。
・上糸は、モノフィラメントなので、下糸が一目おきに目立つようになり、手縫い風の効果を得られます。

上糸調子
・自動でセットされます。
・布のタイプにより､必要ならば調節してください｡

バランス
・必要に応じて調節してください。

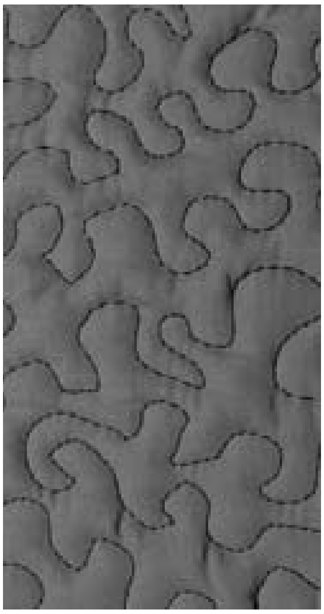
コーナー部分をきれいに仕上げるには
・一模様縫い機能および針下位置停止機能をオンにして、縫い始めます。
・必ず針が布に刺さっている状態で、布を回しましょう。

モノフィラメントの扱い方
・よく糸切れするような場合には、縫う速度をゆるめるか、上糸テンションを少しゆるめましょう。

縫い方
・針基線は、どこでも縫えます。
・スピードを一定にして、低速から中速で。

フリーハンドキルティング

ステッチ：　直線縫いNo.1
針：　布に合ったもの
上糸：　モノフィラメントまたはコットン
送り歯：　下（ダーニング位置）
押え：　ダーニング用押え　#9
キルティング用押え　#29（オプション）、
フリーハンドキルティング用押え　#24番（オプション）

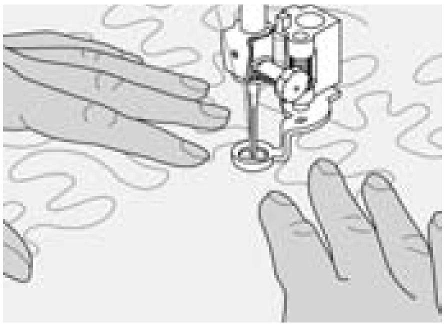


フリーハンドキルティング
・あらゆるフリーハンドキルトに使えます。

準備
・トップの布、キルト芯、裏布を重ね、待ち針でとめるか、しつけがけをします。
・スライドオンテーブルを取り付けます。

作品の持ち方
・両手を刺しゅう枠のように使って、布をしっかり押えて、ガイドしていきます。
・布の中心から外側へ向けて､縫っていきます｡

キルトラインを縫う
・選んだキルトパターンを縫うコツは、滑らかに丸く布を回して動かすことです。



スティップリング・キルティング
・キルトの表面全体を、ステッチで埋める方法です。
・ステッチのラインは、角のない丸みのあるカーブの連続です。縫い目が交差することのないよう、注意して縫い進めます。

BSRを使ったフリーハンドキルティング（オプション）

ステッチ： **直線縫いNo.1、又はジグザグ縫いNo.2**
針： **布に合ったもの**
糸： **フィラメントまたはコットン、刺しゅう糸、ポリエステル**
送り歯： **下**
押え： **BSR押え#42**
（押えの底は、フリーモーション、刺しゅう押え、透明底等と交換可能）

BSR（ベルニナ･ステッチ･レギュレター）機能とは

BSR押えを使ったこの機能では、直線縫いと事前に設定した送り長さ（最大5mmまで）によるフリーモーションキルティング（またはフリーモーションソーイング）が可能になります。BSR押えが、押えの下にある布の動きに反応して、ミシンのスピードを調整して、ステッチを設定した長さに制御する機能です。
つまり、布の動かし方が速ければ、それに合わせてミシンのスピードも速くなります。通常のスピードの範囲内であれば、先に設定した送り長さを維持したままで縫い続けることができます。布の動かし方が速すぎる場合には、警告のブザーが鳴ります（後述のブザー機能をオンにしておいて下さい）。
フリーハンドのキルティングをします。

直線縫いNo.1でBSR機能を使って見ましょう。

BSR押えをセットしてBSR機能を使えば、フリーモーションキルティングで、設定した縫い目長さ（最大5mmまで）を均一に保ちながら縫うことが可能です。極端な動かし方をしない限り、布を動かすスピードに合わせて、BSR機能が設定した縫い目長さで縫い続けます。

ジグザグ縫いNo.2でBSR機能を使って見ましょう。

ジグザグ縫いで、布にペインティング（縫い飾り）することができます。
ジグザグ縫いの場合、縫い目長さは関係しませんが、BSR機能が、作業をより簡単にしてくれます。

警告！
BSR機能がオンになっている場合、ミシンは減速されたスピードで連続縫いをするか（モード1、標準）、または一針縫いをします（モード2）。
BSR押えが赤く点灯している間は、糸通しや針交換等の作業は決して行わないで下さい。ミシンはBSRモードにあり、うっかり布を動かしたりすると、針が動き出しますので。大変危険です。
布が約7秒動かない状態にあると、BSRモードはオフになり、赤いランプも消えます。
詳しくは、「安全にお使いいただくために」をご参照下さい。

BSR機能は、2種類のモードのいずれかで使うことができます。

BSR 1

BSRモード1

- BSRの標準設定は、モード1です。
- フットコントロールを踏み込むと、フットコントローラーはオン・オフスイッチと同じです。又は、手元はスタートボタンを押すと、連続して縫い続けます。
- 押えの下で布を動かすと、そのスピードにつれてミシンのスピードも上がっていきます。
- 針は連続して動いているので、ある1ヶ所で止め縫いをすることが可能です。他のボタンを押す必要はありません。

BSR 2

BSRモード2

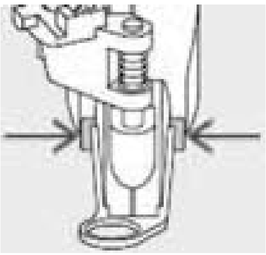
《BSR2》ボタンをタッチすると、BSRのモード2になります。

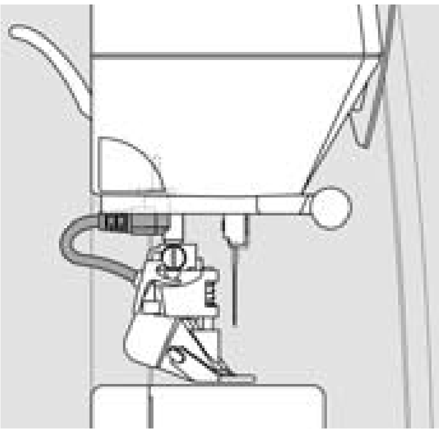
- ミシンは、フットコントローラーを踏み込んでも又は手元スタートストップボタンを押しても、布を動かさない限り、縫い始めることはありません。
- 布を動かすとミシンがスタート、布を止めるとミシンも止まります。
- 布を動かすスピードによって、ソーイングスピードが決まります。
- 止め縫いするには、「止め縫いボタン」を押す必要があります。
- ステッチ選択ボタンの1番を押すと、BSRのモード1に切り替えられます。

- 均等な縫い目で縫い始めるためには（一針縫い）、フットコントローラーを踏み込むと同時に布を動かすのがコツです。
- ポイント部分を縫ったり、丸い形の中を直線縫いする場合も同様です。
- BSR機能をオフにした後、ミシンの電源を切らないままにまた機能をオンにした場合には、オフにする直前に設定されていたBSRモードがそのまま引き継がれます。

準備

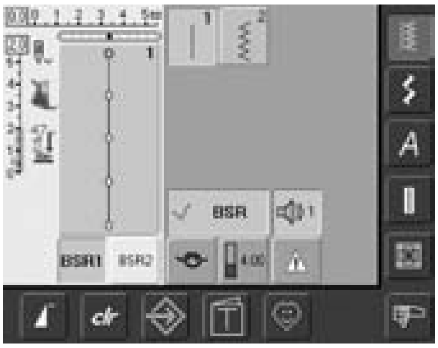
・送り歯を下げます。
・押え圧力は、最低までゆるめて下さい。
・スライドオンテーブルを使用して下さい。





・BSR押えをミシンに取り付け、ケーブルをグリーンのソケットに、かちんと音がするまで差し込みます。
・《BSR》画面が自動的に表示されます。（モード1＝標準設定）
・送り長さの基本セッティングは、2mmです。
・お好みの送り長さを設定して下さい。
・小さな形や､スティップリングを縫う場合には、送り長さは1mmから1.5mmがよいでしょう。

・目的に合った押えの底を、BSR押えに取り付けます。
・押えの底を取り外すには、矢印のように両側から押えを押し込み、底を、溝に沿って下に持っていきます。
・押えの底を取り付けるには、溝に沿って上に持ち上げていき、かちんと音がするまではめ込めます。



BSRモードで以下の機能を使う場合

針下位置停止機能（標準セッティング）

・画面上で、矢印が下を抜いて表示されます。フットコントローラーを放すと、又は手元スタート・ストップボタンで停止すると、ミシンは､針が布を刺している状態で停止します。

針上位置停止

・針上位置停止ボタンを押します（矢印が上を向きます)。フットコントローラーを放すと、または手元スタート・ストップボタンで停止すると、ミシンは、針が上に上がった状態で停止します。

針を上げる、または下げる

・針停止ボタンを長めに押すか、またはフットコントローラーのかかと部分を踏むと、針を上下することができます。

スタートストップボタンによる留め縫い（モード1のみ）

・フットコントローラーの接続を抜きます。
・押えの下に布をセットし､押え金を下げます。
・針停止ボタンを2回押して、下糸を引き上げます。
・上下の糸を手で持ちながら、スタートストップボタンを押して、BSRモードをスタートします。
・5針から6針、留め縫いをします。
・スタートストップボタンを押して、BSRモードを停止します。
・余分な糸をカットします。
・スタートストップボタンを押してBSRモードを再開、縫い続けます。

留め縫い機能（モード2のみ）

・「留め縫い機能」ボタンを押します。
・フットコントローラーを踏み込むか、スタート・ストップボタンを押します。
・布を動かすと同時に、短い送り長さで数針、留め縫いされます。留め縫いが完了すると、留め縫い機能は自動的に解除され、送り長さは元のセッティングの値に戻ります。

フリーハンドキルティング

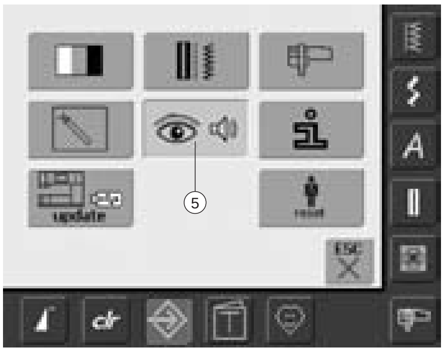
・BSRモードを起動します。
・フリーハンドキルティングが可能です。
・フリーハンドキルティングの作業中に、留め縫い機能ボタンを押すと、短く数針留め縫いをした後、ミシンは自動的に停止します。
・BSRモードは、解除されます。

BSRを使わずに
フリーハンドキルティングをするには

・BSR／バランスボタンを押して《BSR1》を消します。
・BSRのシンボルが、画面左側で点滅します。
・BSR押えを使って、通常のフリーハンドキルティングをすることができます。自動的にステッチの送り長さを均一にする機能は働きません。

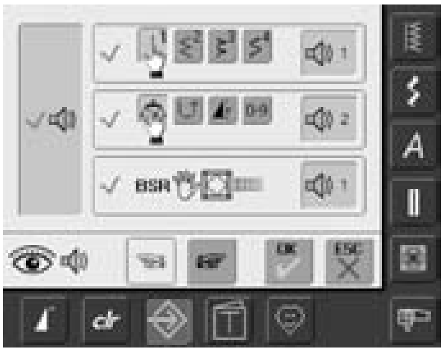
ある一定の速度を超えて布を動かしてしまうと、送り長さは均等になりません。
BSR押えの裏側のレンズ部が指紋やゴミで汚れていないのを常にチェックして下さい。

警告ブザー（電子音）の起動と解除について



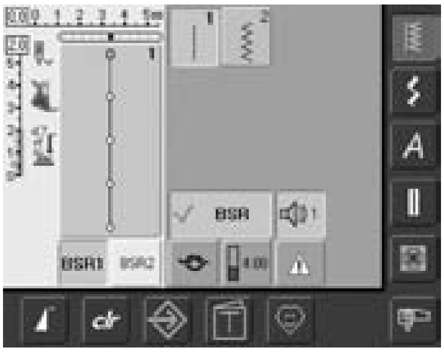
セットアッププログラムを開きます

・セットアップボタンを押します。
・選択メニューが表示されます。
・⑤をタッチします。
・《オーディオセッティング》のスクリーンが表示されます。



セットアッププログラムで
BSR用のサウンドを選びます

・標準設定されている音があります。
・BSR用スピーカーのシンボルのついたバーを一回、タッチします。
・バーがグレーでスピーカーが赤く表示されたら、ブザーはオフになっています。
・セットアッププログラムですべての音をオフに設定している場合、スクリーン左側の大きなバーがグレー､スピーカーが赤く表示され､《BSR》用スピーカーのバーのシンボルは表示されません。



《BSR》スクリーンでBSR警告ブザーの音を選びます

・標準設定されている音があります。
・BSRスピーカーのシンボルのついているバーを、一回タッチします。
・バーがグレーでスピーカーが赤く表示されたら、ブザーはオフになっています。

ご注意
サウンド選択のシンボルは、セットアッププログラムで音をオンにしている場合のみ、表示されます。

BSRのソーイング機能を起動／終了する

1. フットコントローラーを使う方法

- フットコントローラーを接続し、押えを下げます。
- フットコントローラーを踏み込んでBSRモードを開始します。画面上にシンボルが表示され、BSRがオンになったことを示します。
- 押えの上に、赤いライトが点灯します。
- フットコントローラーを踏み込んでいる間縫うことができます。
- ミシンのスピードは、布の動きに合わせて自動的にコントロールされます。
- フットコントローラーを放すと、BSRモードは停止します。

2. スタート・ストップボタンを使う方法

- フットコントローラーを取り外します。
- 押えを下げます。
- スタート・ストップボタンを押すと、BSRモードがスタートします。
- 押えの上に、赤いライトが点灯します。
- ミシンのスピードは、布の動きに合わせて調整されます。
- スタート・ストップボタンをもう一度押すと、BSRモードは停止します。

BSRソーイング機能を
スタートストップボタンで解除するには

モード1

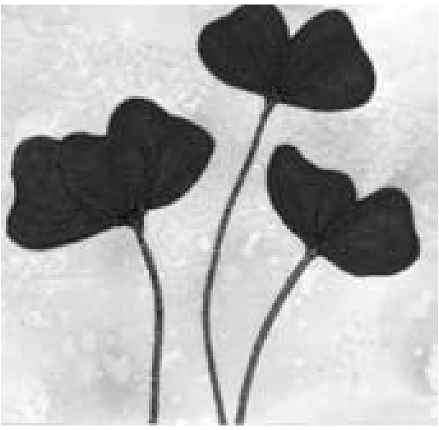
- 布を7秒間動かさない状態で置くと、BSRモードは解除され、押え金の赤いライトは消えます。

モード2

- 縫い終わって、布を動かさないでいると、自動的にもう一針、縫います。（針の停止位置によります。）ミシンは、常に針が上位置にある状態で停止します。スクリーン上で針下停止を指定してあっても、変わりません。

作品の持ち方

- 両手を刺しゅう枠のように使い、布をしっかり押えて、ガイドします。
- 布の動かし方を急に速くしたり、遅くしたりすると、ステッチの送り長さが微妙に揃わないことがあります。
- 押えの下で、布をできるだけ連続して滑らかに動かすことが、きれいにキルティングを仕上げるコツです。
- 布を回転させないで、布の向きは常に同じです。



使用例

ジグザグ縫いNo.2 でBSR機能を使います

- ジグザグステッチは、布を飾るのに使います（スレッド･ペインティング）。
- 布の上をステッチで埋めるようにして、形や絵を描くことができます。

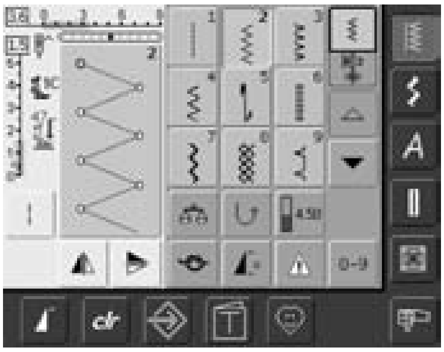
BSRモードを解除するには

- BSR押えのコードを、ミシンから抜きます。
- その直前に選ばれていたステッチに戻ります。
- BSR押えを取り外します。

パーソナル・プログラムを登録する

よく使うステッチを、パーソナル・プログラムに登録しましょう。
ある目的（洋服用等）のためのステッチをまとめておいてもよいし、ただ好きなステッチやアルファベットを集めておいてもよいでしょう。
パーソナル・プログラムには、ステッチのバリエーションすべてを登録することができます。

ご注意
ステッチとともに登録できるのは、以下の機能です。
・ 振り幅
・ 送り長さ
・ 針基線
・ 糸調子
・ 左右、上下反転
・ 模様拡大
・ ロングステッチ（640型のみ）
・ バランス
・ ソーイングスピード

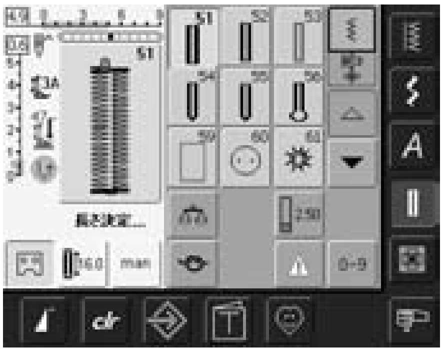


画面は640型

最初のステッチを登録する

・例えば、実用縫いモードで、ジグザグ縫いNo.2を選びます。
・（必要ならば、変更を加えます。）
・ステッチ操作スクリーン（ライトブルー部分）をタッチします。

・操作メニューが表示されます。
・3段目の「パーソナル・プログラムに追加（ハート印）」のバーをタッチします。
・これでジグザグ縫いを、変更とともに登録することができました。
・操作メニューは、閉じます。
・《clr》をタッチすれば、変更をすべて元に戻すことができます。

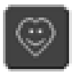


画面は640型

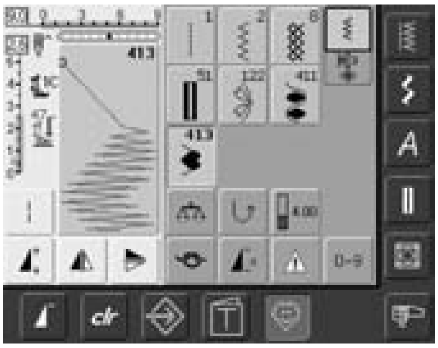
2番目のステッチを登録する

・ボタンホールモードを選びます。
・標準ボタンホール#51を選びます。
・必要な変更を加えます。
・ステッチ操作スクリーン（ライトブルー）をタッチします。
・ステッチを上記の手順で保存します。
・同様にして、次のステッチをプログラムしていきます。

パーソナル・プログラムに登録されたステッチを選択するには



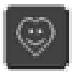
パーソナル・プログラムを起動させる
・パーソナル・プログラムボタン（ハート印）をタッチします。



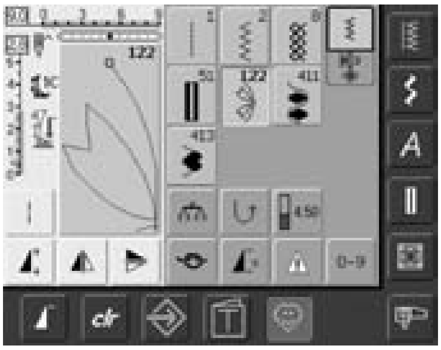
画面は640型

パーソナル・プログラム
・パーソナル・プログラムでは、登録されたステッチが表示されます。
・9個以上のステッチが登録されている場合には、矢印を使って、スクロールして、ステッチを閲覧します。

パーソナル・プログラムに登録されたステッチを削除するには



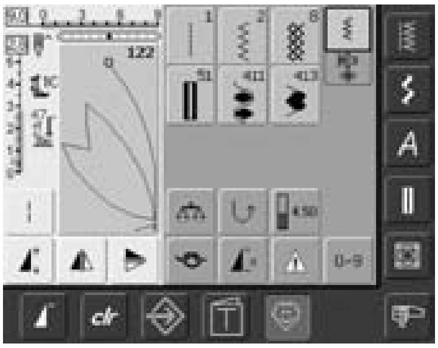
パーソナル・プログラムを起動させる
・パーソナル・プログラムボタンを押します。



画面は640型

パーソナル・プログラム
・削除したいステッチを選びます。
・ステッチ操作スクリーンを達します。

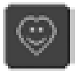
・操作メニューが表示されます。
・4段目の「パーソナル・プログラムから削除」のバーをタッチします。



画面は640型

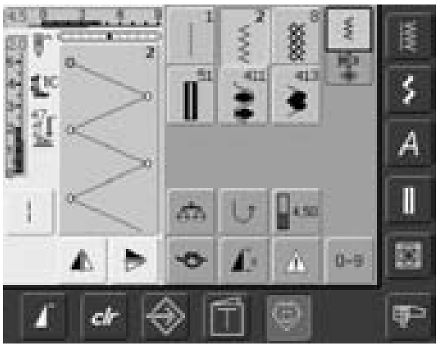
これでステッチは削除されました。
・操作メニューは閉じます。
・選んだステッチは削除され、残りのステッチがすべて一つずつ繰り上がります。

ステッチを変更する



パーソナル・プログラムを起動する

・パーソナル・プログラムボタンを押します。



画面は640型

パーソナル・プログラムスクリーン

・変更を加えるステッチを選びます（ジグザグ等）。
・振り幅および送り長さは、フロントパネル上の調節つまみで調整します。
・基本セットアップと並んで、変更を加えたものが表示されます。
・ステッチ操作スクリーン（ライトブルー部分）をタッチします。

・操作メニューが表示されます。
・「設定を保存」をタッチすると、加えた変更がすべて保存され、操作メニューは閉じます

操作メニュー

・「設定を保存」、ステッチの振り幅、送り長さ等に関するすべての変更が保存できます。
・「設定をリセット」、基本セットアップに戻すときに使います。
・「パーソナル・プログラムに追加」、選んだステッチが、パーソナル・プログラムに保存されます。
・「パーソナル・プログラムから削除」、選んだステッチをパーソナル・プログラムから削除します。
・ESCにタッチすると、何も保存せずにスクリーンが閉じます。

基本セットアップに加えることのできる変更は、それぞれのカテゴリーの中でも変更して保存しておくことが可能です。

ステッチの組み合わせと保存又は削除

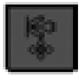
はじめに

ステッチ、文字および数字は、組み合わせて、メモリーに保存することができます。ミシンには大容量のメモリーが用意されてあり、ソーイングと刺しゅうの2種類のメモリー、およびパーソナル・プログラム用のメモリーがあります。

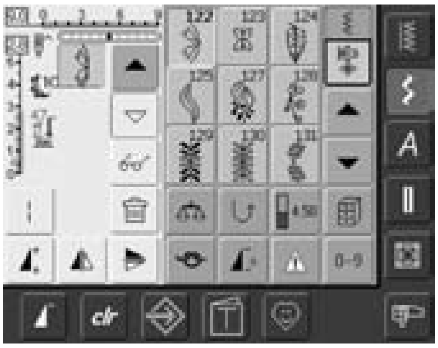
メモリー容量は、空きのある限り、ステッチのコンビネーションを最大50ステッチ保存することが可能です。

メモリーは、長期間保存されるものです。保存した内容は、削除されるまで残されます。電源をオフにしても、保存したプログラムには影響ありません。

ステッチの組み合わせを保存する

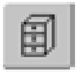


ステッチのプログラムおよび保存

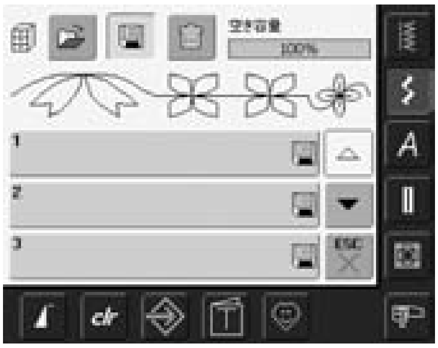


画面は640型

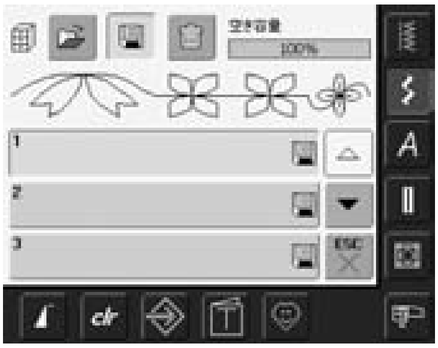
- コンビモードを選びます。
- ステッチ操作スクリーンが、その機能とともに表示されます。
- ステッチを選びます。
- 必要ならば、送り長さ、振り幅、針基線を変更します。または、模様反転機能などを必要に応じて使います。
- 続けて、次のステッチを選びます。



メモリーボックス



- 点滅しているファイルドロワーのボタンにタッチします。
- 《保存》機能が起動します。(明るい青)
- システムメモリーの空き容量が、バーの右上に、%で表示されます。



保存する《メモリーボックス》をタッチして選びます。

メモリーの空き容量が、スクリーンの上部に、パーセンテージで表示されます。

ステッチ番号を使ってプログラミングと保存を実行する

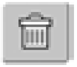
画面は640型

- コンビモードを選びます。
- スクリーン右下の「0—9」のステッチ番号入力ボタンをタッチします。
- 選びたいステッチ番号を入力します。
- 入力した数値を一桁削除するには、左向きの矢印を一回タッチします。
- 入力した番号を取り消すには、番号が表示されたボックスをタッチします。
- 入力した番号でよければ《OK》ボタンをタッチして、次のステッチを入力します。
- 全てのステッチ番号の入力を終わったら、《ESC》をタッチします。
- 点滅している《メモリーボックス》アイコンをタッチします。
- コンビネーション・ステッチを保存するメモリー引出しを選びます。

ステッチ操作スクリーンをクリヤーする

- 前回コンビモードを使用してから、電源を切っていない場合、ステッチ操作スクリーンに、前回のコンビネーション・ステッチが表示されます。
- そういう場合は、コンビネーションを削除してステッチ操作スクリーンを空にするか、または、空のメモリー引出しを開いて、新しいコンビネーションをプログラムします。

ご注意
削除の作業を行っても､すでに保存されて､残っている他のコンビネーション・ステッチに影響することはありません。

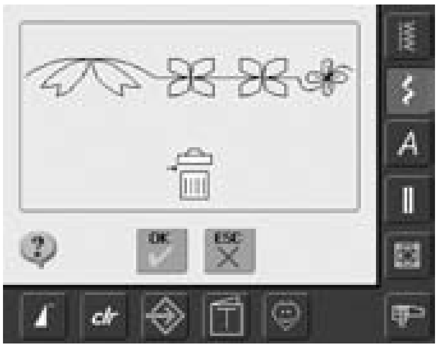


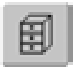
ステッチ操作スクリーンを、一つ一つ空にするには

- 削除したいステッチの上にカーソルを置く。
- 「削除」機能をタッチして、ステッチ操作スクリーンを空にします。

ステッチ操作スクリーンを、一回で空にするには

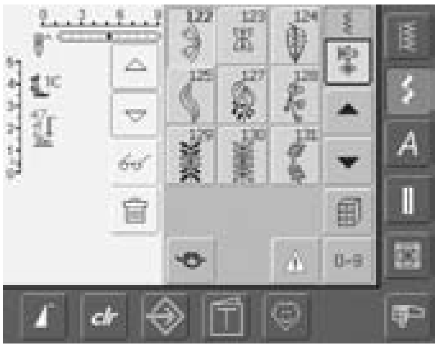
- マルチ操作ボタンをタッチします。
- 《クズかご》アイコンをタッチします。
- 《OK》をタッチして、メッセージを確定します。
- ステッチ操作スクリーンが空になりました。新しいコンビネーション・ステッチをプログラムできます。





空のメモリー引出しを開くには

- 《メモリーボックス》アイコンをタッチします。
- メモリー引出しスクリーンが表示されます。
- 《ファイルを開く》アイコンをタッチします。
- 空のメモリー引出しをタッチして選びます。
- メモリーの空き容量が、メモリー引出しスクリーンの右上にパーセンテージで表示されます。

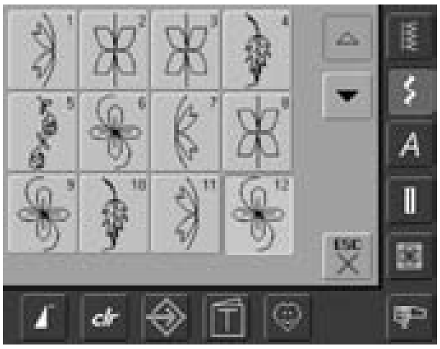


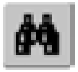
画面は640型

・ステッチ操作スクリーンが空になったので、新しいコンビネーション・ステッチをプログラムできます。
・必要ならば、コンビネーション・ステッチを保存します。

メモリー引出しの内容を確認するには

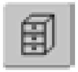
・コンビネーション・ステッチをプログラムします。
・関連するコンビネーション・ステッチは、ステッチ操作スクリーンで見ることができます。
・マルチ機能ボタンをタッチします。
・コンビネーション・ステッチが、スクリーンに表示されます。
・以下の情報が、スクリーンに表示されます。
・ステッチコンビネーションの全てが左側に。
・その隣りに、ステッチコンビネーションが実物大で。全体を見るには、振り幅ダイヤルまたは送り長さダイヤルでスクロールします。
・右側には4個のボタンが表示されます。《コンビネーションの削除》《コンビネーションの反転》《コンビネーションのプレビュー》《コンビネーションのサブディバイダー》の4個です。
・スクリーンを閉じるには、《ESC》をタッチします。

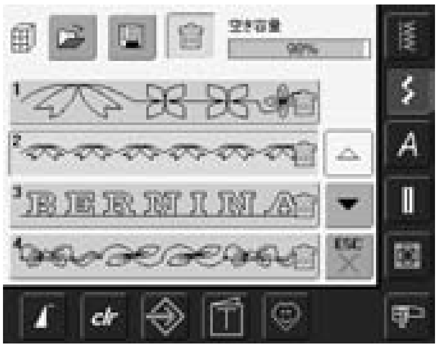




・《プレビュー》アイコンをタッチします。
・ステッチコンビネーションが画面に表示されます。
・変更したりするのに、各々のステッチを選べます。
・ステッチを選ぶと、自動的にSAAが表示されます。
・上下矢印でステッチをスクロールできます。
・プレビュー画面を閉じるには、《ESC》をタッチします。

保存してあるコンビネーションを開く

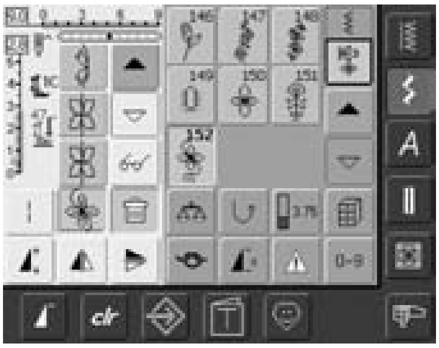




保存したコンビネーション・ステッチを開くには

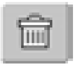
・「メモリー引出し」をタッチします。
・保存した内容が表示されます。
・必要ならば、使いたいメモリー引出しが表示されるまでスクロールします。
・メモリー引出しにタッチします。
・選んだコンビネーションが、ステッチ操作スクリーンに表示されます。

コンビネーション・ステッチを修正する

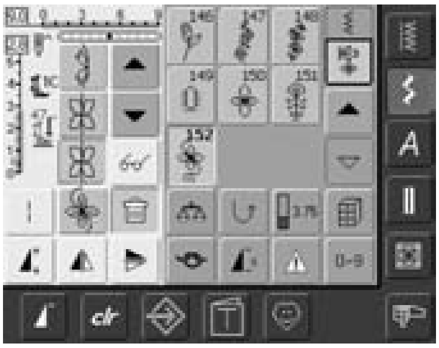

画面は640型

最後にプログラムしたステッチを削除する

- 「削除」をタッチします。
- これで削除完了です。

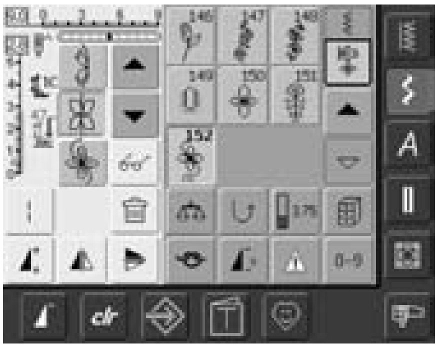


ご注意
カーソルの上にあるエリアはすべて変更されます。


画面は640型

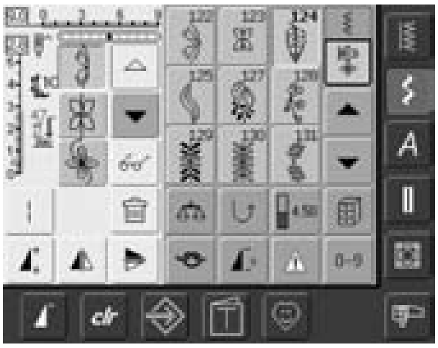
コンビネーションの中に含まれるステッチ一つを削除するには

- 矢印のスクロールで、カーソルを削除したいステッチの下まで移動するか、ステッチを直接選びます。
- 「削除」をタッチします。
- カーソルの上のステッチが削除されます。
- ステッチは、削除したものを除いて、自動的にまた組み合わされます。

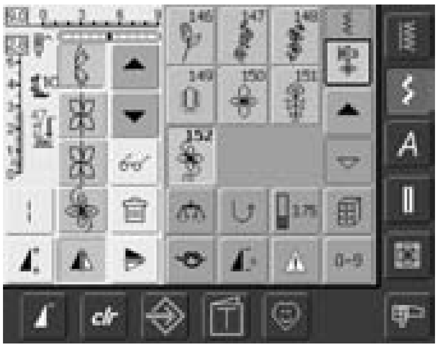

画面は640型

ステッチを挿入するには

- 挿入する個所を指定するには、カーソルをスクロールするか、または必要なステッチを直接選択する（選んだステッチの後に、新しいステッチが挿入されます）。
- 新しく挿入するステッチを選びます。
- ステッチが挿入されました。


画面は640型

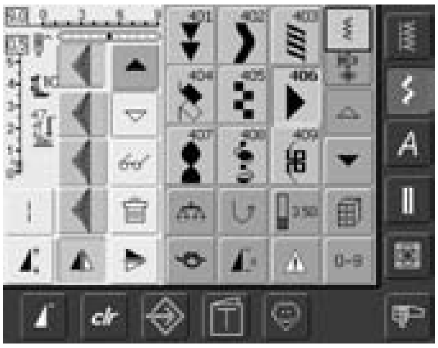
- ステッチをコンビネーションの先頭に挿入したい場合には、スクロール矢印を使って、カーソルを1番始めの部分まで移動します。
- 新しいステッチを選択。
- 新しいステッチは、カーソルの上に挿入されます。


画面は640型

コンビネーション・ステッチを変更するには

- 必要な個所を起動するには、カーソルをスクロールするか、または必要なステッチを直接選びます。
- 必要な機能を選びます（反転等）。

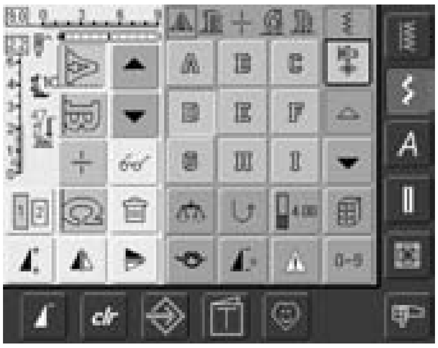
ご注意
すでに保存されているコンビネーション・ステッチも、同様の方法で変更または修正できます。変更または修正を保存したい場合には、そのコンビネーションを再度保存することになります。



画面は640型

コンビネーション全体を 反転したい場合

・マルチ機能ボタンをタッチします。
・「コンビネーションを反転」をタッチします。
・コンビネーション全体が、左右に反転されます。

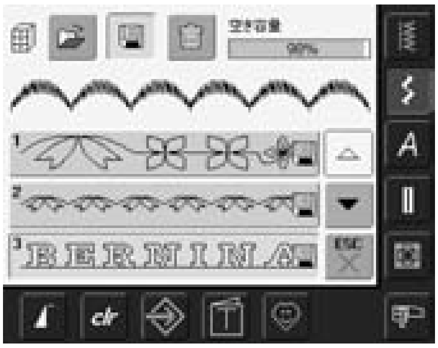


画面は640型

コンビネーションを分割するには

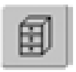
・マルチ機能ボタンをタッチします。
・《サブディバイダー》機能を使うと、コンビネーションをいくつかに分割することができます。
・カーソルが当てられているセクションのみを縫います。
・次のセクションを縫うには、カーソルをその部分に当て直します。

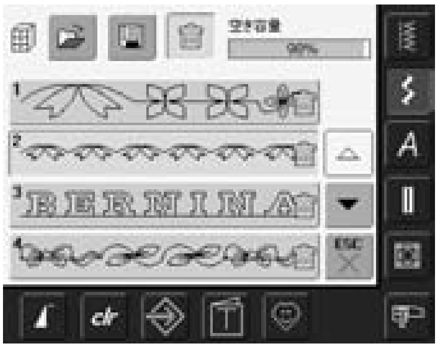
メモリー引出しの保存データを削除する



方法その1：上書きする

・新しいコンビネーション・ステッチを作ります。
・《ファイルを開く》ボタンをタッチします。
・上書きしたいメモリー引出しを選択。
・メッセージに「OK」と答えて確定します。
・新しいコンビネーション・ステッチが、このメモリー引出しに保存されました。





方法その2：削除する

・《メモリーボックス》ボタンをタッチします。
・保存されたコンビネーションが表示されます。
・「削除」をタッチします。
・メッセージが表示されるまで、削除したい《引出し》を選びます。
・メッセージに《OK》と答えます。《ESC》をタッチすると削除を中止します。
・選んだ引出しが空になりました。
・ESCをタッチして引出しスクリーンを閉じます。

セットアップの解説

まえがき

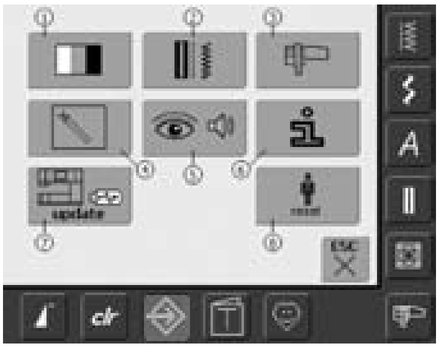
セットアップブログラムでは、必要に応じて、お好みのセッティングに仕様を変更できます。

例えば、ソーイングおよび刺しゅうの最高スピードを調節することができます。

変更された内容は、恒久的に保存され、スイッチを切ってもそのまま残ります。
また、ミシンを工場出荷時の基本設定に戻すのも、簡単です。

セットアッププログラムを開く

・フロントパネル上のセットアップボタンを押します。
・セットアップのオプション付きメニューが表示されます。



メニュー

メニューには、変更可能な事項がリストアップされています。

① スクリーン設定
② ソーイングのセッティング
③ 刺しゅうのセッティング
④ タッチスクリーンのキャリブレーション
　・お気に入りボタンのカスタマイズについて
　・ソフトウェアおよび言語
⑤ メッセージオーディオのセッティング
⑥ インフォメーション
⑦ アップデート
⑧ 工場出荷時の基本設定にリセットする

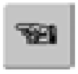
変更は、ミシンをオフにしても保存されます。
変更は、いつでもプログラムし直すことができます。

セットアッププログラムを閉じる

・ESCをタッチします。
・セットアッププログラムが閉じ、前スクリーンに戻ります。

次ページへ

・「次ページへ」をタッチします。
・次のスクリーンが表示されます。

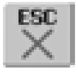


前ページへ

・「前ページへ」をタッチします。
・前のスクリーンが表示されます。

保存して閉じる

・「OK」をタッチします。
・変更が保存され、スクリーンが閉じてメニューに変わります。

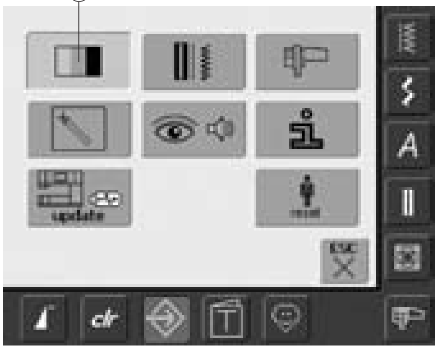


スクリーンを閉じる

・「ESC」をタッチします。
・スクリーンが閉じて、変更は基本のセッティングに戻り、メニューが表示されます。

ディスプレイ

①



セットアッププログラムを開く

・セットアップボタンを押します。
・メニューが表示されます。
・①にタッチします。
・開いたスクリーンで、表示のセッティングを変更することができます。

ディスプレイセットアップ

コントラスト

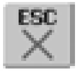
・振り幅ダイヤルを回すか、《＋》《ー》のどちらかをタッチします。
・スクリーンのコントラストが変化します。
・変更は、数字でバー部分に、また《＋》《ー》の青い背景にも表示されます。

明るさ

・送り長さダイヤルを回すか、《＋》《ー》のどちらかをタッチします。
・スクリーンの明るさが変化します。
・変更は、バーに表示される数字および、「＋」または「ー」のブルーの背景によって示されます。
・基本のセッティングは、暗色のバーに表示されます。
・《リセット》ボタンを押すと、基本セットアップに戻ります。

保存および閉じる

・「OK」をタッチします。
・変更は保存され、スクリーンが閉じて、メニューが表示されます。

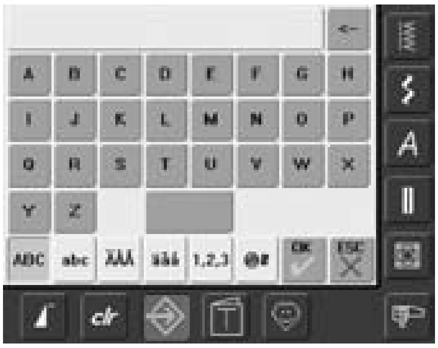


スクリーンを閉じる

・「ESC」をタッチします。
・スクリーンが閉じて、メニューが表示されます。オリジナルのセットアップは､そのまま保存されます。

ウェルカムスクリーン

・テキストバーにタッチします。
・キーボード付きのスクリーンが閉じて、メニューが表示されます。

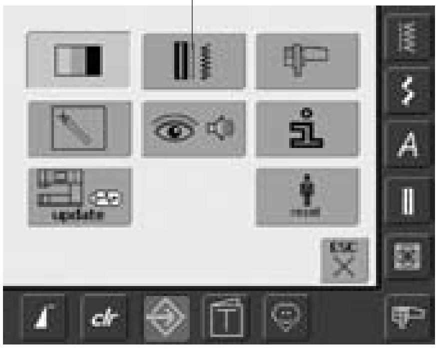


ウェルカムスクリーンのテキスト

・ウェルカムスクリーンのテキストを書くことができます。
・オンスクリーンの「ABC」ボタン（大文字）が、自動的にアクティブ（青）になります。
・スクリーン上の《abc》ボタンが、小文字になります。
・画面上の・・・のボタンで、大文字小文字のそれぞれの特殊記号を起動します。
・《1,2,3》では、数字および数学的なキャラクターを起動します。
・キーボード下のバーは、スペースバーで、単語間または文字間にスペースを入れたいときに使います。
・プログラムしたテキストは、キーボード上のテキストバーに表示されます。
・このテキストバーにタッチすると、プログラムされたテキストは、完全に削除されます。
・テキストバーの右側の矢印にタッチすると、入力されたテキストは右から左の方向で1文字ずつ削除されます。
・《OK》をタッチして、変更を確定します。

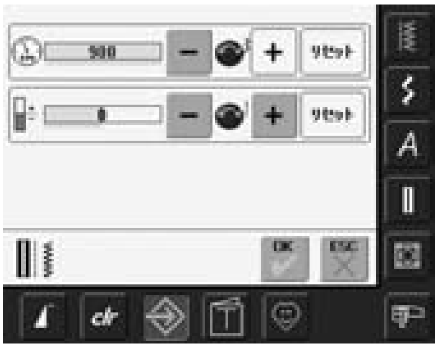
ソーイングのセットアップ

②



セットアッププログラムを開く

- フロントパネル上のセットアップボタンを押します。
- メニューが表示されます。
- ②をタッチします。
- 「ソーイングセットアップスクリーン」が表示されます。



ソーイングスピード

- 振り幅ダイヤルを回すか、《十》《一》にタッチすると、最高スピードが変わります。8から10ステッチ分ずつスピードを速めたり、遅くしたりすることが可能です。
- バーの数字が、1分間のステッチ数を示します。基本セッティングは黒いバーで表示されています。

糸調子の修正

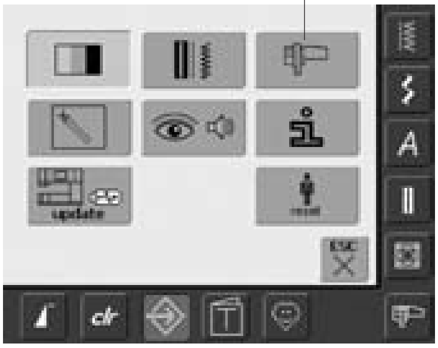
- 送り調節ダイヤルを回すか、又は「十」または「一」をタッチすると、上糸のテンションを、基本セットアップの「0」から、20パーセントずつ増減することができます。

0 ＝ 基本セットアップ
（工場出荷時のセットアップ）
1 ＝ 十10パーセント
2 ＝ 十20パーセント
一1 ＝ 一10パーセント
一2 ＝ 一20パーセント

- 糸のウェイト等により、テンションの基本セットアップ微調整が必要なときに行います。
- バーに表示された数字および「十」または「一」のブルーの背景が、どのような変更が為されたかを示します。
- 《リセット》ボタンを押すと、基本セッティングに戻ります。
- テンションの調整は、すべてのステッチに影響します。そしてミシンの電源をオフにした後も、保存されます。

刺しゅうセットアップスクリーン

③

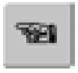


セットアッププログラムを開く

- フロントパネル上のセットアップボタンを押します。
- メニューが表示されます。
- ③をタッチします。
- 「刺しゅうセットアップスクリーン」が表示されます。刺しゅう枠の調整はここで行います。

次ページへ

- 「次ページへ」をタッチします。
- 次スクリーンが表示されます。

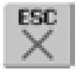


前ページへ

- 「前ページへ」をタッチします。
- 前スクリーンが表示されます。

保存および閉じる

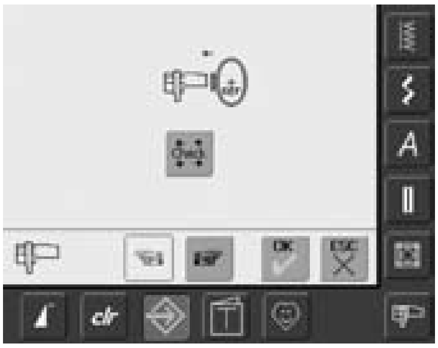
- 「OK」をタッチします。
- 変更が保存され、スクリーンが閉じて、メニューが表示されます。

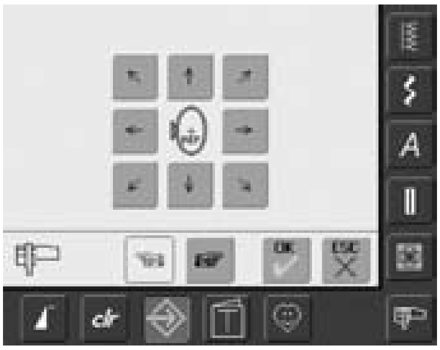


スクリーンを閉じる

- 「ESC」をタッチします。
- オリジナルのセットアップは保存されたまま、スクリーンが閉じます。メニューが表示されます。

刺しゅうセットアップ 1

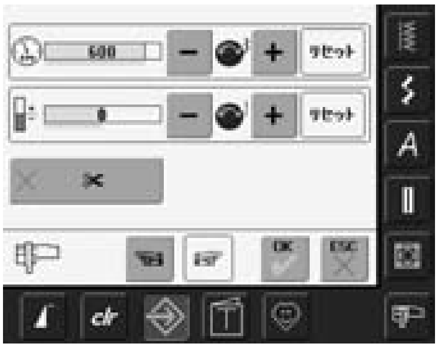




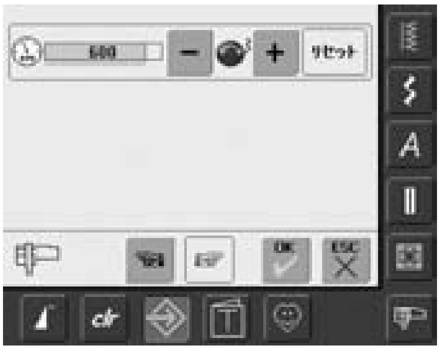
「リファレンス位置の調整」では、針を刺しゅう枠の中央に置くように、計測を行います。刺しゅう機が取り付けられている場合のみ、調整が可能です。リファレンス位置の調整を行うと、すべての刺しゅう枠に関して変更が適用されますので、一回のみで結構です。

・刺しゅう用テンプレートを刺しゅう枠に挿入します。
・「チェック」をタッチします。
・画面が変わります。
・刺しゅう枠の位置が読み込まれ、針が中央に配置されます。
・針がテンプレートの中心上に来ない場合には、矢印で調整して下さい。
・「OK」をタッチします。
・調整を保存すると、スクリーンは閉じ、メニューが表示されます。

刺しゅうセットアップ 2



画面は640型



画面は630型

・「次ページへ」をタッチします。
・「刺しゅうセットアップスクリーン2」が表示されます。

ソーイングスピード
・振り幅調整ダイヤルを回すか、又は「＋」または「－」をタッチすると、スピードを6～10ステッチ単位で増減できます。
・バーの数字が、1分間のステッチ数を示します。基本セッティングが黒いバーで表示されています。

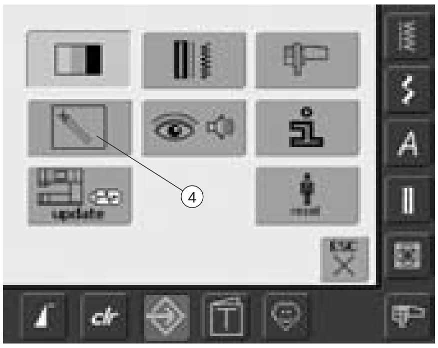
自動糸カッター（640型のみ）
・バーがアクティブ（ブルー）のとき、上糸および下糸は自動的にカットされます。
・バーが「×」状態のときは、自動糸カッターはオフとなります。
・この機能のオンオフは、「自動糸カッター」のバーをタッチすることで行います。

糸調子の修正（640型のみ）
・送り調節ダイヤルを回すか、又は「＋」または「－」をタッチすると、上糸のテンションを、基本セットアップの「0」から、20パーセントずつ増減することができます。

0 ＝ 基本セットアップ
（工場出荷時のセットアップ）
1 ＝ ＋10パーセント
2 ＝ ＋20パーセント
－1 ＝ －10パーセント
－2 ＝ －20パーセント

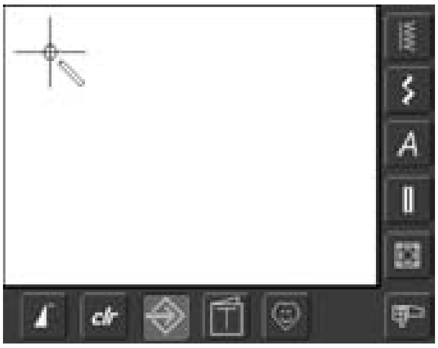
・糸の番手により、テンションの基本セットアップ微調整が必要なときに、行います。
・バーに表示された数字および「＋」または「－」のブルーの背景が、どのような変更が為されたかを示します。
・《リセット》ボタンを押すと、基本セッティングに戻ります。
・テンションの調整は、すべてのステッチに影響します。そして、ミシンの電源をオフにした後も、保存されます。

タッチセンサー感度の調整



セットアッププログラムを開く
- フロントパネル上のセットアップボタンを押します。
- メニューが表示されます。
- ④ボタンをタッチします。
- 「タッチセンサーのキャリブレーション」スクリーンが表示され、スクリーンのタッチの感度を設定できます。

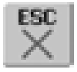
タッチ感度のセットアップスクリーン
- 《キャリブレーション》ボタンをタッチします。
- 次のスクリーンが表示されます。



タッチ2

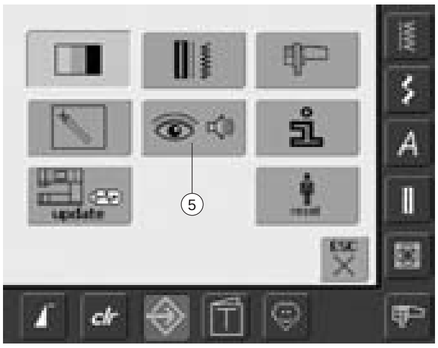
ターゲット中心に、タッチペンの先を当てます。ターゲットが移動します。このプロセスを繰り返し、3箇所すべてのチェックが完了すると、スクリーンはオリジナルに戻ります。セッティングを《OK》で、保存します。

保存および閉じる
- 「OK」をタッチします。
- 新しいセッティングが保存され、スクリーンは閉じてメニューが表示されます。



作業をキャンセルしてスクリーンを閉じる
- 「ESC」をタッチします。
- 従来のセッティングのままで、スクリーンが閉じます。メニューが表示されます。

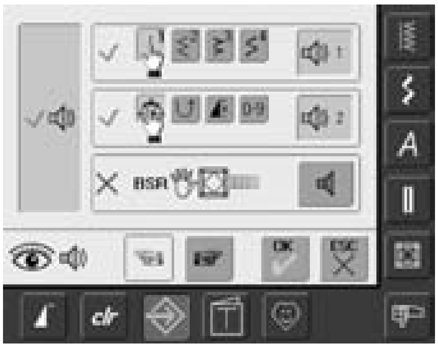
ガイド・メッセージおよびシグナル音のセットアップ



セットアッププログラムを開く

・フロントパネル上のセットアップボタンを押します。
・メニューが表示されます。
・ボタン《5》をタッチします。
・「シグナル音の設定」のスクリーンが表示されます。

ガイド音のセットアップ



オーディオシステム

・左端の大きなボタンで全てのガイド音のオンオフができます。
・ブルーの背景およびブルーのスピーカーのシンボルは、ガイド音がオンであることを示しています。
・グレイの背景および赤いスピーカーのシンボルは、ガイド音がオフであることを示しています。

スピーカーのテスト

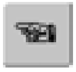
・このオンスクリーンのボタンで、スピーカーの機能をチェックできます。
・ボタンをタッチしてから、離す。
・オーディオシステムがオンになっている場合、サウンドが聞こえるはずです。

ステッチの選択・選択機能・BSR

・ステッチ、機能の選択時のクリック音、またはBSRの警告音を設定します。
・最上段のステッチバーで模様選択時のクリック音の種類を設定できます。スピーカーのアイコンを、必要な回数タッチします。
・6種類の音が選べます。バーは青で、選んだ音は、1から6までの数字で表示されます。
・バーがグレイでスピーカーが赤の設定は、ステッチ選択音がオフになっています。
・中央のバーは機能選択クリック音の設定、また最下段のBSR速度警告音も、同様にオンオフに設定することができます。
・《次ページへ》をタッチします。

次ページへ

・「次ページへ」をタッチします。
・次スクリーンが表示されます。

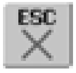


前ページへ

・「前ページへ」をタッチします。
・前スクリーンが表示されます。

保存および閉じる

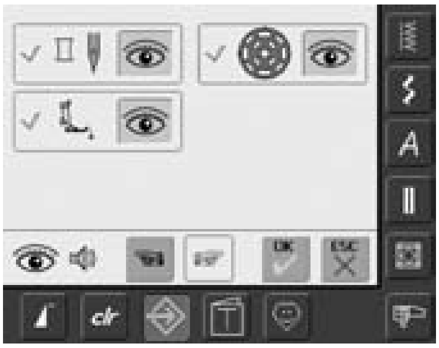
・「OK」をタッチします。
・変更は保存され、スクリーンが閉じて、メニューが表示されます。



スクリーンを閉じる

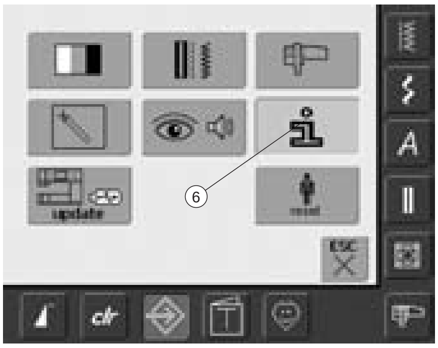
・「ESC」をタッチします。
・オリジナルのセットアップは保存されたまま、スクリーンが閉じます。メニューが表示されます。

ガイド・メッセージの表示およびモニター機能



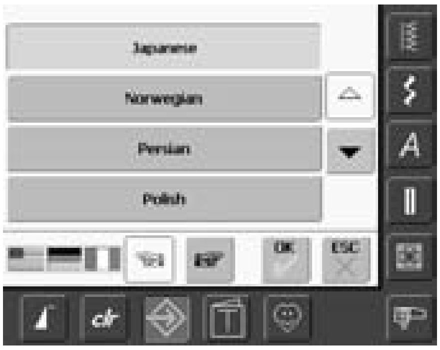
- 《ガイド・メッセージの表示およびモニター機能》のスクリーンが開きます。
- 以下のガイド･メッセージの表示とモニター機能を、オンオフに設定できます。
  - 上糸コントロール
  - 押え金の上下位置
  - 下糸残量コントロール
- バーが青で、目が開いている場合には、メッセージおよび機能はオンになっています。
- バーがグレイで目が閉じている場合には、メッセージおよび機能はオフの状態です。
- シグナル音の選び方は他の機能と同様です。《シグナル音の設定》で、オンオフが可能です。
- ガイド・メッセージおよびモニター機能と、シグナル音の選択のオンオフは、別々にすることができます。シグナル音無しで、ガイド・メッセージおよびモニター機能をオンにすることができます。

インフォメーション



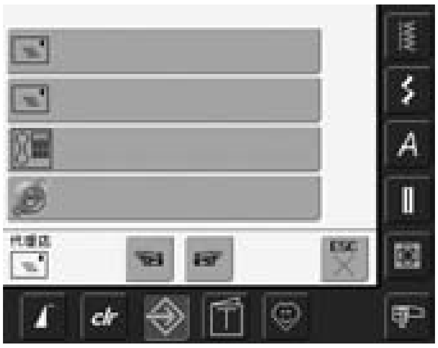
セットアッププログラムを開きます

- セットアップボタンを押します。
- メニューが表示されます。
- ボタン⑥をタッチします。
- まず《言語インフォメーション》のスクリーンが表示されます。表示言語を、ここで選べます。



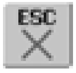
言語

- 数カ国語用意されています。
- 矢印にタッチして、言語をスクロールすることができます。
- 現在使用中の言語は、青く表示されます。
- 《次ページへ》をタッチします。



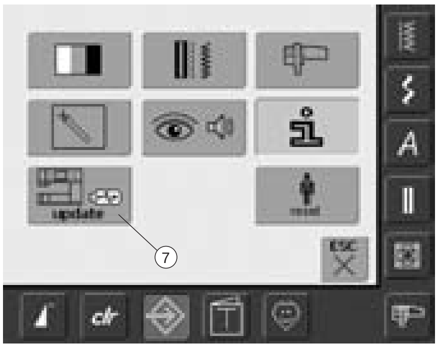
・《代理店情報》スクリーンが開きます。
・それぞれのグレイのバーにタッチして、ご購入代理店のデータを入力することができます。
 ・代理店名
 ・セールスご担当者氏名
 ・電話番号
 ・ホームページまたはEメールのアドレス
・《次ページへ》をタッチします。

・《バージョン》のスクリーンが開きます。
・ミシンのソフトのバージョン情報を見ることができます。オプションの刺しゅう機が接続されていると、刺しゅう機のバージョンも見られます。
・矢印でスクロールすれば、バージョンの詳細を見ることができます。



スクリーンを閉じるには
・《ESC》をタッチします。
・スクリーンが閉じて、メニューが表示されます。

ミシンおよび刺しゅう機のバージョンアップについて

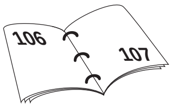


セットアッププログラムを開くには
・セットアップボタンを押します。
・メニューが表示されます。
・新しいソフトウェアー・バージョンが入った、（最低10MBの空き容量がある）、USBスティックを、ミシンの右側にあるUSBソケットに、差込みます。
・⑦をタッチします。

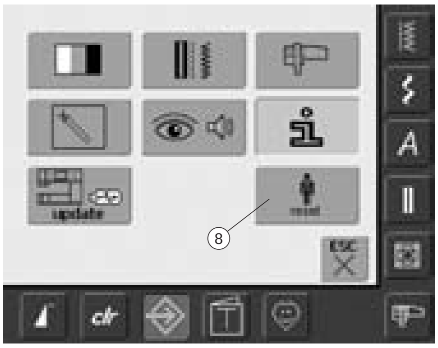
ご注意
新しいソフトウェアー・バージョンを入手するには、2つの方法があります。
1. **インターネットからダウンロードする方法**
2. **ベルニナ正規販売代理店より入手する方法**

・《update》アップデートスクリーンが表示されます。
・《update》アップデートボタンをタッチします。
・アップデートの作業が開始されます。
・以下の項目を、チェックします。
  ・ベルニナのUSBスティックが挿入されているか。
  ・メモリ―の空き容量は十分か。
  ・スティックに、正しいソフトウェアバージョンが入っているか。
・個人のデータおよびセッティングは、この過程で再度保存され、記憶されます。
・アップデートが完了すると、「ソフトウエアーの自動更新に成功しました。」というメッセージが表示されます。新しいソフトバージョンのミシンと刺しゅう機が使えます。
・アップデートに失敗したり、問題が発生した場合には、エラーメッセージが表示されます。

ご注意
アップデート完了のメッセージが表示されるまで、USBスティックを取り外さないようにして下さい。



初期設定に戻すには



セットアッププログラムを開く

・セットアップボタンを押します。
・メニューが表示されます。
・⑧をタッチします。
・スクリーンの一覧が表示されます。

・2種類の選択が可能です。
  ・初期設定に戻す
  ・パーソナルデータを削除する
・《reset》ボタンをタッチします。

初期設定にリセットする

・3種類の選択が可能です。
　・ミシン
　・刺しゅう機
　・ミシンと刺しゅう機の両方
・リセットしたいボタンをタッチします。
・《OK》で、表示されているスクリーン上のメッセージを確定します。
・選んだ範囲で、セッティングは初期設定に戻りました。前のスクリーンが表示されます。

・《ESC》をタッチして、メニューに戻ります。

ユーザーデータを全て消去する

パーソナルデータを消去するには

・パーソナルデータには3種類あります。
　・ミシンの《パーソナルプログラム》
　・刺しゅうの《パーソナルデザイン》
　・刺しゅうの《メモリースティック》（メモリースティックは、ミシンに接続しておいてください。）
・データを消去したいボタンをタッチします。
・《OK》で、スクリーンのメッセージを確定します。
・データは消去され、前のスクリーンに戻ります。
・《ESC》をタッチして、メニューに戻ります。

バランスを開く

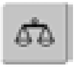
製品の工場出荷時に、ステッチバランスはすべて入念にチェックされ、調整済みの状態になっています。

異なる種類の布地、糸、安定紙および芯等を使うことにより、プログラムされたステッチが均一にならず、重なってしまったり、離れすぎてしまったりということも起こり得ます。

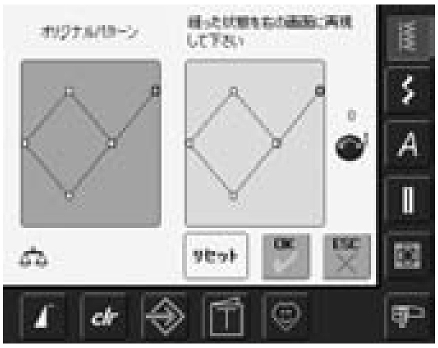
そのような場合には、バランス機能を使って調整を行います。

実用縫いおよび飾り縫いのバランス

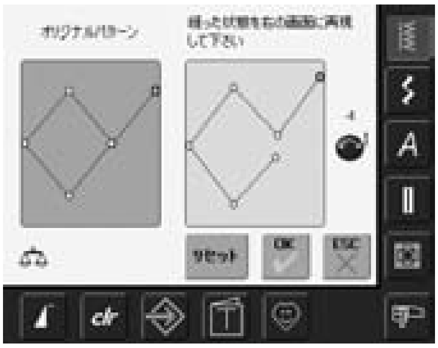
ジャージーやトリコット等の柔らかい素材を縫う場合、布地が押え金の下で伸びてしまい、結果的にステッチも伸びてしまうことがあります。例えば、ハニーコームステッチ等は、広がって伸びてしまうことが多いです。逆に、分厚い布地の場合、縫い目が重なって、詰まってしまうこともあります。これらの問題点は、バランスの調整を行えば、簡単に解決できます。



バランスを開く
・「バランス」機能のボタンをタッチ



バランス画面
・バランスの特殊画面が開く。
・左半分には、ステッチのオリジナルフォームが表示されています。
・右側には、修正後のステッチの状態が表示されます。
・ステッチの修正は、ソーイングしながらでも可能です（画面は開いておく）。



修正
・作業中のステッチ（ここではハニーコームステッチ）が、広がった状態になってしまっている場合。
・ステッチの送り長さダイヤル（画面上にブルーでシンボルが表示されています）を回して、画面右側に表示されたステッチの状態を、現状に近づけます。

保存および画面を閉じる
・「OK」をタッチ
・修正は保存され、バランス画面が閉じます。

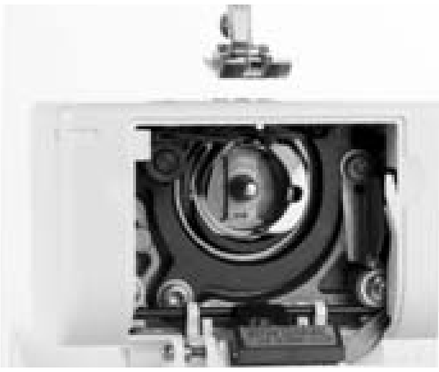
画面を閉じる
・「ESC」をタッチ。
・バランス画面が閉じて、前画面に戻ります。

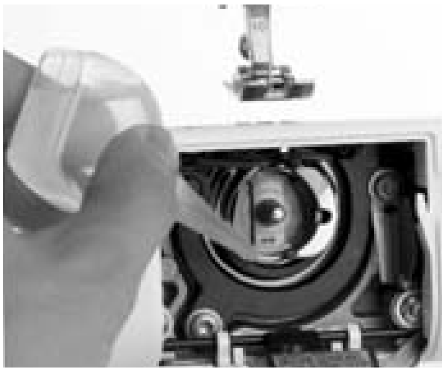
修正を削除する
・「リセット」をタッチ。
・選択したステッチに関する修正が、削除されます。

ミシンのお手入れの方法　640型／630型

ミシンを気温の低い場所に保管している場合は、使用する前に1時間ほど、暖かい部屋に置いておくようにして下さい。

640型





針板を取り外してクリーニング

糸くずや毛羽は、針板と釜の間にたまりますので、定期的に掃除するようにして下さい。

- 電源をオフにして、コードをコンセントから抜きます。
- 押え金と針を取り外します。
- 釜開閉カバーを開きます。
- 針板の後ろ右の角を押し込んで持ち上げ、取り外します。
- 付属のブラシで掃除します。
- 針板を戻します。

画面とミシンの掃除

- 湿ったソフトクロスで拭きます。

釜の掃除（640型）

- 電源をオフにして、コードをコンセントから抜きます。
- ボビンケースを取り外します。
- 大釜レースの周囲を掃除します。その際、金属などの尖ったものは使用しないで下さい。
- ボビンケースを戻します。

釜の掃除（630型）

- 中釜取り外しレバーを左に押します。
- ロッキングレバーと黒い樹脂の中釜押えが開きます。
- これで、中釜を外すことができます。
- 中釜を元に戻します。必要ならばはずみ車を動かして、釜ドライバーが左に来るようにして下さい。
- 中釜押えを閉じて、ロッキングレバーで固定します。ピンがしっかり止まるようにして下さい。
- はずみ車を動かして、動きを試します。

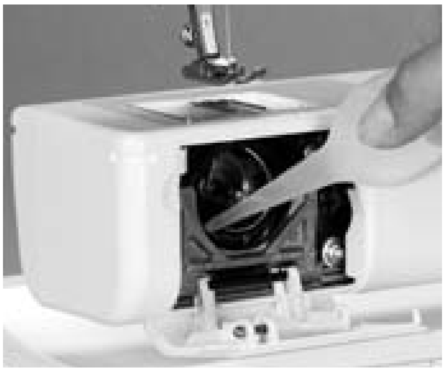
注油について

- 電源をオフにして、コードをコンセントから抜きます。
- ミシンオイルを1滴だけ、釜レースに落とします。
- ミシンを短時間動かして、オイルを行き渡らせます。オイルで作品を汚さないよう、作業中は糸を取り外しておきましょう。

ご注意
クリーニング、注油の前には、必ずコードをコンセントから抜いておきましょう。

重要
シンナー等の溶剤の入った洗剤は、絶対に使わないで下さい。

630型



ベルニナは、環境保護法に沿った製品デザインと製造のテクノロジーを常に向上させることで、当社の製品が環境に与える影響をできるだけ少なくするよう努力しています。

ベルニナ製品を廃棄する際には、所属する自治体のガイダンスに従い、絶対に環境を破壊しない方法を遵守するようにお願い致します。一般家庭ゴミに出すことは絶対にしないで下さい。詳しくは、お近くのベルニナ正規取扱店にお問い合わせ下さい。

032338.50.10_0602_a630_a640_JA

トラブルシューティング

故障かな？と思ったら次の要領でまず お調べ下さい。

チェックポイント
・上糸と下糸が正しくかかっていますか。
・針が正しく取り付けられていますか（平らな部分を後ろ側にします）。
・針は、針と糸の一覧表を見て、正しいものを使用して下さい（17ページ参照）。
・ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。外釜の掃除も忘れずに。
・上糸テンションディスクの間や、ボビンケースの糸みちのごみを取り除いて下さい。

上糸切れの原因となるポイント
・上糸テンションが強すぎる。
・針の品質が良くない（ベルニナ正規販売代理店でお買い求め下さい）。
・針が正しくセットされていない（平らな部分を後ろ側にして下さい）。
・針先がつぶれている、または曲がっている。
・糸の品質が良くない（こぶがあったり、ささくれていたり、古くて乾燥しすぎている等）。
・正しい糸こま押えを使用していない。
・針板の糸穴や釜のけん先に傷がついている。このような場合には、ベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。

天秤に絡みついた糸を取り外すには
糸が切れて、糸クズが天秤に絡みついた場合には、以下の方法で取り除くことができます。
・電源をオフにします。
・付属のL型特殊レンチで、ミシン左側面のヘッドカバーのネジを外します。
・ヘッドカバーを左側に引き出します。
・糸クズを取り除きます。
・ヘッドカバーを元に戻し、ネジを締めます。

下糸切れの原因となるポイント
・下糸テンションが強すぎる。
・ボビンケースの中で、糸がからまっている。ボビンを取り出し、チェックしてください。
・針板の針穴に、傷がついている。このような場合には、ベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。
・針先がつぶれている、または曲がっている。

スクリーン上でタッチしたボタンと違う機能やステッチが起動する
・スクリーンの調整を以下の手順で実行してください。
・ミシンの電源を切ってください。
・左向きと右向きの針基線ボタンを左手指で両方同時に押したままで、電源スイッチを入れます。
・調整画面が表示されたら左手をボタンから離します。
・96ページを参照して、画面の調整をしてください。

目飛びの原因となるポイント
・針が正しくない。ベルニナ純正の130/175Hサイズの家庭用ミシン針を使用して下さい。
・針先がつぶれているか、曲がっている、または正しくセットされていない（針は一杯まで差し込んで止めて下さい）。
・品質の悪い針を使っている、または針がさびている。
・布地に合った針を使っていない。ニット地にはボールポイント針を、レザーにはカッティングポイント針を使いましょう。

針折れの原因となるポイント
・針の止めネジの締め方が十分でない。
・縫い終わった後、布を手前に引いてしまった。
・厚地を縫っていて、針が布地に刺さっている状態で布を押している。ジーンズ用押えを使いましょう。
・質の悪い糸を使っていた（糸よりが均一でない、こぶがある等）。
・針については、16ページをご覧ください。

縫い目が乱れる原因となるポイント
・テンション皿に糸くずが残っている。そのような場合には、薄い布を半分に折り、織り目の部分をテンション皿にはさんで、上下に動かして掃除します。
・ボビンケースのテンションばねの内側に、糸くずが残っている。
・下糸がボビンケースの角に通っている。
・上糸、下糸の糸通しを再確認してください。
・糸こま押えのサイズが正しくない。
・前ページを参照して、釜の掃除をしてください。

分厚い布を縫うことができない場合
・糸が針に対して太すぎるなど、針と糸の番手が合っていない。
・段差では高さ調節板を使ってください。

ミシンが回転しないか、高速にならない原因
・電源コンセントが正しく入っていない。
・電源スイッチがオフになっている。
・室温が低すぎミシンが冷え切って十分に機能しない。

ソーイングライトが点灯しない
・当ミシンに装着されているソーイングライトの交換は必ずベルニナ正規販売代理店にお申し出ください

ソーイングライトの交換
・必ずベルニナ正規販売店にお申し付けください。

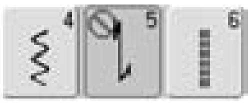
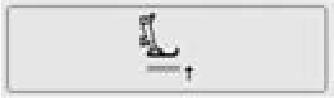
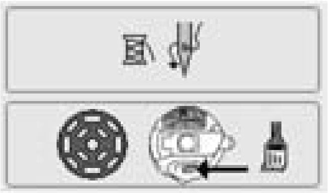
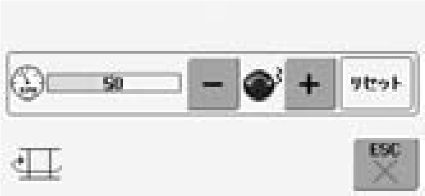
上糸が切れてもミシンが止まらない
・上糸センサーがセットアッププログラムでオンになっていない。

下糸センサーが正常に作動しない
・釜カバーが閉じられていない。
・セットアッププログラムで下糸センサーがオンになっていない。
・ボビンケースの内部や、釜周辺の糸くずなどがセンサーを妨害している。
・ボビンが反対向きにボビンケースにセットされている。
・間違ったボビンやボビンケース（ベルニナ180用など）を使っている。

アップデートのエラーについて
アップデートが終了せず、砂時計マークが表示されたままになっている場合には、以下の方法をお試し下さい。
1．一旦、ＵＳＢスティックを取り外し、コンピューターの電源をオフにします。
2．再度コンピューターの電源を入れて、スクリーンに表示されたメッセージに従い、アップデートの作業を進めます。

各種のスクリーン・メッセージ

ガイド説明、ご注意、警告、確認などが必要な場合に、次のようなメッセージが画面上に表示されます。

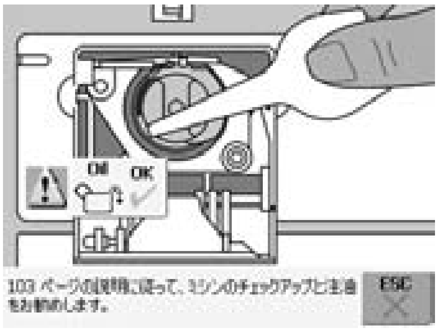
	メッセージ	内容
	警告	ある機能を実行する時に、何かしなくてはならないこと、または必ず知っておくべき重要な情報です。
	確認	データの削除等、本当に実行してよいのかを確認します。
	安全プログラムがオンになっています。	確認して、必要ならば、オフにして下さい。
	このステッチ番号は存在しません。	正しいステッチ番号を入力して下さい。
	**コンビモードではこのパターンを縫うことはできません。**	5番のステッチは、コンビモードで使うことができません。このステッチを選択しても、ミシンは反応しません。
	**送り歯をソーイングポジションに上げて下さい。**	《送り歯上下操作》ボタンを押して下さい。送り歯の位置が変われば、メッセージは自動的に消えます。
 640型のみ	**糸切れ、糸がない、または糸クズが糸コントロールのスリットに挟まりました。**	上糸と下糸をチェックします。必要ならば釜の周囲をクリーニングして下さい。　ボビンの回転方向の向きも確認、間違ったボビンやボビンケースを使っていませんか？
	**下糸巻取装置がオンになっています。**	下糸巻取装置のスピードは、振り幅ダイヤルまたはスクリーン上の《十》《一》ボタンで変更できます。下糸巻取装置をオフにするか、または《ESC》を押せば、メッセージは自動的に消えます。
	押え金を下げて下さい。	押え金を下げれば、メッセージは自動的に消えます。

押え金を上げて下さい。

押え金を上げれば、メッセージは自動的に消えます。

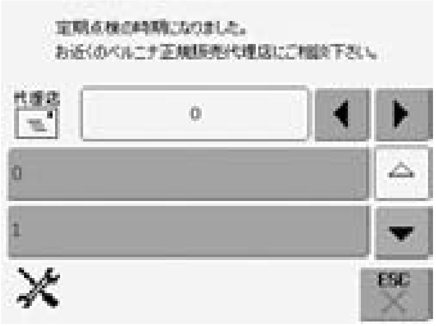
針が押え金、または針板に当たります。

安全スクリーンで、セッティングを確認して下さい。



クリーニング、または注油が必要です。

やり方の詳細は取扱説明書の103ページをご参照下さい。この注意は、18万針ごとに表示されます。クリーニングと注油を完了したら、スクリーンの《OK》をタッチして下さい。《ESC》をタッチすれば、一時的にメッセージを消すことができますが、縫い始めるとまた同じメッセージが表示されます。《ESC》を 3 回押すと、次のクリーニングおよび注油時期のメッセージは、また18万針を縫った後に表示されます。



定期点検のお知らせ。

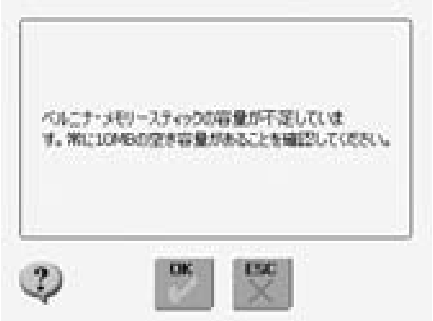
定期点検のお知らせです。ミシンをお近くのベルニナ正規販売代理店にお持ち下さい。このメッセージは、200万針を縫うごとに表示されます。代理店で点検が終わると、ステッチカウンターは 0 にリセットされ、当分の間、メッセージは表示されません。《ESC》をタッチすれば、一時的にメッセージを消すことができますが、また縫い始めると同じものが表示されます。《ESC》を 3 回押すと、次の定期点検のメッセージは、400万ステッチ後に表示されます。

データの削除または上書き（メモリーボックス等）。

《OK》で確定するか、《ESC》でキャンセルします。

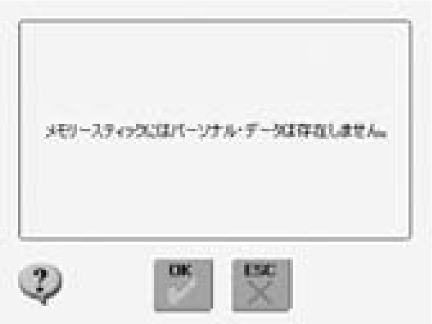
メインモーターが動きません。釜をチェックして下さい。

釜やボビンケース周辺の糸クズを取り除きます。



ベルニナ・メモリースティックの空き容量が不足しています。

ベルニナ・メモリースティックから不要なデータを削除して下さい。



アップデートファイルが不完全です。

ベルニナメモリースティックには、パーソナルデータが保存されていません。正しいメモリースティックを入れたかどうか、確認して、ミシンを再起動して下さい。

保存したセッティングや
パーソナルデータがありません。

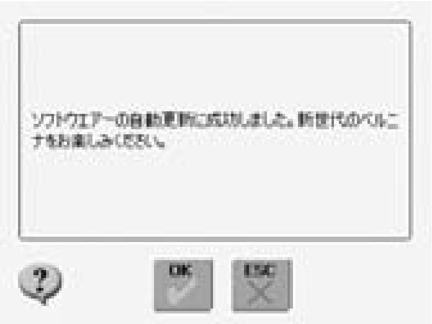
３回続けて、パーソナルデータが見つからなかった場合に表示されます。自動更新はキャンセルされます。ソフトウェアのアップデートは成功しましたが、パーソナルデータは保存できませんでした。

ベルニナメモリースティックが
挿入されていません。

アップデートデータを含むベルニナメモリースティックを、ミシンにセットします。自動更新が完了するまで、取り外さないようにして下さい。

アップデートが実行できませんでした。

ソフトウェアは、ミシンに残るオリジナルバージョンのままです。アップデートデータの入ったベルニナメモリースティックをミシンにセットし、再度アップデートを開始します。またベルニナメモリースティックに保存されたアップデートのデータをチェックしてみましょう。すでに最新のソフトウェアバージョンがミシンに入っている場合も考えられます。



アップデートが完了しました。

ミシンに最新のソフトウェアバージョンが入り、使用可能です。

ソーイング・アイデアのメモ

刺しゅう機を準備する

前面

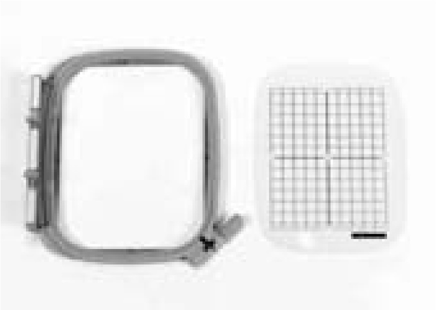
背面

1. 刺しゅう機上面
2. 刺しゅうアーム
3. 刺しゅう枠取付け金具
4. アクセサリー用ボックス
5. 右側接続用ラグ
6. 中央接続用ラグ
7. ミシンとの接続コード
8. コード収納ホルダー

ミシン側面（はずみ車側）には、刺しゅうカードやモデム接続用のスロット、コード接続用ソケット等があります。詳しくは、ミシンの取扱説明書7ページをご覧下さい。

標準アクセサリー

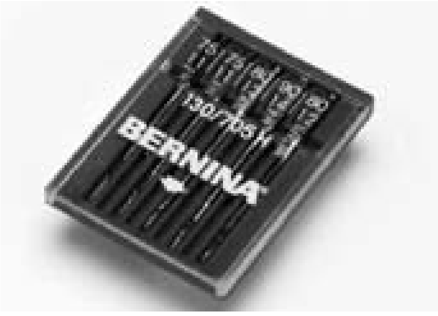
・大型楕円刺しゅう枠（145×255mm）
・楕円形刺しゅう枠用テンプレート
（アーティスタ640/630 V.01）



・中型の刺しゅう枠（100×130mm）
・刺しゅう枠用テンプレート（640型のみ）

・刺しゅう用押え金No.26
・上糸の糸こま用ネット
糸が均一に送られるよう、上糸の糸こまにかぶせて使用します。

・刺しゅう用ボビンケース（640型のみ）



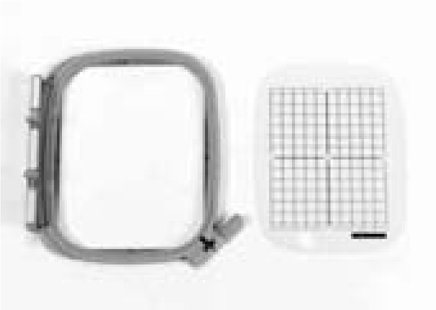
・刺しゅう針セット

・刺しゅう機用ソフトバッグ

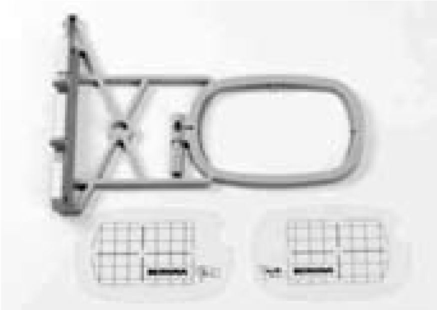
・刺しゅう用ソフト接続USBコード

・刺しゅうソフト「エディターライト」インストール用CD-ROM

別売りオプションのアクセサリー＊

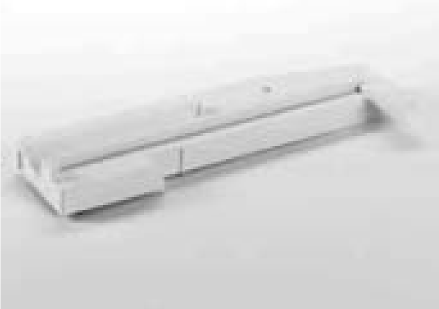


・中型の刺しゅう枠（100×130mm）
・刺しゅう枠用テンプレート
（640型では標準装備）



・小型刺しゅう枠（72×50mm）
・青いテンプレートは、通常の刺しゅう用
・赤いテンプレートは、フリーアーム刺しゅう用です。

・メガフープ（150×400mm）
・メガフープ用テンプレート
（アーティスタ640/630 V.01）

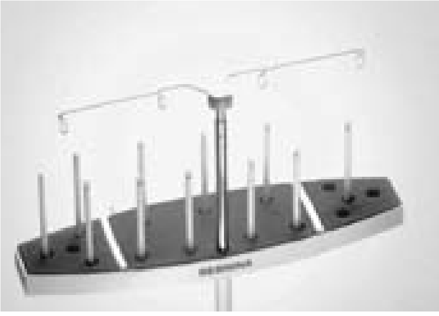


・フリーアーム刺しゅう用アダプター

・直線縫い針板

・ベルニナメモリースティック

・アーティスタ刺しゅうソフトウェア
・オートデザイナーV3
・デザイナープラスV3



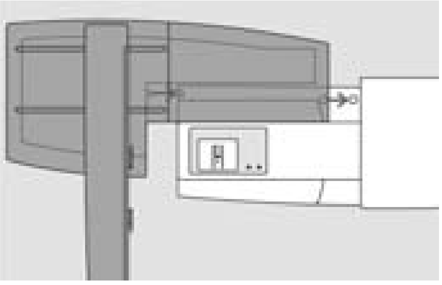
・マルチスプールホルダー

・ミシンおよび刺しゅう機キャスター付キャリングケース

・ベルニナ刺しゅうカード
・ミニマジックボックス

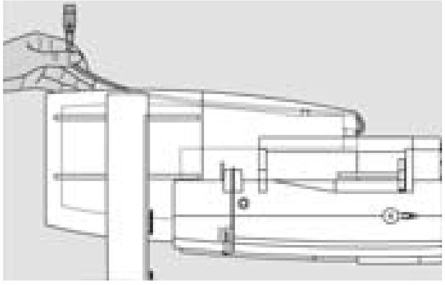
＊国により仕様が異なります。

刺しゅう機をミシンに接続する



刺しゅう機をミシンに接続するには

・刺しゅう機を図のようにしてミシンのフリーアームの後ろ側に置きます。
・刺しゅう機を、左側からミシンに沿わせるようにして、スライドさせると、ベースプレートの突起がきちんとはまります。

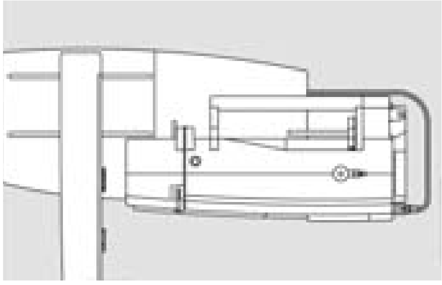


コードを取り出すには

・刺しゅう機についているコードでミシンに接続します。
・刺しゅう機背面のホルダーから、コードを取り外します。

ご注意
刺しゅう機を接続する際は、ミシンを平らな場所に置いて下さい。

ご注意
運搬の際には、ミシンと刺しゅう機を取り外して下さい。接続したままで運ぶのは、危険です。



コードを接続する

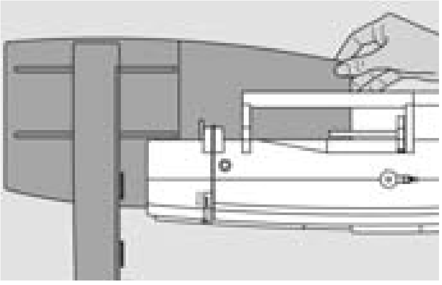
・プラグの平らな面を手間に向けて持ちます。
・ミシンの右側にあるソケットにプラグを挿入します。

コードを外すには

・プラグ本体をつまんで引き抜きます。

コードを刺しゅう機に収納

・コードを刺しゅう機の後ろ下側にある収納タブにはめ込めます。
・コードを収納用タブにはめ込みます。

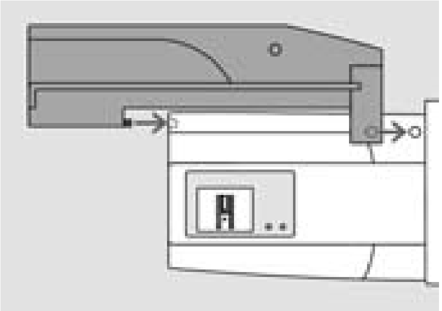


刺しゅう機を取り外す

・刺しゅう機の右後方コーナー部分に、手を当てて、
・刺しゅう機を持ち上げ、左側にスライドさせながら外します。

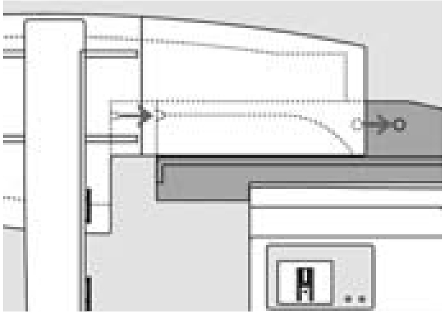
フリーアーム・アダプター（オプション）を接続するには

袖、ズボンの裾、子供服、ソックス等の筒状のものに刺しゅうをする際、ミシンにアダプターを取り付けて刺しゅう機をセットします。



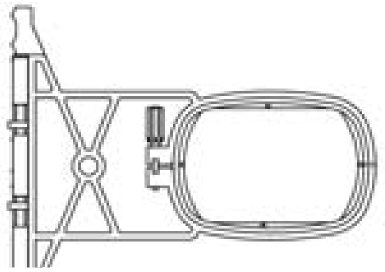
アダプターをミシンに取りつける

・アダプターを、フリーアームの後ろ側でミシンに沿っておきます。アダプターの突起がベッド面の穴にはまれば、接続完了です。



刺しゅう機をアダプターに取り付ける

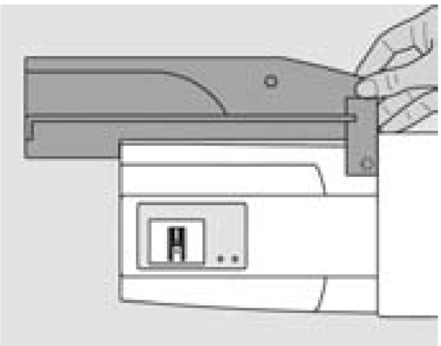
・刺しゅう機を、図のようにして、アダプターの上に置きます。その時、刺しゅう機の手前を、アダプターの右側にできるだけ近づけるようにします。
・左側から、刺しゅう機をガイドに沿って押します。ベースプレートで、突起がはまれば、接続完了です。



フリーアーム刺しゅう枠

・小型の楕円形刺しゅう枠を使います。

ご注意
フリーアーム刺しゅうには、この小型の枠以外は使えません。

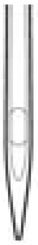


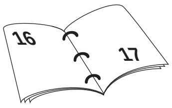
アダプターを取り外す

・図のように、アダプターの右側、後方部分に指を入れて、
・アダプターを持ち上げるようにして取り外します。

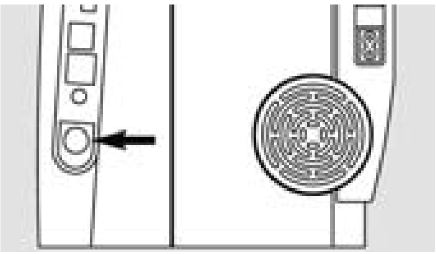
刺しゅうの準備

刺しゅう用押え金26番
- 刺しゅう用押え金26番を取り付けます。
- 刺しゅう枠が取り付けられるよう、押え金は上げておきます。

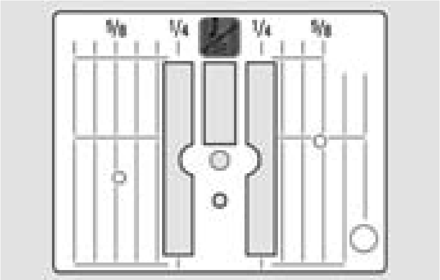




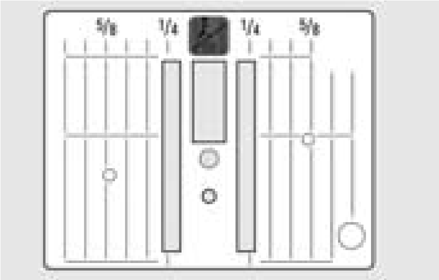
刺しゅう用針
- 使用する刺しゅう糸によって、75番から90番の間で選びます。
- 刺しゅう用糸やメタリック糸を使う場合には、それぞれ刺しゅう専用針（130N）や、メタフィル針を使うようにします。
- 傷のない、新しい針を使いましょう。
- 刺しゅう枠を取り付ける時には、針は上に上げておきます。



送り歯を下げる
- ミシンの右側面、下にある送り歯ドロップボタンを押して、送り歯を下げておきます。

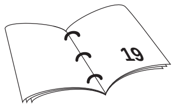


640型

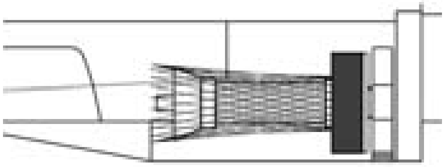


630型

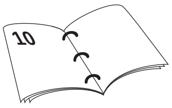
直線縫い用針板（オプション）
- 直線縫い用針板には、小さな針穴が開いています。針の入る穴（つまり、上糸と下糸がつながるステッチとなるところ）が小さいため、刺しゅうの仕上がりがきれいになります。
- 標準装備の針板をはずして、こちらを取り付けます。

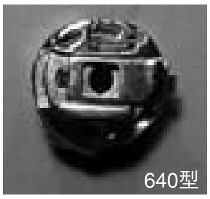


上糸および下糸の通し方



上糸を通す
- ポリエステル、レーヨンまたは滑らかな刺しゅう用の糸を使用する場合には、上糸の糸こまに、附属品のネットをかぶせておきます。
- 糸が滑り落ちずに、絡まったりせず、仕上がりがきれいになります。

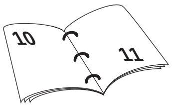


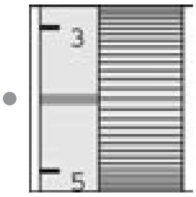


640型

630型

ボビンケースのつの下糸を通す
- 刺しゅうでは、ボビンケースのつの部分にも糸を通しておきます。





630型のみ

糸調子の調整

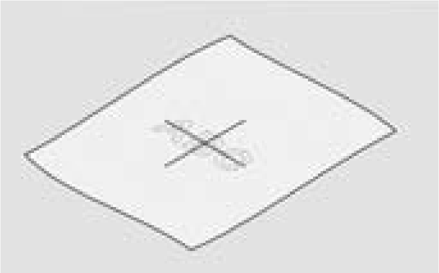
アーティスタ640型では自動的に調節されますが、630型では、糸調子をマニュアルで調節します。
- 刺しゅうの糸調子は、4程度です。
- 特殊な布や、特殊なケースでは、必要に応じて調整を行います。

垂直糸立て
- メタリック糸、またはねじれては困るような特殊な糸を使用する場合には、折りたたみ式の垂直糸立て棒を使います。
- または、オプションのマルチスプールホルダーを使うと便利です。

ご注意
ソーイングのときと同様、刺しゅうをしながら同時に下糸を巻くことも可能です。

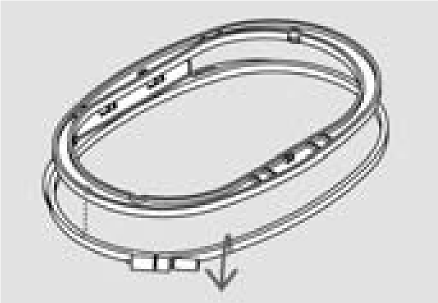
ご注意
下糸のインディケーターは、ボビンカバーが閉じている場合のみ有効です。ボビンケースを挿入した後、ボビンカバーを閉じましょう（センサーは、セットアッププログラムでオンにしておく必要があります）。

布を刺しゅう枠にセットする



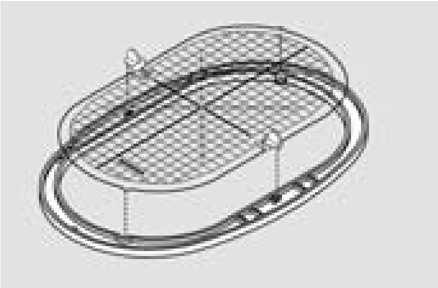
布に中心点をマーキング

・刺しゅうの生地の中心点を決めます。
・布用ペンまたはチョークで印をつけます。



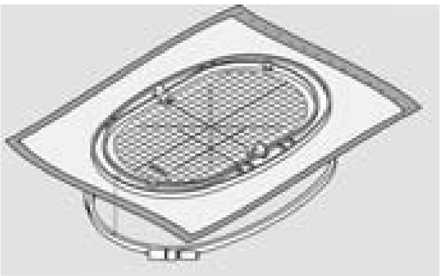
刺しゅう枠を使用するには

・外枠のネジをゆるめます。
・内枠を外します。
・はめるときには、両方の枠についている矢印を合わせます。
・矢印の位置は、中型枠、大型枠、およびメガフープでは手前中央に、小型の枠では右側です。



刺しゅう用テンプレート

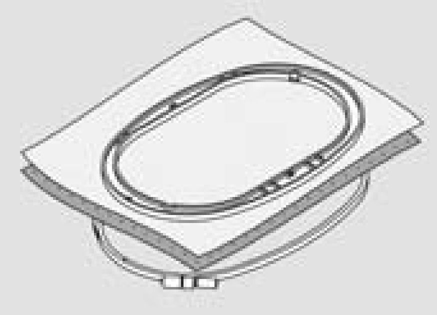
・刺しゅう枠にはそれぞれテンプレートがついています。
・刺しゅう可能な範囲に、1センチ目盛りの格子が描かれています。
・中心点および各コーナーには、穴が開いているので、ここに針を通して布地に印つけができます。
・テンプレートは、「BERNINA」の文字が、右下に位置するように、両側のクリップを持って（小型と中型テンプレートでは指穴を使って）、内枠にセットします。
・テンプレートが、内枠にきちんと収まっているのを確かめます。
・テンプレートを外す際には、指穴、またはクリップをつまんで外します。



布を刺しゅう枠にセットする

・布地を平らな面に置きます。
・内枠を持って、テンプレートの中心点を、布地につけた中心点に合わせて位置を仮決めします。
・生地と内枠を一緒に持って、内枠と外枠の矢印が同じ方向に向いていることを確かめながら、外枠の上に置きます。
・内枠を布の上に押しつけて、はめ込みます。その際、生地の厚みによっては、ネジをゆるめて下さい。布にしわが残らないように、均一に、かつ太鼓のようにパンパンに張り、ネジを締めます。
・ テンプレートを外します。

刺しゅう用安定紙について



破り取れる安定紙（ティアウエイ）

- 芯地で、縫い終わった後で紙のように破れるものです。
- 1枚、または複数枚を同時に使用できます。
- いろんな厚さのものがあります。
- しっかりと安定させたい場合には、接着タイプを使うか、布の裏側に、スプレー糊を使って接着してから、刺しゅう枠にセットするとよいでしょう。
- ステッチが終了したら、ていねいに強く引っ張らないように安定紙を破り取ります。
- 刺しゅう箇所の裏側には、安定紙が残った状態になります。

使い方

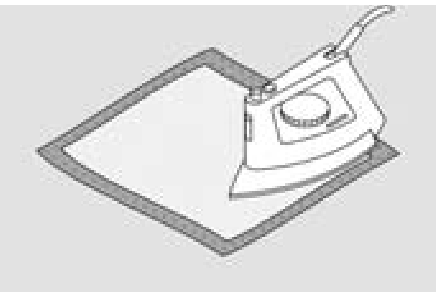
目の粗い布地や､伸縮性のない生地に最適です。

切り取れる安定紙（カット・アウエイ）

- ティアウエイのように破れない芯地ですが、ティアウエイよりはしなやかで、はさみで不要な部分をカットするタイプです。
- いろんな厚さのものがあります。
- 1枚、または複数枚を同時に使えます。
- しっかりと安定させたい場合には、接着タイプを使うか、布の裏側に、スプレー糊を使って接着してから、刺しゅう枠にセットするとよいでしょう。
- ステッチが終了したら、安定紙をはさみで切り取ります。
- 刺しゅう箇所の裏側には、安定紙が残った状態になります。

使い方

どんな布地にも使えますが、特にニットに最適です。



アイロン接着芯（洋裁に使う薄地）

- ご使用前にぬるま湯に浸して縮ませおくのが理想的です。
- 布裏にアイロン接着します。
- いろんな厚さのものがあります。
- あとから、刺しゅう部分以外をはがせるタイプのものもあります。

使い方

- 刺しゅうする生地の織り目や形状をまず補強するものです。
- これだけでは刺しゅうに十分では無く、適当な安定紙と一緒に使うことをお勧めします。

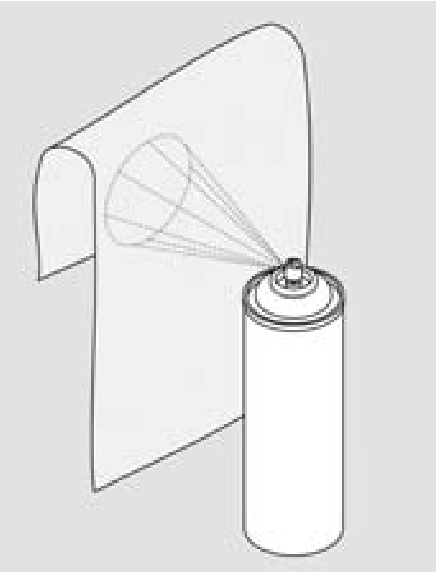
のり付き安定紙（置き打ち式）

- 台紙をはがして使います。
- 安定紙を刺しゅう枠の裏側に貼り付けます。刺しゅう枠をセットしたときに、糊のついた側が表を向くようになります。
- 布をその上に固定して、刺しゅうします。

使い方

- ジャージーやシルクのような、繊細な布地、またはベルベットやパイル地、皮などのように、刺しゅう枠にセットするのが難しい布地に使います。
- 小さな布片や皮など、刺しゅう枠に嵌められない時にも便利です。

> のり付きのシール状の安定紙を使用した場合、針、針板、刺しゅう枠の周囲等に、糊のべとつきが残っていないかを確認してください。



スプレー式糊について

- 刺しゅう機のそばで、スプレー式糊を使うのはお止め下さい。
- 布をよりしっかりと安定させるために、安定紙にスプレーした後、布の裏側に貼り付け、布をそっと伸ばすように撫でます。これで引きつらなくなります。
- スプレー糊を噴霧する場合には、必ず25cmから30cmくらい離して吹きかけて下さい。

使用するメリット

- 伸縮性のある布やニット地をしっかり固定させるのに最適です。
- アップリケを希望の位置にしっかりと固定して、縫うことができます。
- 2枚や三枚の布を重ねて刺しゅうする場合、ずれることがないので便利です。
- ポケットのふた部分等の小さな布を安定紙に固定すると、便利です。
- ベルベット等の毛足の長い布は、刺しゅう枠にはめ込むと、跡がついてしまう可能性があるので、スプレー糊が便利です。

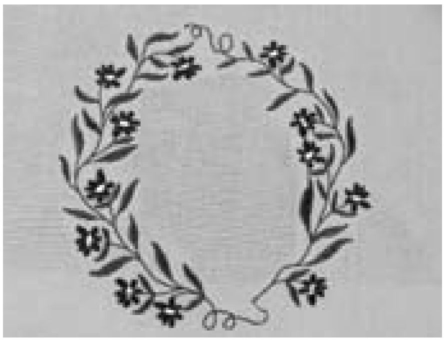
水溶性安定紙
（タオル地またはレース刺しゅうに使用）

- 水溶性安定紙は、商品ラップのような外見で、オブラートのような性格の素材で糊で作られています。
- 刺しゅうが完成したら、ぬるま湯につけて溶かします。溶かす程度によっては糊が残りますので、仕上げをしっかりさせたいときは、軽くゆすぐ程度、やわらく仕上げるときはしっかりと糊を洗浄します。
- タオルのような、毛足の長い布地を使用する際には、最適の保護材です。刺しゅうステッチが長い毛足の生地に埋もれるのを防ぎ、またステッチの間から土台布が覗くのを防ぎます。
- タオル等を裏側から安定紙で補強、水溶性安定紙を上にかぶせます。
- 必要ならば、スプレー糊で固定します。
- 毛足の長い布地の場合には、必要に応じて複数の安定紙で裏側から補強しておきます。
- レース刺しゅうの場合には、水溶性安定紙を複数枚重ねて、刺しゅう枠にセットします（この場合、安定紙を溶かした後には、刺しゅうデザインのみが残ります）。
- 水溶性安定紙を溶かした後には、デザインは平らな場所に置いて、乾かします。
- 水につけられない布地（ベルベット等）に重ねて使用した場合には、そっと破り取ることも可能です。

使い方

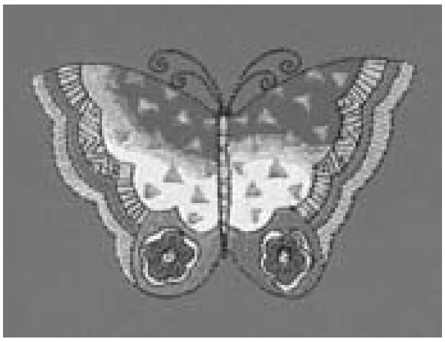
- タオル、ベルベット、ニット等
- 繊細で薄手の布地（オーガンジー、バティスト等）
- ステッチ数の少ないデザインの安定紙として
- レースデザインの作成には、厚手の水溶性安定紙か、または薄いものを何枚か重ねて使います。

刺しゅうに関する一般知識



刺しゅうデザインを選ぶ

- 薄手の生地を縫う場合には、ステッチ数が少ない、単純なデザイン（色数も多く、刺しゅうの方向が一定でないもの）は、分厚い生地が適しています。



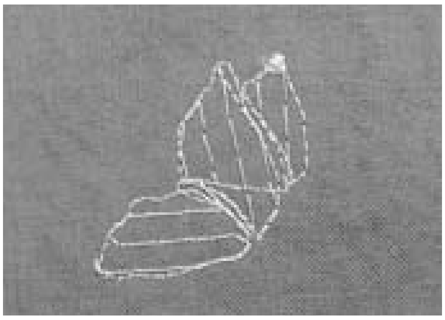
刺しゅうテスト

- テスト用の布を用意して、いつでもまず試縫いをしましょう。色、糸の質、針、ステッチの数、テンション等の調整が必要かどうかもこの時に確認します。
- 試縫いには、実際に使用する生地と安定紙を使いましょう。

デザインのサイズ

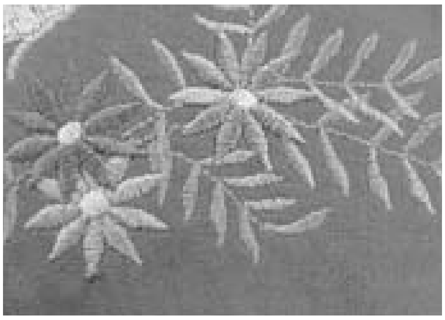
- デザインは、パソコン上で「アーティスタ刺しゅうソフト」を使って編集します。

いろいろなステッチ



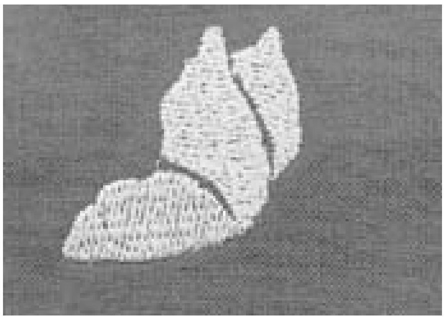
アンダーレイステッチ

・アンダーレイステッチは、デザインの基礎となる部分であり、生地を安定させ、その形を保たせるために使われます。また、ニットなどの生地に、ステッチが沈み込んでしまうのを防ぐためにも使われます。



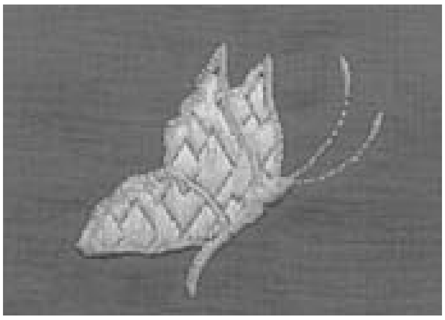
サテンステッチ

・ジグザグを細かい目で繰り返し縫うタイプのステッチで、フラットで光沢のある仕上がりになります。
・サテンステッチは小さなスペースを埋めるのに適しています。大きなスペースにサテンステッチを使うと、ステッチの長さが極端に長くなって、糸の間から下地が見えたり、糸がたるんだりして糸が何かに引っかかって切れたりすることもあります。



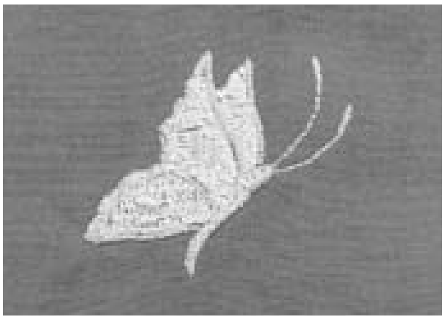
ステップ（たたみ）ステッチ

・特定の長さのステッチを繰り返すステッチです。広い範囲を効率よく埋め込むのに、適しています。



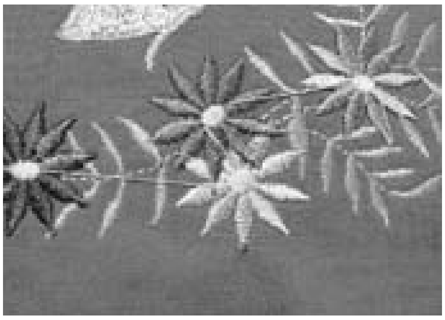
ファンシーフィルステッチ

・その部分に特殊効果をつけるための地模様の入ったステッチです。
・デザインに特殊な効果をもたらせます。



アウトラインステッチ

・直線縫いやサテンステッチでデザインのアウトラインを縫います。
・直線、ダブルラン、トリプルラン、サテンステッチなどがあります。
・アウトラインステッチの例としては、レッドワークがよく知られています。



ジャンプステッチ

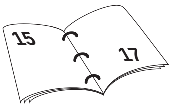
・デザインの一部の刺しゅうが完了し、次の箇所に移動する際に使われる、長いステッチです。
・ジャンプステッチの前後には、止め縫いが自動的に入ります。
・ジャンプステッチは、次の色で刺しゅうを開始する前に、切り取って始末しておきます。

刺しゅう糸について

メタリック糸、またはねじれては困るような特殊な糸を使用する場合には、折りたたみ式の垂直糸立て棒を使います。また、オプションのマルチスプールホルダーを使うと便利です。

刺しゅうをきれいに仕上げる大切なファクターの一つには、糸の品質があります。安物の糸は、でこぼこや糸切れの原因になります。糸に関してのご相談は、ベルニナ正規販売代理店にお尋ね下さい。

つやのあるポリエステやレーヨンの刺しゅう糸を上糸に使用すると、仕上がりが非常に美しくなります。どんな作品にでも使える、幅広い色数がご用意されています。



ポリエステル糸

ポリエステル糸は、丈夫な色落ちしない糸で、どんな刺しゅうにも適していますが、特に子供服や子供用品に最適です。洗濯しても強く、紫外線に当たっても色あせたりせず、強度も抜群です。

レーヨン糸

レーヨンは、つやのある柔らかいビスコースの繊維からできており、細密で繊細な刺しゅうに適していますが、強度はポリエステルに劣り、ウェアラブルや普段着などには向いていません。また紫外線に弱く、漂白剤などでも変色することがあります。

メタリック加工されたポリエステル糸

メタリック糸は、細いものから中太くらいまであり、刺しゅうに特殊効果を持たせるのに適しています。メタリック糸を使用する場合には、針も、130/705H-MET針または130N針等にするとよいでしょう。

刺しゅう用針

- 糸のサイズに合わせて、針のサイズも変えましょう。
- 針の交換は、できるだけ頻繁にするのが糸切れを最小限にするコツです。

刺しゅうに適した下糸

下糸の色は、白か、または生地と合うものにしましょう。

ボビンフィル（特殊な下糸）

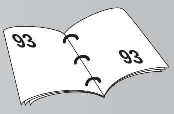
ボビンフィルは、特に柔らかく軽い、下糸専用のポリエステル糸です。この特殊な下糸を使うと、糸調子が安定し、上糸ときちんとからむようになります。

ダーニング用および刺しゅう用糸

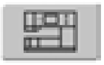
コットンの布に刺しゅうするのに最適なのは、メトラー60ウエイト等のシルケット加工された細かいコットン糸です。

刺しゅうデザインを選ぶ

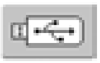
ウェルカム画面
・ミシンの電源を入れよると、ウェルカム画面が数秒間、表示されます。
・次にメッセージを表示します。



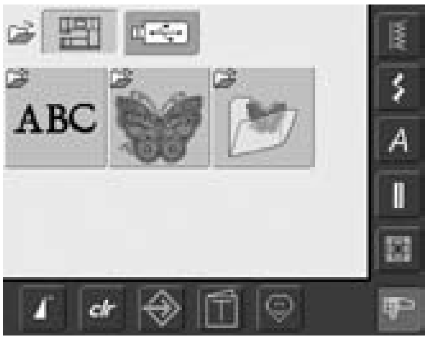
刺しゅうの準備
・刺しゅうの準備に必要なメッセージがスクリーンに表示されます。
  ・刺しゅう枠を取り外して下さい。
  ・刺しゅう用押え金No.26 を取り付けて下さい。
  ・押え金を上げて下さい。
  ・送り歯を下げて下さい。
  ・下糸を、刺しゅう用ボビンケースの糸案内（ピッグテール）に通して下さい。
・以上すべてが完了したところで、《OK》でスクリーンを閉じます。
・刺しゅう枠が移動します。



デザインモード選択画面が立ち上がる
・通常刺しゅう機が接続された状態でスイッチを入れると左のデザインモード選択画面が表示されます。
・デザインモード選択画面の上段ツールバーで「ミシン」アイコンが青色で表示されアクティブになっています。



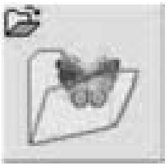
《USBスティック》ボタン
・《USBスティック》アイコンにタッチします。
・ベルニナメモリースティック（別売りオプション）に含まれているデザインが、スクリーンにカラーで表示されます。（スティックが挿入されている場合のみ）
・スクリーン上のボタンを押して、希望のデザインを選びます。



・ミシンに内蔵された、「アルファベット」、「デザイン」および「マイデザイン」のモードからどれか選びます。

アルファベットを選択するには
・「アルファベット」ボタンをタッチします。
・アルファベット書体が表示されます。
・上下にスクロールして、一つを選びます。
・アルファベットキーボードが表示されます。

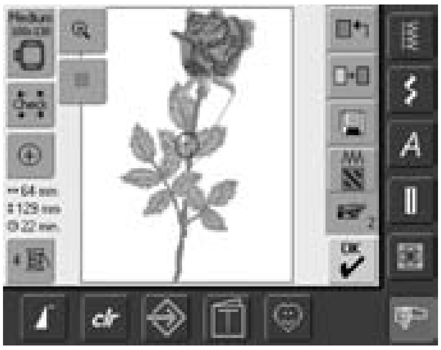
デザインを選択するには
・デザインモード選択画面で「蝶のデザイン」ボタンをタッチします。
・いろんな刺しゅうデザインが、カラーで表示されます。
・デザインにタッチして、刺しゅうデザインを選択します。



マイデザインに登録したデザインを選択するには
・デザインモード選択画面で「マイデザイン」ボタンにタッチします。
・保存してあるオリジナルデザインが、カラー表示されます。
・デザインにタッチして、デザインを選択します。

刺しゅう枠を選択する

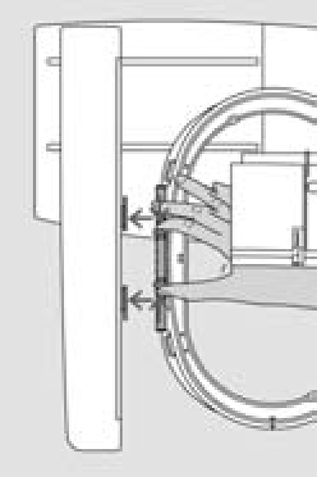
デザイン編集画面1



デザインを一つ選択します。
「デザイン編集画面1」が表示されます。

- 選択した刺しゅうデザインが、最適なサイズの刺しゅう枠に収まった形で表示されます。
- 「刺しゅう枠」オンスクリーンボタンに、どの刺しゅう枠を使うのかが表示されています。
- 指示された刺しゅう枠をセットします。

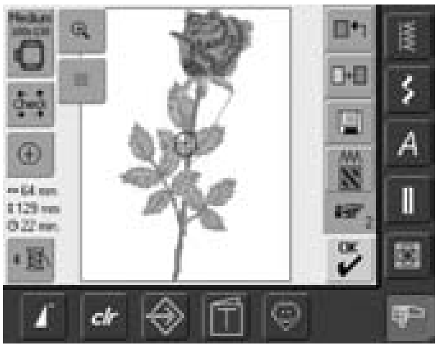
刺しゅう枠をセットする

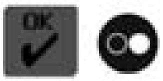


針および刺しゅう用押え金を上に上げる
- 針および押え金を上に上げます。
- 布表を上にして入れた刺しゅう枠を、金具を左側にして持ちます。

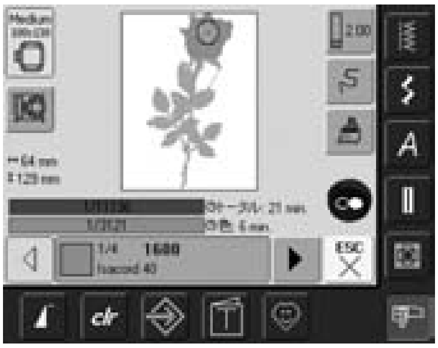
刺しゅう枠をセットする
- 押え金の下に、刺しゅう枠をくぐらせます。
- 刺しゅう枠の横部分についている取り付け用の金具をつまみます。
- 小さな取り付け用クランプの中心点を、刺しゅうアームのブラケットに合わせます。
- 刺しゅう枠を下に押しつけて、取り付けます。
- つまんでいた取り付け用金具を離します。

刺しゅう枠を外す
- 刺しゅう枠の取り付け用金具をつまんで、押します。
- そのまま刺しゅう枠を持ち上げて、取り外します。

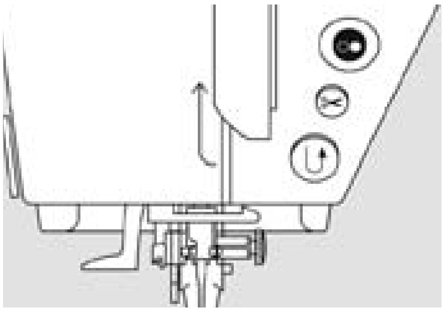




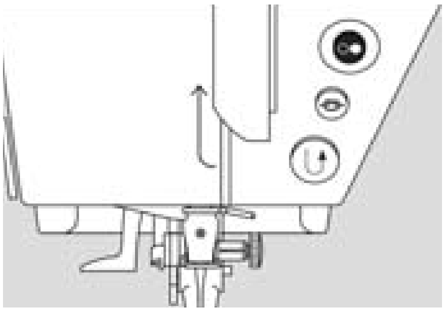
- デザイン編集画面1で「OK」をタッチするか、スタート・ストップボタンを押します。
- 刺しゅう枠が取り付けられているかどうか、ミシンが動いてチェックします。



刺しゅうメニュー（準備画面）
- デザインが表示され、刺しゅうメニュー（準備画面）が開きます。
- 準備ができているので、すぐにステッチできます。



640型



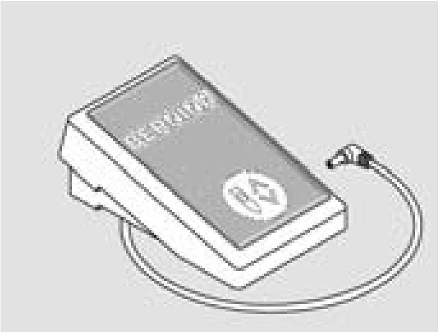
630型

**スタート・ストップボタンで、
刺しゅうを開始する**
・押え金を下げます。
・スタート・ストップボタンをミシンがスタートするまで押します。
・ミシンは7針縫い進めて、自動的に停止します。
・デザインの縫い始めの糸端をカットします。
・再度スタート・ストップボタンをミシンがスタートするまで押して、刺しゅうを開始します。

刺しゅうを中断するには
・自動で刺しゅうしている時は、スタート・ストップボタンを押すか、またはフットコントローラーを軽く踏みます。
・フットコントローラーを使って刺しゅうしている時は、フットコントローラーから足を離します。
・ミシンが停止します。

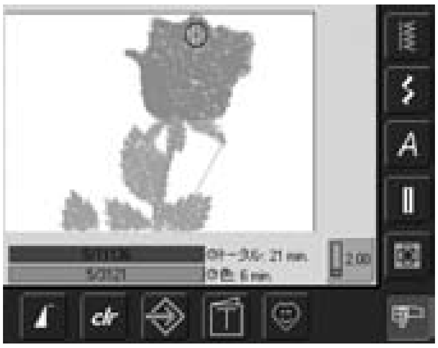
糸の色
・押え金を下げます。
・手元返し縫いボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。
・同色の箇所をすべて刺しゅうし終わると、ミシンは自動的に停止します。
・自動糸カッターで上糸と下糸の両方を自動的にカットします。(640型のみ)
・「次の糸に交換してください」のメッセージが表示されます。
・「OK」をタッチして、確認します。

色を変える
・ミシンは、次の色部分をステッチする準備ができています。
・上糸を交換します。
・刺しゅうを続けます。



**フットコントローラーを使って、
刺しゅうをする**
・スピードを調節したり、細部を注意して縫うのに便利です。
・押え金を下げます。
・フットコントローラーを踏み込みます。
・ミシンは7針縫い進めて、自動的に停止します。
・デザインの縫い始めの糸端をカットします。
・フットコントローラーを踏み続けて、刺しゅうを開始します。

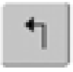
刺しゅう完了後に糸端をカットする
・押え金を上げます。
・刺しゅうアームから、刺しゅう枠を取り外します。
・デザイン間のつなぎ部分の糸を、注意深く取り除きます。



刺しゅう画面
・刺しゅうを開始すると、刺しゅう画面が表示されます。

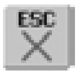
デザインモード選択画面

ミシンの電源をオンにするか。またはソーイングモードから刺しゅうモードに変換すると、デザインモード選択画面が表示されます。「ミシン」アイコンが青く表示されアクティブになっています。



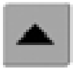
デザインモード選択画面に戻る

- この機能は、「アルファベット」、「デザイン」または「マイデザイン」のどれかのデザインモードを選択したときに、表示されます。
- ボタンをタッチ。
- デザイン選択画面が表示されます。



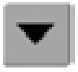
保存デザイン操作画面を閉じる

- デザインメニュー編集1から、デザインモード選択画面を移動したい場合、この機能を使います。
- アイコンをタッチします。
- 保存デザイン操作画面が閉じて、前画面に戻ります。



上にスクロール

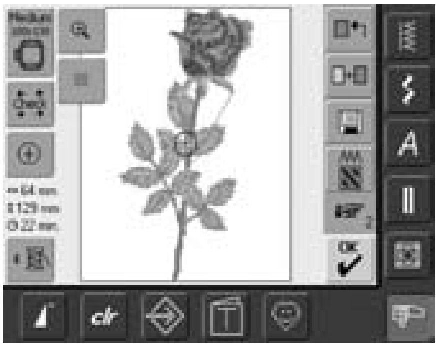
- アイコンを必要な回数タッチします。
- 画面の表示が上にスクロールして、いろいろな選択肢を見ることができます。
- 速くスクロールしたい場合には、アイコンをタッチしたままにします。



下にスクロール

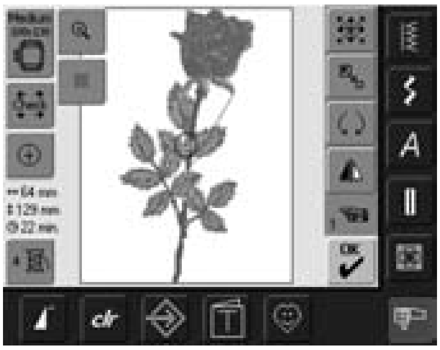
- アイコンを必要な回数をタッチします。
- 画面の表示が上にスクロールして、いろいろな選択肢を見ることができます。
- 速くスクロールした場合には、アイコンをタッチしたままにします。

デザイン編集1と編集2に共通の機能と画面表示



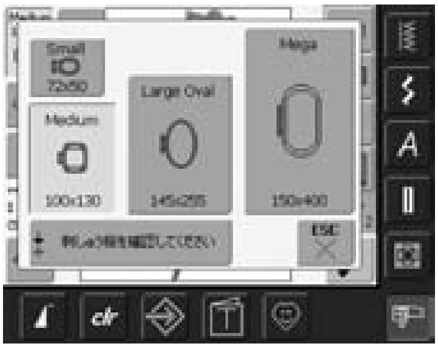
デザイン編集1

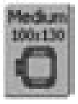
デザインを選択すると、この画面が表示されます。このメニューでは、新しいデザインを選択したり、またはデザインのコンビネーションを作成することができます。



デザイン編集2

デザイン編集2はデザインに変更（デザインの拡大縮小、反転、回転等）を加える際に使用します。



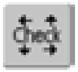


刺しゅう枠を選択する

- 選択したデザインを刺しゅうするのに、最適の刺しゅう枠を表示します。
- オンスクリーンボタンにタッチ。
- 「刺しゅう枠を選択」の画面になります。
- 各刺しゅう枠の刺しゅうに使用できるサイズが、mm単位で表示されます。

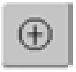
刺しゅう枠の選択（「刺しゅう枠の選択」画面）

- 刺しゅう枠を、小、中、大、特大から選択します。
- 画面は閉じて、選択した刺しゅう枠が、「刺しゅう枠」のオンスクリーンボタンの中に表示されます。
- 《刺しゅう機を確認してください》をタッチすると、刺しゅうデザインの相対位置を確認します。 この際、刺しゅう枠は、取りつけないで下さい。
- 「ESC」をタッチすれば、刺しゅう枠の選択をしなくても、画面を閉じることができます。



チェック

- アイコンをタッチします。
- 刺しゅう枠が垂直方向に移動し、現在取り付けてある刺しゅう枠のサイズに読み込みます。
- 刺しゅう枠の認識が済んだら、《ESC》をタッチします。
- デザインをステッチできる範囲が、4ステップで計測されます。
- 左下部分
- 右上部分
- 右下部分
- 左上部分
- ステッチコンビネーションでは、コンビネーション全体をステッチする場所、および個々のデザインをステッチする場所の両方をチェックすることができます。
- コンビネーションに含まれる希望のデザインを、《Retrieve》のアイコンをタッチして選びます。
- 《ESC》をタッチすると、編集メニューに戻ります。
- 認識された刺しゅう枠が表示されます。
- 刺しゅう枠が取り付けられていなかったり、刺しゅう枠がデザインに対して小さすぎるときには、エラーメッセージが表示されます。



デザインの中心点

- アイコンをタッチします。
- デザインの中心点が、カーソルで表示されます。
- 刺しゅう枠は、針がデザインの中心点に落ちる位置まで、移動します。
- アイコンを再度タッチします。
- 画面では、デザインの最初のステッチがカーソルでマークされます。

デザインのサイズ

- デザインの幅および高さがmm単位で表示されます。

刺しゅうに要する時間

- 選択したデザインを刺しゅうするのに要する時間が、分単位で表示されます。

色の数

- デザインに必要な色の数を表示します。
- アイコンをタッチします。
- 色の数の画面が表示されます（アイコンに再度タッチすれば、画面は閉じます）。

カラーデザインの表示

- 色の順番は、矢印でスクロールすることができます。
- 選択した色の表示は、画面上およびカラーインフォメーションバーに表示されます。
- カラーインフォメーションバーにタッチします。
- 「色およびブランドを変更する」の画面に表示されます。
- 今現在表示されている糸の色またはブランドを変更することができます。

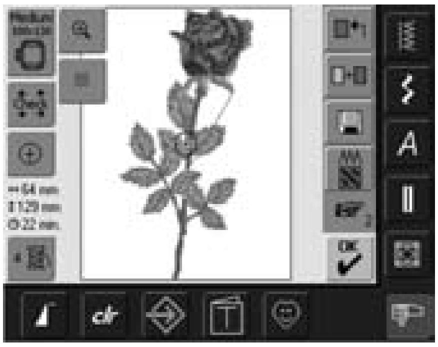
ズーム
・アイコンをタッチします。
・デザインが拡大表示されます。
・もう一度、アイコンをタッチします。
・更にもう一度、アイコンをタッチすると、デザインのサイズは元に戻ります。

画面目盛を表示
・アイコンをタッチします。
・大きな十字が、デザインの中央に表示されます。
・もう一度、アイコンをタッチします。
・画面目盛が表示されるので、デザインをより正確に配置することができます。
・更にもう一度、アイコンをタッチすると、画面目盛は消えます。

モチーフ検索ボタン
この機能は、デザインを組み合わせしている場合にのみ、表示されます。
・アイコンをタッチします。
・コンビネーションの中のモチーフを順に表示します。
・アクティブになったモチーフは、色付きで表示されます。
・目的のモチーフがアクティブになるまで、何回かアイコンをタッチします。

刺しゅうメニュー
・《OK》をタッチします。
・《編集1》または《編集2》から《刺しゅうメニュー》画面に変わります。
・デザインを刺しゅうできます。

デザイン編集1スクリーン

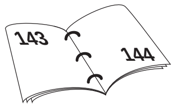


デザインを加える
・「デザインを加える」をタッチします。
・デザインモード選択画面が表示されます。
・新しいデザインまたはレタリングを選択するか、ESCで画面を閉じます。
・画面上に、新しいデザインが追加されて表示されます。

新しいデザイン
・「新しいデザイン」をタッチします。
・今開いている刺しゅうを終わって、デザインモード選択画面が表示されます。
・新しいデザインを選択するか、またはESCで画面を閉じます。

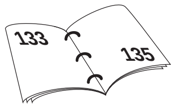
削除
・この機能は、デザインを組み合わせてコンビネーションを作成しているときのみ表示されます。
・アイコンをタッチします。
・選択されているデザインを削除します。削除後は、次のデザインがカラー表示されます。

保存
・アイコンをタッチします。
・「保存」の画面が表示されます。

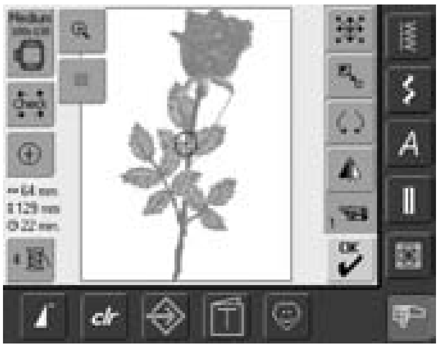


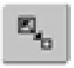
ステッチタイプの変更
(640型のみ)
・アイコンをタッチします。
・特殊スクリーンが開きます。
・サテンステッチをたたみステッチに変更できます。
・ステッチの密度も変更可能です。

次ページ（編集2）へ
・アイコンをタッチします。
・デザイン編集1の画面が、編集2に変わります。



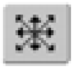
デザイン編集2スクリーン



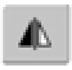


デザインの拡大縮小
・アイコンをタッチします。
・ステッチの振り幅を操作するか調節つまみを示す、ブルーの調節つまみアイコンが表示されます。
・デザインを拡大するには、調節つまみを時計回りに回します。
・縮小するには、時計と反対回りに回します。
・拡大縮小の率が、パーセンテージで表示されます。
・元のサイズ（100%）に戻すには、ブルーの調節つまみアイコンをタッチします。

デザインの回転
・アイコンをタッチします。
・ステッチの振り幅を操作する調節つまみを示す、ブルーの調節つまみアイコンが表示されます。
・デザインを時計回りに回転するには、調節つまみを時計回りに回します。
・時計と反対回りに回転するには、時計と反対回りに回します。
・回転の度合いが、角度で表示されます。
・元の状態（0˚または360˚）に戻すには、ブルーの調節つまみアイコンをタッチします。
・「デザインの回転」をタッチした数だけ、デザインは時計回りに90˚ずつ回転します（90˚、180˚、270˚、360˚の順）。



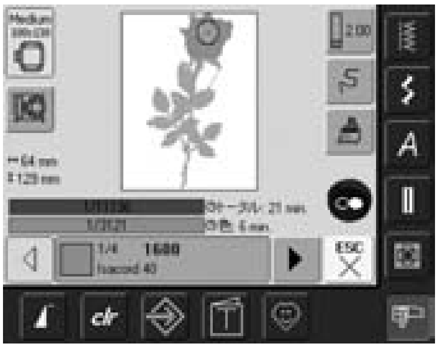
デザインを移動
・アイコンをタッチします。
・ステッチの振り幅および送り長さ調節用のブルーのアイコンが表示されます。
・デザインを横方向に移動するには、振り幅調節つまみを回します。右への移動は、時計回りに、左の移動は、時計の反対方向へ回して下さい。
・デザインを縦方向に移動するには、送り長さ調節つまみを回します。上への移動は、時計回りに、下への移動は、時計の反対方向へ回して下さい。
・ブルーのアイコンの中に、変更した距離が、10分の1mm単位で表示されます。デザインを斜めに移動するには、振り幅調節つまみと送り長さ調節つまみを同時に回します。
・2つのブルーの調節つまみアイコンの中に、同じ数字が表示されるようにすると、デザインは斜めに移動します。
・デザインを中心に戻したいときには、ブルーの調節つまみアイコンをタッチするか、または「デザインの移動」を再度タッチします。



左右に反転する
・アイコンをタッチします。
・デザインは、左右に反転されます。

次ページへ　編集1
・アイコンをタッチします。
・デザイン編集1スクリーンが表示されます。

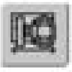
刺しゅうスクリーン



刺しゅうスクリーンは、刺しゅうを実行する画面です。また、単色またはマルチカラーへの切替などの操作も出来ます。

刺しゅう枠の表示

・取り付けられている刺しゅう枠が、刺しゅう可能な範囲のサイズ（mm単位）とともに表示されます。



刺しゅう枠のリロケーター

・この機能を使うと、針が刺しゅう枠の左端に非常に近い位置にある場合の糸通しが簡単にできます。
・アイコンをタッチします。
・刺しゅう枠は、中央に向かって水平に移動します。
・糸を交換して、
・《ESC》ボタンをタッチします。
・刺しゅう枠が元の位置に戻ります。
・スタート・ストップボタンを押して刺しゅうを続けます。

デザインサイズ

・デザインの縦横のサイズを、mm単位で表示します。

デザイン編集1スクリーン

・アイコンをタッチします。
・刺しゅうスクリーン（準備完了）から、デザイン編集1スクリーンに変わります。

刺しゅう時間

・上のバーには、刺しゅうに要する時間および残り時間が表示されます。
・今現在、刺しゅうの中の色に関する刺しゅう時間は、下のバーに表示されます。
・刺しゅうが進むにつれて、上下どちらのバーの残り時間も減っていきます。
・上段に表示される数値：
　・左：現在進行中のステッチの数
　・右：デザインの総ステッチ数
・下段に表示される数値：
　・左：現在進行中の色の中の縫い終わったステッチ数
　・右：現在進行中の色の中の総ステッチ数

カラーインフォメーションバー

・今現在刺しゅうしている糸の色に関する情報が表示されます。
　・今現在の糸の色。
　・糸の色の位置（1番目の数字）
　・色数（2番目の数字）
　・糸のブランドにおける色番号

・左右の矢印で､糸色を変更できます。
・カラーインフォメーションバーをタッチします。
・刺しゅう枠は、今現在の色の最初のステッチ位置に移動します（カーソルのアイコンが、カラーインフォメーションバーに表示されます）。
・カラーインフォメーションバーにタッチすると、今現在刺しゅうしている色を、一つ一つ刺しゅうすることもできます。

塗りつぶし機能

・アイコンにタッチします。
・アイコンがアクティブな場合には、デザイン全体が1色で、止まることなく最後まで刺しゅうされます。
・アイコンがアクティブでない場合には、各色ごとに刺しゅう機が止まります。

針目のトレース（糸が切れた時など）

・アイコンをタッチします。
・特殊スクリーンが開きます。
・スクリーンの左半分に、デザインがオリジナルサイズで表示されます。
・右半分には、デザインの拡大図が表示されます。
・これで刺しゅうの順番をより上手にコントロールすることができます。
・振り幅および送り長さ調節ダイヤルを操作するためのインフォメーションエリアが表示されます。
・振り幅ダイヤルを回すと針目を前後に追跡できます。
・刺しゅう枠が針目を追って、動きます。
・送り長さ調節ダイヤルを回すと、針は刺しゅうの順番どおり、約50針ずつ大きく進みます。
・刺しゅうの先の針目をトレースする時は、振り幅調節ダイヤルを時計回りに回します。
・刺しゅうの縫ったあとの針目をトレースするには、反時計方向に回します。
・調節ダイヤルのガイドボックスに表示された番号は、ダイヤルで動かした針目の数です。
・ダイヤルで動かす前のゼロ位置に戻すには、調節ダイヤルで動かす前のゼロ位置に戻すには、調節ダイヤルのガイドボックスの中のダイヤルアイコンをタッチします。
・《ESC》をタッチすると、特殊スクリーンは閉じます。

スタートストップボタンで刺しゅうを開始する

・スタートストップボタンを刺しゅう機がスタートするまで押して、刺しゅうを開始します。

自動糸カッター（640型のみ）

・1色の作業が完了すると、上糸および下糸は自動的にカットされます。

スライド式スピードコントロール

・スライドダイヤルを動かして、刺しゅうスピードを自由に調節できます。

ステッチの振り幅および送り長さ調節つまみ

・通常振り幅や送り長さを調節するダイヤルです。マルチ機能を持っており、糸調子、サイズ変更、デザインの回転等の操作もコントロールします。
・これらのダイヤルを使って操作するときには、画面に操作ガイドボックスＩが表示されます。

刺しゅうモード、ソーイングモード切替ボタン

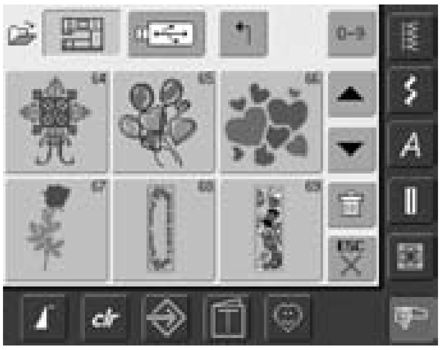
・刺しゅうモードをソーイングモードに切り替えます。
・その反対もこのボタンをタッチして行います。

刺しゅうデザイン

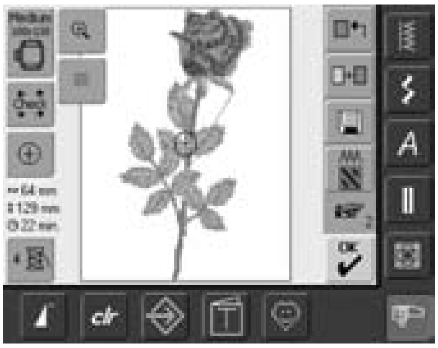
デザインはすべて、そのまま刺しゅうすることもできますし、また、他の機能と組み合わせてアレンジすることも可能です。

デザインのコンビネーション以外にも、デザインを回転されたり、ステッチの数を変更したり、糸の色を変えてみたり、といろいろな楽しみ方があります。

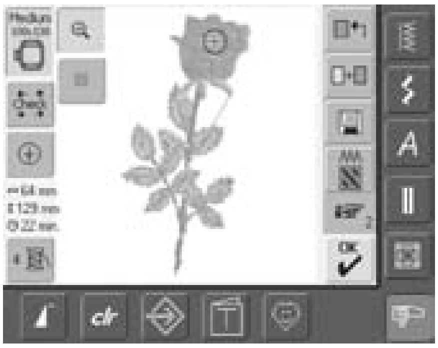
デザインに変更を加えず、そのまま刺しゅうする方法



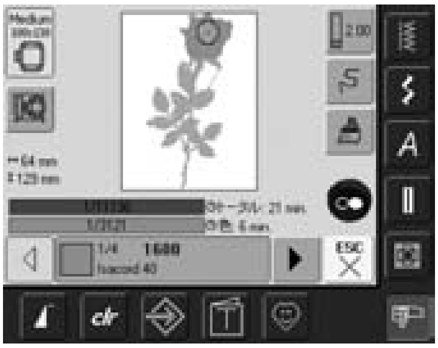
デザインメニュー
デザインの選択メニューに、各種のデザインが表示されます。
・ボタンにタッチして、デザインを選びます。



刺しゅう枠の自動選択
選んだ刺しゅうデザインに最適な刺しゅう枠が自動的に選択されます。
・刺しゅうデザインが刺しゅう枠の中心に表示されます。
・刺しゅう枠のサイズが画面左上の刺しゅう枠のアイコンに表示されます。



デザインの詳細（ディテール）を見る（ズーム機能）
デザインのディテールを見るには、ズーム機能を使います。
・アイコンを一回タッチします。
・画面いっぱいに刺しゅうデザインの全体が表示されます。
・アイコンを再タッチします。
・デザインが元のサイズに戻ります。



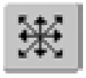
刺しゅうデザイン
刺しゅうスクリーンに戻るには、編集1または編集2スクリーンで《OK》をタッチするか、スタートストップボタンを押します。
・スタートストップボタンを長押しして、デザインの刺しゅうをスタートします。

刺しゅう枠リロケーター
・この機能を使うと、針が刺しゅう枠の左端に非常に近い箇所にある場所等、刺しゅう枠を一時的に移動できますので、糸通しが簡単になります。
・アイコンをタッチすると、刺しゅう枠が中央に向かって、横方向に移動します。これで、糸通しが簡単にできます。

デザインの位置を決める

デザインを移動したり、回転したりして、刺しゅう枠の中の好きな場所に置きます。

準備
・選択メニューから、デザインを選択します。
・デザイン編集1スクリーンに、デザインが表示されます。
・「次ページへ」アイコンをタッチして、デザイン編集2スクリーンに移ります。

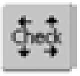


デザインを移動させる
デザインを好きな場所に置くことができます。

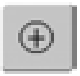
- アイコンをタッチ。
- 振り幅および送り長さ調整つまみの操作ガイドボックスが表示されます。
- 左右の移動は、振り幅調整つまみで。
- 調整つまみを右回りに回せば、デザインも右に移動します。
- 調整つまみを左周りに回せば、デザインも左に移動します。
- 操作ガイドボックスには、変更が10分の1mm単位で表示されます。
- 上下の移動は、送り長さ調整つまみで。
- 調整つまみを時計回りに回せば、デザインは上に移動します。
- 時計と反対回りに回せば、下に移動します。
- 操作ガイドボックスには、変更の10分の1mm単位で表示されます。
- デザインを斜めに移動したい場合には、振り幅および送り長さ両方の調整つまみを使用します。
- 両方の操作ガイドボックスに同じ数値が表示されれば、デザインは45度の角度で斜めに移動します。
- デザインを元の中心位置まで戻すには、操作ガイドボックスをタッチするか、「デザインの移動」を再度タッチします。
- デザインがステッチエリアからはみ出すと、刺しゅう枠のアウトラインが赤く表示されます。

ご注意
調整ダイヤルをゆっくり回せば、デザインを段階的に移動することができます。（一目盛りは1/10mm）

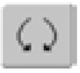
デザインの位置をチェック
「チェック」機能および「デザインセンター」機能を使えば、デザインの位置を、刺しゅうを始める前にチェックすることができます。



チェック
「チェック」機能では、取り付けられている刺しゅう枠のサイズおよびステッチできる範囲を見ることができます。
- アイコンをタッチします。
- 刺しゅう枠のサイズの読み込みが始まります（刺しゅう枠が移動します）。
- 次に、刺しゅう枠が4ステップで移動し、デザインのステッチされる範囲が確定します。
- 刺しゅう枠が左下コーナーに移動。
- 刺しゅう枠が取り付けられていない場合や、刺しゅう枠がデザインに対して小さすぎる時、エラーメッセージが表示されます。



デザインセンター（デザインの中心点）をチェックする
- アイコンをタッチします。
- デザインの正確な中心点が表示されます。
- 刺しゅう枠が移動して、針が中心点に落ちる位置で停止します。
- アイコンを再度タッチすると、針がデザインの最初のステッチに移動します。



デザインを回転させる
デザインの角度を自由に変えられます。

- アイコンをタッチします。
- 振り幅調整つまみの操作ガイドボックスが表示されます。
- 調整つまみを時計回りに回せば、デザインは右回りに回転します。
- 反時計方向に回せば、左回りに回転します。
- 操作ガイドボックスには、回転の角度が表示されます。
- デフォルトのセッティング（0˚または360˚）に戻すには、操作ガイドボックスに表示されたブルーの調整つまみアイコンをタッチします。
- 「デザインの回転」アイコンをタッチすると、デザインは時計回りに一回90˚で右回転します（0˚、90˚、180˚、270˚、360˚）。

ご注意
調整つまみをゆっくり回せば、デザインは1˚ずつ回転します。

デザインの変更

デザインを反転させる

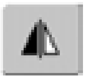
デザインはすべて、左右または上下に反転できます。

準備

・選択メニューから、デザインを選択します。
・デザイン編集1スクリーンに、デザインが表示されます。
・「次ページへ」アイコンをタッチして、デザイン編集2スクリーンに移ります。

ヒント
反転したデザインを回転させる
「反転」と「回転」を組み合わせると、素晴らしいコンビネーションが作成できます。

ヒント
デザインを組み合わせる
反転したデザインと、もとのデザインを組み合わせると、効果的なボーダー等を作り出せます。



デザインを左右に反転させる

・「左右に反転」アイコンをタッチします。
・デザインは、左右（縦方向）に反転した形になります。

デザインのサイズを変換する

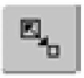
サイズは自由自在にプロポーショナルに変更可能です。

準備

・デザインを選びます。
・《デザイン編集１スクリーン》に表示されます。
・《編集2》アイコンをタッチして《デザイン編集2スクリーン》へ移ります。

ご注意
拡大縮小は75%から150%の範囲ですると、美しく仕上がります。
ダイヤルをゆっくり回すと、デザインのサイズが1%ずつ拡大・縮小されます。

デザインをそのままの形で拡大縮小するには



デザインのサイズを変更する

・アイコンをタッチします。
・振り幅調整つまみの操作ガイドボックスが表示されます。
・調整つまみを時計回りに回せば、デザインは拡大されます。
・時計と反対回りに回せば、縮小されます。
・操作ガイドボックスには、変更がパーセンテージで表示されます。
・デフォルトのセッティング（100%）に戻すには、操作ガイドボックスをタッチします。

ベルニナのサイズ変更可能な刺しゅうデザインは、現在刺しゅうマーケットで売られている製品の中でもっとも精度の高いフレキシブルなものです。ベルニナのステッチ変換エンジンで、どんなサイズの変換をしても、常にステッチの密度を一定に保ち、オリジナルデザインの質を落とすことがありません。しかしながら、サイズによっては、元のデザインとは多少異なるものになる場合もあります。本番前には、必ず試し縫いすることをお勧め致します。

デザインサイズの表示

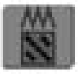
デザインの縦横のサイズが、画面にmm単位で表示されます。

サイズ変更後にデザインに適した刺しゅう枠を選択する

デザインのサイズに合わせて、刺しゅう枠を選択します。

・「刺しゅう枠の選択」をタッチします。
・そのデザインに使用できる刺しゅう枠のリストを載せた特殊画面が開きます。
・刺しゅう枠を選択すると、特殊画面は閉じて、選択した枠の中にデザインが入った形で表示されます。

ステッチのプロパティを変更する（640型のみ）

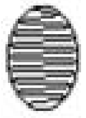


ステッチのプロパティを変更するには
・以下のプロパティが変更可能です。
　・ステッチタイプ
　・ステッチの密度
・アイコンにタッチします。

・特殊スクリーンが表示されます。
・《ステッチの変換》アイコンをタッチします。アイコンは、たたみステッチの絵で表示されています。

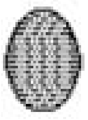
ステッチの変換（ステッチを細分化する）（640型のみ）

刺しゅうデザインは、ロングステッチまたは直線縫いで埋め込まれています。



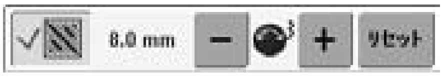
ロングステッチ

・サテンステッチの長い縫い目でスペースの端から端を一本のステッチで埋めてゆきます。

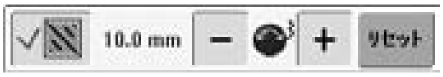


直線縫い（たたみステッチ）

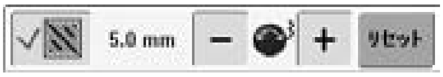
・一定の間隔で、細かくたたみの目のように埋めてゆくステッチです。



・《ステッチの変換》アイコンをタッチします。
・ ロングステッチをたたみステッチに変換することができます。送り長さは最大8mmまでとなります。
・《十》または《一》のアイコンをタッチします。



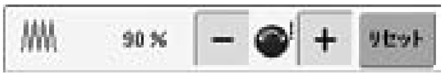
・《十》のアイコンをタッチするか、振り幅ダイヤルを時計回りに回すと、たたみステッチの送り長さを長くすることができます。



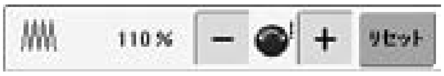
・《十》のアイコンをタッチするか、振り幅ダイヤルを反時計方向に回すと、たたみステッチの送り長さを短くすることができます。
・《OK》アイコンをタッチすると、選んだたたみステッチの送り長さが決定され、編集1のスクリーンが表示されます。
・《リセット》アイコンをタッチすると、基本設定（8mm）に設定されます。
・たたみステッチをロングステッチに戻したい場合には、《ステッチの変換》アイコンをもう一度タッチします。（領域はオフ状態で、グレイで表示されています。）

ご注意
変更を行うことができるのは、オリジナルのデザインのみです。

ステッチの密度を変更する（640型のみ）



・《ー》アイコンにタッチするか、振り幅ダイヤルを反時計方向に回すと、ステッチの密度を小さくすることができます。（スイッチの数が減ります。）



・《十》アイコンにタッチするか、振り幅ダイヤルを時計方向に回すと、ステッチの密度が大きくなります。（ステッチの数が増えます。）
・《OK》アイコンにタッチすると、選んだステッチの密度が決定され、編集1のスクリーンが表示されます。
・《リセット》アイコンをタッチすると、密度は元の状態（100%）に戻ります。

デザインのコンビネーション

デザインを組み合わせて、まったく新しい刺しゅうのデザインを作成することもできます。似たようなデザインでも、まったく違う雰囲気のものでも、コンビネーションすることが可能です。また、デザインとレタリングのコンビネーションもよいでしょう。

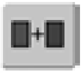
こんな場合に使用すると効果的です。
・デザインのバリエーションを組み合わせる。
・新しいデザインを作成する。
・ボーダーを刺しゅうする。
・ロゴ、紋章、バッジ、ラベル等を作成する。

準備
・選択メニューから、デザインを選択します。
・デザイン編集1スクリーンにデザインが表示されます。

・サイズ変更を行う場合、最高の仕上がりを得るには、コンビネーションに含まれるすべてのデザインを同じ割合で変更するようにして下さい。

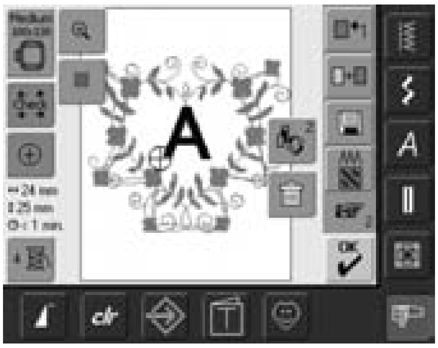
ご注意
拡大縮小は75％から150％の範囲ですると、美しく仕上がります。
ダイヤルをゆっくり回すと、デザインのサイズが1％ずつ拡大・縮小されます。

コンビネーションの作成



他のデザインを追加するには

「デザインを追加する」の機能で、選択メニューにある他のデザインまたは文字を、今現在あるデザインに追加します。

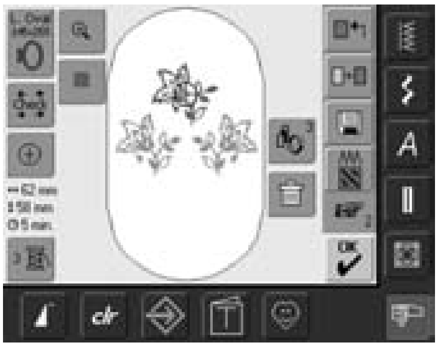


・「デザインを追加する」をタッチします。
・一番最近開いたデザインメニュー、《アルファベット》、《デザイン》、《マイデザイン》等、が表示されます。
・希望の刺しゅうデザインを選択するか、《メニューに戻る》の矢印で、メニューに戻ります。
・メニューで、ご希望のデザインを選びます。（例・レタリング等）

デザインのコンビネーションを作成するには

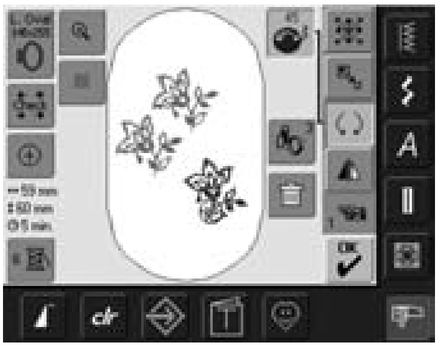
「デザインの移動」、「デザインの回転」、「デザインの反転」等の機能を使って、好きなようにコンビネーションを作成することができます。

デザインコンビネーションの中に含まれるモチーフを選択するには



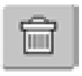
・「モチーフ検索」アイコンを、一回または複数回タッチします。
・デザインの組み合わせを作る時に、一つのモチーフから他のものに移動するのに使います。
・アクティブになったモチーフは、カラー表示されます。
・必要なモチーフがアクティブになるまで、「モチーフ検索」アイコンをタッチします。

ご注意
表示されている刺しゅう枠が小さすぎる場合には、「刺しゅう枠を選択」機能で、大きなものを選びます。



デザインコンビネーションの作成または変更

・「次ページへ」アイコンをタッチすると、デザイン編集2スクリーンに変わります。アクティブなデザイン（カラー表示）に変更を加えて、コンビネーションを作成することができます。
・「デザインの移動」では、デザインを好きな場所に移動することができます。
・その他、サイズ変更、回転、反転等の変更も可能です。



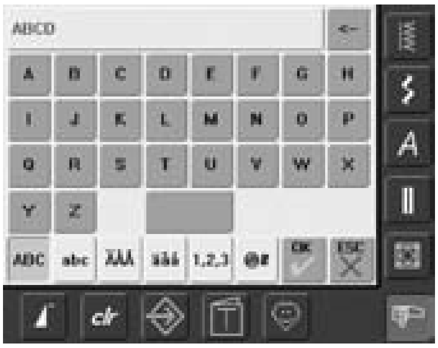
デザインの削除

・デザイン編集1または2スクリーンで、「モチーフ検索」アイコンをタッチします。選びたい部分がカラーで表示されるまで、タッチし続けてください。
・デザインメニュー編集1で「削除」をタッチすると、選択したデザインが削除されます。

アルファベット・レタリング

文字は他の文字やデザインとコンビネーションを作成して刺しゅうすることができます。アーティスタ200では、デザインメニュー編集2で、さまざまな変更を加えることができます。
文字のサイズ変更はもちろんのこと、ベースラインも変更できます。横列に並んだ文字を、アーチ型にアレンジすることも可能です。

このようなものの刺しゅうに最適です。
・名前、モノグラムおよび住所
・単語およびテキスト
・ロゴ、紋章、バッジ、ラベル等の作成
・キルトラベル作成



文字のコンビネーション
・選択メニューから、アルファベットを選択します。
・キーボード付きの特殊画面が表示されます。
・《ABC》の大文字用ボタンが、自動的にアクティブになります。
・特殊画面には、レタリングに関するさまざまな機能があります。
・《ABC》ボタンをタッチすると、大文字を入力できます。
・《abc》ボタンをタッチすると、小文字および数字を入力できます。
・必要な文字を選択します。
・テキストバーに、文字が表示されます。

ご注意
編集後のレタリングが、刺しゅう枠に収まらない場合には、レタリング全体を90˚回転させます（刺しゅう枠の縦方向ならば、かなりの文字数でもフィットします)。

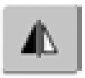
文字の修正
・どこか1文字を削除したい場合には、テキストバーの右側の矢印をタッチします。
・右から左に向かって、1文字ずつ削除されます。
・テキストバーに表示されている文字すべてを削除したい場合には、テキストバーをタッチします。
・文字は完全に削除され、テキストバーは空白になります。

文字を確定する
・文字のコンビネーションは、「OK」で確定できます。デザイン編集1スクリーンに、確定した文字が表示されます。

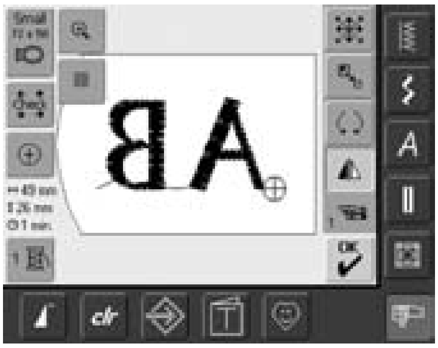
文字に修正を加える、
または加えないまま刺しゅうする。
・文字のコンビネーションは、そのまま刺しゅうすることも、他の機能を使って好きなように変更を加えることも可能です。

レタリングのサイズを変更する

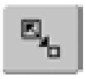
編集2のスクリーンで文字に変更を加えることができます。



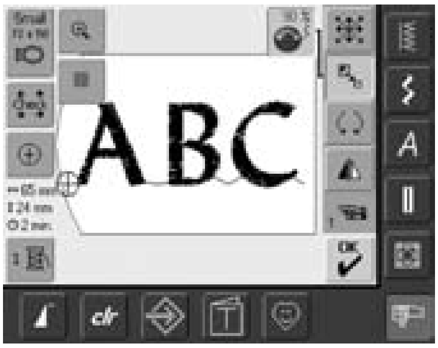
レタリングの反転



- 「左右の反転」アイコンをタッチすれば、デザインは左右に反転されます。
- 「上下の反転」のアイコンをタッチすれば、デザインは上下に反転されます。



レタリングをそのままの形で拡大縮小する



- アイコンをタッチします。
- 振り幅調整つまみの操作ガイドボックスが表示されます。
- 調整つまみを時計回りに回せば、デザインを拡大できます。
- 反対回りに回せば、縮小できます。
- 操作ガイドボックスには、変更がパーセンテージで表示されます。
- 元のサイズに戻すには、選んでいる機能アイコンをタッチします。

サイズ変更後のデザインに適した刺しゅう枠を選択する

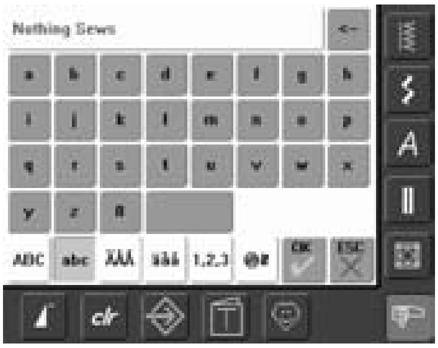
刺しゅうを美しく仕上げるには、デザインのサイズに合った刺しゅう枠を選択することが重要です。

レタリングのコンビネーション

レタリングは、他の文字やデザインと組み合わせることができます。

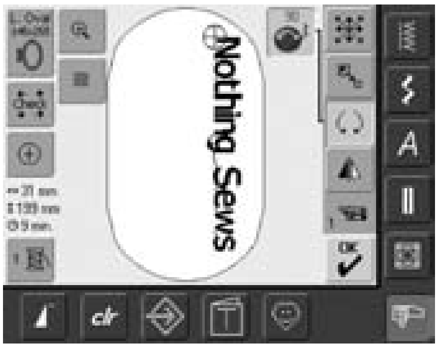
異なる単語を組み合わせる場合

文章の中の単語は、右の列のように一列毎にまとめられ、配置されます。



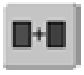
テキストの1行目を配置する

- 選択メニューから、アルファベットのタイプを選択します。
- キーボード付きの特殊画面が表示されます。
- ここでは「Nothing Sews」と入れます。
- 大文字ボタンまたは小文字ボタン、およびブランクのスペースバー等で、文章を作ります。
- 文字のコンビネーションは、「OK」で確定できます。デザイン編集1スクリーンに、確定した文字が表示されます。
- 「次ページへ」を選択すると、デザイン編集2スクリーンに移ります。



1行目を配置する

- 刺しゅう枠選択機能で、大型のだ円形の刺しゅう枠を選択します。
- 「デザインの回転」機能で、テキストを90度回転します。
- 「デザインの移動」機能で、テキストを好きな位置に配置します。
- デザインがステッチエリアからはみ出している場合には、刺しゅう枠のアウトラインが赤く表示されます。

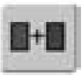


2行目を配置する

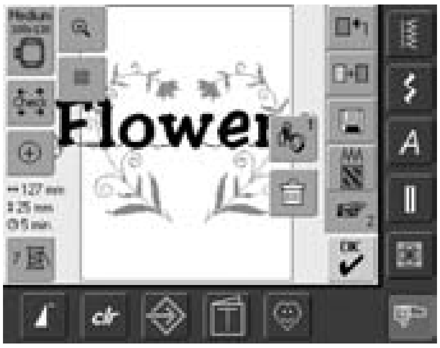
- デザイン編集1スクリーンで、「デザインの追加」を選択します。
- 2行目以降も、1行目と同様の手順で配置できます。
- 行間のスペースを均一にするには、テキストラインを配置する際に、ブルーの調整つまみアイコンの中に表示される数字に気をつけて下さい。

デザインとレタリングを組み合わせる

デザインを選択した後、レタリングを加えるか(デザインの中にレタリングがある形)、またはレタリングを最初に作成してから、デザインを加え（テキストをデザインで装飾する形）でもよいでしょう。



組み合わせ方の例



・刺しゅうデザインを選びます。
・デザインが《編集1スクリーン》に表示されます。
・《デザイン追加》アイコンをタッチします。
・アルファベット文字からお好きな書体を選びます。
・キーボードが表示されます。
・テキストを入力してください。(左画面では、“Flowers”)
・大文字、小文字機能を使い分けます。
・《OK》アイコンで確認すると、編集1スクリーンに戻ります。

テキストを、デザインに合わせて変更する

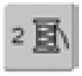
・「次ページへ」を選択して、デザイン編集2スクリーンに移ります。
・「デザインの移動」機能で、テキストを好きな場所に配置します。
・「デザインのサイズ変更」または「デザインを縦または横方向にサイズ変更」機能を使って、テキストサイズを変更します。

デザインのオリジナルの色を画面上で変更してみましょう。

準備

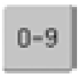
・選択メニューから、デザインを選択します。
・選択したデザインは、デザイン編集1スクリーンに表示されます。

デザインの色を変更する

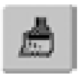


・デザイン編集1スクリーンまたは2スクリーンで、「色の数」機能をタッチします。
・色デザインの画面が開きます。
・今現在の色、色の順番（最初の数字）、必要な色数（2番目の数字）および選択した糸ブランドにおける色番号が表示されます。
・変更したい色が表示されるまで、矢印でスクロールします。
・カラーインフォメーションバーをタッチします。

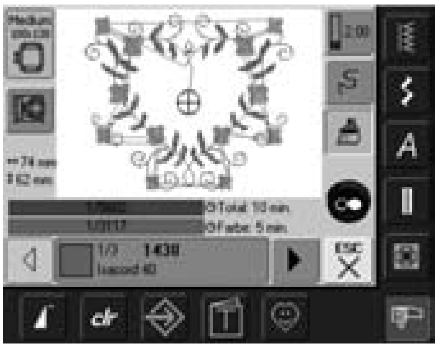
現在の糸色を変更するための特殊画面が開きます。
・糸ブランドを変更したい場合には、ブランド名の横の矢印をスクロールして、希望のものを表示します。
・ブランド・バーをタッチして決定します。
・糸色を変更した場合には、希望の色が表示されるまで、糸色の横の矢印をスクロールします。
・タッチしたカラーバーが、選択されます。



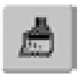
ご注意
ある色をすぐに選択するには、「番号で色を選択する」の機能を使います。



デザインを単色で刺しゅうするには



・刺しゅうスクリーン（準備完了）で、塗りつぶし機能のアイコンをタッチします。
・塗りつぶしアイコンをオンにします（ブルーでハイライトされていれば、オンの状態です)。
・デザイン全体の刺しゅうが完成するまで、ミシンは停止しません。



レタリングを多色で刺しゅうするには

・通常文字列は一色で刺しゅうされ､塗りつぶしアイコンは見えません。
・文字列の一文字ずつを異なる色で刺しゅうしたいときは、事前に各文字を異なる色でプログラムしておきます。
・刺しゅう機は色が変わるごとに自動的に停止するので、糸を交換できます。
・各色毎の刺しゅう時間が表示されます。
・文字列を一色で刺しゅうするには、塗りつぶしアイコンをタッチします。

色別にセクションを分けて刺しゅうする、および色の順番をマニュアルで調整する

・特殊効果をねらうのならば、デザインを色別にセクション分けして刺しゅうする必要があります（アウトラインのみを違う色にする、等)。
・刺しゅうスクリーン（準備完了）で、色の順番をスクロールして､希望の色を表示します。
・カラーインフォメーションバー（カーソルのアイコンが表示されます）をタッチして、確定します。これで、針がその色の刺しゅうを開始する地点まで移動します。
・ 刺しゅうします（その色の刺しゅうが完了すると、ミシンは自動的に停止します)。

デザインの保存について

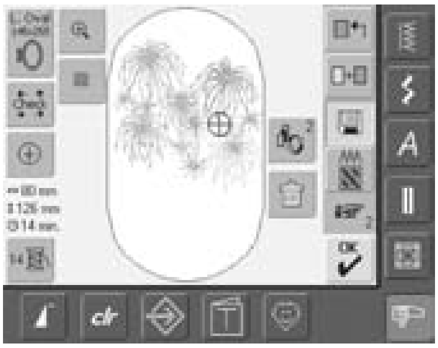
ミシン、デザインカード、ベルニナメモリースティック、およびアーティスタソフトウェアで作成したデザインはすべて組み合わせたり、アレンジしなおしたりと、いろいろな変更を加えることができます。その後、保存も可能です。
デザインはミシンのメモリーに保存するか、又はUSBメモリースティックに保存することが可能です。

ミシンには、メモリーがあり、ステッチのコンビネーションおよび「マイデザイン」の刺しゅう、それからパーソナルプログラム等を保存します。メモリーシステム内のスペースは、特に分割されていませんので、容量の残りがある限り、いくらでデザインを保存することが可能です。メモリーの容量がなくなってしまった場合には、すでに保存済みのデザインまたはステッチの情報を削除すれば、新しいデザインを保存できます。

ご注意
保存されているステッチコンビネーションでは、個々のステッチを選択して、変更を加えることができます。

ご注意
サイズ、ステッチの数等の変更後に保存されたデザインは、新しい1個のデザインとして認識されます。そのため、今現在のサイズ100%と表示され、変更前のサイズ、ステッチの数は見られなくなります。

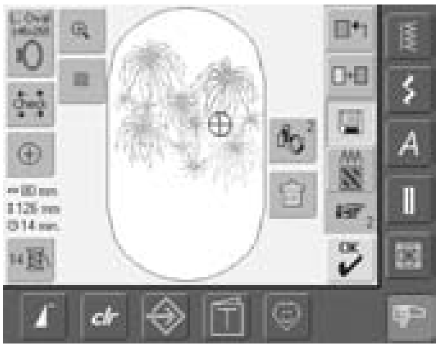
ミシン本体のメモリーに保存する



- ミシン、パーソナルデザイン・スティックまたは周辺機器より、デザインを選択する。
- 変更、または組み合わせて、コンビネーションを作成します。
- デザイン編集1スクリーンで、「保存」をタッチします。

- 保存するデザインは、画面左に「新規」として表示されます。
- 選択メニューから、刺しゅうミシンボタンを選択します。
- デザインを保存したいフォルダー（アルファベット、デザイン、マイデザイン等）を選択します。
- メモリーの残り容量が、画面右上のパーセンテージで表示されます。
- デザインを保存します。
- デザインの編集1スクリーンに戻ります。

USBメモリースティックへの保存



・USBメモリースティックは別売りです。ベルニナ正規販売代理店にお問い合わせ下さい。
・ミシン、USBデザインスティックまたは周辺機器より、デザインを選択する。
・変更、または組み合わせて、コンビネーションを作成します。
・デザイン編集1スクリーンで、「保存」をタッチします。

・保存するデザインは、画面左に「新規」として表示されます。
・USBメモリースティックを挿入します。
・選択メニューから、USBメモリーボタンを選択します。
・デザインを保存したフォルダー（アルファベット、デザイン、マイデザイン等）を選択します。
・メモリーの残り容量が、画面右上のバーにパーセンテージで表示されます。
・保存するデザインにタッチします。
・デザインがUSBメモリースティックに保存されました。

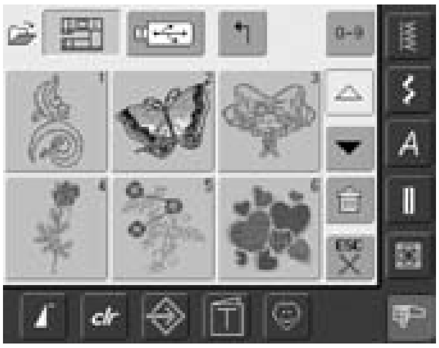
デザインの上書き

- 「マイデザイン」またはUSBデザインスティックに保存されたデザインの上に、新しいデザインを直接上書きすることができます。
- ミシン、USBデザインスティックまたは周辺機器より、デザインを選択します。
- 変更、または組み合わせて、コンビネーションを作成します。
- デザイン編集1スクリーンで、「保存」をタッチします。

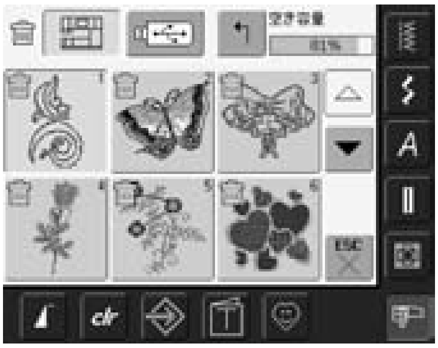
- 保存するデザインは、画面左に「新規」として表示されます。
- 選択メニューから、USBボタンまたはミシンボタン、およびデザインを保存したいフォルダー（アルファベット、デザイン、マイデザイン等）を選択します。
- 上書きして消してもよいデザインをタッチします。

- 「上書きしますか？」のメッセージが表示されます。
- 《OK》で確認します。デザインを保存します。
- これで、デザインが上書き保存されました。

保存したデザインを削除するには



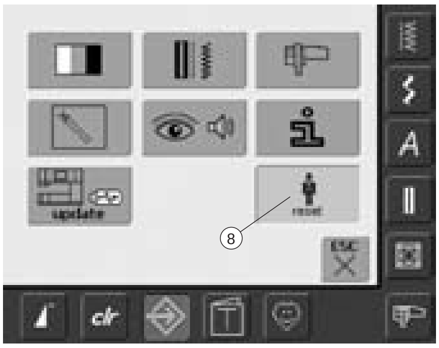
・メニュー画面の《USB》ボタン（メモリースティックが挿入されている場合）または《ミシン》ボタンのどちらかを選択し、《マイデザイン》のフォルダーを選びます。
・《削除》をタッチします。



・削除したいデザインを、表示されたスクリーンから選びます。

・表示されているアニメーションを《OK》で確定します。
・これでデザインは削除されました。
・《ESC》を押せば、削除はキャンセルとなり、前スクリーンが表示されます。

すべての保存してあるデザインを削除するには



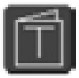
・パーソナルメモリースティックまたは《マイデザイン》フォルダーの内容すべてを、一気に削除することも可能です。
・パーソナルメモリースティックまたは《マイデザイン》フォルダーの内容すべてを削除するには、セットアッププログラムを開きます。
・《セットアップ》をタッチします。
・メニューが表示されます。
・⑧をタッチします。
・スクリーンのサマリーが表示されます。

・《ユーザーデータを全て削除》をタッチします。

・刺しゅうの場合には、2種類のどちらかを選びます。
  ・《マイデザイン》
  ・《メモリースティック》(メモリースティックを接続している場合)
・データを削除したい方のボタンにタッチします。

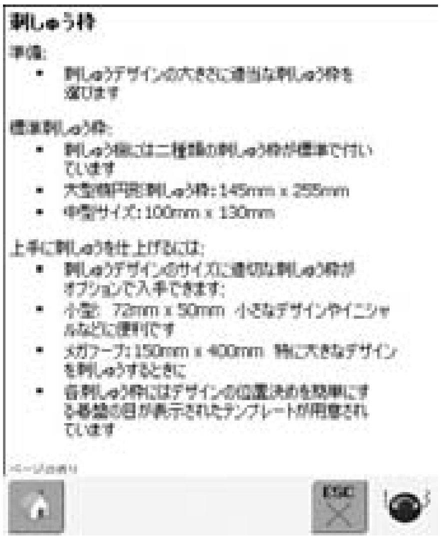
・スクリーンに表示されたメッセージを《OK》で確定します。
・これでデータは全て削除されました。スクリーンは、前スクリーンに戻ります。
・《ESC》をタッチすると、一番最近に使った刺しゅう用スクリーンを呼び出します。

チュートリアル（オンボード説明書）

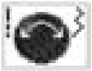


チュートリアルを開く
・「チュートリアル」アイコンをタッチします。
・チュートリアルスクリーンが開きます。

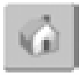
項目
・必要なボタンにタッチします。



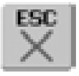
選んだ項目に関する情報が表示されます。



テキストをスクロールする
・このアイコンは、振り幅または送り長さのダイヤルを回すことで、画面上のテキストがスクロールできることを表示しています。

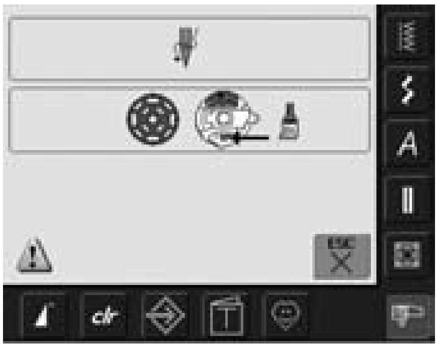


項目に戻る
・「ホーム」のアイコンをタッチ。
・チュートリアルの最初の画面（項目）が表示されます。



前画面に戻る
・《ESC》をタッチ。
・チュートリアルが閉じ、前画面が表示されます。

刺しゅうの途中で糸が切れたとき

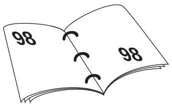


画面は640型

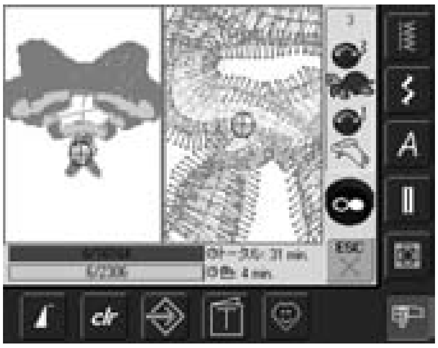
画面は630型

上糸または下糸（640型のみ）**が切れた場合**

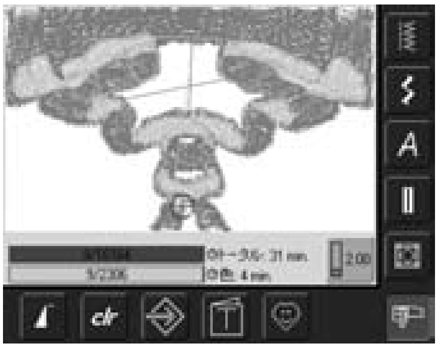
- ミシンは自動的に止まります。
- 左の画面が表示されます。
- 糸切れとは別に、ボビンを逆回転にセットしたり、間違ったボビンやボビンケースを使ったりするとミシンは停止します。確認してください。
- 上糸切れならば上糸を掛け直します。
- または、必要ならば、ボビンケースの周囲から糸や布のゴミをすべて取り去ります。
- 下糸をチェックして､必要ならば交換します。
- 《ESC》をタッチします。
- 刺しゅうを続けるには、スタートストップボタンを押します。
- 下糸切れセンサーは640型のみの機能です。



糸切れのあと、切れた箇所へ戻るには



- 《針目のトレース》アイコンをタッチします。
- 特殊スクリーンが表示されます。
- スクリーンの左半分には、デザインがオリジナルサイズで表示されます。
- 右半分には、拡大されたデザインが表示されます。
- ステッチのトレースが簡単に出来ます。
- 振り幅および送り長さダイヤルがスクリーンに表示されます。
- ダイヤルを時計と反対方向（または時計回り）に回すと、刺しゅうステッチを後方（または前方）にトレースできます。
- 振り幅調節ダイヤルを回すと、ゆっくり針目をトレース出来ます。
- 送り長さダイヤルを回すと、素早くトレース（約50針毎）することができます。
- インフォメーションバーには、今現在刺しゅうしている色のステッチカウントが表示されています。
- 糸切れが発生したポイントまで、ダイヤルを回して戻ります。
- 基本のセッティングに戻したい場合には、青く表示された《調節ダイヤル》のアイコンをタッチします。
- 《ESC》をタッチすると、特殊スクリーンは閉じます。



刺しゅうを再開する

- フットコントローラーまたはスタート・ストップボタンを押して、刺しゅうを再開します。
- 刺しゅう画面が、再表示されます。
- デザインを仕上げます。

困った時は…トラブルシューティング

刺しゅうミシンを使う際、よく起こる間違いについては、以下をご参照下さい。

初めにチェックしましょう。
- 上糸および下糸のかけ方に間違いはないか
- 針のセット方法に間違いはないか、針の平らな部分が、後ろ側です。
- 針のサイズは正しいか（詳しくは15-17ページ「針および糸の一覧表」をご覧ください）。
- ミシンの釜付近が綺麗に掃除されているか。糸くず等は残さないようにしましょう。
- 定期的に針板を外して掃除されているか。
- テンション皿またはボビンケース内のスプリングの下に糸くずがはさまっていないか。

天秤に絡まった糸を取り除くには
下糸が切れた時などに、糸クズが天秤に絡みついた場合には、以下の方法で取り除くことができます。
- 電源をオフにします。
- 付属品の特殊L型レンチで、ミシン左側のカバーのネジを外します。
- カバーを左側に引き出します。
- 糸クズを取り除きます。
- ヘッドカバーを元に戻し、ネジを締めます。

上糸が切れる
- 上糸調子が強すぎる
- 針の品質に問題がある、針は、ベルニナ製のものを使いましょう。
- 針のセットの仕方が間違っている。針の平らな部分が、後ろ側です。
- 針先に傷がある、または針が曲がっている。
- 糸の品質に問題がある、糸にこぶが多かったり、糸けばがひどい、糸が古い、または乾燥しすぎている。
- クッション付糸コマホルダーを使いましょう。
- 正しい糸こま押えを使いましょう。
- 糸の送りを均一にするために、ネットを使いましょう（上糸のスプールの上にかけます）。
- 針板の穴または釜の剣先が損傷している。その場合は、ベルニナ正規販売代理店にご相談ください。
- 刺しゅうのスピードをゆるめる。

下糸が切れる
- 下糸調子が強すぎる。
- 下糸が、ボビンケースにはさまっている場合は、ボビンケースを入れ直します。
- 針先が鈍っている、または針が曲がっている。
- 針板の穴が、針で損傷している場合、専門家による処置が必要ですので、ベルニナ正規販売代理店にご相談ください。

針目が飛ぶ
- 間違った針を使用している。ベルニナ純正の130/705H番手の針を使いましょう。
- 針が曲がっているか、針先が鈍い、またはセットの仕方が不適切。針は、きちんと最後まで上に差し込まれていますか。
- 品質の悪い、さびた針を使っている。

針が折れる
- 針止めのネジがしっかり締まっていない。
- 針板に問題がある。
- 特に硬い厚地など、生地に問題がありませんか?

針目が揃わない
- テンション皿の間に糸くずが挟まっている。その場合は、折りたたんだ薄い布の折り目部分（布端部分ではありません）をテンション皿に挟んで、前後に動かし、掃除します。
- ボビンケーステンションスプリングの下から、糸くずを取り除きます。
- 糸調子を調整します。
- 安定紙が適切でない、または安定紙を使っていない。
- 糸のかけ方が間違っているかもしれません。上糸と下糸をチェックしましょう。
- 刺しゅうボタンホール縫いの際には、下糸をつのにも通しておきましょう。
- 正しい糸こま押えを使いましょう。
- 釜を掃除して、注油しましょう（必ず純正品のオイルを使うようにして下さい。清掃および注油に関しては、103ページをご覧下さい）。

ミシンが動かない、
またはスピードが遅い
- 電源プラグがきちんと差し込まれていない。
- 電源スイッチが、「0」（オフ）になっている。
- ミシンのある部屋の温度が低すぎる。摂氏5℃以下の気温では正常に作動しない場合もありますので、スイッチをオンにしてしばらくたってから使ってみて下さい。

ソーイングライトの調子が悪い
- ベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。

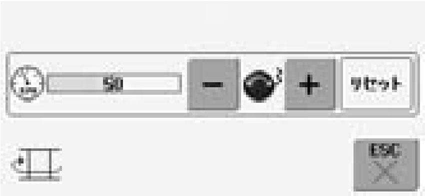
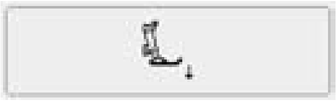
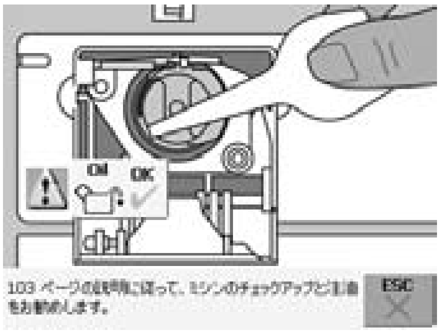
下糸センサーが作動しない。（640型のみ）
- ボビンカバーが閉じていない。
- セットアッププログラムで、オンにしていない。
- ボビンケースの中の糸くずを取り除く。
- 間違ったボビンやボビンケースを使っている。
- ボビンを逆回転方向にセットしている。

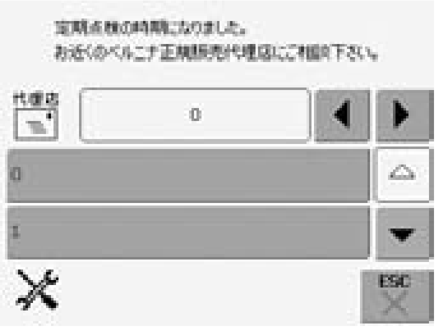
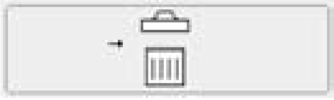
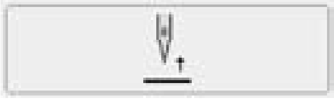
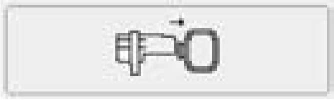
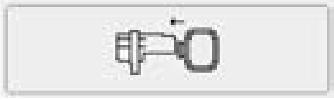
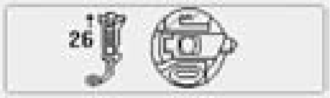
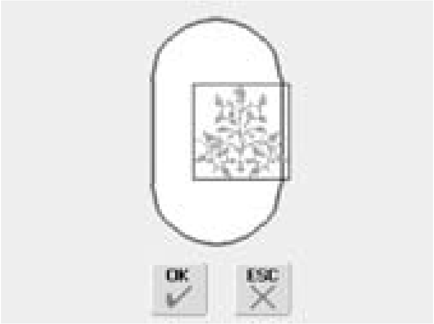
上糸センサーが作動しない
- セットアッププログラムで、オンにしていない。

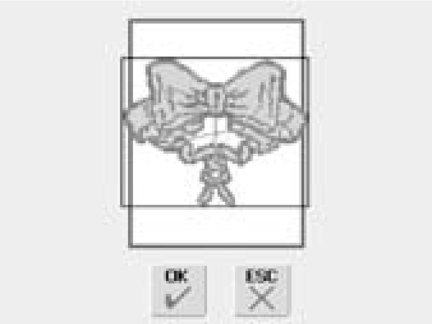
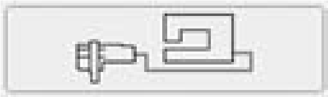
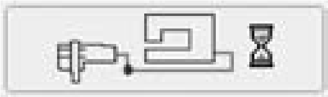
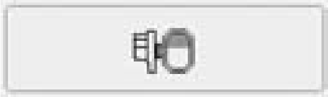
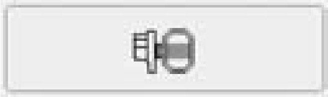
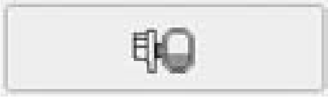
点検データ
ミシンのコンディションに関する点検時のデータを、USBスティックに保存し、お近くのベルニナ正規取扱店に送ることができます。
- USBスティックをソーイングおよび刺しゅうコンピューターに挿入します。
- 《セットアップ》ボタンを押して、インフォメーションのアイコン《i》を選びます。
- 《次ページへ》のアイコンを使って、前スクリーンに戻ります。
- 《LOG》をタッチします。
- これでデータをUSBスティックに保存できました。
- USBスティックを外します。

アップデートのエラーについて
アップデートが終了せず、砂時計マークが表示されたままになっている場合には、以下の方法をお試し下さい。
1. 一旦、USBスティックを取り外し、ミシンの電源をオフにします。
2. 再度コンピューターの電源を入れて、スクリーンに表示されたメッセージに従い、アップデートの作業を進めます。

スクリーン・メッセージ

	メッセージ	内容
	警告	このミシンと刺しゅう機の操作上、必ず知っておくべき重要な情報。
	確認	データの削除等、本当に実行してよいのかを確認します。
	送り歯を下げて下さい。	《送り歯を下げる》ボタンを押します。送り歯を下げれば、メッセージは自動的に消えます。
640型のみ	**糸切れ、糸がない、または糸クズが糸コントロールのスリットに挟まりました。**	上糸と下糸をチェックします。必要ならば釜の周囲をクリーニングして下さい。　ボビンの回転方向の向きも確認、間違ったボビンやボビンケースを使っていませんか？（下糸センサーは640型のみの機能です。）
	**下糸巻取装置がオンになっています。**	下糸巻取装置のスピードは、振り幅ダイヤルまたはスクリーン上の《＋》《ー》ボタンで変更できます。下糸巻取装置をオフにするか、または《ESC》を押せば、メッセージは自動的に消えます。
	**押え金を下げて下さい。**	押え金を下げれば、メッセージは自動的に消えます。
	押え金を上げて下さい。	押え金を上げれば、メッセージは自動的に消えます。
	**クリーニング、または注油が必要です。**	詳しくは取扱説明書の103ページに記載されています。この注意は、18万針ごとに表示されます。クリーニングと注油を完了したら、スクリーンの《OK》をタッチして下さい。《ESC》をタッチすれば、一時的にメッセージを消すことができますが、縫い始めると、また同じメッセージが表示されます。《ESC》を３回押すと、次のクリーニングおよび注油時期のメッセージは、18万ステッチ後に表示されます。

	**定期点検のお知らせ。**	定期点検のため、ミシンをお近くのベルニナ正規販売代理店にお持ち下さい。このメッセージは、200万針を縫うごとに表示されます。代理店で点検が終わると、ステッチカウンターは0にリセットされ、当分の間、メッセージは表示されません。《ESC》をタッチすれば、一時的にメッセージを消すことができますが、また縫い始めると同じものが表示されます。《ESC》を3回押すと、次の定期点検のメッセージは、400万針後に表示されます。
	送り歯をソーイングポジションに上げて下さい。	送り歯が下がっています。　送り歯をソーイングモードに戻してください。送り歯の位置が変われば、メッセージは自動的に消えます。
	**データの削除または上書き（ドロワー等）。**	《OK》で確定するか、《ESC》でキャンセルします。
	**針を一番高い位置に上げて下さい。**	フットコントローラーの踵部を踏んで、またははずみ車を手で回して、針を最上点に持ってきます。
	**刺しゅう枠を取り外して下さい。**	刺しゅう機から刺しゅう枠を外します。
	**刺しゅう枠を取りつけて下さい。**	刺しゅう機に刺しゅう枠を取りつけます。
640型のみ 630型のみ	**刺しゅう用押えNo.26を取りつけ、ボビンケースに糸を通して下さい。**	ミシンに刺しゅう用押えNo.26を取りつけます。刺しゅう機を使う場合には、下糸をボビンケースのつの又はピッグテールに通しておきます。
	**デザインが刺しゅう枠からはみ出しています。**	デザインが収まるようサイズを修正します。又はOKをタッチするとはみ出した部分を除いて続けて刺しゅうが可能です。

	**デザインが取りつけた刺しゅう枠に収まりません。**	大きな刺しゅう枠を取りつけるか、デザインのサイズを縮小します。
	**刺しゅう機が取りつけられていません。**	刺しゅう機を取りつけます。
	**データの転送**	データの転送が完了すれば、メッセージは消え、選んだ機能が実行されます。
	**メガフープを上げて下さい。**	メガフープを上（1）の位置に持ってきます。
	**メガフープを中央に。**	メガフープを中央（2）の位置に持ってきます。
	**メガフープを下げて下さい。**	メガフープを下（3）の位置に持ってきます。
	メインモーターが動きません。釜をチェックして下さい。	釜やボビンケース周辺の糸クズを取り除きます。ボビンを逆方向にセットしていませんか?間違ったボビンやボビンケースを使っていませんか？

アクセサリー

ベルニナ社では、アーティスタ640のソーイングおよび刺しゅう用システムの付属品として、多くのオプションをご用意しております（別売りオプションの特殊アクセサリーとしては、マルチプールホルダー、メガフープ、刺しゅうデザインスティック等がございます）。
詳しくは最寄りのお買い上げ店にお問い合わせ下さい。

スーツケースシステム

ミシンの持ち運びに大変便利な、キャスター付きスーツケースができました。標準アクセサリーおよび特殊アクセサリーを収納する場所もありますので、特に刺しゅう機の移動には、非常に便利です。

ご注意
飛行機、長距離バスまたは電車で移動する際には、スーツケースは必ず手荷物にするか、または「コワレモノ」として扱うようにして下さい。通常の荷物として預けることは、絶対におやめ下さい。

ご注意
ミシンをホコリや湿気から守るこのスーツケースシステムは、短距離の移動に最適です。

ミシン用スーツケース

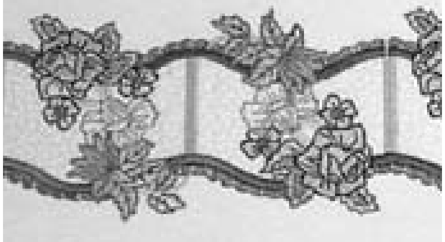
- バッグおよびコンパートメントを取り外し、画面を前面に向けた形でミシンを収納します。
- 取り外したバッグとコンパートメントに、標準アクセサリーを収納して、スーツケースに戻します。
- バッグは、特殊アクセサリーを収納します。

刺しゅう機用スーツケース

- バッグおよびコンパートメントを取り外し、刺しゅうアームを前面に向けた形で刺しゅう機を収納します。
- 取り外したバッグとコンパートメントに、標準アクセサリーを収納し、スーツケースに戻します。
- バッグには、特殊アクセサリーを収納します。

メガフープ

非常に大型のデザインや大きなデザインのコンビネーション、または長いボーダーを刺しゅうするには、この特大のメガフープが便利です。メガフープには、刺しゅうをする位置が3ポジションあります。メガフープの位置を変えるポイントでは、ミシンが停止し、1番、2番、3番のどの点に移動すべきかのメッセージが表示されます。アーティスタ640ではVAR.01と呼ばれるテンプレートを使います。最大刺しゅうサイズ400mm×150mm



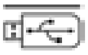
ご注意
特大刺しゅう枠には、取扱説明書がついています。

刺しゅうデザインスティック

① エンブロイダリー・スティック

様々なデザインが収められたベルニナデザインスティックだけでなく、アーティスタ専用のブランクのメモリースティックもあります。これは、刺しゅうのデザインやコンビネーションをご自分用に保存する場合に使います。

ベルニナデザインスティックには、テーマ別にたくさんの刺しゅう用デザインが収められています。デザインのテーマは、どんどん増え続けています。



刺しゅうデザインスティックの接続方法

- デザインスティックをソケットに接続します。ソケットは、ミシンの右側にアイコンで表示されています。
- アーティスタ640の刺しゅうデザインフォルダーのデザインがスクリーンに表示されます。
- 不適切な名称のフォルダーを開こうとした場合、スクリーンは空白で表示されます。
- 《矢印》のアイコンにタッチすれば、メニューに戻ります。

刺しゅうデザインスティックの取り外し方

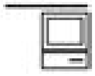
- USBスティックを抜き取ります。

ベルニナアーティスタ刺しゅう用ソフトウェア

②パソコン用コネクター

デザインをPC上で組み合わせたり、拡大したり、変更を加えるには、ベルニナデザイナーPCソフトウェアを使いましょう。このソフトを使えば、まったくオリジナルのデザインを刺しゅうすることも可能です。デザインのプロセスは、簡単です。まず下書きをした図柄から、またスキャナーやデジタル・カメラで取り込んだ画像から、最後にデザインをステッチ用に変換するまで、すべて簡単な操作で作業することができます。

完成したオリジナルデザインは、ミシンに同梱されたUSBコードを通して、直接ミシンに送られ、刺しゅうすることができます。



USBコードでPCとミシンを接続する

・ミシンに同梱されているUSBコードを、ミシンの右側面にあるソケットに接続する。

刺しゅうデザインの保存先
・PC
・アーティスタ630／640刺しゅうミシン
・空き容量のあるUSBデザインスティック

ご注意
ベルニナデザイナー刺しゅう用ソフトウェアには､取扱説明書がついています。

その他のアクセサリーについては、最寄りのお買い上げ店にお問い合わせください。

用語集

追加する
・「追加する」とは、何かを追加してコンビネーションを作成する、デザインをつなげるということ。
・「新しいデザインを追加する」等。

自動
・ボタンホールを縫う際に表示される。
・送り長さがプログラム済みの場合、「自動」が表示される。ボタンホールがプログラム済みの長さ、自動的にステッチされる場合、等。

自動、繰り返し
・「繰り返し」とは、やり直しをすること。つまり、「自動繰り返し」というのは、自動的に何かの作業を繰り返すということ。
・外部の針基線ボタンを押し続けると、針の位置は、速い速度で自動的に移動します。

バランス
・ステッチまたはデザインのバランスをとる、というのは、ステッチまたは横送り縫いのゆがみを補正するという意味。

測定
・何かを測定すること。
・「測定」とは、画面のセッティング時に、測定の単位を決定することをいいます。

チェック
・チェックすること。
・刺しゅうするときには、ミシンが、どの刺しゅう枠を使うかをチェックし、それからデザインの位置をチェックするのに、布をあちこち動かします。

clr（クリアー）
・クリアーする、削除する
・機能またはコマンドを削除して、もともとの設定に戻します。
・現在選択されている、変更されたステッチは、基本セッティングに戻ります。

編集する
・編集する、書込みをする、印刷の準備をする等。
・反転、サイズ変更等のデザインの編集は、デザインの編集画面1または2で行います。

ESC
・機能を閉じる、元の位置に戻る、操作を終了する等をいいます。（例：画面のセッティングを元に戻す等）

マニュアル
・手動作業。
・マニュアルのボタンホールは、4段階または6段階で縫われます（ボタンホールのタイプによります）。マニュアルで、画面上の位置を変更していきます。

メガフープ
・「特大」の刺しゅう枠です。
・特大のデザイン、または長いボーダー等を刺しゅうするのに使います。
・最大刺しゅうサイズは400mm×150mm。

メモリー
・プログラムおよびデータは、ここに保存されます。
・ステッチコンビネーションやデザインを保存するには、ミシンのメモリーを使います。

メニュー
・機能の一覧、選択操作画面。

新規
・新しいデザインを刺しゅうコンピューターのメモリーに保存します。

OK
・何かの質問を確定する返事。
・指定したコマンド、または変更したものを確定するときに使う。

PC
・パーソナルコンピューターの略。

用語集

レコード（カウント）
・記憶すること。
・ステッチカウンターは、ステッチの数をプログラムします。
・ステッチカウンターは、ダーニングプログラムでステッチされた長さを記録します。

リセット
・元の状態に戻すこと。
・「元のセッティングに戻す」等。

スクロール
・ブラウズすること。
・ファイルのすべてを表示できないとき、「スクロール」して、画面の全体を見ることになります。

センサー
・シグナルを受け取るもの。センサーで測定する場合もあります。

セットアップ
・決定する、開始するの意味。
・構成
・セットアッププログラムでは、デフォルトのセッティングを自分の好みに変更することが可能です。

ソフトウェア
・コンピュータ用のプログラムの事。

タッチ画面
・センサー画面。
・画面上のボタンに指かタッチペンでタッチして、コマンドを選択できるタイプのもの。

チュートリアル
・いろんなミシンの機能をご自分で学んでいただくためのヘルプ情報です。

アップデート
・ソフトウェアを更新すること。
・ミシンと刺しゅう機のソフトを最新のバージョンに更新すること。

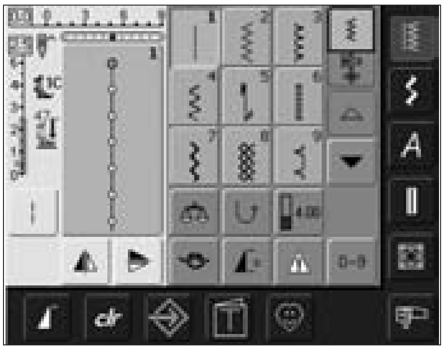
アップグレード
・より進んだレベルに上げること。
・新しい機能が開発された時に、ミシンや刺しゅう機のグレードを上げること。

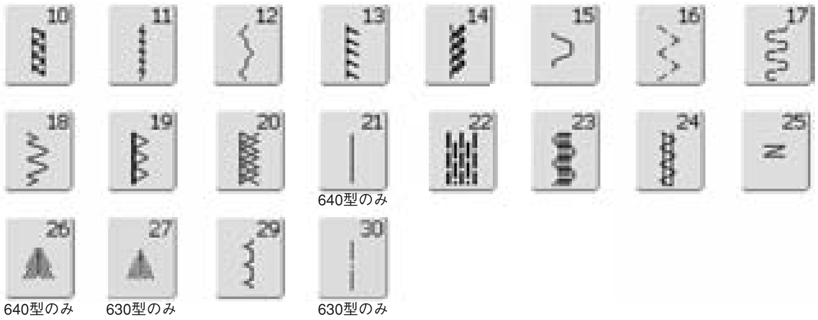
USB
・ユニバーサルシリアルバス
・アーティスタ640では、USBメモリースティックを使っています。

ズーム機能
・画像等を拡大して表示します。
・編集1、および2スクリーンでデザインを拡大して表示します。

ステッチのまとめ

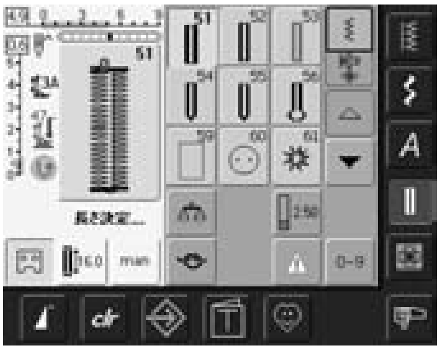
実用縫い

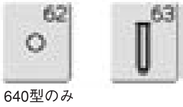




画面は640型

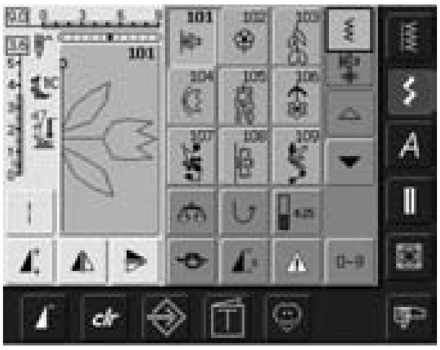
ボタンホール

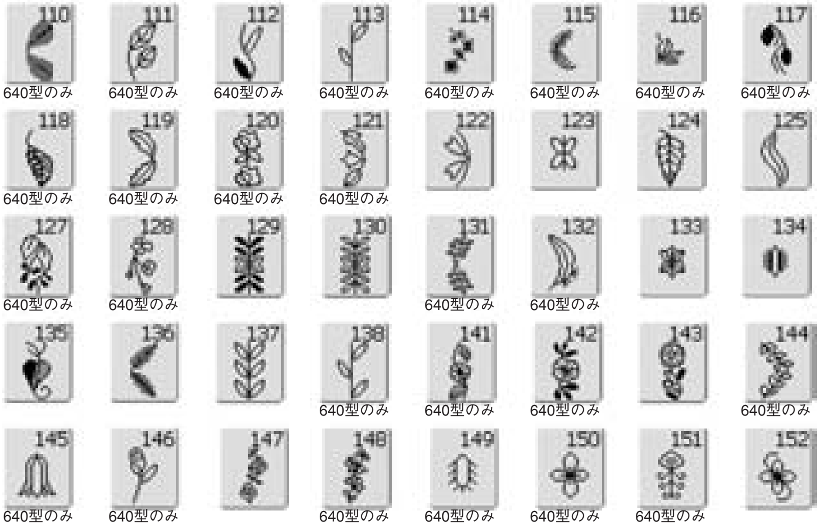




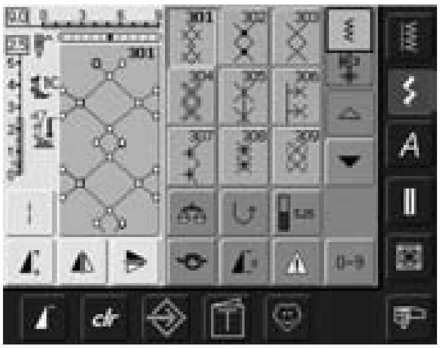
画面は640型

飾り縫い

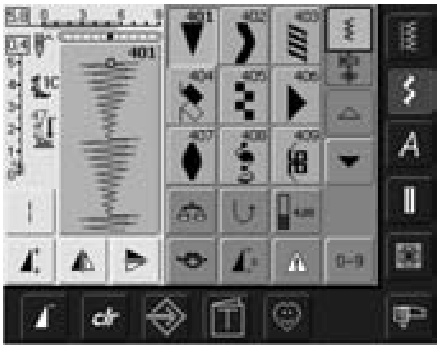




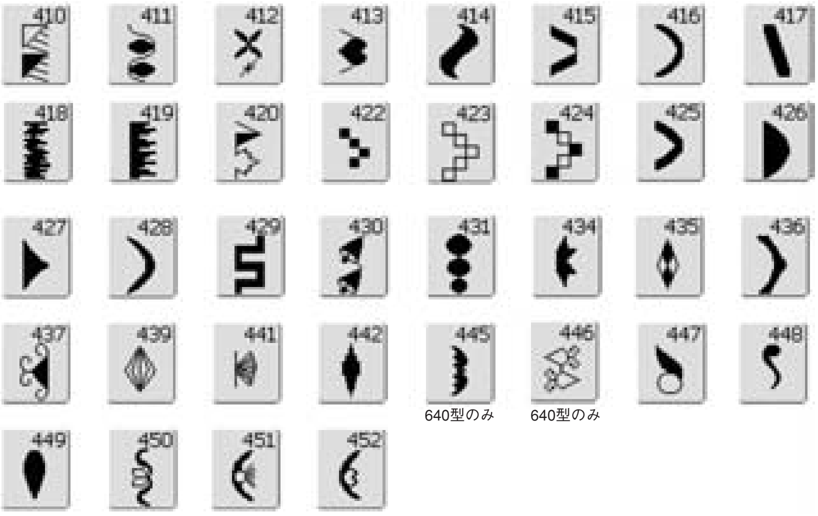
画面は640型

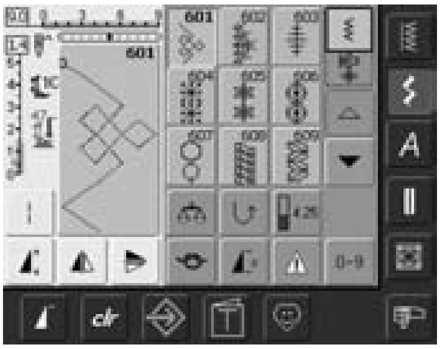


画面は640型

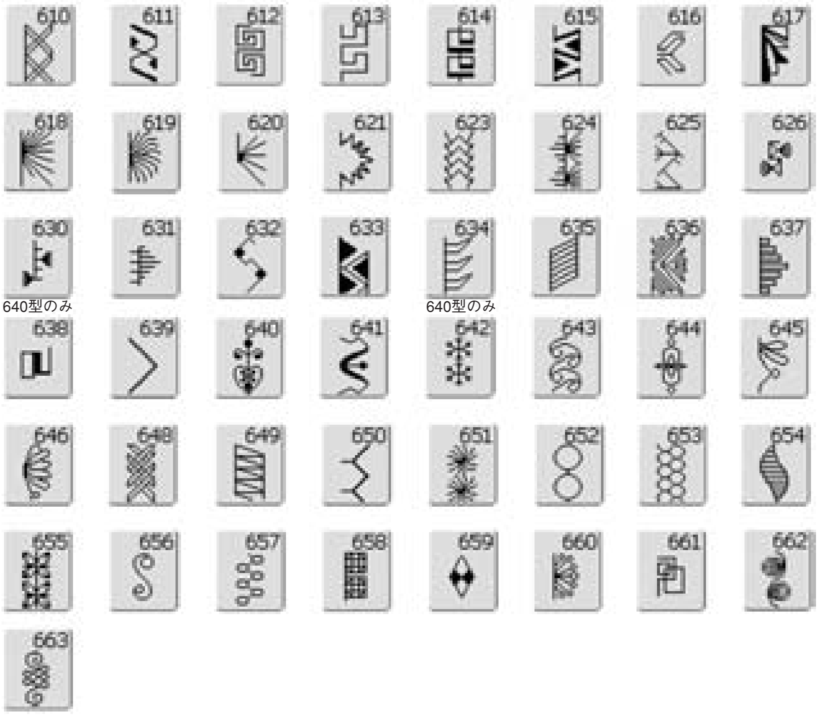


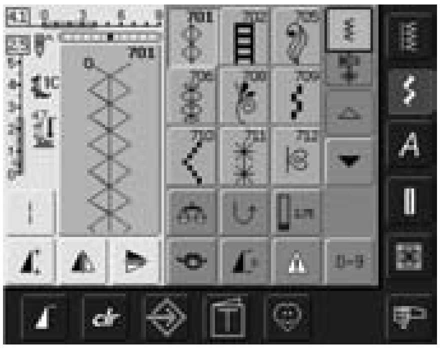
画面は640型



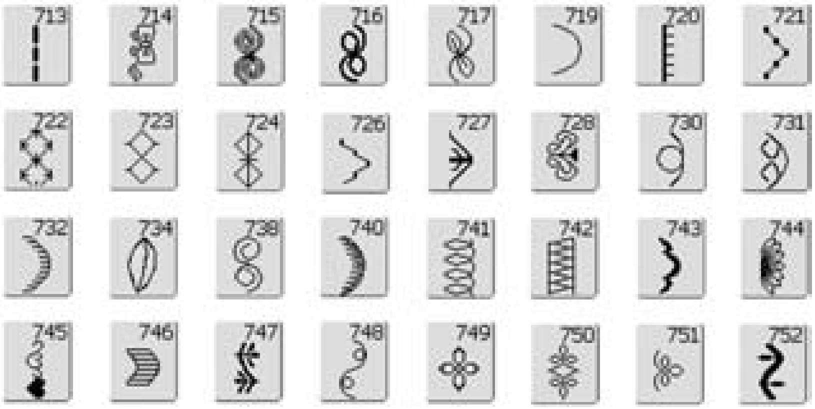


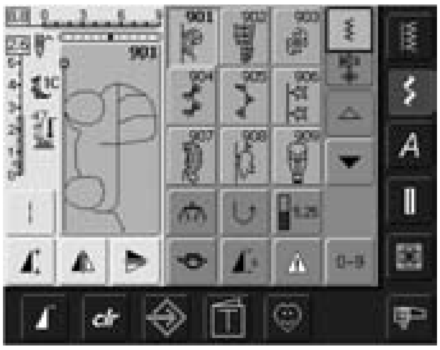
画面は640型

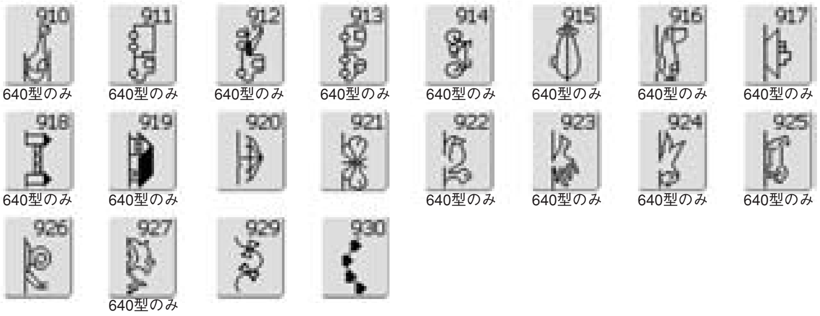




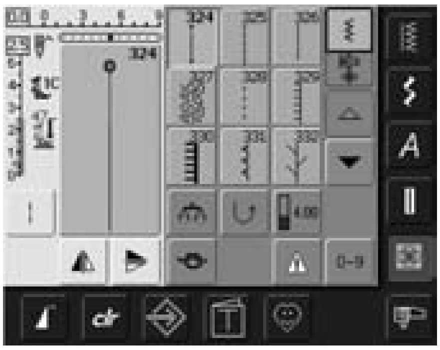
画面は640型

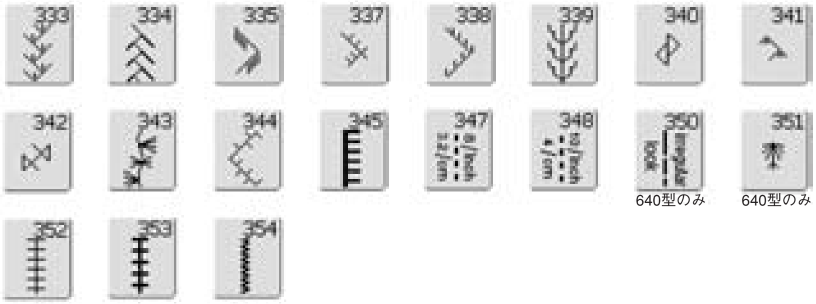



画面は640型

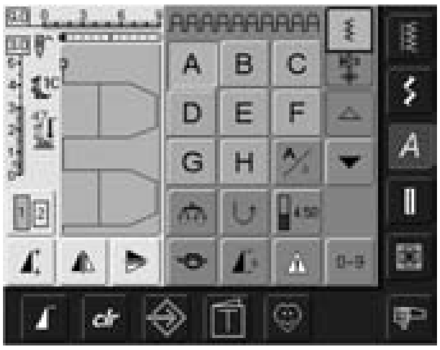


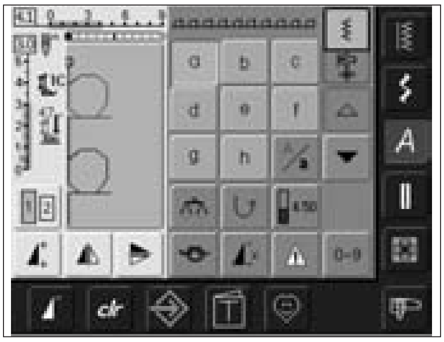
キルトステッチ

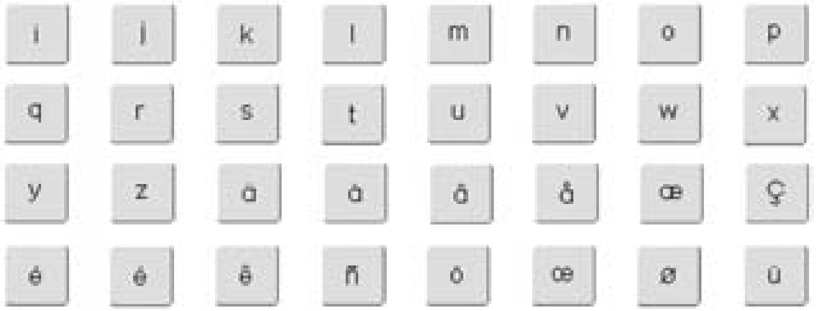

画面は640型

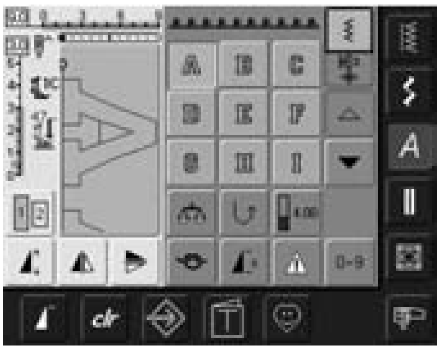


アルファベット文字

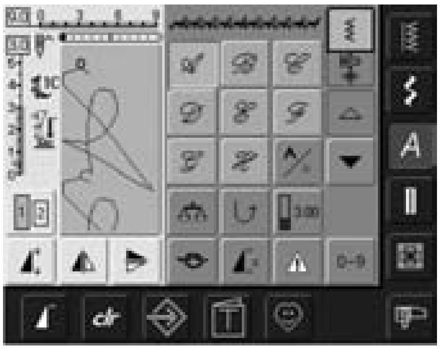

画面は640型


画面は640型

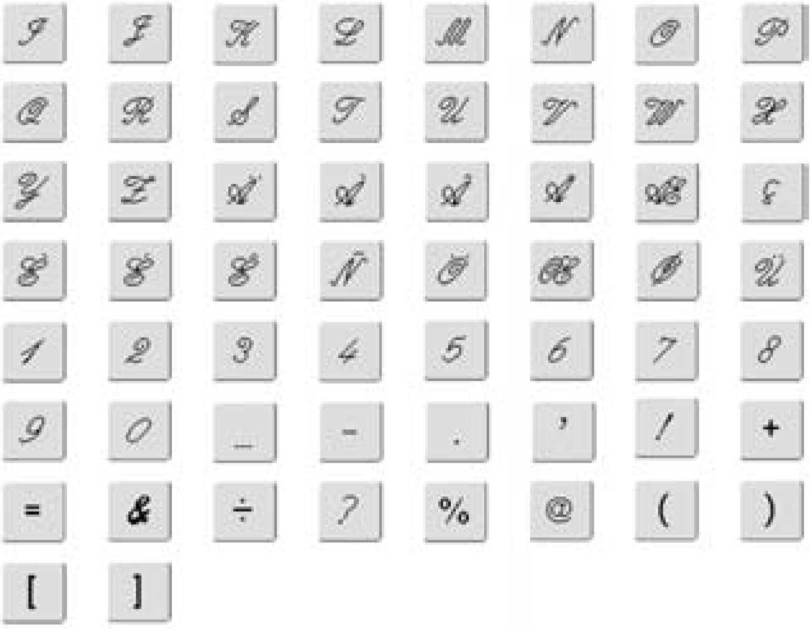


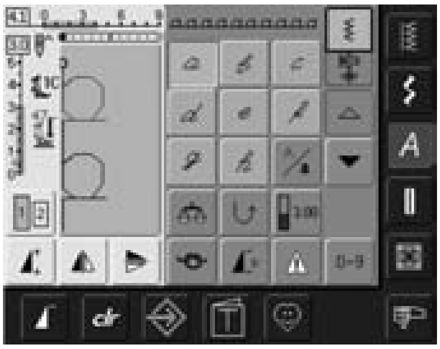


画面は640型

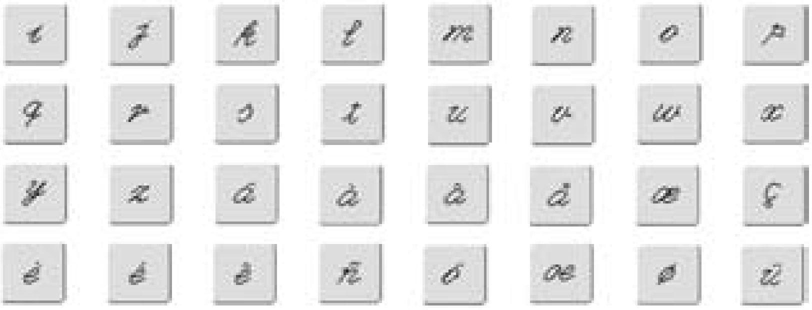


画面は640型

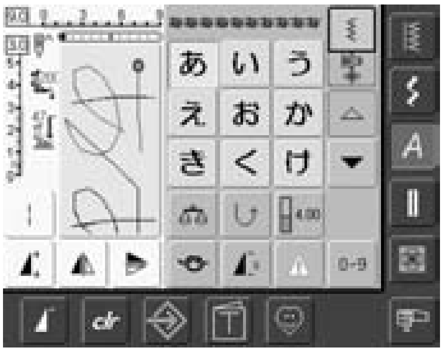




画面は640型



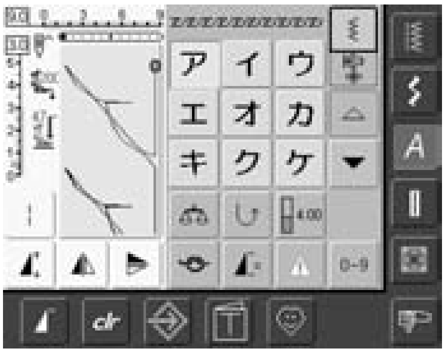
ひらがな



画面は640型

こ	さ	し	す	せ	そ	た	ち
つ	て	と	な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ	ま	み	む
め	も	や	ゆ	よ	ら	り	る
れ	ろ	わ	を	ん	ぁ	ぃ	ぅ
ぇ	ぉ	ゃ	ゅ	ょ	っ	が	ぎ
ぐ	げ	ご	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど	ば	び	ぶ
べ	ぼ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	1
2	3	4	5	6	7	8	9
0	ー	_	・	?	!	・	、
「	」	『	』				

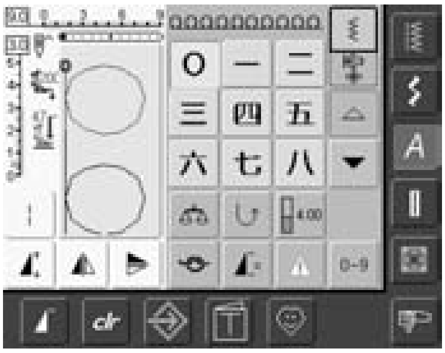
かたかな



画面は640型

コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル
レ	ロ	ワ	ヲ	ン	ァ	ィ	ゥ
ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ	ガ	ギ
グ	ゲ	ゴ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド	バ	ビ	ブ
ベ	ボ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	1
2	3	4	5	6	7	8	9
0	ー	_	・	?	!	・	、
「	」	『	』				

漢字（640型のみ）



九	十	誕	生	日	年	才	組
保	育	幼	稚	園	小	中	学
校	月	火	水	木	金	土	

630 640 | 1. Bryan butterfly

88.1 mm

70.2 mm

29 min

630 640 | 2. Burch butterfly

88.9 mm

91.3 mm

31 min

630 640 | 3. Jewel butterfly

88.6 mm

69.5 mm

7 min

630 640 | 4. Lace butterfly

76.4 mm

50.8 mm

16 min

630 640 | 5. Black border

46.9 mm

189.5 mm

4 min

630 640 | 6. Black border 1

39.6 mm

73.9 mm

1 min

630 640 | 7. Black border 2

38.5 mm

74.7 mm

1 min

640 | 8. Lace panel 1

113.1 mm

158.4 mm

30 min

630 | 8. Lace panel 2
640 | 9. Lace panel 2

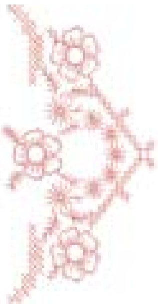
93.9 mm

188.2 mm

14 min

630	9. Lace panel 3
640	10. Lace panel 3

108.2 mm
196.8 mm



12 min

630	10. Lace panel 4
640	11. Lace panel 4

65.5 mm
98.5 mm

14 min

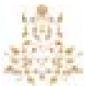
630	11. Bow
640	12. Bow

16.7 mm
84.7 mm

32 min

630	12. Floral tree
640	13. Floral tree

109.2 mm
105.9 mm



14 min

640	14. Floral 2

39.5 mm
152.4 mm

23 min

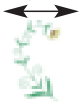
640	15. Floral 3

49.1 mm
98.7 mm

7 min

630	13. Floral 5
640	16. Floral 5

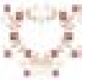
45 mm
75.2 mm



3 min

630	14. Floral 6
640	17. Floral 6

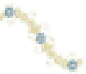
74.1 mm
62.8 mm

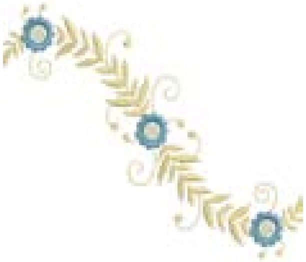


11 min

630	15. Floral 7
640	18. Floral 7

98.9 mm
79.2 mm

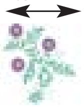




7 min

630	16. Floral 8
640	19. Floral 8

85.2 mm × 91.4 mm



11 min

640	20. Floral border 2

17.3 mm × 18 mm

1 min

640	21. Floral border 3

34.7 mm × 16.2 mm

1 min

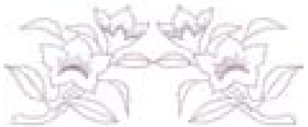
640	22. Floral border 4

49.3 mm × 18.3 mm

2 min

630	17. Floral double
640	23. Floral double

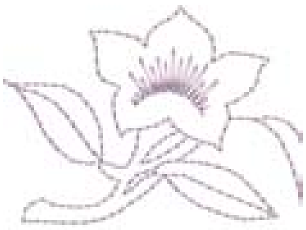
100.6 mm × 37.6 mm



4 min

630	18. Floral single
640	24. Floral single

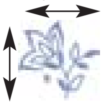
41.9 mm × 28.4 mm



1 min

630	19. Flower
640	25. Flower

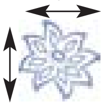
62 mm × 58.6 mm



5 min

630	20. Flower 1
640	26. Flower 1

71.6 mm × 66.3 mm



8 min

630	21. Flower 2
640	27. Flower 2

37.5 mm × 55.2 mm

2 min

630 22. Floral 3
640 28. Floral 3

20.3 mm
37.8 mm

1 min

630 23. Fuchsia tassel
640 29. Fuchsia tassel

85.9 mm
92.7 mm

13 min

630 24. Grecian tassel
640 30. Grecian tassel

67 mm
87.4 mm

22 min

630 25. Lace and dangles
640 31. Lace and dangles

73.7 mm
90.3 mm

27 min

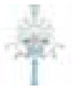
630 26. Violet tassel
640 32. Violet tassel

40.8 mm
121.8 mm

11 min

630 27. Violet tassel
640 33. Violet tassel

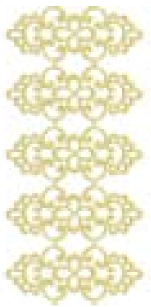
67 mm
87.4 mm



10 min

630 28. Lace border
640 34. Lace border

105.8 mm
218 mm



33 min

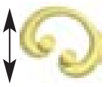
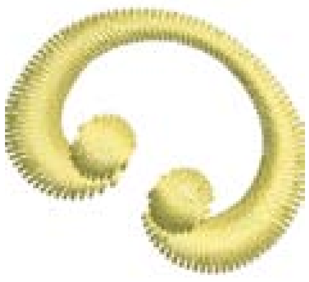
630 29. Lace border 1
640 35. Lace border 1

28.9 mm
31.3 mm

2 min

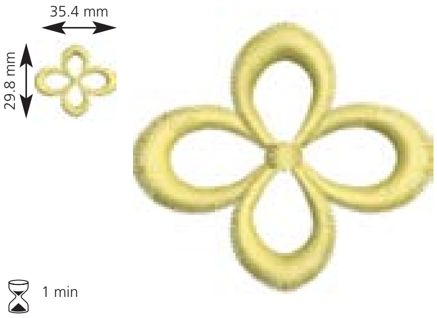
640 36. Lace border 2

21 mm
17.3 mm

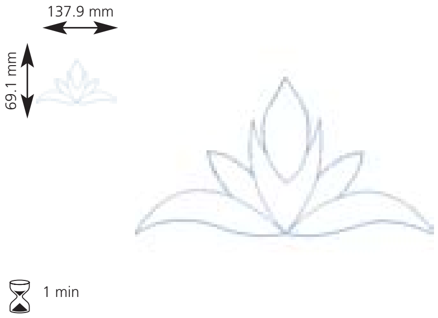
1 min

640	37. Lace border 3



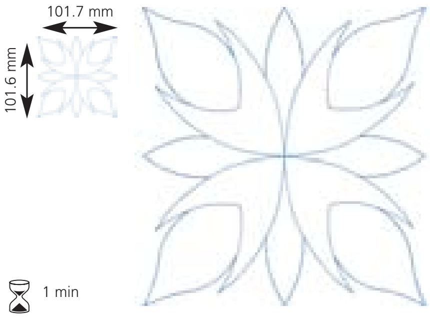
1 min

640	38. Quilt 01



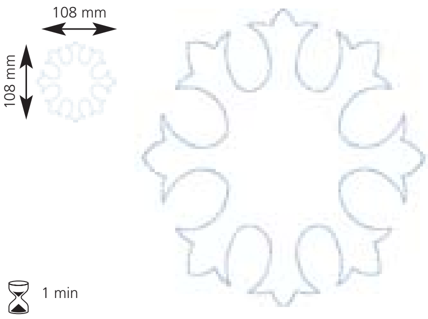
1 min

630	30. Quilt 02
640	39. Quilt 02



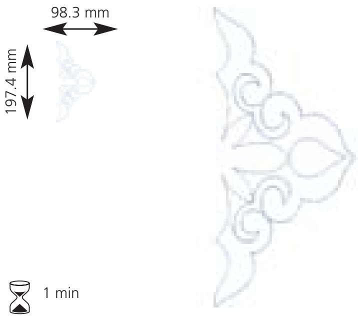
1 min

640	40. Quilt 06



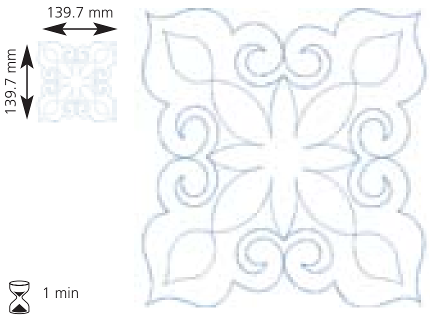
1 min

630	31. Quilt 12
640	41. Quilt 12



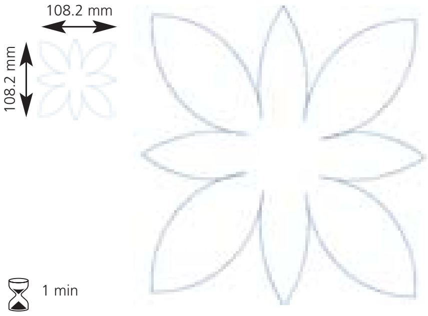
1 min

630	32. Quilt 13
640	42. Quilt 13



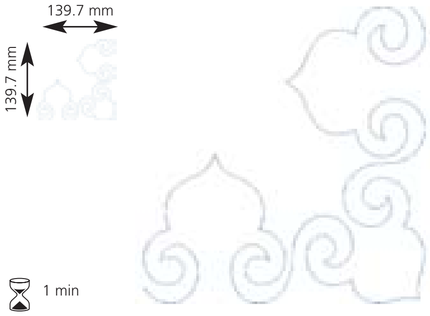
1 min

630	33. Quilt 14
640	43. Quilt 14



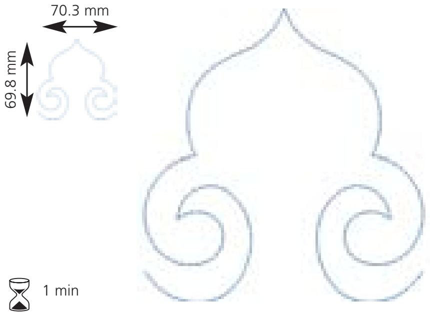
1 min

640	44. Quilt 15



1 min

630	34. Quilt 16
640	45. Quilt 16

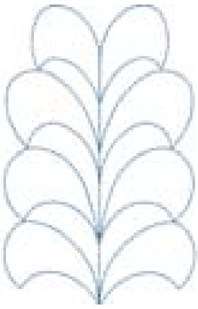


1 min

630	35. Quilt 17
640	46. Quilt 17

51.5 mm

75.9 mm

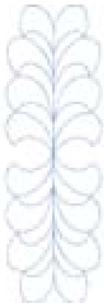


1 min

630	36. Quilt 18
640	47. Quilt 18

51.5 mm

151.6 mm

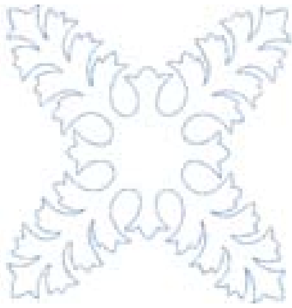


1 min

630	37. Quilt 07
640	48. Quilt 07

139.7 mm

139.7 mm



4 min

630	38. Quilt 08
640	49. Quilt 08

139.7 mm

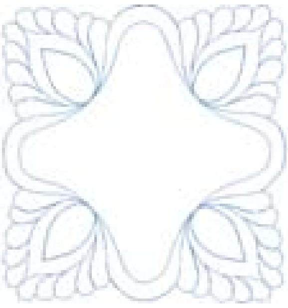
77.9 mm

1 min

640	50. Quilt 09

139.6 mm

139.6 mm

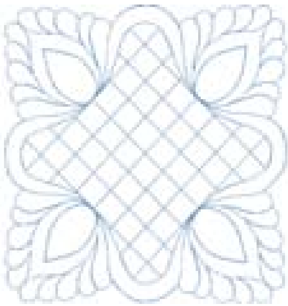


4 min

640	51. Quilt 11

139.6 mm

139.6 mm

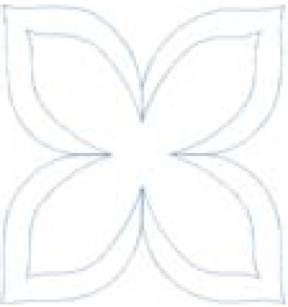


5 min

640	52. Quilt 03

139.7 mm

139.7 mm

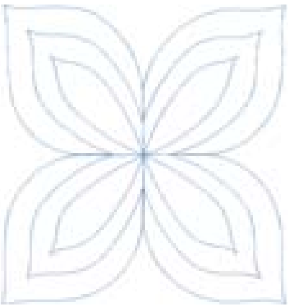


1 min

630	39. Quilt 04
640	53. Quilt 04

139.7 mm

139.7 mm



2 min

630	40. Quilt 10
640	54. Quilt 10

139.7 mm

139.6 mm

3 min

630	41. Swirl
640	55. Swirl

94.7 mm
162.2 mm

14 min

630	42. Jewel Quilt
640	56. Jewel Quilt

98 mm
98 mm

44 min

640	57. Floral Quilt

98.5 mm
99.9 mm

46 min

630	43. Rosebud mini
640	58. Rosebud mini

45.7 mm
41.5 mm

2 min

630	44. Rosebud
640	59. Rosebud

76.3 mm
58 mm

8 min

630	45. Lace and leaves
640	60. Lace and leaves

52.7 mm
97.9 mm

8 min

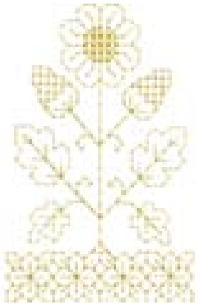
630	46. Thornes and Vines
640	61. Thornes and Vines

94.6 mm
19.7 mm

7 min

640	62. Cross stitch flower

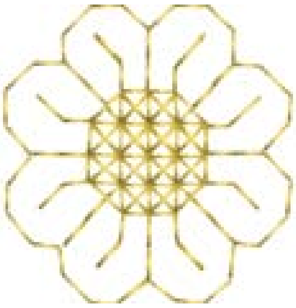
71.4 mm
107.4 mm



2 min

640	63. Cross stitch flower 2

29.9 mm
29.6 mm



1 min

630	47. Cross stitch emblem
640	64. Cross stitch emblem

72.6 mm × 89.4 mm

7 min

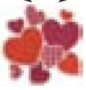
640	65. Valentine

78.2 mm × 91.4 mm

17 min

630	48. Hearts
640	66. Hearts

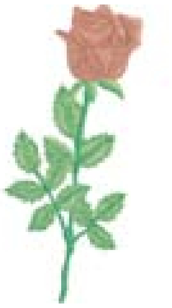
81.2 mm × 80.4 mm



28 min

630	49. Rose
640	67. Rose

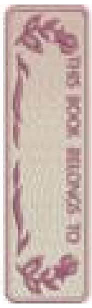
63.9 mm × 129.2 mm



22 min

630	50. Bookmark 1
640	68. Bookmark 1

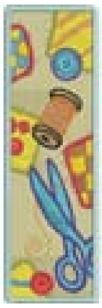
47.5 mm × 154.7 mm



44 min

630	51. Bookmark 2
640	69. Bookmark 2

52.8 mm × 158.1 mm



62 min

630	52. Air ballon
640	70. Air ballon

95.2 mm × 98.8 mm

50 min

630	53. Snowman
640	71. Snowman

92.2 mm × 99.3 mm

36 min

630	54. Redwork
640	72. Redwork

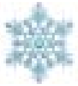
92 mm × 107.8 mm

16 min

630	55. Snowflake
640	73. Snowflake

44.3 mm

50.2 mm



6 min

630	56. Aster
640	74. Aster

71.9 mm

89.2 mm

17 min

630	57. Apple Basket
640	75. Apple Basket

84.3 mm

98.8 mm

39 min

630	58. Pumpkin and Pancy
640	76. Pumpkin and Pancy

110.8 mm

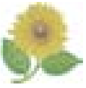
94.8 mm

28 min

640	77. Sunflower

90.9 mm

88.1 mm



34 min

630	59. Morning Glory
640	78. Morning Glory

80.5 mm

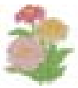
77.4 mm

27 min

630	60. Zinnias
640	79. Zinnias

88.9 mm

98.6 mm



43 min

630	61. Firework
640	80. Firework

80.5 mm

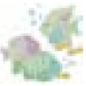
126.3 mm

14 min

630	62. Fishy Friends
640	81. Fishy Friends

97.7 mm

89.4 mm



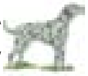
29 min

630 63. Dinosaur
640 82. Dinosaur

98.8 mm
84.1 mm

23 min

630 64. Dalmation
640 83. Dalmation

98.8 mm
78.1 mm


27 min

640 84. Turtle

95.7 mm
109.4 mm

42 min

630 65. Puppy
640 85. Puppy

98.8 mm
76.9 mm

24 min

630 66. Duck Family
640 86. Duck Family

95.2 mm
73.3 mm

20 min

630 67. Stargazer
640 87. Stargazer

88.3 mm
98.2 mm

28 min

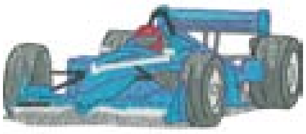
630 68. Bunny
640 88. Bunny

78.6 mm
123.2 mm

44 min

630 69. Race car
640 89. Race car

99.2 mm
38.4 mm


24 min

630 70. Little wanderer
640 90. Little wanderer

51.9 mm
114.1 mm

29 min

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
1234567890,./?!@#$%&*()-`";:¡¿
ÀÁÂÃÄÅÆÇÈÉÊËÌÍÎÏÐÑÒÓÔÕÖØÙÚÛÜÝÞß
àáâãäåæçèéêëìíîïðñòóôõöøùúûüýþ
+=£¥€ÿ¢_

King Charles

Anniversary

Swiss Block

London

Chateau 640のみ

Guinevere

Emerald 640のみ

Index

BSR機能によるキルティング 80-83
- BSRスクリーンでサウンドを選択する 82
- BSR機能を解除する 83
- BSR機能を起動する 83
- BSRモード1 80
- BSRモードで各種機能を使う 81
- BSRモード2 80
- ジグザグまたは直線縫い 83
- 準備 81
- セットアッププログラムでサウンドを選択する 82
- はじめに 80
- ブザーの起動と消音について 82
- フリーハンドキルティング 80-83

インバーター蛍光灯ソーイングライト 13

フリーハンドシステムについて 9

アクセサリー 154-156
- ベルニナアーティスタ刺しゅう用ソフトウエア 156
- エンブロイダリー・スティック 155
- 刺しゅう用 110-111
- 刺しゅう用メガフープ 155
- スーツケースシステム 154
- ソーイング 4-5
- ボックス 4

安全に関するご注意 1

ステッチメモリー:一時的に変更を加えた 23, 37

一般機能について 29
- ESC（閉じる） 29, 123
- OK 29
- 上にスクロールする 29, 123
- クリアー（clr） 29
- コンビモード 29
- 下にスクロールする 29, 123
- シングルモード 29
- 模様頭出し機能 29

糸、針、布地について 15

糸カッター 10-14
- ヘッドカバー 12
- 下糸巻取装置 10

糸切れ 149

補助糸立て棒 13

糸テンション 33, 114

糸通し機について 12

糸と針に関する重要事項 16

上糸調子 33

上糸の糸かけについて 11, 114
- 二本針、三本針について 14

オーバーロックによる襟つけ 48

送り歯と高さ調整板 20

送り歯と布送り 19-20
- 送り歯の上下 19
- 送り歯を下げる 23
- コーナー部分を縫う 20

膝押え上げレバー 9

押え圧力インディケーター 18

押え圧力について 18

押え金 5

押え金インディケーター 23

押えの交換 18

送り長さに変更を加える 22

外部操作ボタン 28

一模様縫い 28
- 自動糸カッター 128
- スタートストップボタン 128
- スライド式スピードコントロール 28, 128
- 手元返し縫いボタン 28
- 留め縫い機能 28
- 針上下位置停止 28
- 針基線の変更 28

飾りステッチ 54-58
- 飾りステッチと各種機能を組み合わせる 56-57
- コンビモードで飾りステッチをする 58
- 選択 54
- 使い方 54-55

機能を選択する 23

キャリアーポケット付きソフトカバー 4

キルトステッチ 77-83
- キルトステッチのまとめ 77
- 様々なテクニック 78
- 手縫い風キルトステッチ 79
- フリーハンドキルティング 79

クリーニング 103

ゴムの縫付け／ゴムやコードによるシャーリング 52

シームガイド 9

ジグザグ縫い 41

ジグザグまたは直線縫いによるアイレット 76

刺しゅう糸 119

刺しゅう機について 109

刺しゅう機の取付 112

刺しゅうデザイン集 159-175

刺しゅうに関する一般知識 117-118

刺しゅうの開始 121-122
- 刺しゅう用スクリーン 122
- 刺しゅう用デザイン 121
- 刺しゅう枠の選択 121
- 刺しゅう枠の取りつけ 121
- スタートストップボタンで刺しゅうを開始する 122
- フットコントローラーで刺しゅうを開始する 122

刺しゅうの機能および表示について 123-128
- 新しいデザイン 125
- 色番号について 124
- 格子ガイドの表示 125
- 削除 125
- 刺しゅうの時間 124, 127
- 刺しゅうの順番コントロール 127
- 刺しゅうメニュー（OK） 125
- 刺しゅう枠の選択 124
- 刺しゅう枠の表示 127
- シングル／マルチカラーデザイン 127
- ズーム機能 125
- ステッチタイプの変更 125
- 選択メニューに戻る 123
- チェック 124
- 次ページへ（編集1） 126
- 次ページへ（編集2） 125
- 編集1スクリーン 127
- 保存 125
- デザインの移動 126
- デザインの回転 126
- デザインのカラー表示 124, 127
- デザインのサイズ 124, 127
- デザインの中心 124
- デザインの等倍でのサイズ変更 126
- デザインの反転（左右） 126
- デザインを加える 125
- 元に戻す 125

刺しゅうの試し縫い 117

刺しゅうデザインを選択する 120

Index

刺しゅう用アルファベットおよびレタリング 137-140
- 文字に修正を加える 137
- 文字を組み合わせる 137
- デザインとレタリングを組み合わせる 140
- レタリングに変更を加える 138
- レタリングを組み合わせる 139

刺しゅう用安定紙について 116-117

刺しゅう用コンピューターの準備 114

刺しゅう用メッセージ 151-153

刺しゅう用デザイン 129-130

下糸カッター 10

上糸および下糸の通し方 114

下糸の巻取りについて 10

下糸を引き出す 12

しつけ縫い 53

実用ステッチ 34-53
- コンビモードで実用ステッチをする 58
- 実用ステッチ 36
- 実用ステッチの調整 36
- 実用ステッチのまとめ 34-36
- ニット地を縫うには 44

実用縫いによるヘム仕上げ 47

マニュアルで縫うには 43

シンボルについて 3

スーパーストレッチ縫い／ストレッチ縫い 46

スクリーン 21

ステッチタイプのいろいろ 118
- アウトラインステッチ 118
- アンダーレイステッチ 118
- サテンステッチ 118
- ジャンプステッチ 118
- ステップステッチ 118
- ファンシーフィルステッチ 118

ステッチの選択 22, 24

ステッチの表示 22

ステッチのまとめ 159-164

スライド式テーブル 9

セットアッププログラム 92-101
- アップデート 99-100
- ウェルカムスクリーンのメッセージについて 93
- 刺しゅうのセッティング 94-95
- 使用言語の設定 98
- 初期設定に戻す 100-101
- 垂直式 13
- 水平式 10, 11, 114
- ソーイングのセッティング 94
- タッチ（スクリーンの感度） 96
- バージョン情報 99
- 表示のセッティング 93
- ベルニナ取扱店に関する情報の入力 99
- メッセージおよびオーディオのセッティングを表示する 97-98
- メニュー 92
- モニター機能 98

ソーイングコンピューターについて 6-7

ソーイング用アルファベットおよび文字 59-61
- 小文字を選択する 61
- コンビネーションに修正を加える 60
- サイズを変更する 61
- 選択 59
- まとめ 59
- レタリングと各種機能を組み合わせる 61
- レタリングを組み合わせる 60

ソーイング用特殊機能 31
- アルファベットサイズ 31
- 安全プログラム 32
- 大文字／小文字 32
- 削除 31
- 手動ボタンホール 31, 63
- 繕い縫いプログラム用ステッチカウンター 30
- 止め縫い機能 31
- パターン拡大 30
- バランス 32
- 番号によるステッチの選択 32
- 振り幅および送り長さを初期設定に戻す 30
- 保存 31
- ボタンサイズの直接入力 31, 63
- ボタンホールの長さをプログラムする 31, 63
- マルチ機能ボタン 31
- メモリー（ファイルドロワーについて） 32
- 模様の反転（左右） 30
- 模様の反転（上下） 30
- 連続返し縫い 32

ソーイング用メッセージ 105-107

ソーイングライト（CFLインバーター蛍光灯） 13

送り歯と高さ調整板 20

ダブルオーバーロックシーム 45

チュートリアル（刺しゅうのみ） 148

直線縫い 38

つき合わせ縫い 47

自動繕い縫いプログラム 42

デザインに変更を加える 132-133

デザインの位置を決める 130-131

デザインの色 141-142
- 個々の色部分を刺しゅうする 142
- デザインの色や糸ブランドを置き換える 141
- デザインを単色で刺しゅうする 142
- レタリングを多色で刺しゅうする 142

デザインの組み合わせ 135-136

デザインの保存 143-147
- 刺しゅう用コンピューターに保存する 143
- パーソナルデザインスティックに保存する 144
- 保存したデザインすべてを削除する 146-147
- 保存したデザインを削除する 146
- デザインの上書き 145

電源コード 8

電源スイッチ 8

自動返し縫い付き直線縫い 39

トラブルシューティング 104, 150

トリプル直線ステッチ 38

布地、針、糸 15

布を刺しゅう枠にはめ込む 115

ネットステッチによる端縫い 51

パーソナルプログラム 84-86
- スクリーンのプログラム 84
- ステッチの削除 85
- ステッチの選択 85
- ステッチの変更 86

縁縫い 40

バランス 102

針、糸および布地について 15

針板 19, 114

バリオーバーロック縫い 45

針と糸の組み合わせについて 16

針について 17

Index

針の交換 **13**

ピーシング用ステッチ **53**

ファスナー **49**

フットコントローラー **8**

振り幅に変更を加える **22**

フリーアーム刺しゅう用アダプターを取りつける **113**

別売りオプションのアクセサリー **111**

変更したセッティングを保存する **23-24**

補強されたストレッチオーバーロック縫い **46**

ボタン自動縫付プログラム **75-76**

ボタンホール **62-76**
- 4または6ステップの手動ボタンホール 74
- 重要事項 64-65
- 芯糸入りボタンホール 65-67
- 直接入力による自動ボタンホール 69
- 直線縫いボタンホール 75
- 手縫い風ボタンホール 72
- はじめに 62
- 標準・ストレッチボタンホール 70
- ボタンホールのバランス 68
- ボタンホールのプログラム機能 63
- ボタンホールのまとめ 62
- ボタンホールを切り開く 67
- ボタンホールを長期メモリーに保存する 73
- 丸型・鳩目型ボタンホール 71

ボビンケースの取り外し／挿入 **10**

ボビンの挿入について **11**

まつり縫い **50**

メインカテゴリーのボタンについて **25-27**
- アルファベット 25
- 飾りステッチ 25
- キルトステッチ 26
- 刺しゅうモード／ソーイングモード 26, 128
- 刺しゅう用チュートリアル 27
- 実用縫い 25
- セットアッププログラム 27
- パーソナルプログラム 26
- ボタンホール 26

メニューの選択 **25-27**

メモリーソーイング **87-91**
- 空のドロワーを開く 88-89
- コンビネーション全体を反転する 91
- ステッチコンビネーションを修正する 90
- ステッチコンビネーションを プログラム、保存する 87-88
- ステッチ変更エリアを空白にする 88
- ドロワーの削除 91
- ドロワーの内容を見る 89
- はじめに 87
- 保存したコンビネーションを開く 89

目次 **3**

用語集 **157-158**

06/02 JP 032 338 50 10